

## 第3章

# アンケート調査結果の分析



# 第3章

## アンケート調査結果の分析

### 1 男女平等意識及び女性の社会参画について

#### (1) 男女の平等感

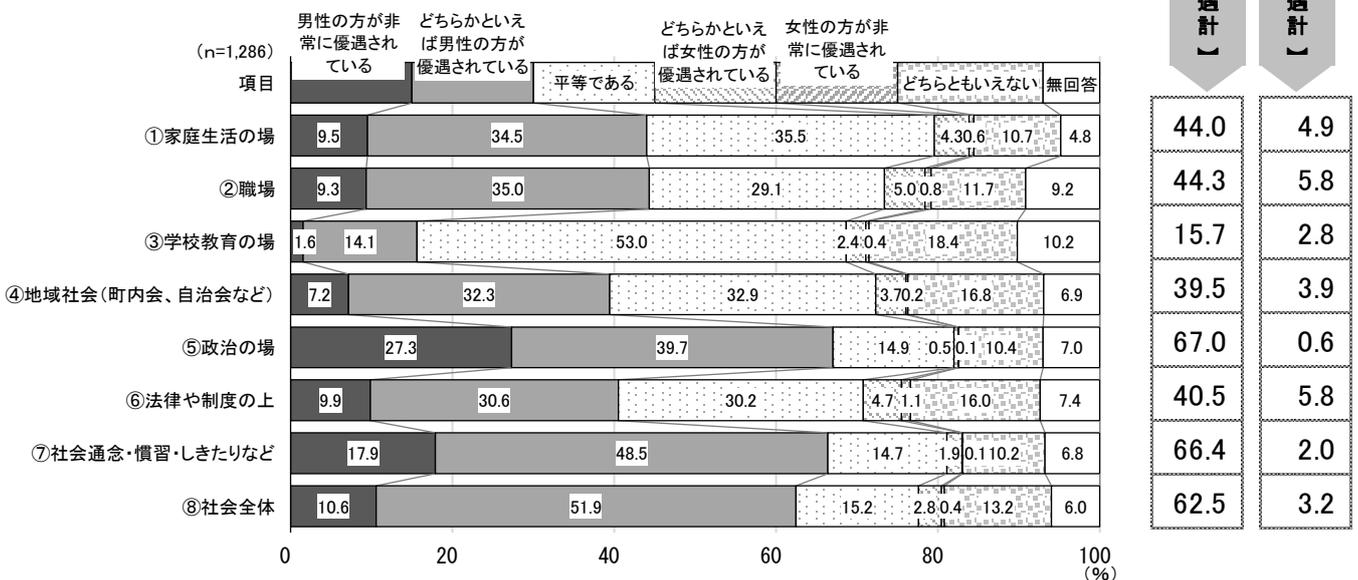
あなたは、次の①～⑧にあげるような分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

**「社会全体」では、平等感を持つ人の割合は1割強**  
**「学校教育の場」では、平等感を持つ人が5割を超えている**

- 「平等である」は「学校教育の場」が53.0%と最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなど」が14.7%と最も低くなっている。
- 「学校教育の場」以外では、「平等である」よりも『男性優遇計（「男性の方が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）』が高くなっている。
- 『男性優遇計』は「政治の場」が67.0%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が66.4%、「社会全体」が62.5%となっている。
- 「社会全体」は、「平等である」は15.2%となっている。

図表 1-1 男女の平等感

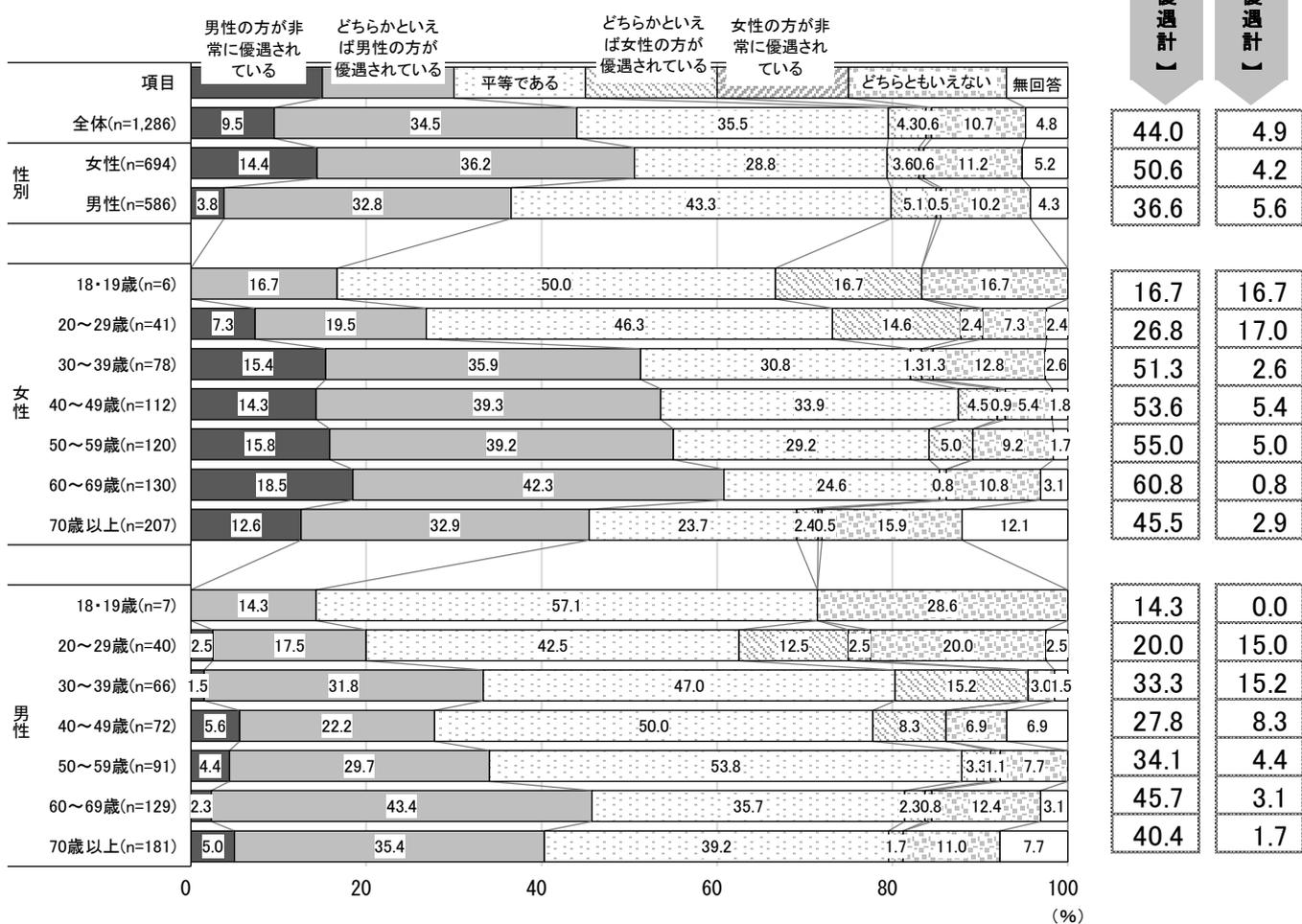


① 家庭生活の場

～男性優遇感を持つ人が全体の4割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は上昇傾向

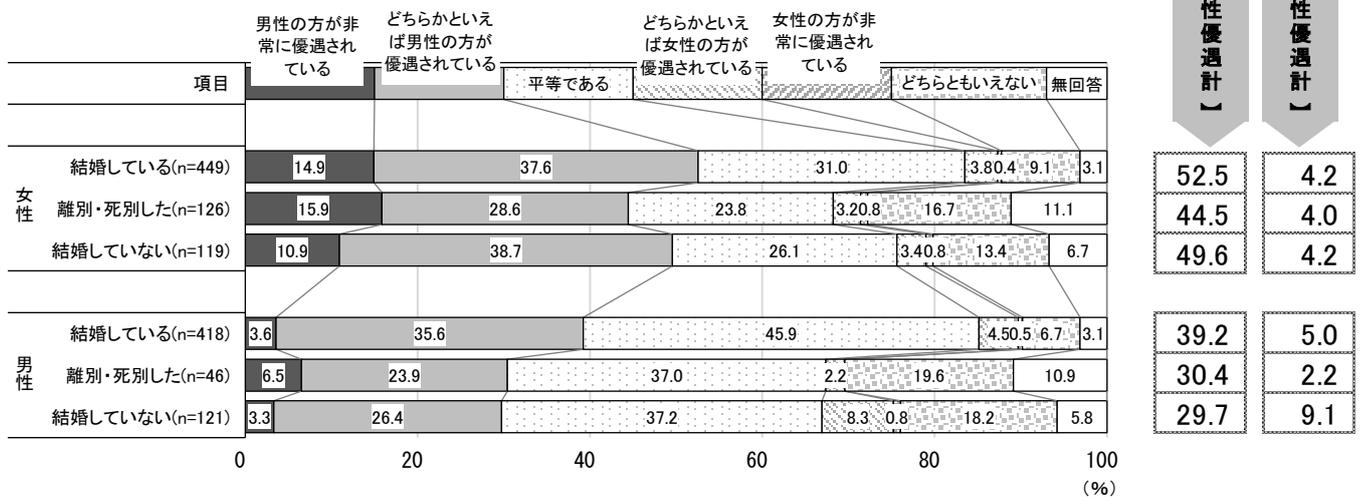
- 全体では、『男性優遇計』は44.0%、「平等である」は35.5%、『女性優遇計（「女性の方が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）』は4.9%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が28.8%、男性が43.3%となっており、男性の方が14.5ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代から60代女性で『男性優遇計』が50%を超えている。

図表1-①-1 家庭生活の場(性別・年齢別)



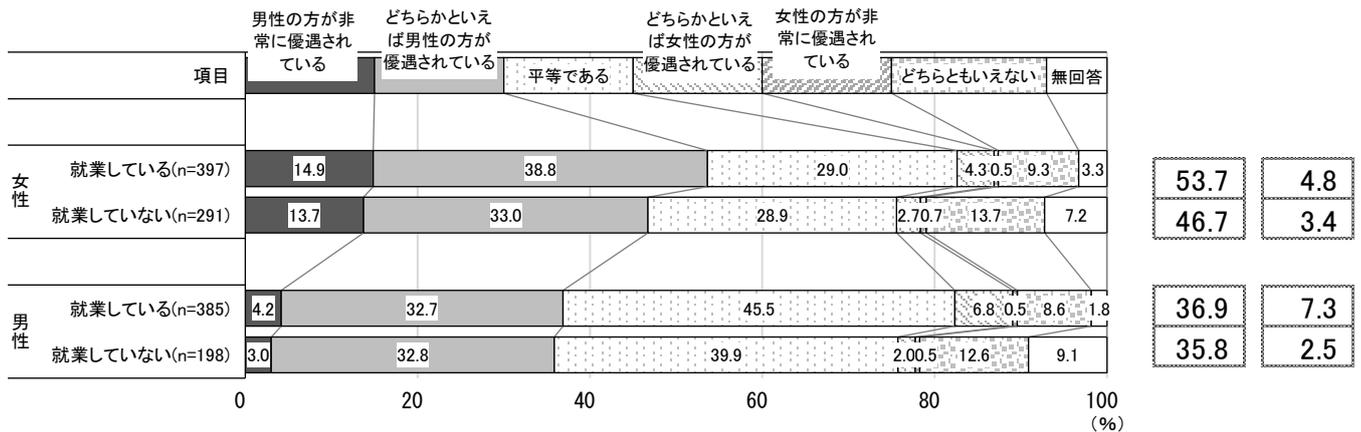
■ 性別・婚姻状況別でみると、「平等である」は、結婚している人（女性 31.0%、男性 45.9%）が結婚していない人（女性 26.1%、男性 37.2%）より男女とも高くなっている。

図表 1-①-2 家庭生活の場(性別・婚姻状況別)



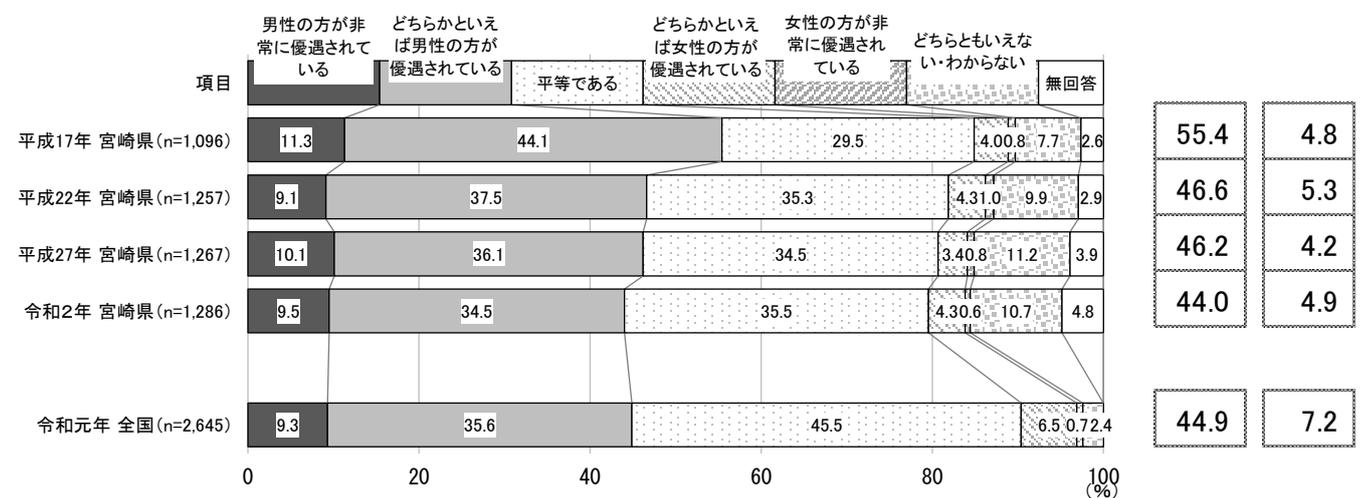
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、就業している人（女性 29.0%、男性 45.5%）が就業していない人（女性 28.9%、男性 39.9%）より男女とも高くなっている。

図表 1-①-3 家庭生活の場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 29.5%であったが、22 年調査では 35.3%、27 年調査では 34.5%と推移しており、今回調査では 35.5%となっている。

図表 1-①-4 家庭生活の場(時系列・全国比較)

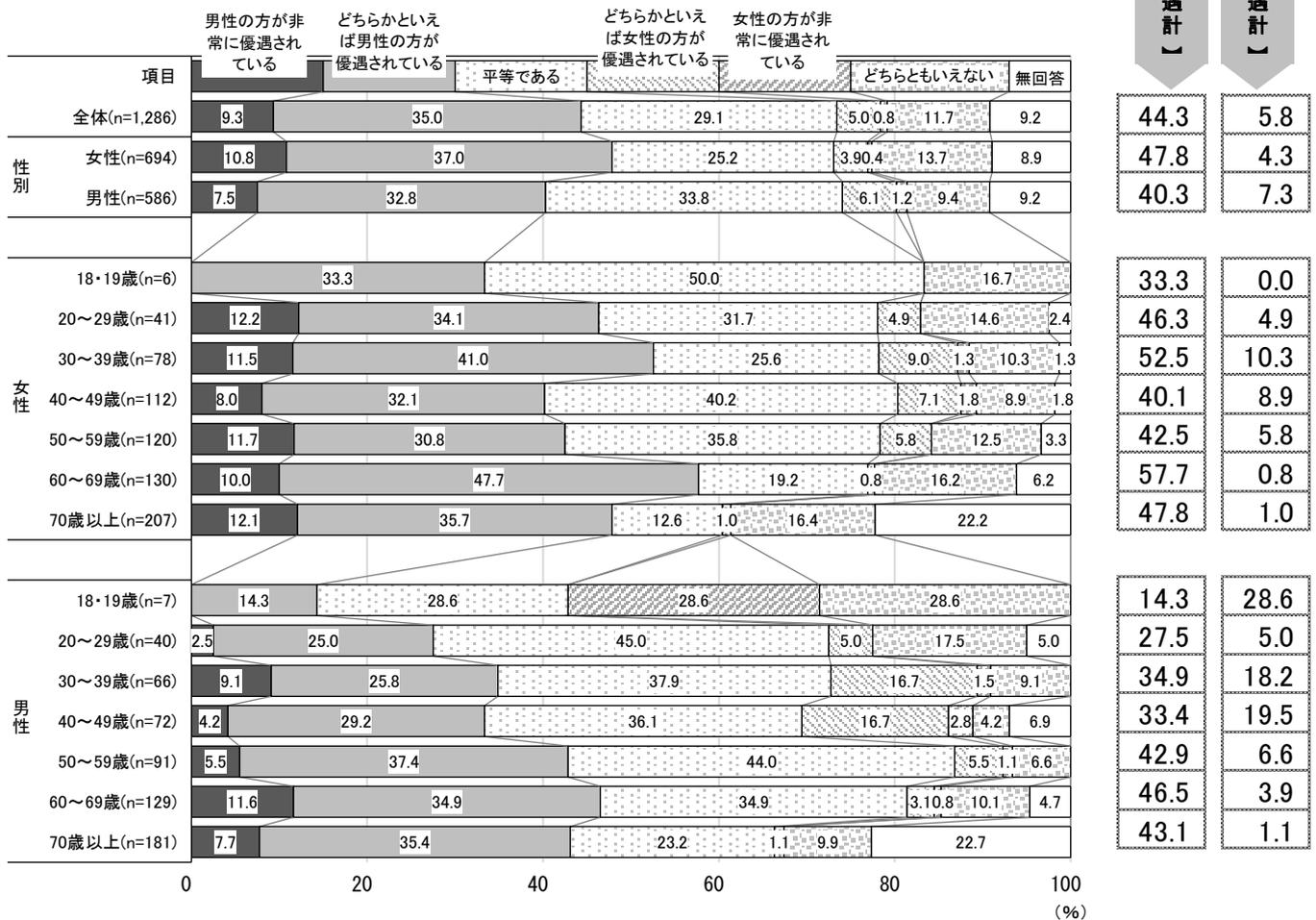


② 職場

～男性優遇感を持つ人が全体の4割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は上昇傾向

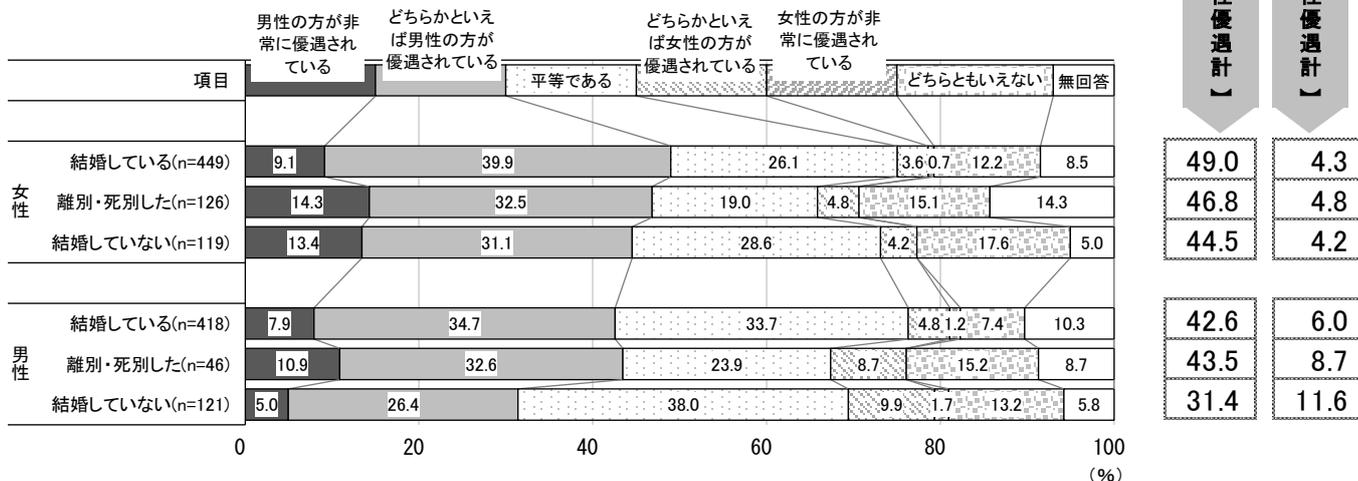
- 全体では、『男性優遇計』は44.3%、「平等である」は29.1%、『女性優遇計』は5.8%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が25.2%、男性が33.8%となっており、男性の方が8.6ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代と60代で女性『男性優遇計』が50%を超えている。

図表 1-②-1 職場(性別・年齢別)



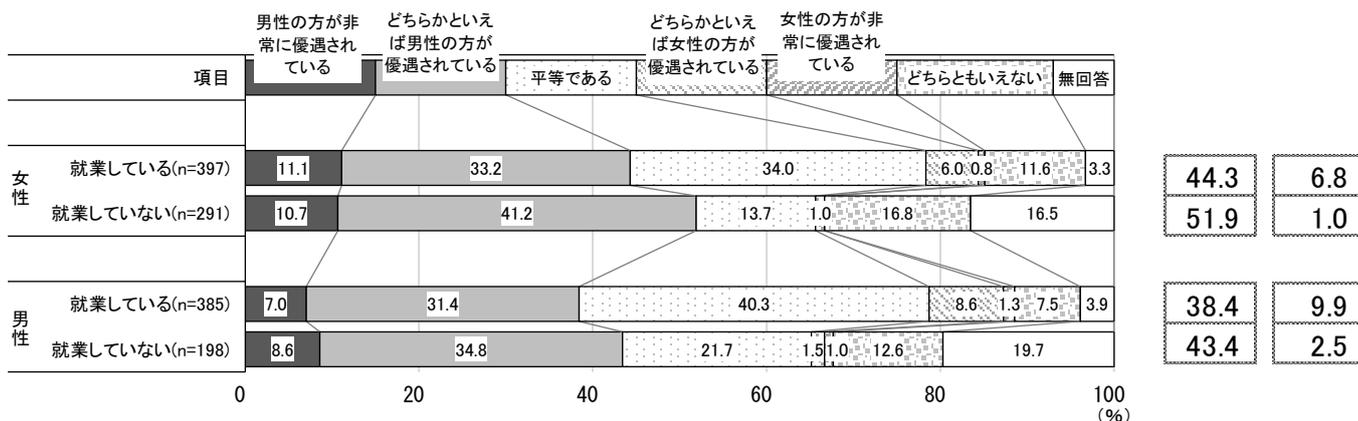
■ 性別・婚姻状況別でみると、「平等である」は、結婚している人（女性 26.1%、男性 33.7%）が結婚していない人（女性 28.6%、男性 38.0%）より男女とも低くなっている。

図表 1-②-2 職場(性別・婚姻状況別)



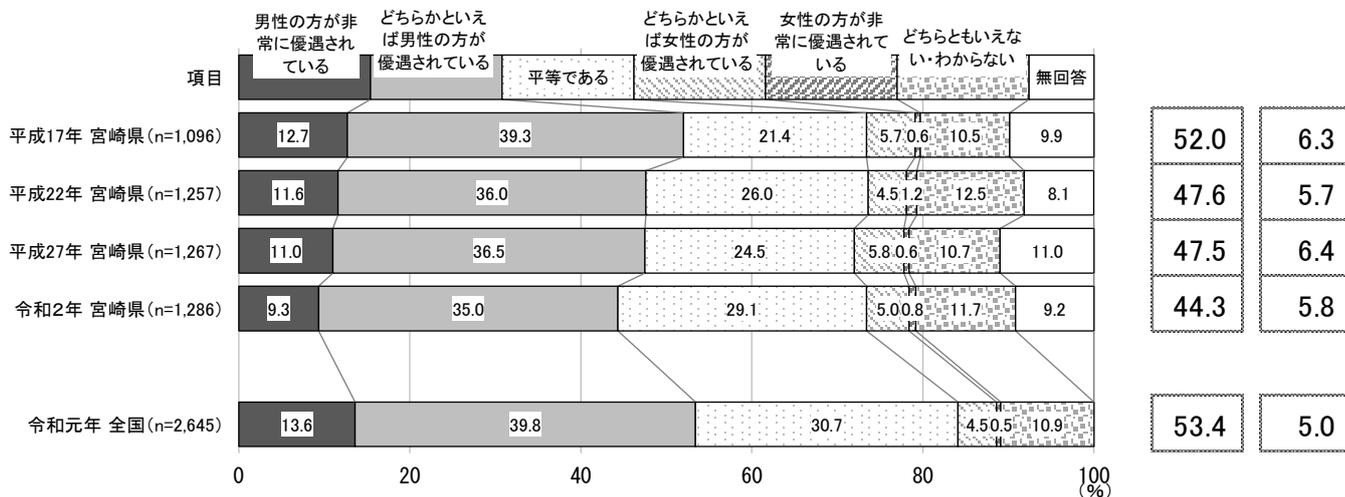
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、就業している人（女性 34.0%、男性 40.3%）が就業していない人（女性 13.7%、男性 21.7%）より男女とも高くなっている。

図表 1-②-3 職場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 21.4%であったが、22 年調査では 26.0%、27 年調査では 24.5%と推移しており、今回調査では 29.1%となっている。

図表 1-②-4 職場(時系列・全国比較)

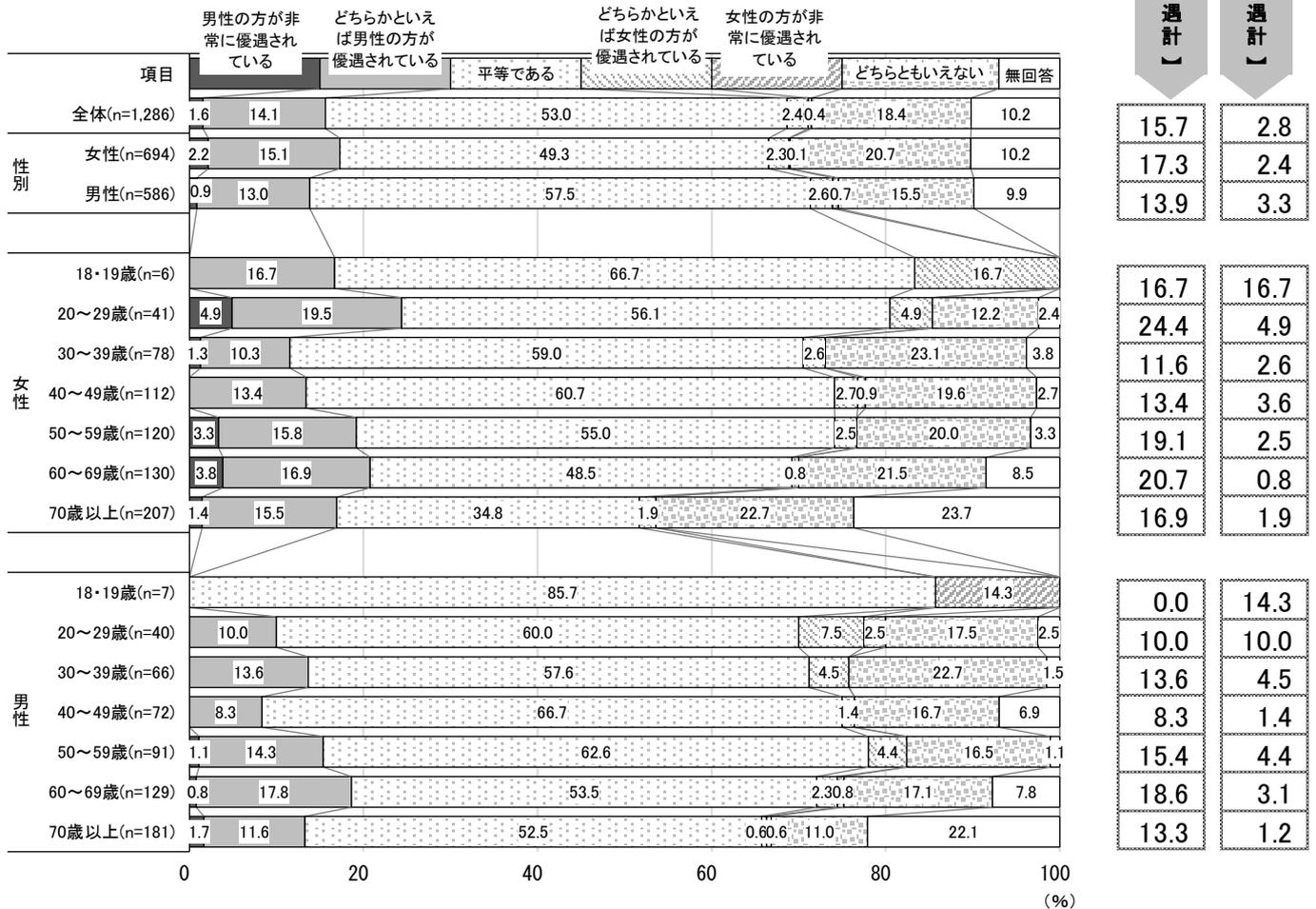


③ 学校教育の場

～男性優遇感を持つ人が全体の1割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はほぼ変化なし

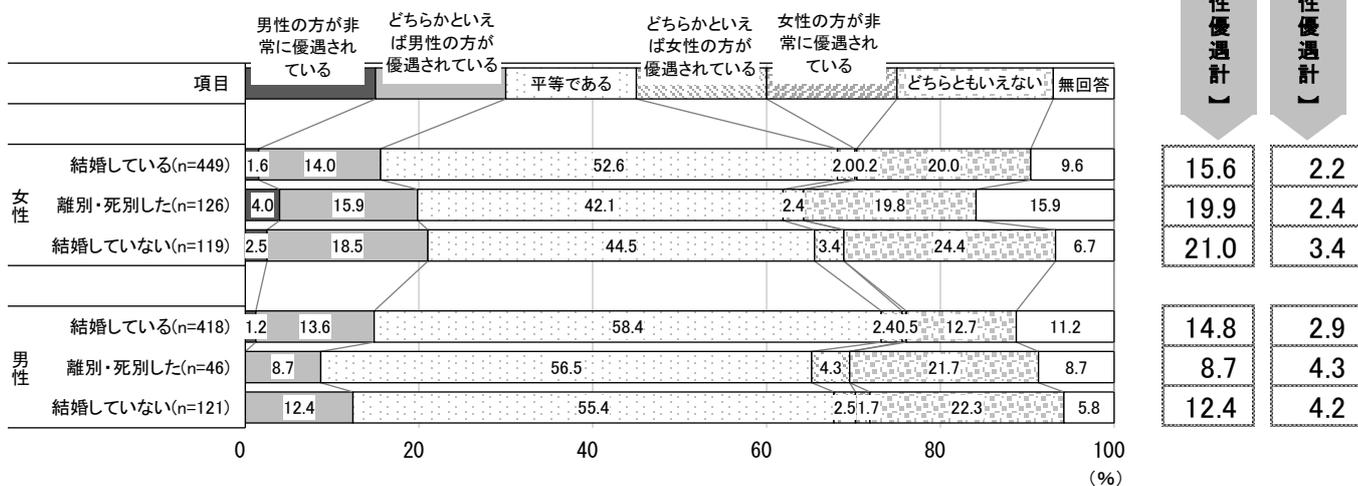
- 全体では、『男性優遇計』は15.7%、「平等である」は53.0%、『女性優遇計』は2.8%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が49.3%、男性が57.5%となっており、男性の方が8.2ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、20代から50代女性、全ての年代男性で「平等である」は50%を超えている。「平等である」は、男女ともに70歳以上（女性34.8%、男性52.5%）が他の年代より低くなっている。

図表1-③-1 学校教育の場(性別・年齢別)



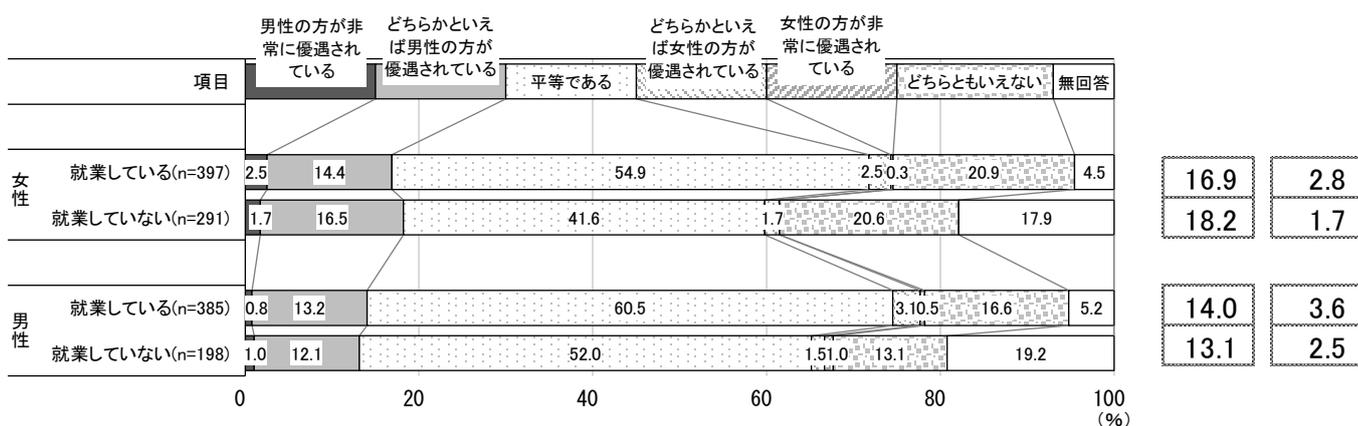
■ 性別・婚姻状況別で見ると、「平等である」は、結婚している人（女性 52.6%、男性 58.4%）が結婚していない人（女性 44.5%、男性 55.4%）より男女とも高くなっている。

図表 1-③-2 学校教育の場(性別・婚姻状況別)



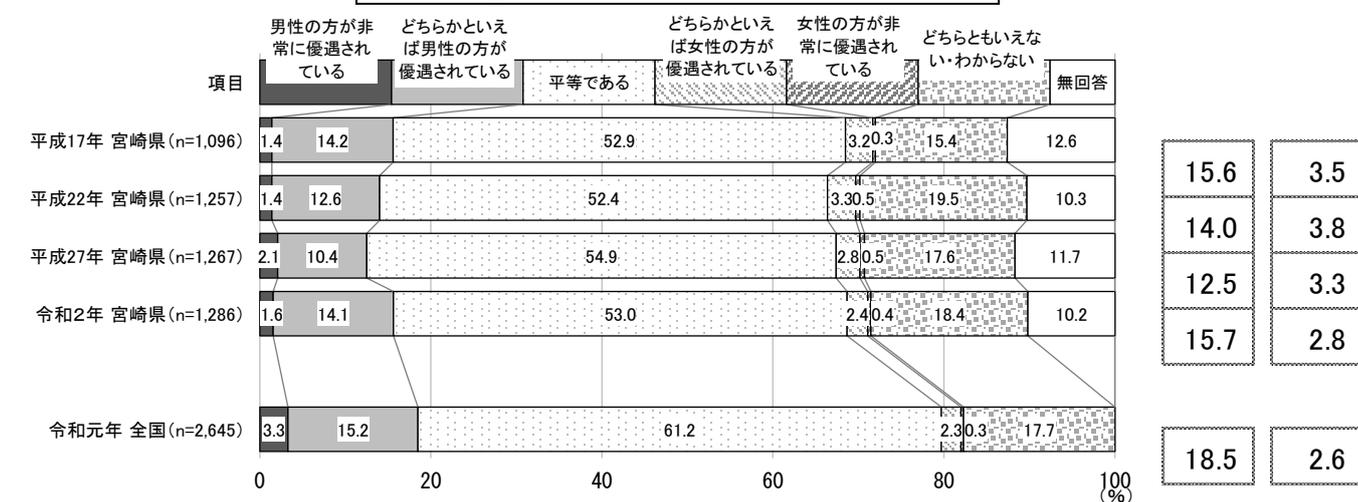
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は、就業している人（女性 54.9%、男性 60.5%）が就業していない人（女性 41.6%、男性 52.0%）より男女とも高くなっている。

図表 1-③-3 学校教育の場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 52.9%、22 年調査では 52.4%、27 年調査では 54.9%となっており、今回調査では 53.0%となっている。

図表 1-③-4 学校教育の場(時系列・全国比較)

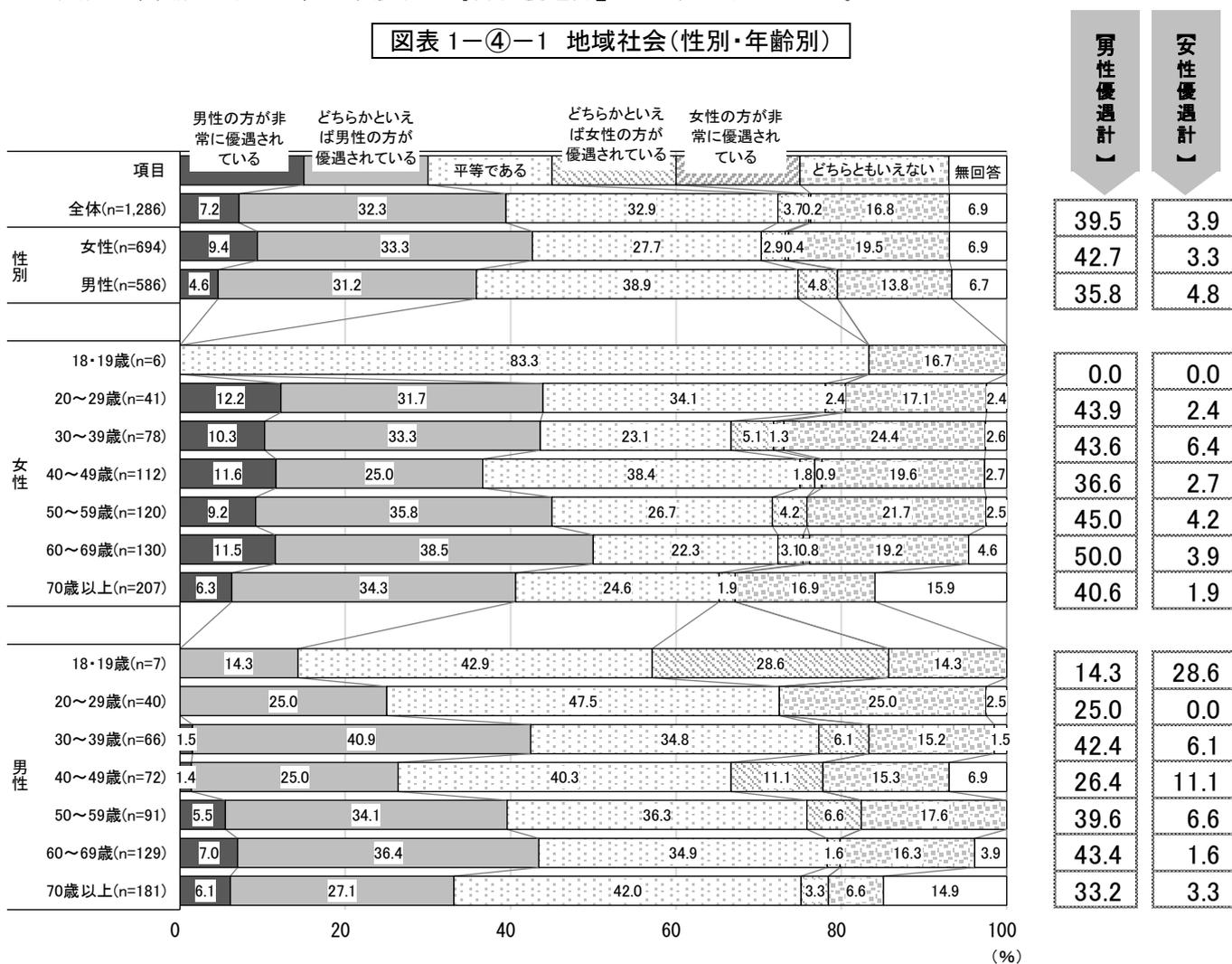


④ 地域社会（町内会、自治会など）

～男性優遇感を持つ人が全体の4割弱  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はほぼ変化なし

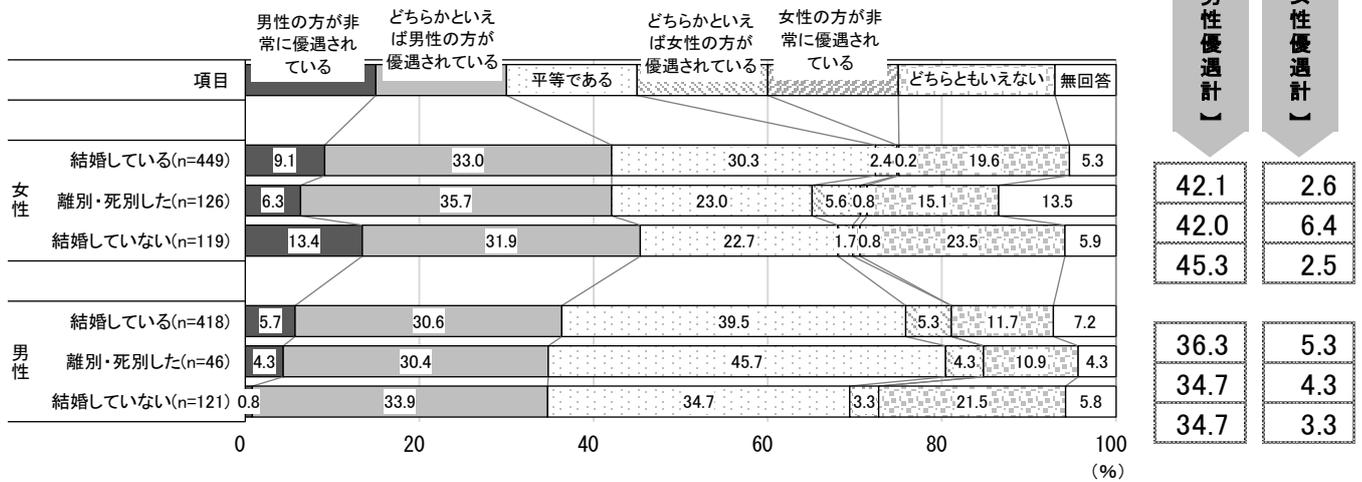
- 全体では、『男性優遇計』は39.5%、「平等である」は32.9%、『女性優遇計』は3.9%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が27.7%、男性が38.9%となっており、男性の方が11.2ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、60代女性で『男性優遇計』が50%となっている。

図表 1-④-1 地域社会(性別・年齢別)



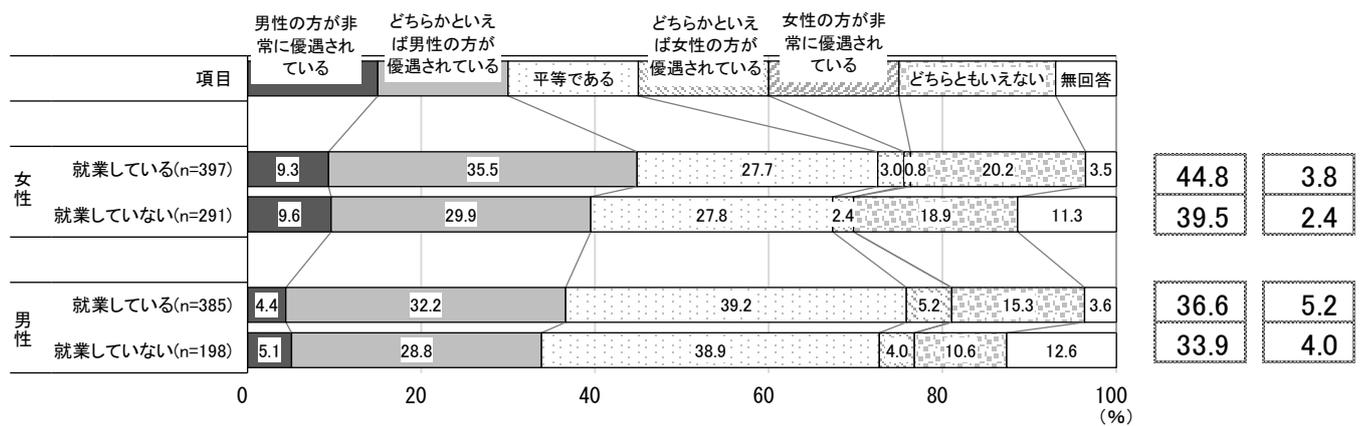
■ 性別・婚姻状況別でみると、「平等である」は、結婚している人（女性 30.3%、男性 39.5%）が結婚していない人（女性 22.7%、男性 34.7%）より男女とも高くなっている。

図表 1-④-2 地域社会(性別・婚姻状況別)



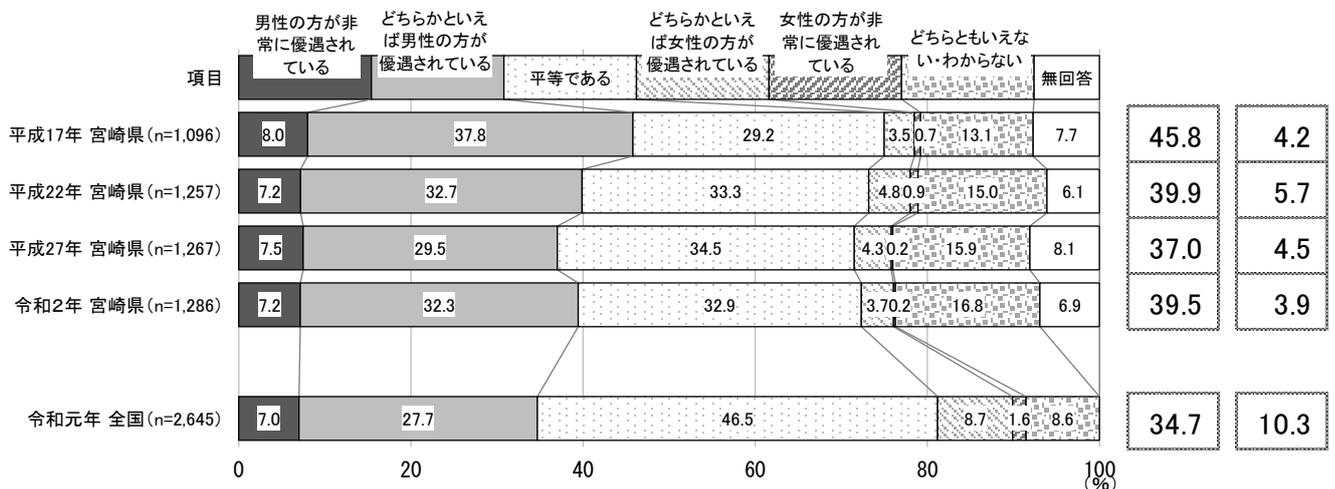
■ 性別・就業状況別でみると、『男性優遇計』は、就業している人（女性 44.8%、男性 36.6%）が就業していない人（女性 39.5%、男性 33.9%）より男女とも高くなっている。

図表 1-④-3 地域社会で(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 29.2%であったが、22 年調査では 33.3%、27 年調査では 34.5%と推移しており、今回調査では 32.9%となっている。

図表 1-④-4 地域社会(時系列・全国比較)

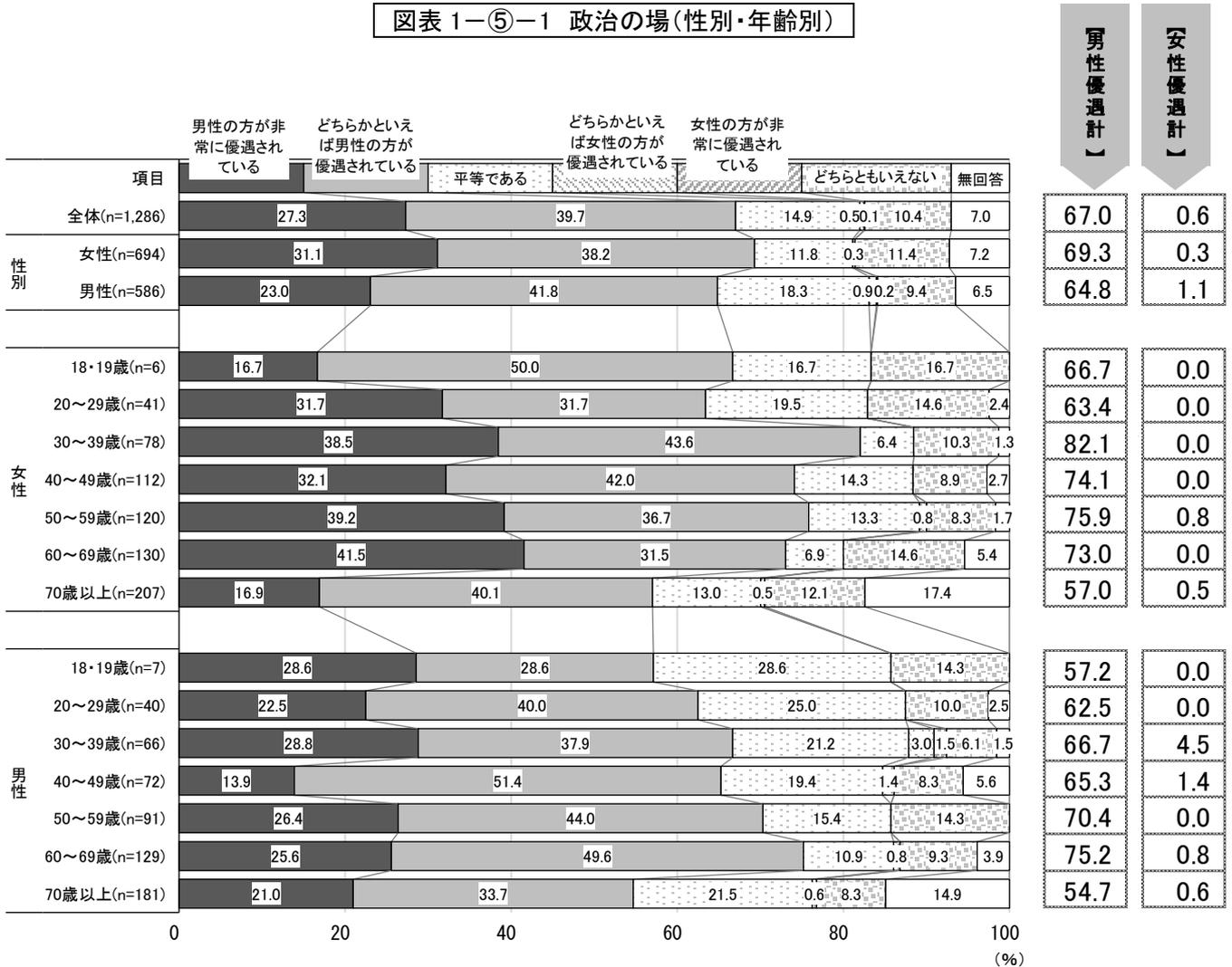


⑤ 政治の場

～男性優遇感を持つ人が全体の7割弱  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は低下傾向

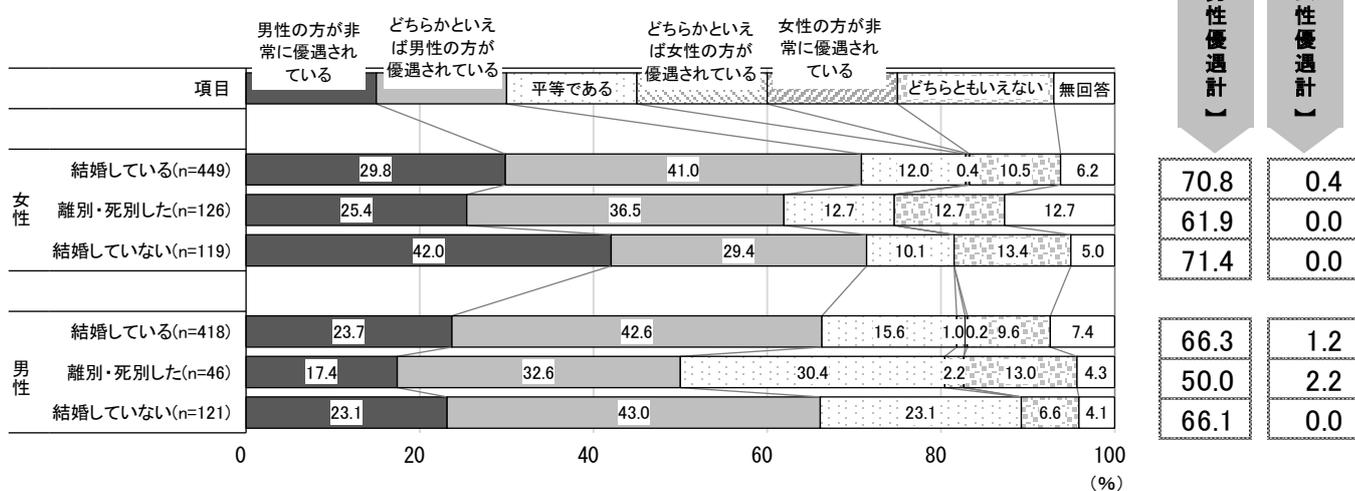
- 全体では、『男性優遇計』は67.0%、「平等である」は14.9%、『女性優遇計』は0.6%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が11.8%、男性が18.3%となっており、男性の方が6.5ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代から60代女性、50代から60代男性で『男性優遇計』は70%を超えている。「平等である」は、男女ともに20代（女性19.5%、男性25.0%）が他の年代より高くなっている。

図表 1-⑤-1 政治の場(性別・年齢別)



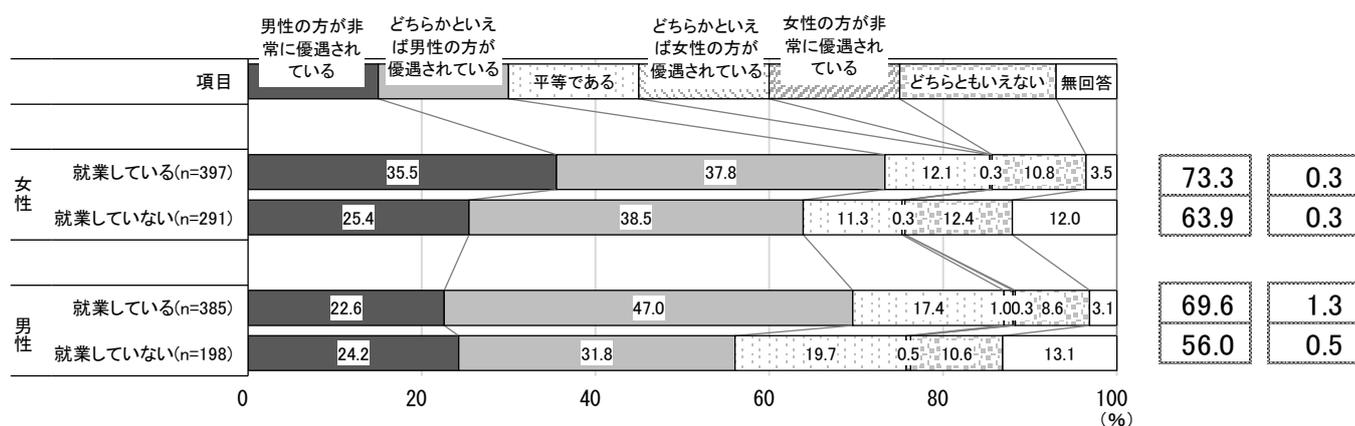
■ 性別・婚姻状況別でみると、『男性優遇計』は、結婚している人（女性 70.8%、男性 66.3%）と結婚していない人（女性 71.4%、男性 66.1%）が男女ともほぼ同じ割合となっている。

図表 1-⑤-2 政治の場(性別・婚姻状況別)



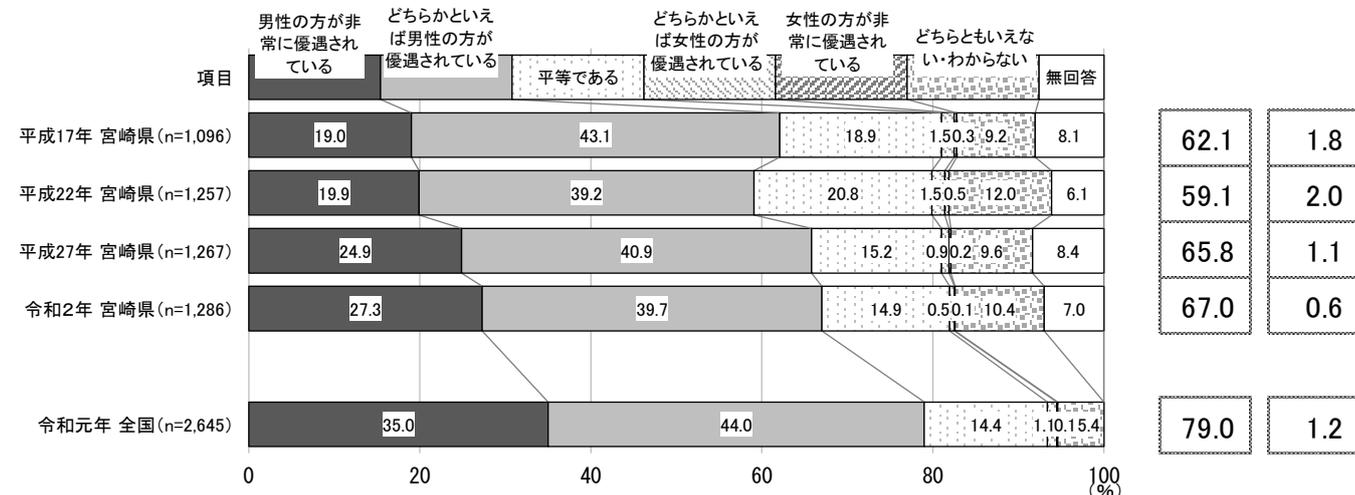
■ 性別・就業状況別でみると、『男性優遇計』は、就業している人（女性 73.3%、男性 69.6%）が就業していない人（女性 63.9%、男性 56.0%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑤-3 政治の場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 18.9%であったが、22 年調査では 20.8%、27 年調査では 15.2%と推移しており、今回調査では 14.9%となっている。

図表 1-⑤-4 政治の場(時系列・全国比較)

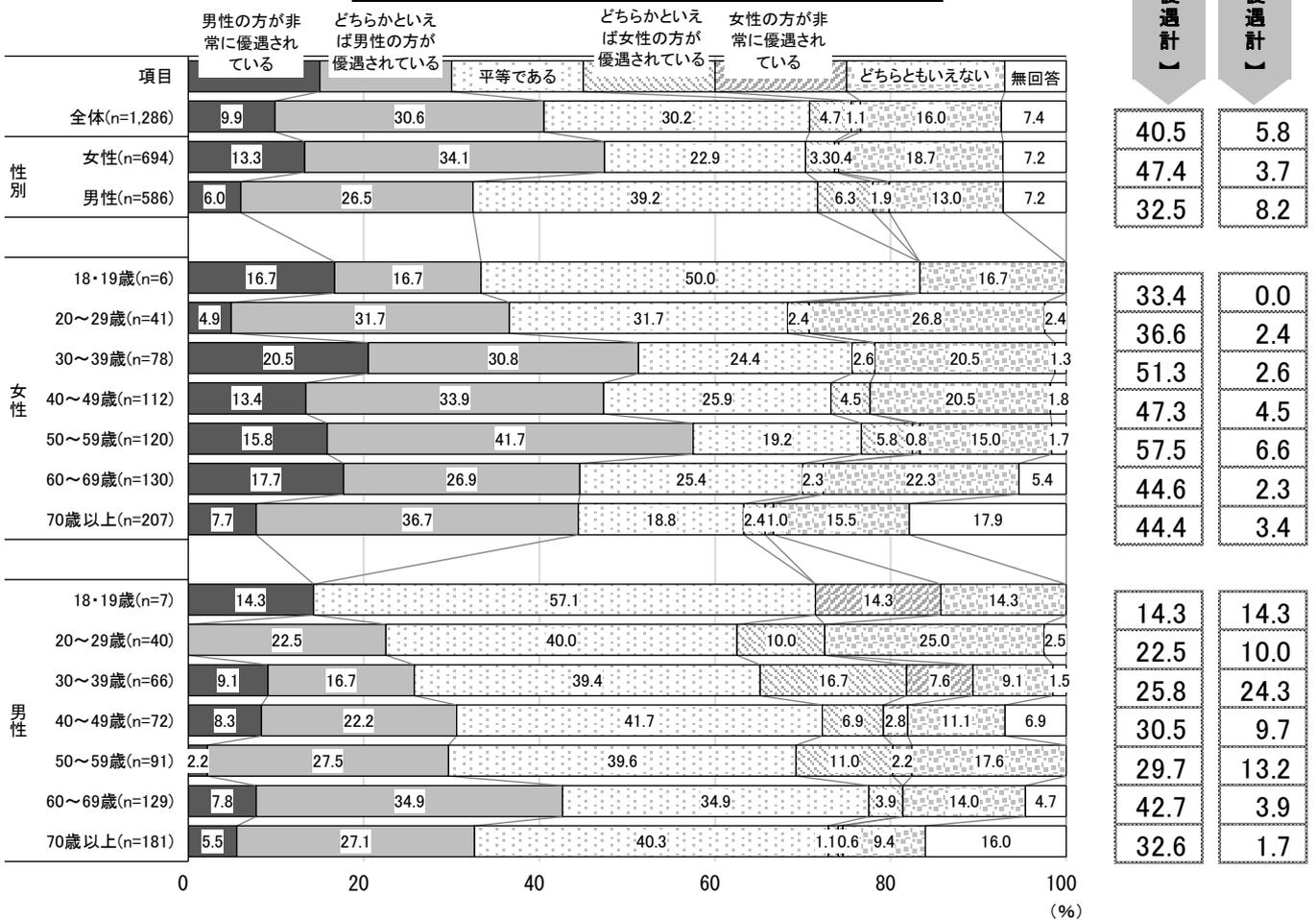


⑥ 法律や制度の上

～男性優遇感を持つ人が全体の4割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はやや低下

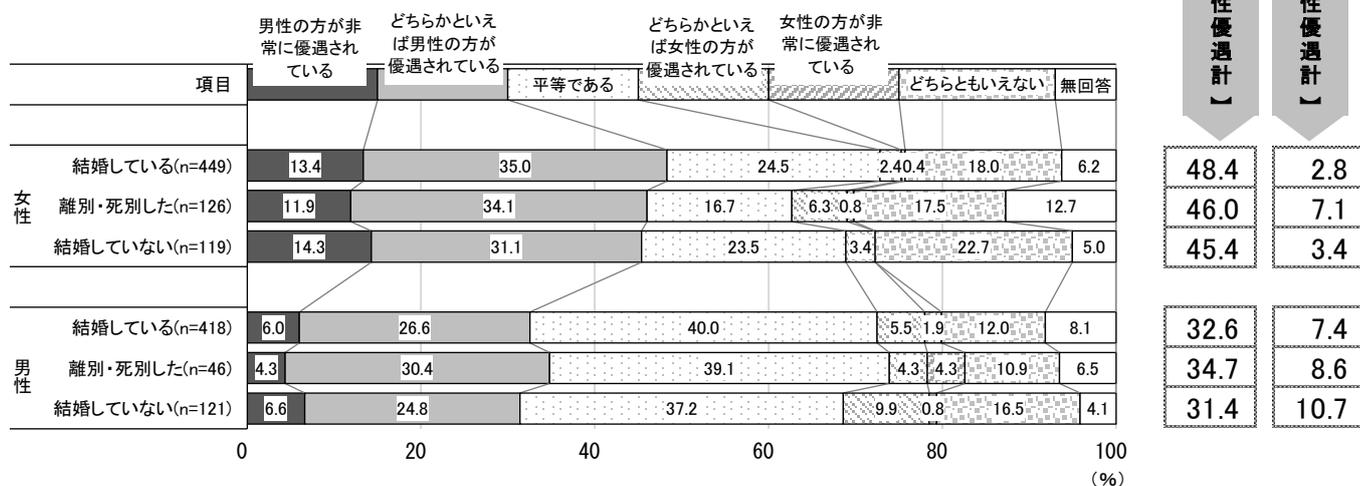
- 全体では、『男性優遇計』は40.5%、「平等である」は30.2%、『女性優遇計』は5.8%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が22.9%、男性が39.2%となっており、男性の方が16.3ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代と50代女性で『男性優遇計』が50%を超えている。

図表 1-⑥-1 法律や制度の上(性別・年齢別)



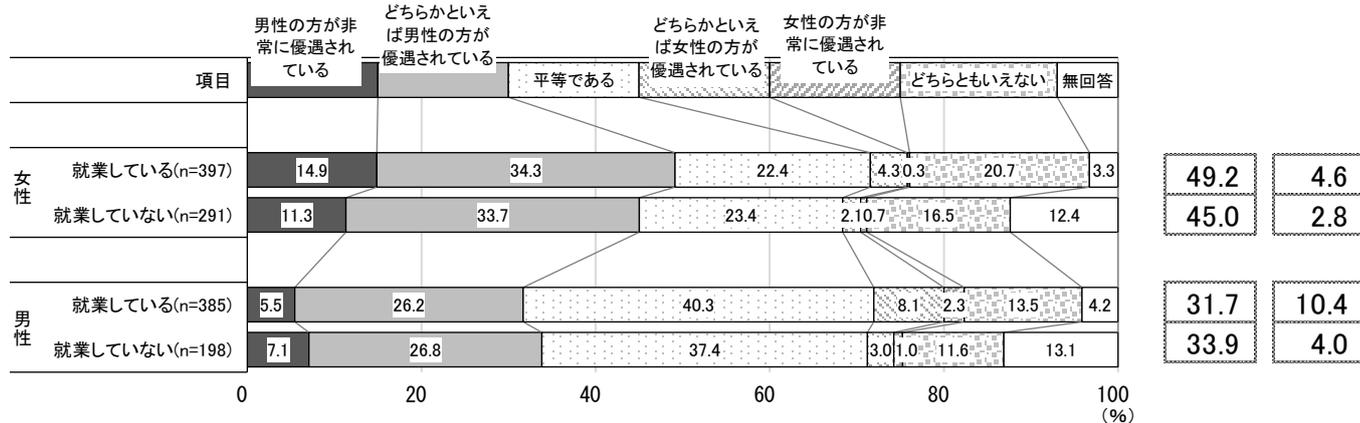
■ **性別・婚姻状況別**でみると、「平等である」は、結婚している人（女性 24.5%、男性 40.0%）が結婚していない人（女性 23.5%、男性 37.2%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑥-2 法律や制度の上(性別・婚姻状況別)



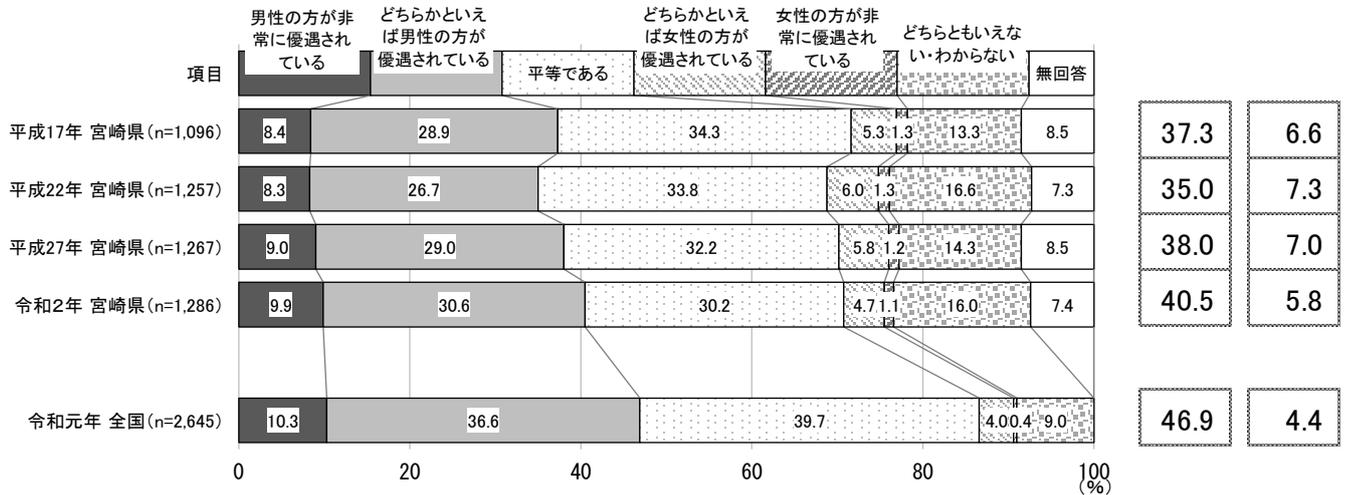
■ **性別・就業状況別**でみると、『女性優遇計』は、就業している人（女性 4.6%、男性 10.4%）が就業していない人（女性 2.8%、男性 4.0%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑥-3 法律や制度の上(性別・就業状況別)



■ **時系列**で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 34.3%であったが、22 年調査では 33.8%、27 年調査では 32.2%と推移しており、今回調査では 30.2%となっている。

図表 1-⑥-4 法律や制度の上(時系列・全国比較)

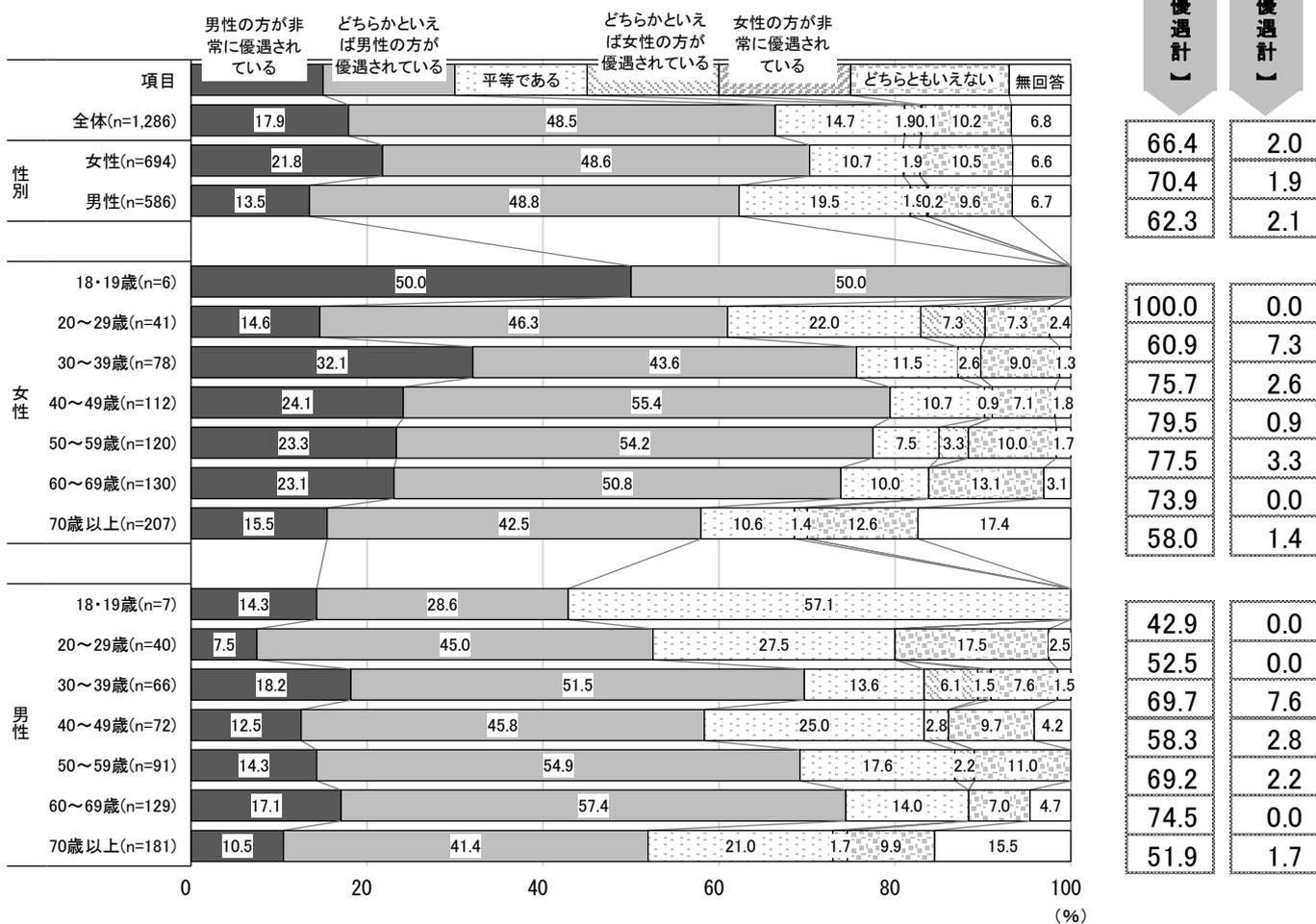


⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

～男性優遇感を持つ人が全体の7割弱  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は上昇している

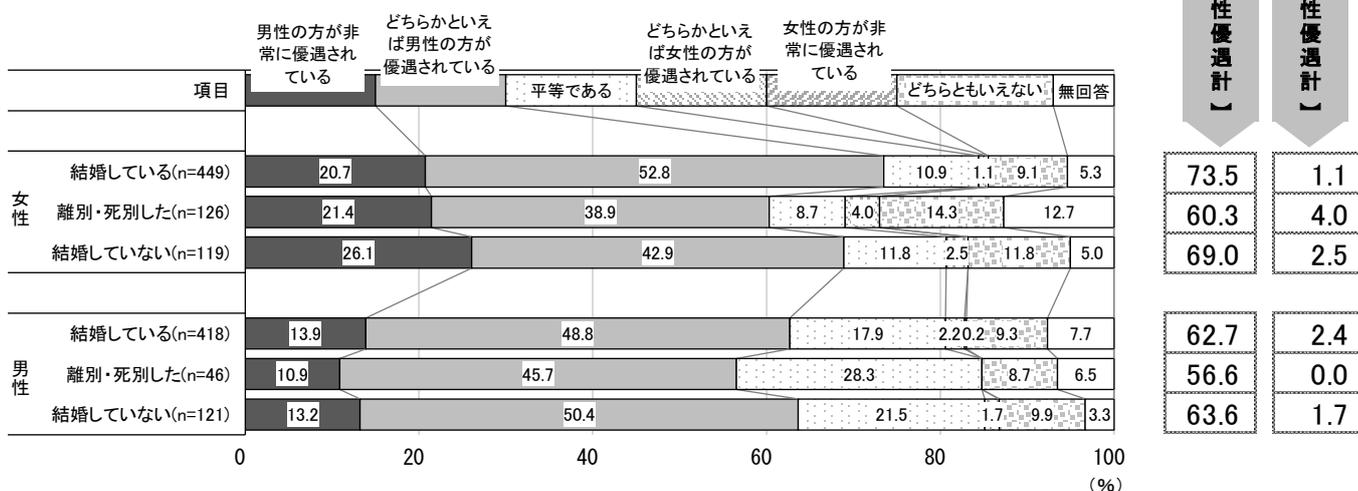
- 全体では、『男性優遇計』は66.4%、「平等である」は14.7%、『女性優遇計』は2.0%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が10.7%、男性が19.5%となっており、男性の方が8.8ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代から60代女性、60代男性で『男性優遇計』が70%を超えている。「平等である」は、男女ともに20代（女性22.0%、男性27.5%）が他の年代より高くなっている。

図表 1-⑦-1 社会通念・慣習・しきたりなど(性別・年齢別)



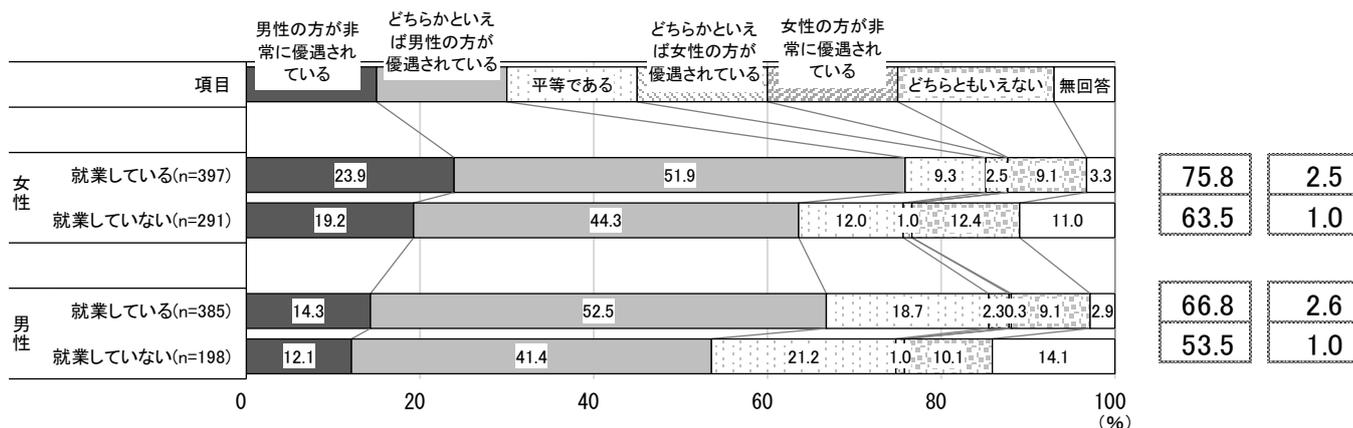
■ 性別・婚姻状況別でみると、「平等である」は、結婚している人（女性 10.9%、男性 17.9%）が結婚していない人（女性 11.8%、男性 21.5%）より男女とも低くなっている。

図表 1-⑦-2 社会通念・慣習・しきたりなど(性別・婚姻状況別)



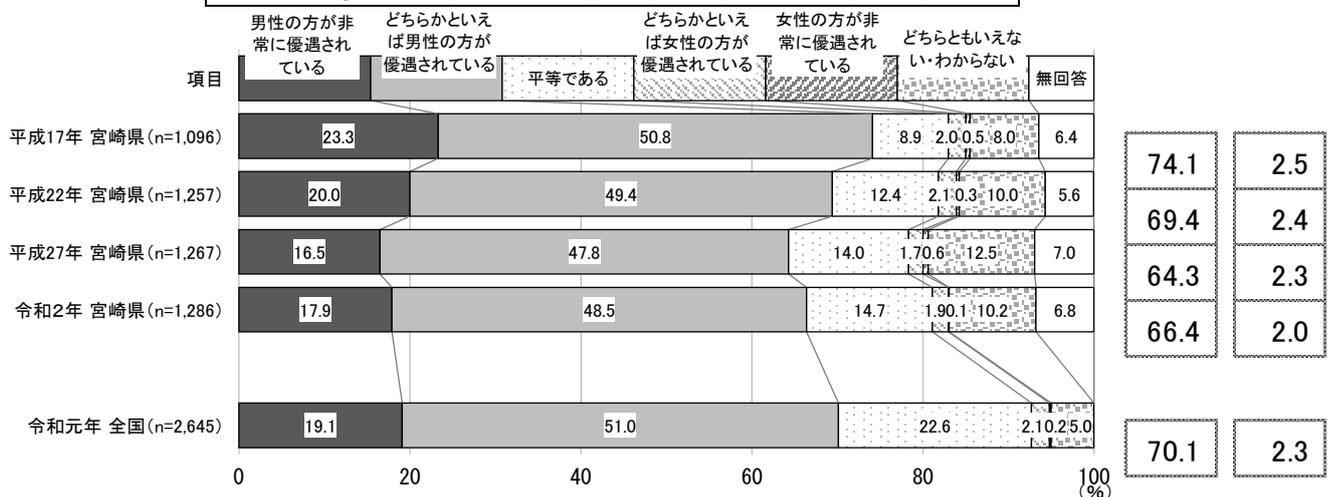
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、就業している人（女性 9.3%、男性 18.7%）が就業していない人（女性 12.0%、男性 21.2%）より男女とも低くなっている。

図表 1-⑦-3 社会通念・慣習・しきたりなど(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 8.9%であったが、22 年調査では 12.4%、27 年調査では 14.0%と推移しており、今回調査では 14.7%となっている。

図表 1-⑦-4 社会通念・慣習・しきたりなど(時系列・全国比較)

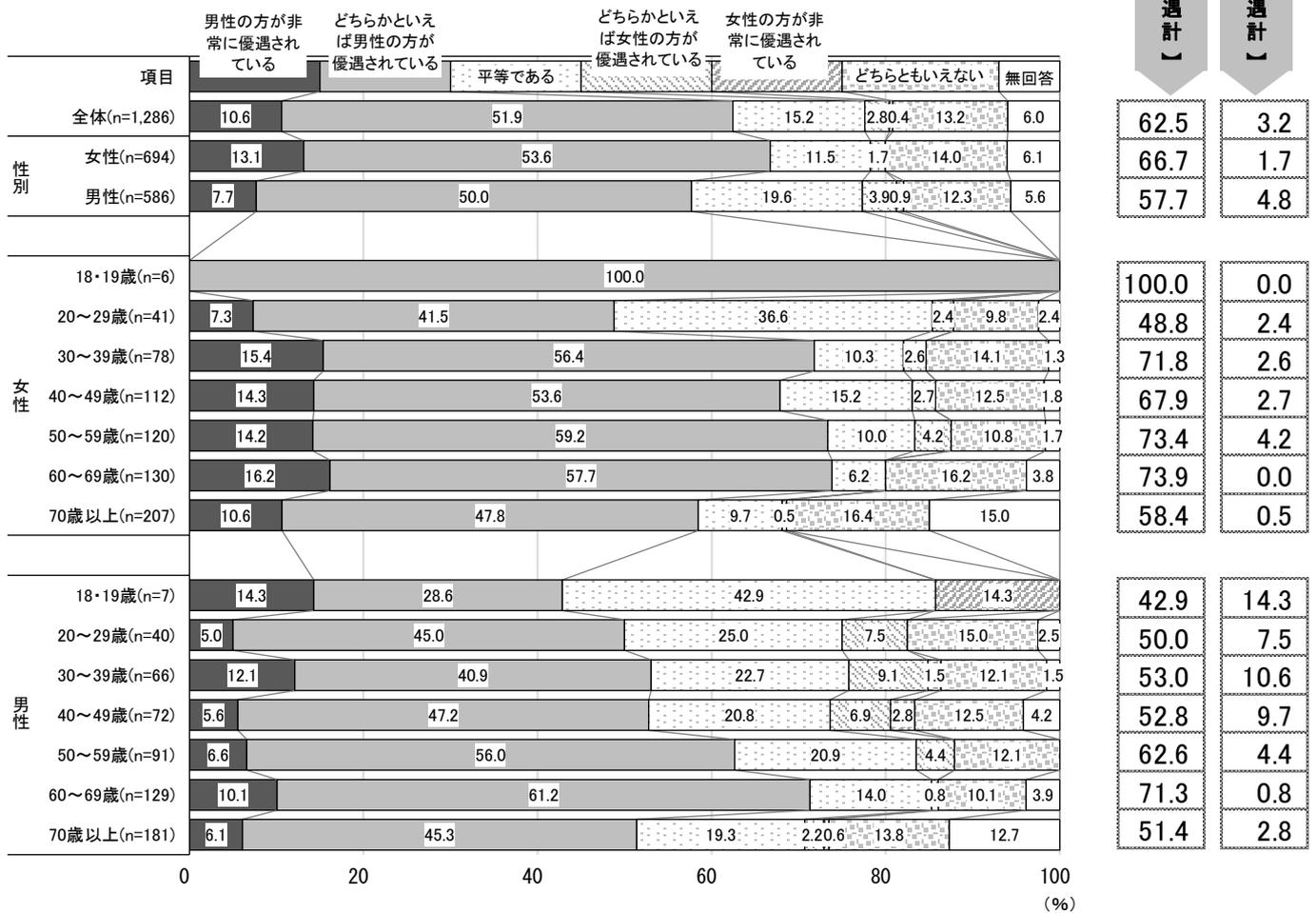


⑧ 社会全体

～男性優遇感を持つ人が全体の6割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はほぼ変化なし

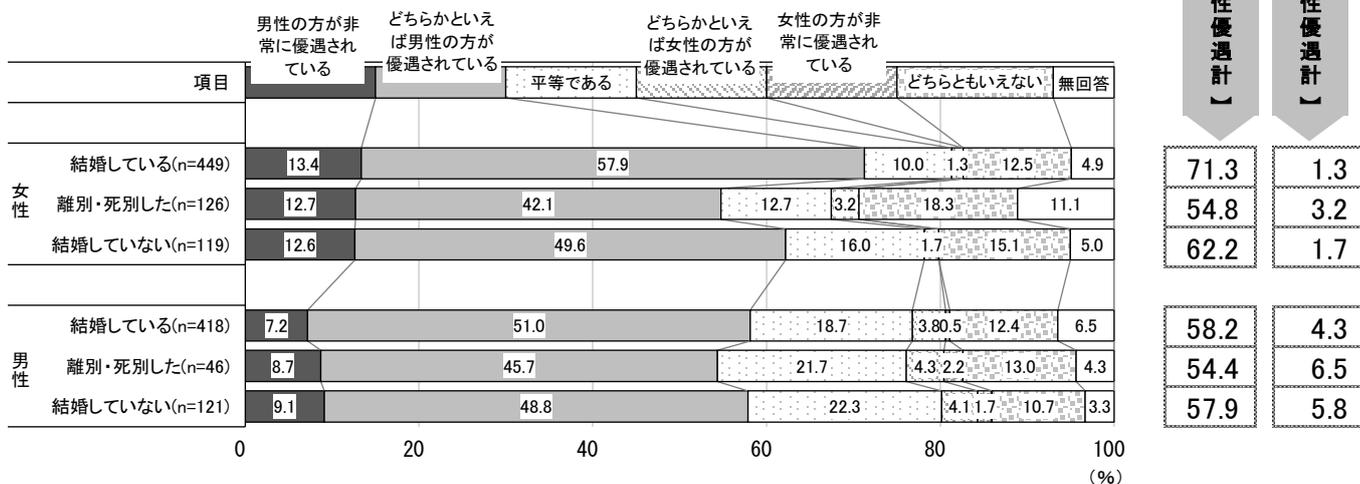
- 全体では、『男性優遇計』は62.5%、「平等である」は15.2%、『女性優遇計』は3.2%となっている
- 性別でみると、「平等である」は、女性が11.5%、男性が19.6%となっており、男性の方が8.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代から60代女性、50代から60代男性で『男性優遇計』が60%を超えている。「平等である」は、男女ともに20代（女性36.6%、男性25.0%）が他の年代より高くなっている。

図表 1-⑧-1 社会全体(性別・年齢別)



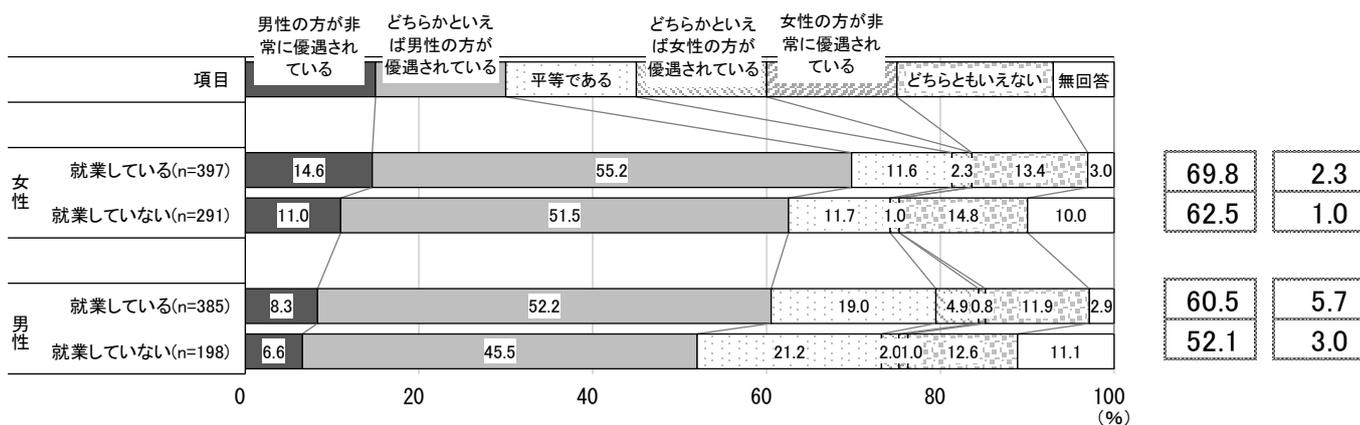
■ 性別・婚姻状況別で見ると、「平等である」は、結婚している人（女性 10.0%、男性 18.7%）が結婚していない人（女性 16.0%、男性 22.3%）より男女とも低くなっている。

図表 1-⑧-2 社会全体(性別・婚姻状況別)



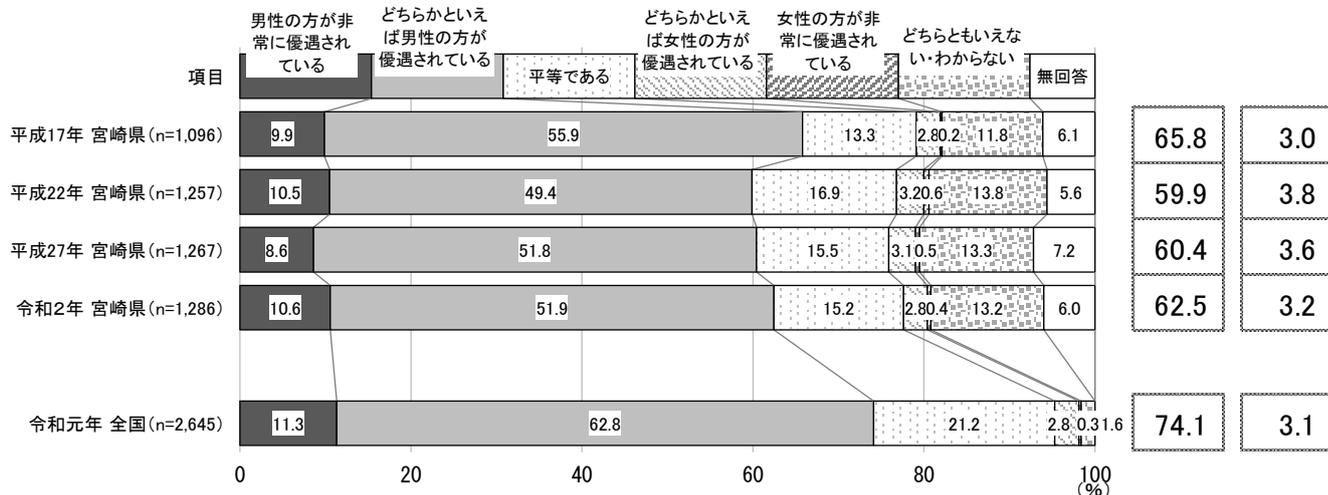
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は、就業している人（女性 11.6%、男性 19.0%）が就業していない人（女性 11.7%、男性 21.2%）より男女とも低くなっている。

図表 1-⑧-3 社会全体(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 13.3%であったが、22 年調査では 16.9%、27 年調査では 15.5%となっており、今回調査では 15.2%となっている。

図表 1-⑧-4 社会全体(時系列・全国比較)



(2) 男女平等になるために重要なこと

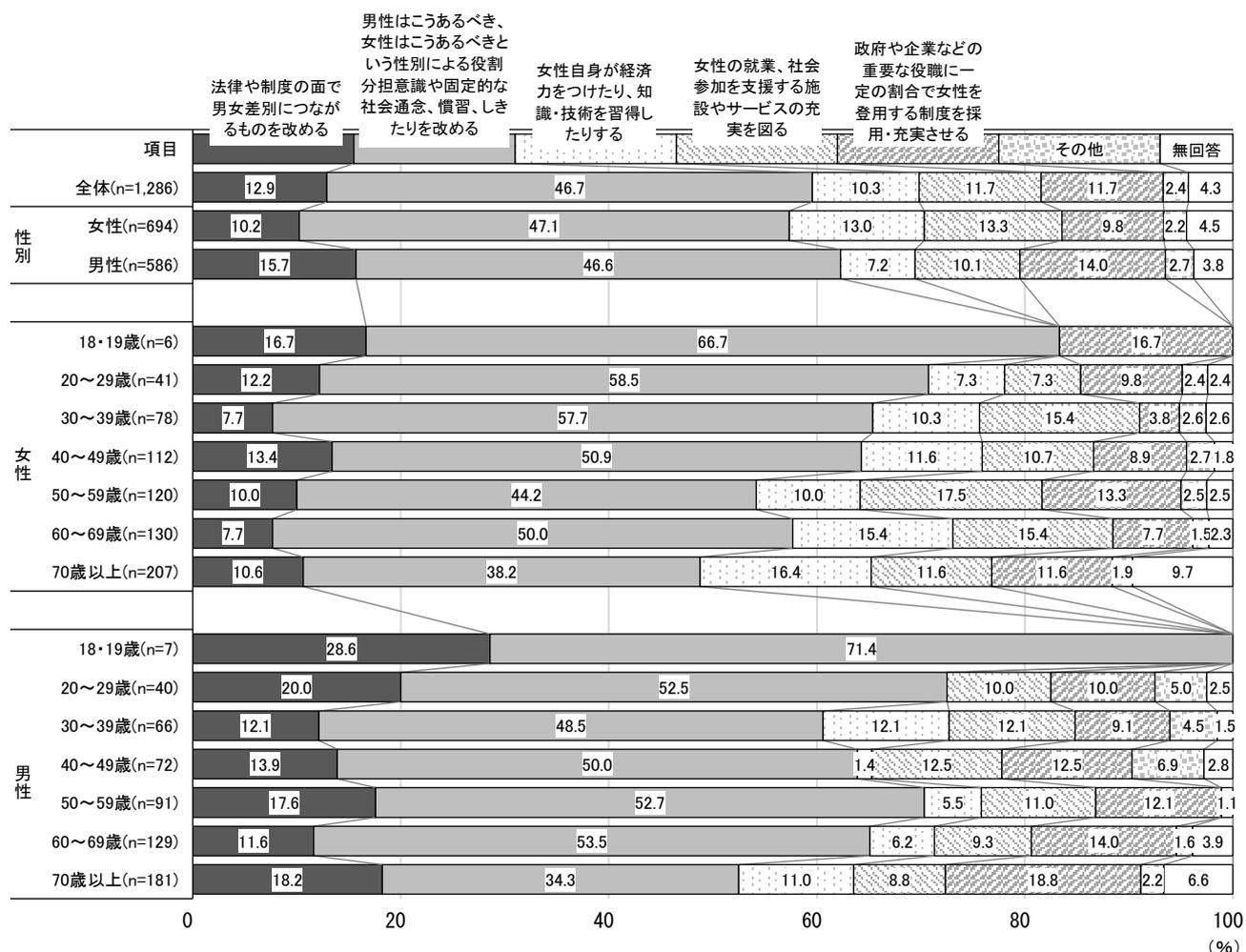
今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われることは何でしょうか。(〇は1つだけ)

男女平等になるためには、

「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」ことが重要との考えが4割強

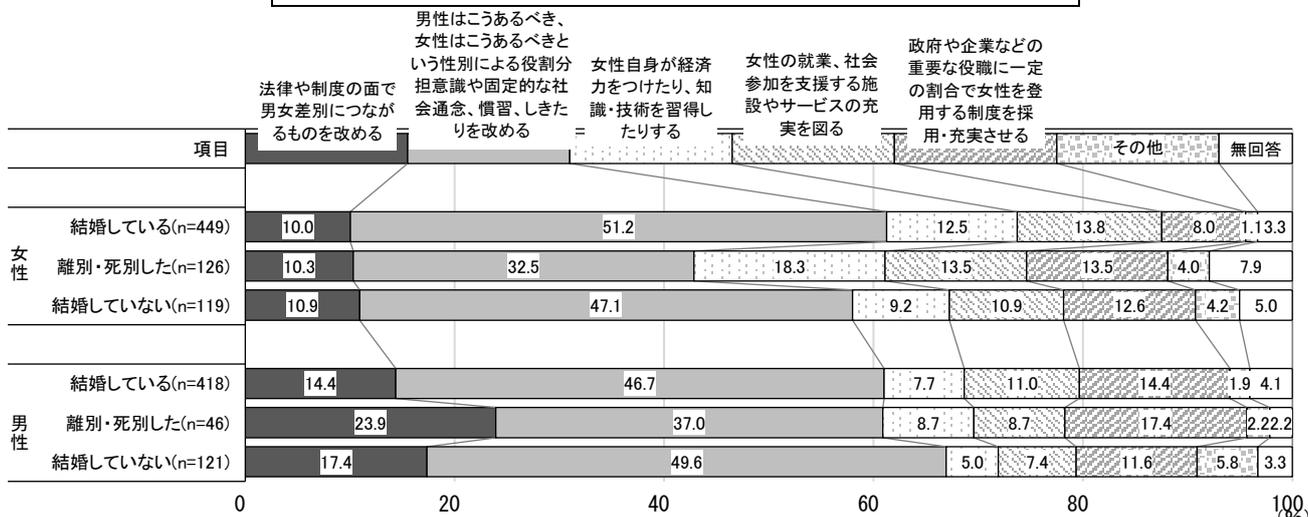
- 全体では、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」が46.7%と最も高くなっている。
- 性別・年代別でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は、男女ともに70歳以上(女性38.2%、男性34.3%)が他の年代より低くなっている。

図表 2-1 男女平等になるために重要なこと(性別・年齢別)



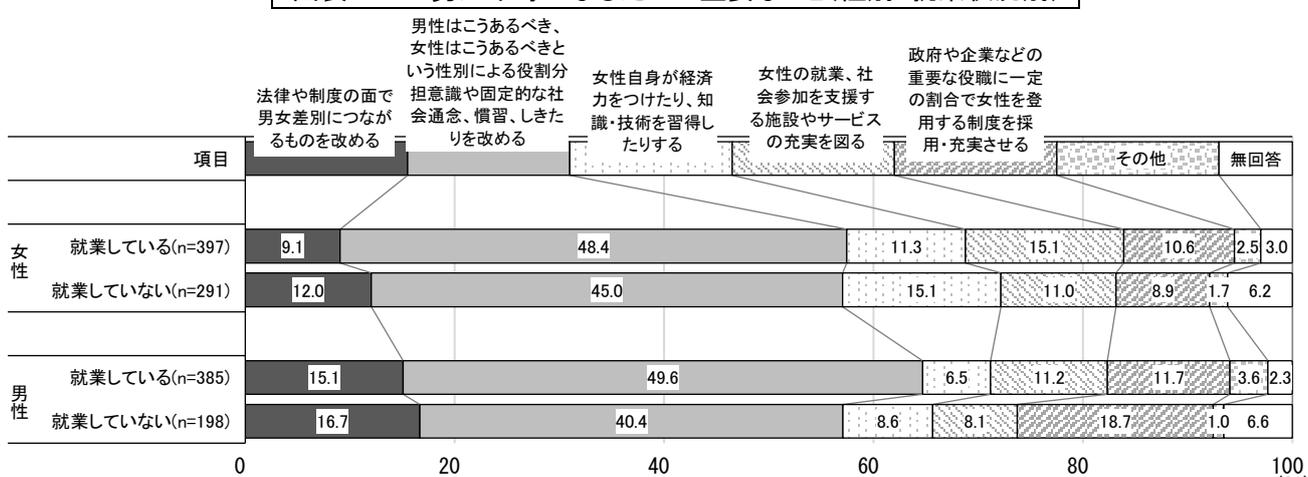
- **性別・婚姻状況別**でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は、婚姻状況にかかわらず男女とも最も高くなっている。「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりする」は、離別・死別した女性が18.3%と最も高くなっている。

図表 2-2 男女平等になるために重要なこと(性別・婚姻状況別)



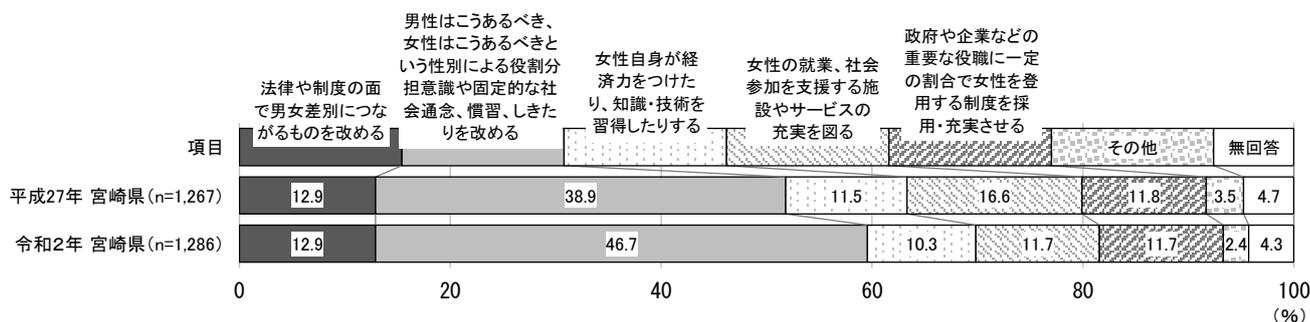
- **性別・就業状況別**でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は、就業状況にかかわらず男女とも最も高くなっている。「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりする」は、就業していない女性が15.1%と最も高くなっている。

図表 2-3 男女平等になるために重要なこと(性別・就業状況別)



- **時系列**で比較すると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は46.7%となっており、平成27年調査の38.9%より7.8ポイント高くなっている。

図表 2-4 男女平等になるために重要なこと(時系列比較)



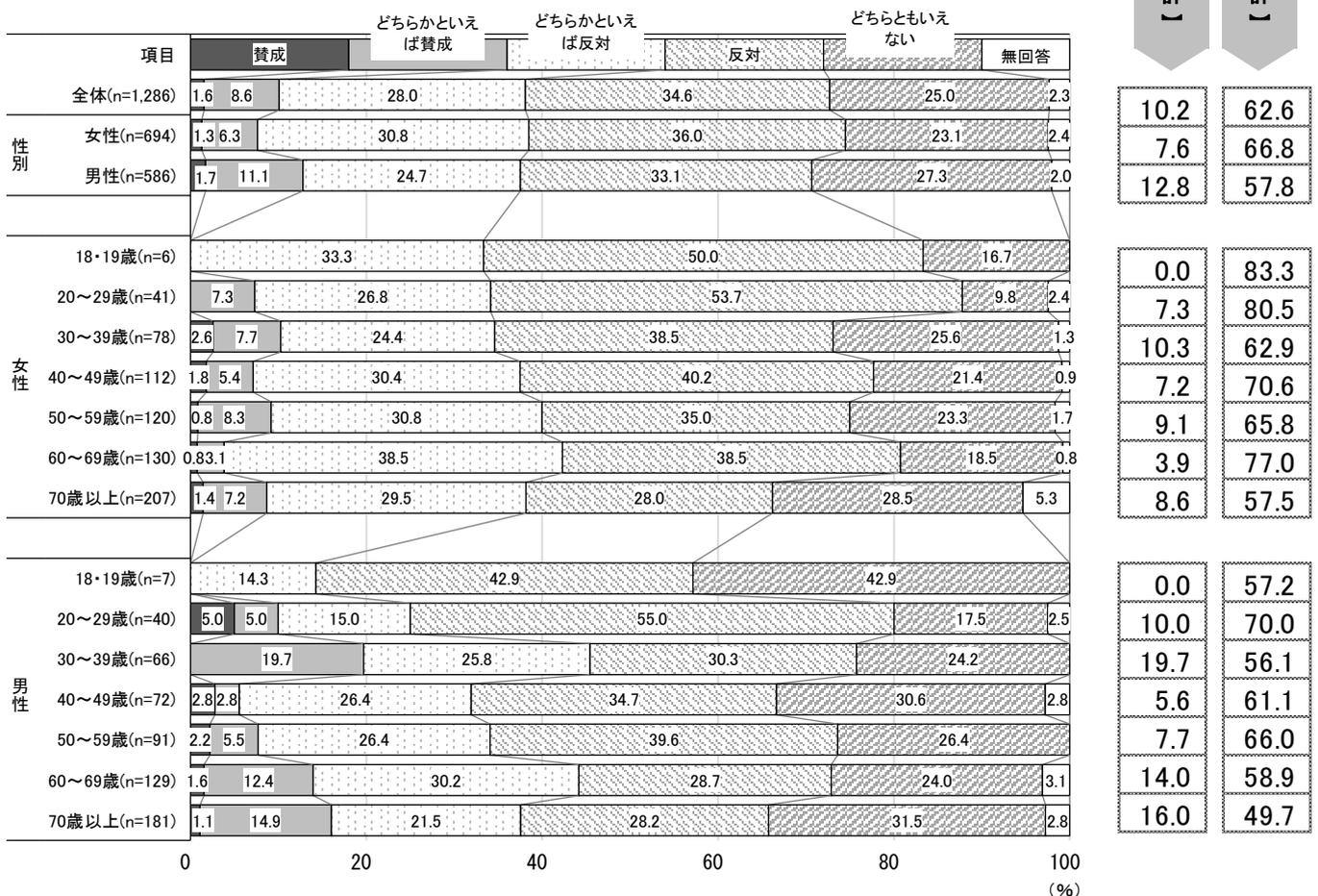
(3) 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、あなたはごどう思いますか。(○は1つだけ)

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、『賛成派』は1割強、『反対派』は6割強

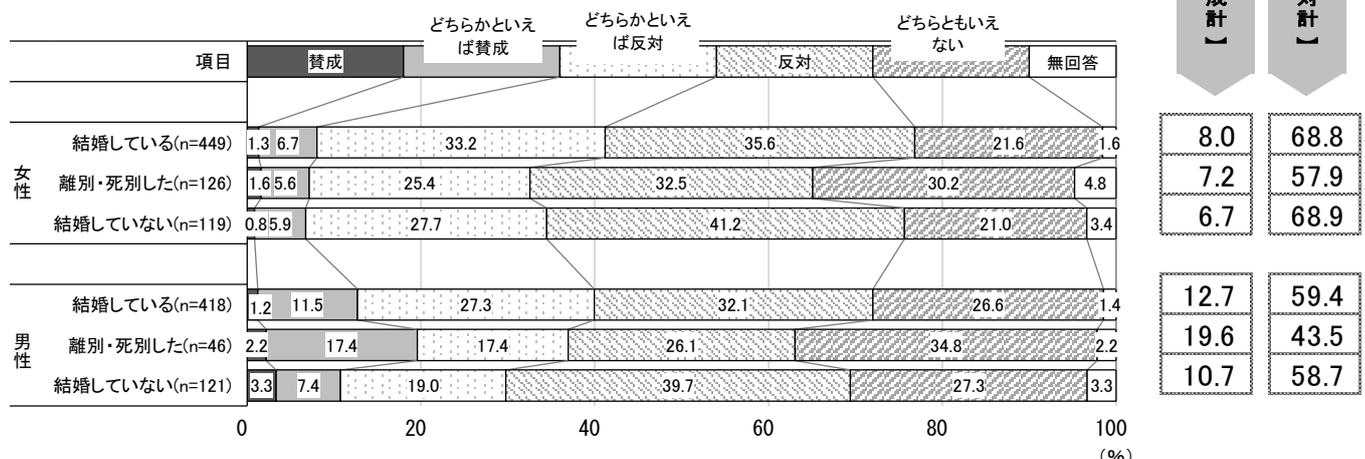
- 全体では、『賛成計(「賛成」及び「どちらかといえば賛成」の合計)』は10.2%、『反対計(「反対」及び「どちらかといえば反対」の合計)』は62.6%となっており、『反対計』が『賛成計』より52.4ポイント高くなっている。
- 性別で見ると、『反対計』は、女性が66.8%、男性が57.8%となっており、女性の方が9.0ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『賛成計』は、男女ともに30代(女性10.3%、男性19.7%)が他の年代より高くなっており、『反対計』は、男女ともに20代(女性80.5%、男性70.0%)が他の年代より高くなっている。

図表3-1 男女の役割分担意識についての考え方(性別・年齢別)



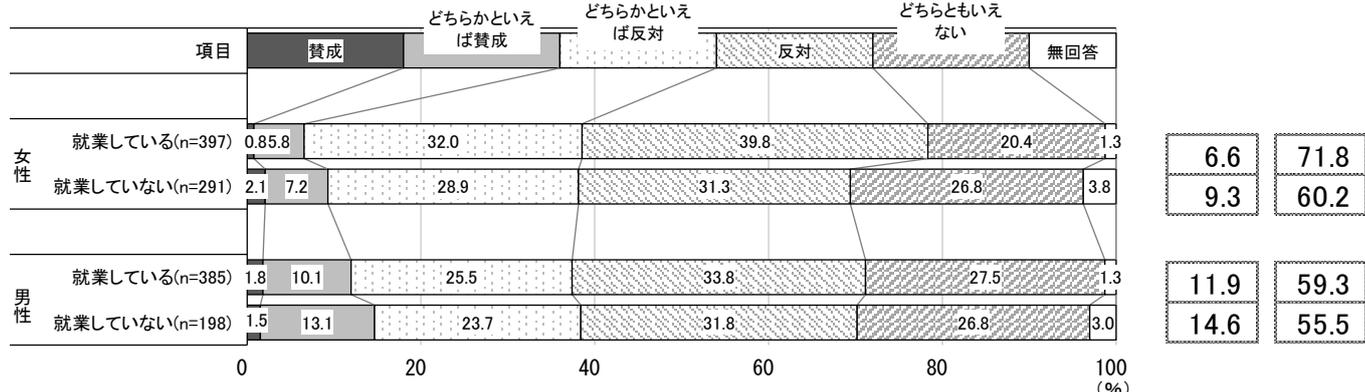
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は、結婚している人（女性 8.0%、男性 12.7%）が結婚していない人（女性 6.7%、男性 10.7%）より男女とも高くなっている。

図表 3-2 男女の役割分担意識についての考え方（性別・婚姻状況別）



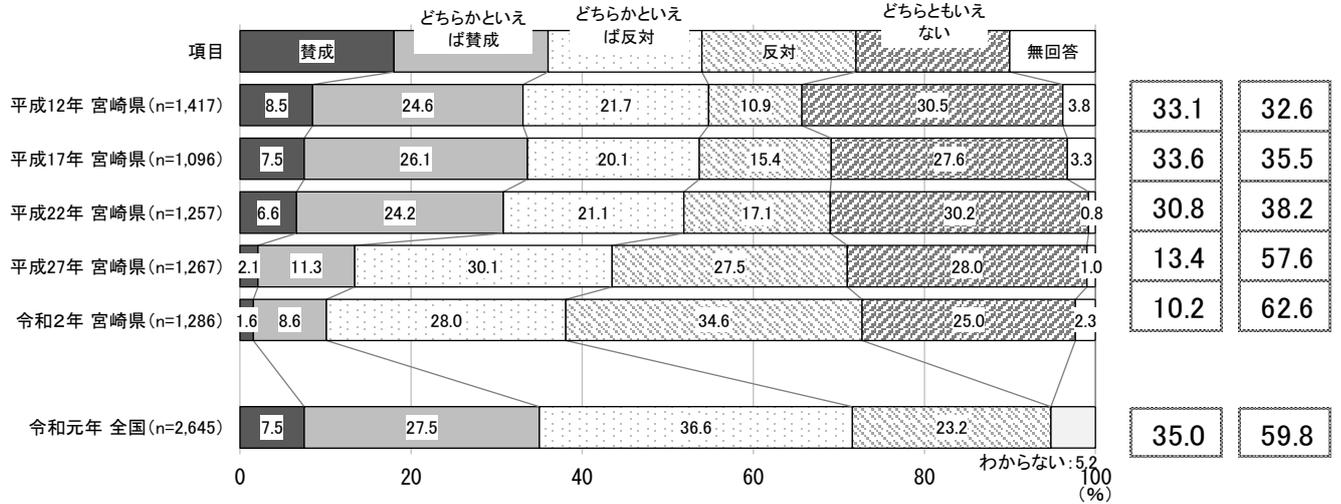
■ 性別・就業状況別で見ると、『賛成計』は、就業している人（女性 6.6%、男性 11.9%）が就業していない人（女性 9.3%、男性 14.6%）より男女とも低くなっている。

図表 3-3 男女の役割分担意識についての考え方（性別・就業状況別）



■ 時系列で比較すると、『賛成計』は平成 12 年調査では 33.1%であったが、17 年調査では 33.6%、22 年調査では 30.8%、27 年調査では 13.4%と推移しており、今回調査では 10.2%となっている。

図表 3-4 男女の役割分担意識についての考え方（時系列・全国比較）



※平成 22 年までの設問は「男は仕事、女は家庭という考え方についてあなたはどのように思いますか。」であったが、前回（27 年）調査より「『男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである』というような性別によって役割を固定する（決めつける）考え方について、あなたはどのように思いますか。」に変更している。  
 ※全国調査については、選択肢に「わからない」がある。

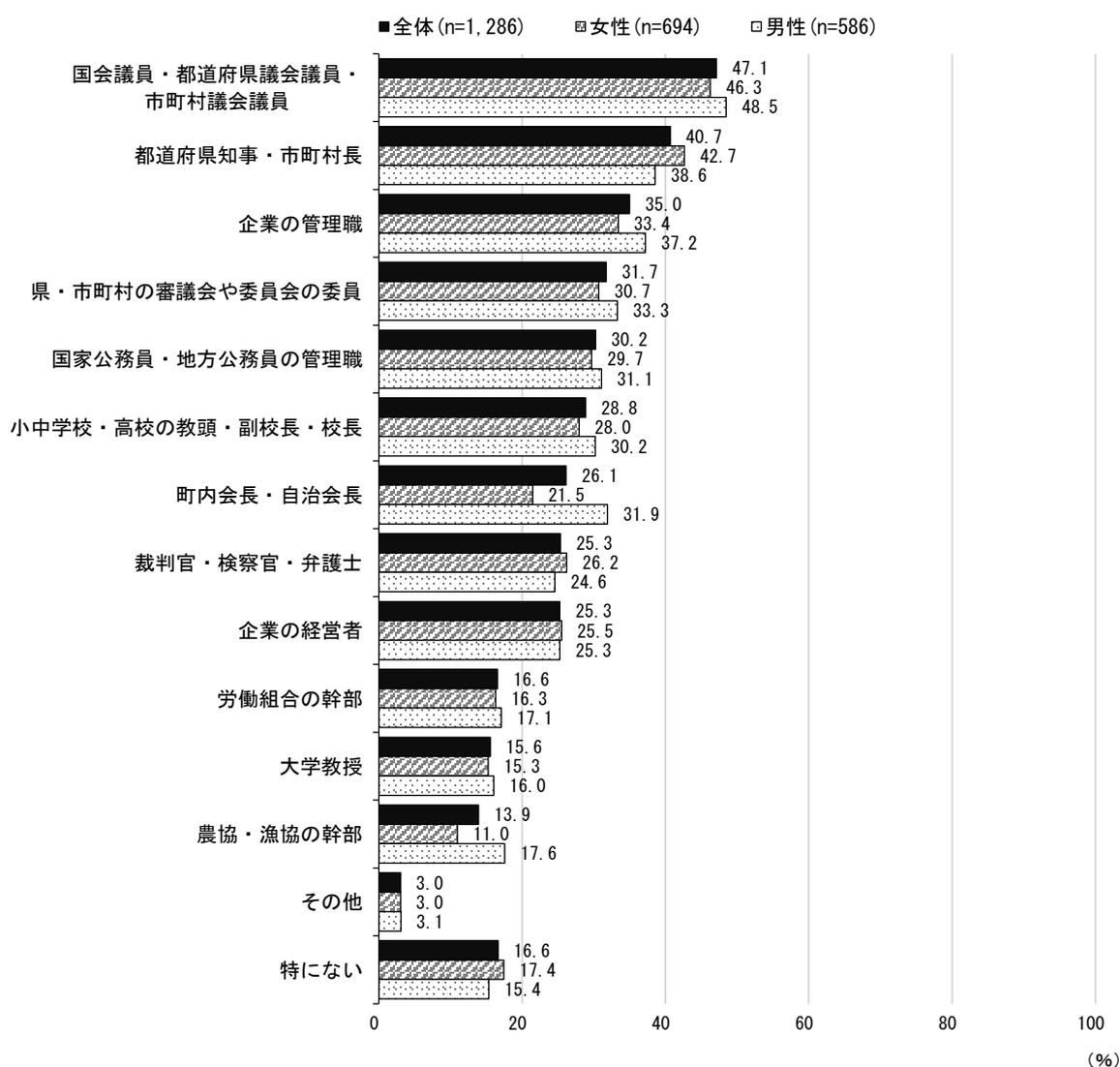
#### (4) 女性の社会参画

政策・方針決定にかかわる役職において、あなたはどのような分野に女性がもっと増える方がよいと思いますか。（〇はいくつでも）

どのような分野に女性がもっと増える方がよいかについては、  
**国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員が 5 割弱**  
**都道府県知事・市町村長が 4 割強**

- 全体では、「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が 47.1%と最も高く、次いで「都道府県知事・市町村長」が 40.7%、「企業の管理職」が 35.0%となっている。
- 性別でみると、男性と女性の割合差は、「町内会長・自治会長」（女性 21.5%、男性 31.9%）で 10.4 ポイントと最も高く、次いで「農協・漁協の幹部」（女性 11.0%、男性 17.6%）で 6.6 ポイントとなっている。

図表 4-1 女性の社会参画



図表 4-2 女性の社会参画

		国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員	都道府県知事・市町村長	企業の管理職	県・市町村の審議会や委員会の委員	国家公務員・地方公務員の管理職	小中学校・高校の教頭・副校長・校長	町内会長・自治会長	裁判官・検察官・弁護士	企業の経営者	労働組合の幹部	大学教授	農協・漁協の幹部	その他	特にない
全体(n=1,286)		47.1	40.7	35.0	31.7	30.2	28.8	26.1	25.3	25.3	16.6	15.6	13.9	3.0	16.6
性別	女性(n=694)	46.3	42.7	33.4	30.7	29.7	28.0	21.5	26.2	25.5	16.3	15.3	11.0	3.0	17.4
	男性(n=586)	48.5	38.6	37.2	33.3	31.1	30.2	31.9	24.6	25.3	17.1	16.0	17.6	3.1	15.4
性別・年齢別	女性														
	18・19歳(n=6)	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7
	20～29歳(n=41)	53.7	58.5	48.8	22.0	26.8	48.8	17.1	26.8	34.1	22.0	17.1	12.2	0.0	14.6
	30～39歳(n=78)	51.3	50.0	43.6	37.2	32.1	34.6	21.8	28.2	41.0	28.2	17.9	17.9	2.6	16.7
	40～49歳(n=112)	49.1	50.9	31.3	25.9	32.1	25.0	21.4	26.8	27.7	17.0	16.1	14.3	2.7	18.8
	50～59歳(n=120)	54.2	54.2	45.8	30.8	36.7	27.5	12.5	31.7	33.3	15.8	20.0	12.5	1.7	11.7
	60～69歳(n=130)	47.7	43.8	41.5	39.2	31.5	32.3	16.9	26.2	25.4	17.7	15.4	10.8	3.8	17.7
	70歳以上(n=207)	36.2	25.6	15.5	27.5	23.2	21.3	30.9	22.7	12.6	10.1	10.6	5.3	4.3	20.8
	男性														
	18・19歳(n=7)	71.4	28.6	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0
	20～29歳(n=40)	37.5	42.5	35.0	25.0	30.0	27.5	15.0	20.0	30.0	10.0	20.0	12.5	5.0	27.5
	30～39歳(n=66)	39.4	43.9	40.9	33.3	30.3	18.2	25.8	31.8	34.8	24.2	15.2	18.2	3.0	16.7
	40～49歳(n=72)	50.0	41.7	40.3	26.4	34.7	40.3	23.6	33.3	33.3	20.8	20.8	16.7	5.6	11.1
	50～59歳(n=91)	59.3	47.3	47.3	42.9	35.2	30.8	38.5	34.1	31.9	19.8	23.1	22.0	1.1	13.2
60～69歳(n=129)	51.2	38.0	35.7	34.1	31.8	31.8	33.3	22.5	24.0	17.1	17.8	23.3	1.6	14.7	
70歳以上(n=181)	45.3	30.9	32.0	32.6	27.6	29.8	37.6	16.0	14.9	12.7	8.8	12.7	3.9	16.0	
性別・婚姻状況別	女性														
	結婚している(n=449)	47.4	43.4	35.2	32.3	31.0	28.7	20.5	26.1	26.3	15.6	15.1	10.7	1.6	18.9
	離別・死別した(n=126)	34.9	31.0	23.8	29.4	25.4	22.2	23.8	22.2	18.3	12.7	13.5	6.3	6.3	19.0
	結婚していない(n=119)	53.8	52.1	37.0	26.1	29.4	31.1	22.7	31.1	30.3	22.7	17.6	16.8	5.0	10.1
	男性														
	結婚している(n=418)	51.9	39.2	39.0	36.4	32.8	32.3	35.6	25.1	24.9	18.7	15.8	18.2	2.2	13.4
離別・死別した(n=46)	28.3	21.7	30.4	17.4	19.6	21.7	17.4	13.0	19.6	6.5	4.3	15.2	2.2	26.1	
結婚していない(n=121)	44.6	43.0	33.9	28.9	29.8	26.4	24.8	27.3	28.9	15.7	21.5	16.5	6.6	18.2	
性別・就業状況別	女性														
	就業している(n=397)	48.6	48.1	38.5	30.7	31.5	28.7	16.1	25.9	29.0	16.4	14.9	11.1	2.5	16.4
	就業していない(n=291)	43.0	35.7	27.1	30.6	27.8	27.5	28.2	26.5	21.3	16.2	16.2	11.0	3.8	18.9
	男性														
就業している(n=385)	50.1	42.6	40.3	35.1	35.6	30.6	31.9	29.1	29.9	21.8	19.0	21.3	3.1	14.8	
就業していない(n=198)	46.0	31.3	31.8	30.3	22.7	29.8	32.3	16.2	16.7	8.1	10.6	10.6	3.0	16.2	
前回	平成27年(n=1,267)	41.5	30.8	26.2		20.1		23.0	9.1	12.0	9.7	3.5	5.1	2.1	17.0
今回	令和 2年(n=1,286)	47.1	40.7	35.0	31.7	30.2	28.8	26.1	25.3	25.3	16.6	15.6	13.9	3.0	16.6
※前回の調査(平成27年)は、回答を3つまでとしている															
令和元年 全国(n=2,645)		59.3	47.0	48.7		40.4	41.7	29.3	40.2			33.9		0.4	9.7

## 2 家庭生活及び結婚・家庭観について

### (5) 家庭生活での夫婦の役割分担状況

あなたのご家庭では、次の①～⑨にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。 ※育児や子どもの教育、親の介護等については、現在該当しなくても過去にご経験があればそれをもとにお答えください。 (〇はそれぞれ1つずつ)

家庭生活での夫婦の役割は、

主に妻の分担が多いのは「家事」(掃除、洗濯、食事の支度など)、「家計の管理」

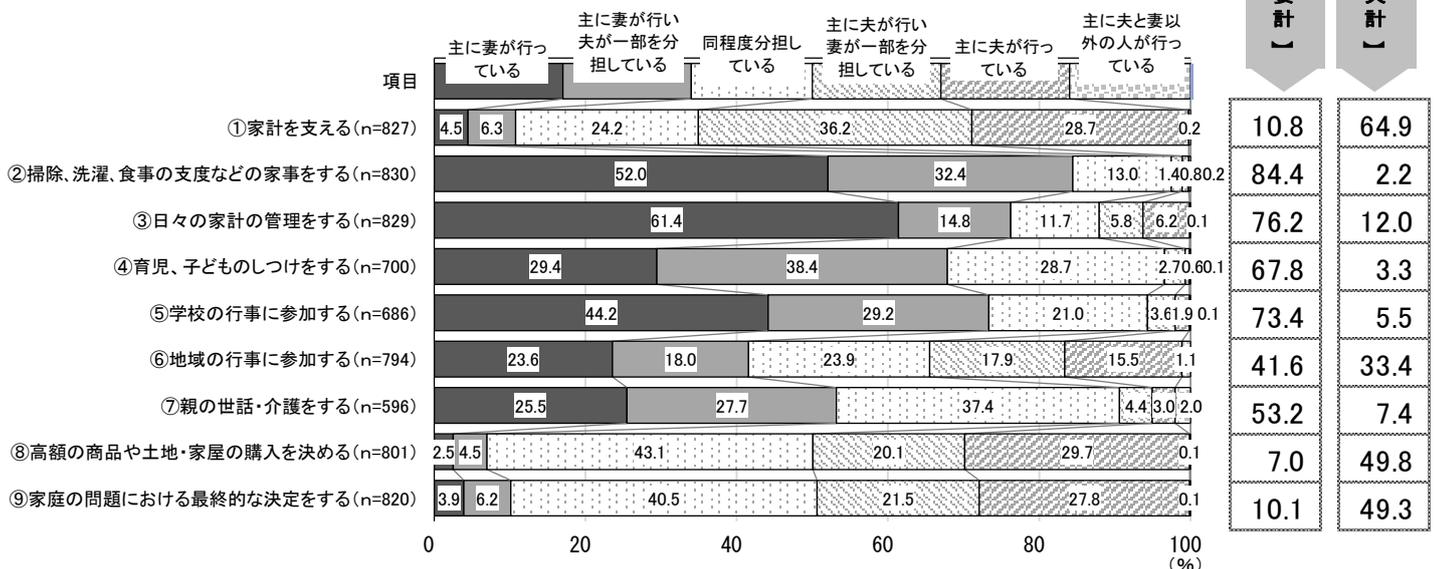
主に夫の分担が多いのは「家計を支える」

時系列でみると、「同程度分担している」が上昇傾向にある

(4)あなたは結婚されていますか。(結婚には、入籍していない事実婚も含みます。)(〇は1つだけ)に対して、「1 結婚している」と回答した方のうち、全ての設問において無回答の方、「④育児、子どものしつけをする」、「⑤学校の行事に参加する」、「⑦親の世話・介護をする」において「7 現在も過去も対象がいなし」と回答した方を除いた母数にて集計を行っている。

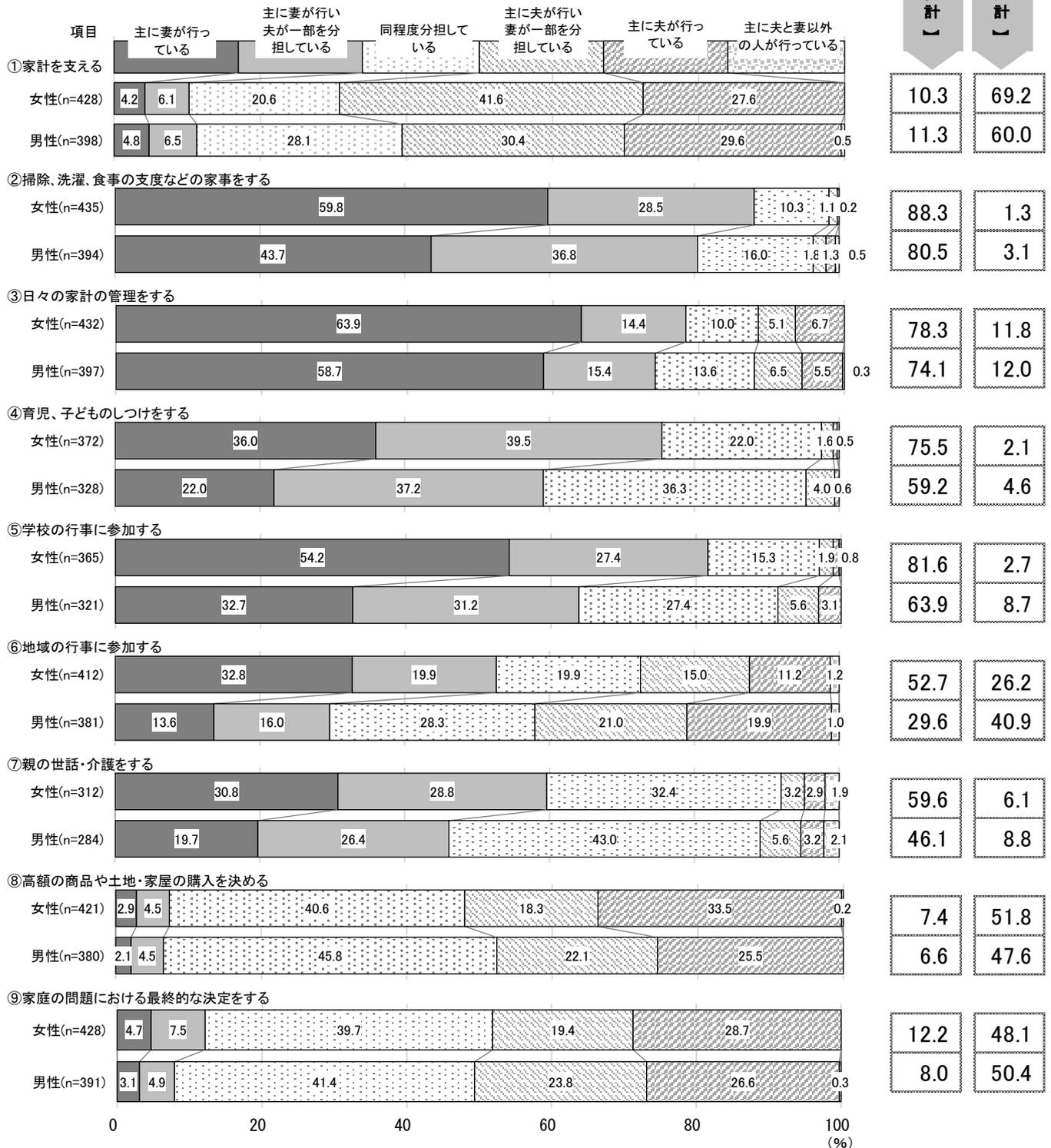
- 『主に妻計(「主に妻が行っている」及び「主に妻が行い、夫が一部を分担している」の合計)』は、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が84.4%と最も高く、次いで「日々の家計の管理をする」が76.2%となっている。
- 『主に夫計(「主に夫が行っている」及び「主に夫が行い、妻が一部を分担している」の合計)』は、「家計を支える」が64.9%と最も高く、次いで「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」が49.8%となっている。
- 「同程度分担している」は、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」が43.1%と最も高く、次いで「家庭の問題における最終的な決定をする」が40.5%となっている。

図表 5-1 夫婦の役割分担状況



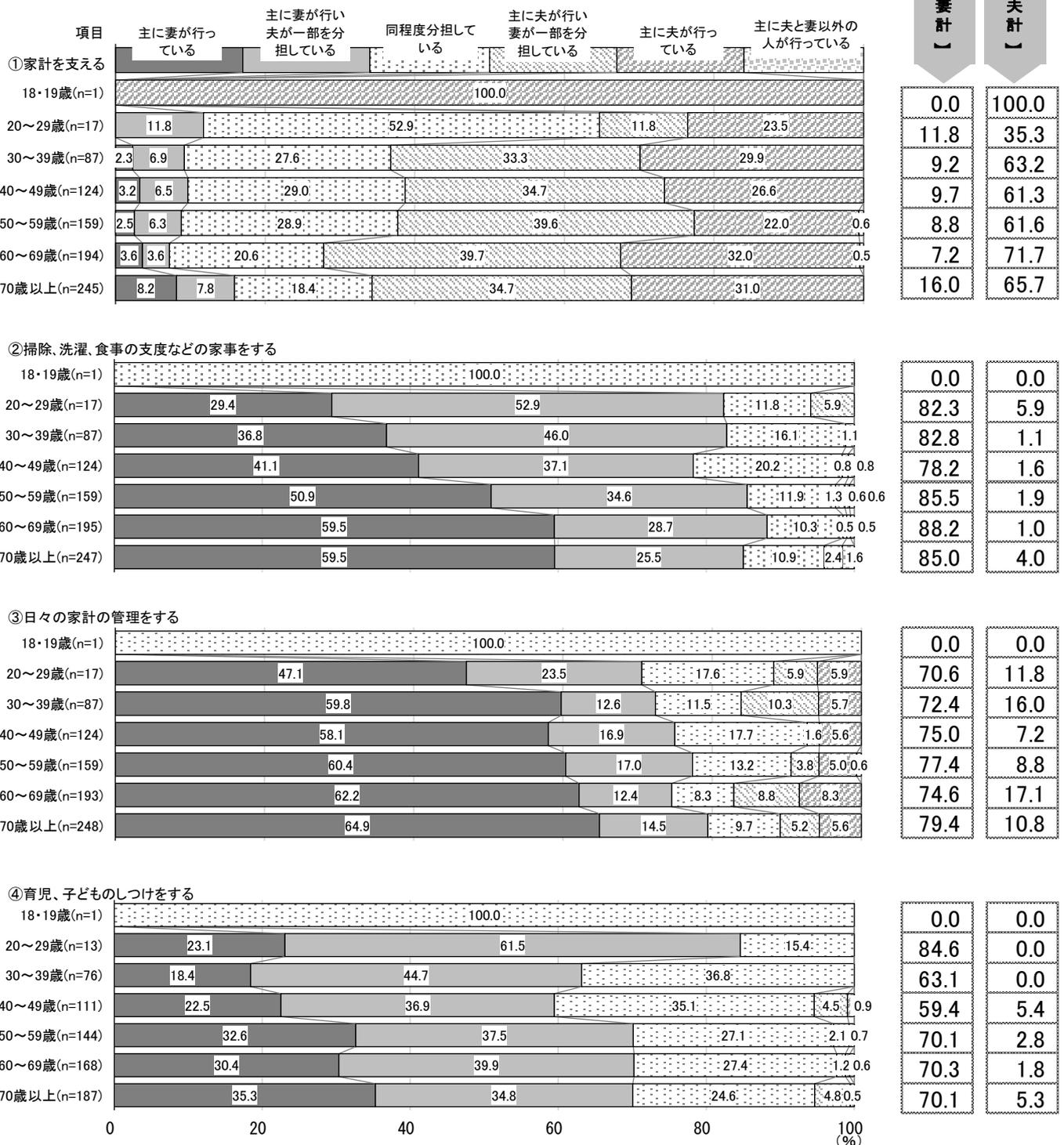
■ 性別でみると、『主に妻計』の男女差は、「地域の行事に参加する」（女性 52.7%、男性 29.6%）が 23.1 ポイントと最も高く、次いで「学校の行事に参加する」（女性 81.6%、男性 63.9%）が 17.7 ポイント、「育児、子どものしつけをする」（女性 75.5%、男性 59.2%）が 16.3 ポイントとなっている。

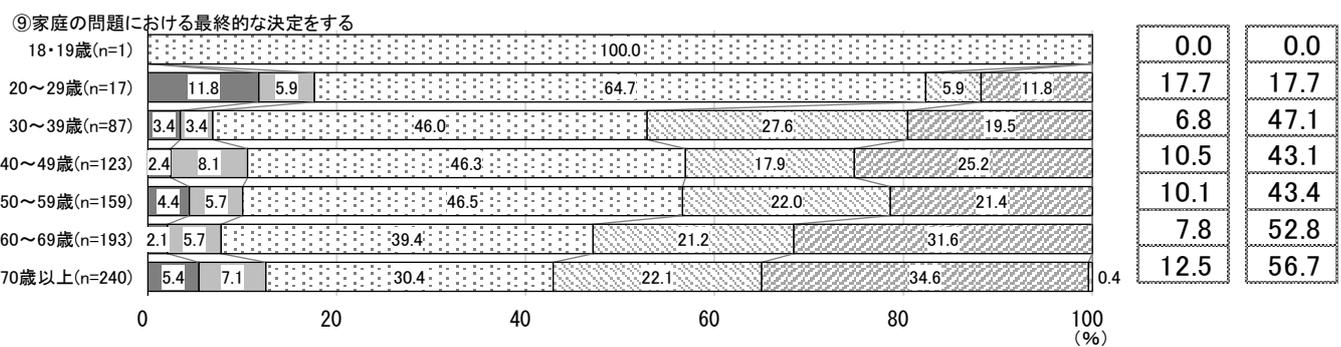
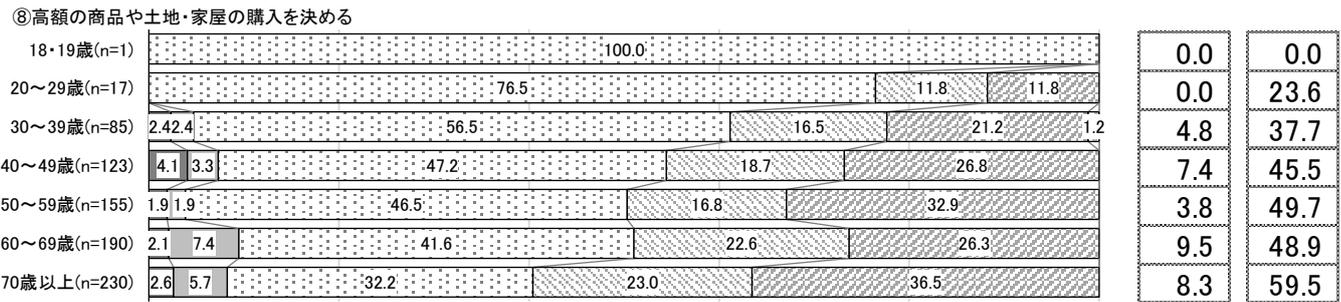
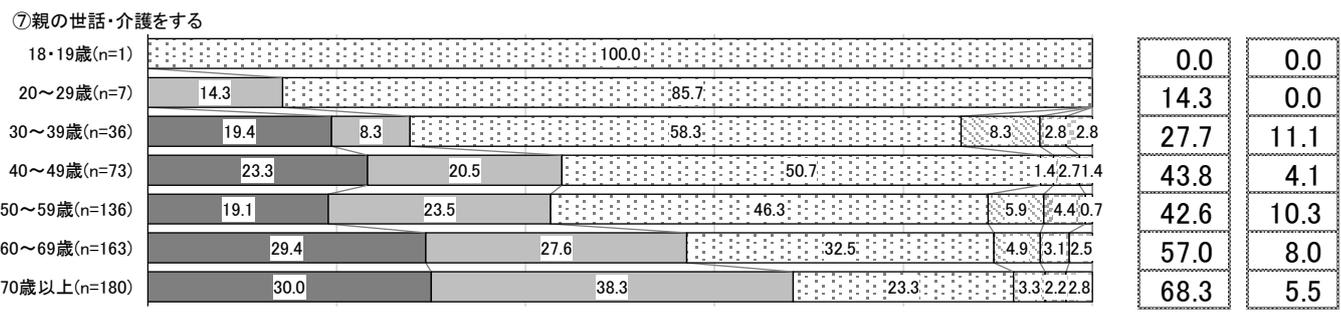
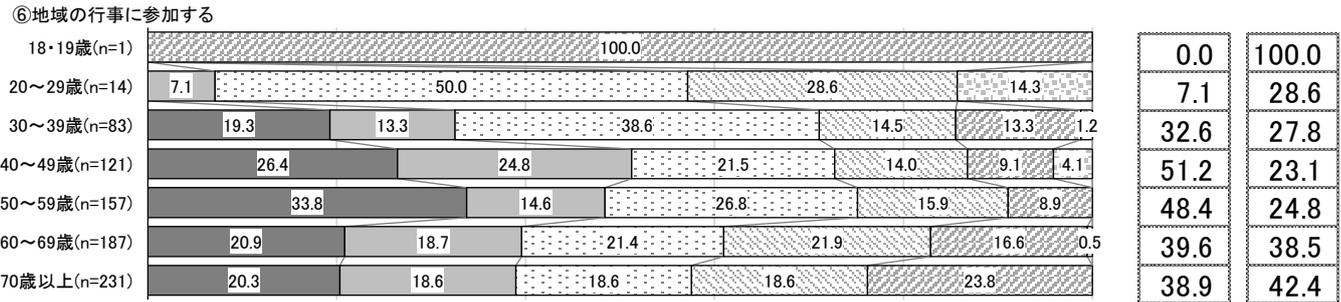
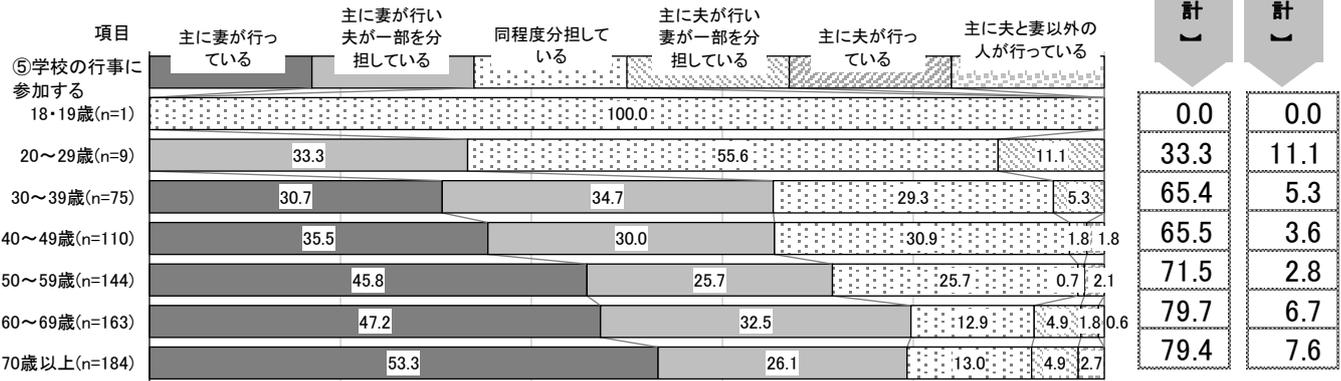
図表 5-2 夫婦の役割分担状況(性別)



- 年代別でみると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」では、全ての年代において『主に妻計』が70%を超えている。
- 「日々の家計の管理をする」、「学校行事に参加する」、「親の世話をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に妻計』が高くなる傾向にあり、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」では、年齢が上がるにつれ、『主に夫計』が高くなる傾向にある。
- 「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」において、全ての年代で『主に妻計』が約80%となっているが、年齢が下がるにつれ、「主に妻が行い 夫が一部を分担している」が高くなっている。

【図表 5-3 夫婦の役割分担状況(年代別)】





■ **結婚している人の就業状況別**でみると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」では妻の就業状況に関わらず『主に妻計』が60%を超えている。

■ 「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」において、「夫のみ就業している」では『主に妻計』が93.8%となっているが、「夫婦とも就業している」では『主に妻計』が82.2%となっている。

下記4設問のクロス集計により(夫婦とも就業している)(夫のみ就業している)(妻のみ就業している)(夫婦とも就業していない)に分けている。

(1) あなたの性別をお聞かせください。(〇は1つだけ)

1 女性	2 男性	3 その他
------	------	-------

(3) あなたの雇用形態についてお尋ねします。(〇は1つだけ)1~6を選択=「就業している」、7~10を選択=「就業していない」

1 自営業主	2 家族従業者	3 会社などの役員	
4 正社員(職員)	5 契約社員(職員)・派遣社員(職員)	6 パート、アルバイト、嘱託	
7 学生	8 家事専業	9 無職	10 その他( )

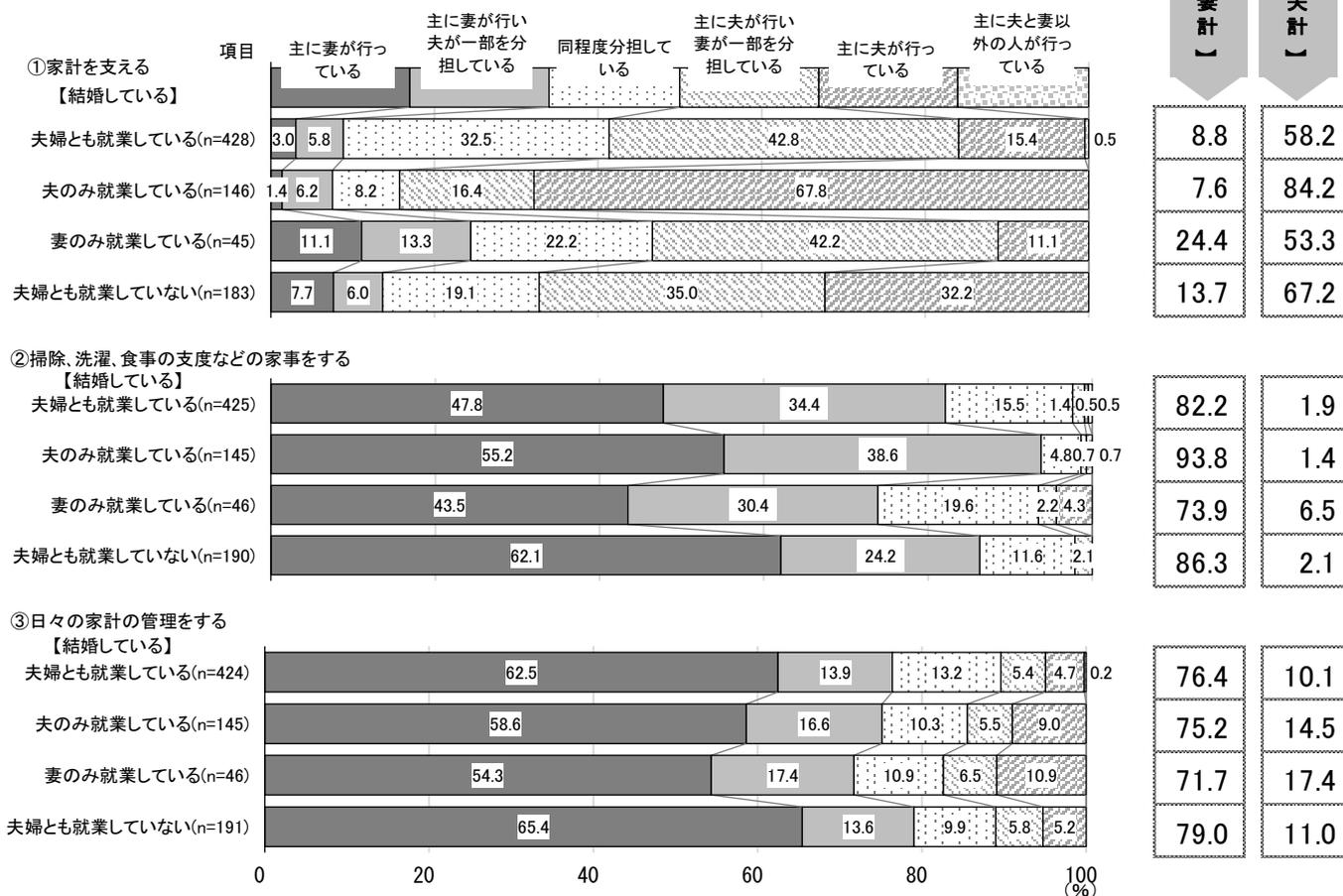
(4) あなたは結婚されていますか。(結婚には、入籍していない事実婚も含みます。)(〇は1つだけ)

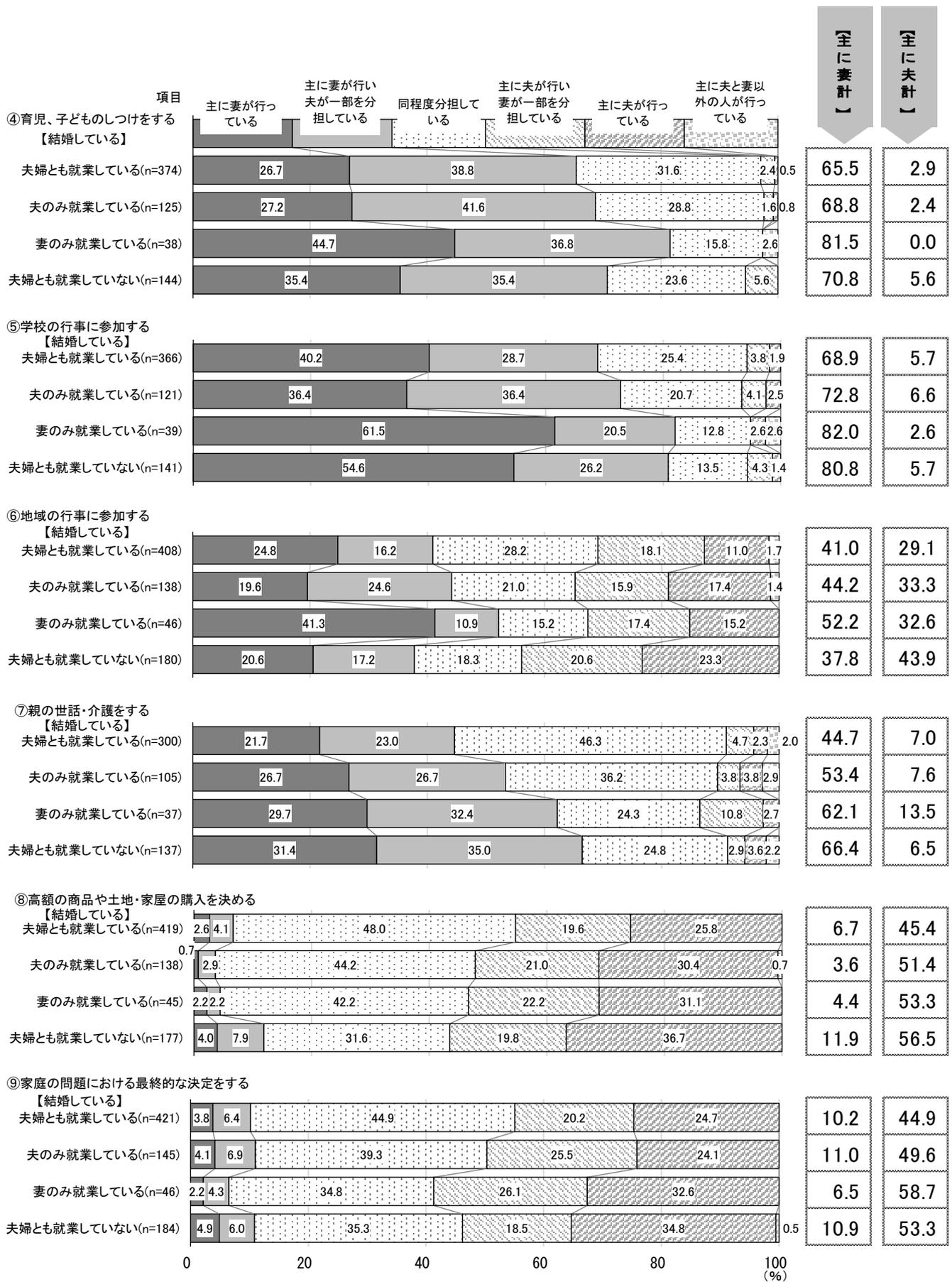
1 結婚している	2 離別・死別した	3 結婚していない
----------	-----------	-----------

(5) あなたの配偶者(パートナー)雇用形態についてお尋ねします。(〇は1つだけ)1~6を選択=「就業している」、7~10を選択=「就業していない」

1 自営業主	2 家族従業者	3 会社などの役員	
4 正社員(職員)	5 契約社員(職員)・派遣社員(職員)	6 パート、アルバイト、嘱託	
7 学生	8 家事専業	9 無職	10 その他( )

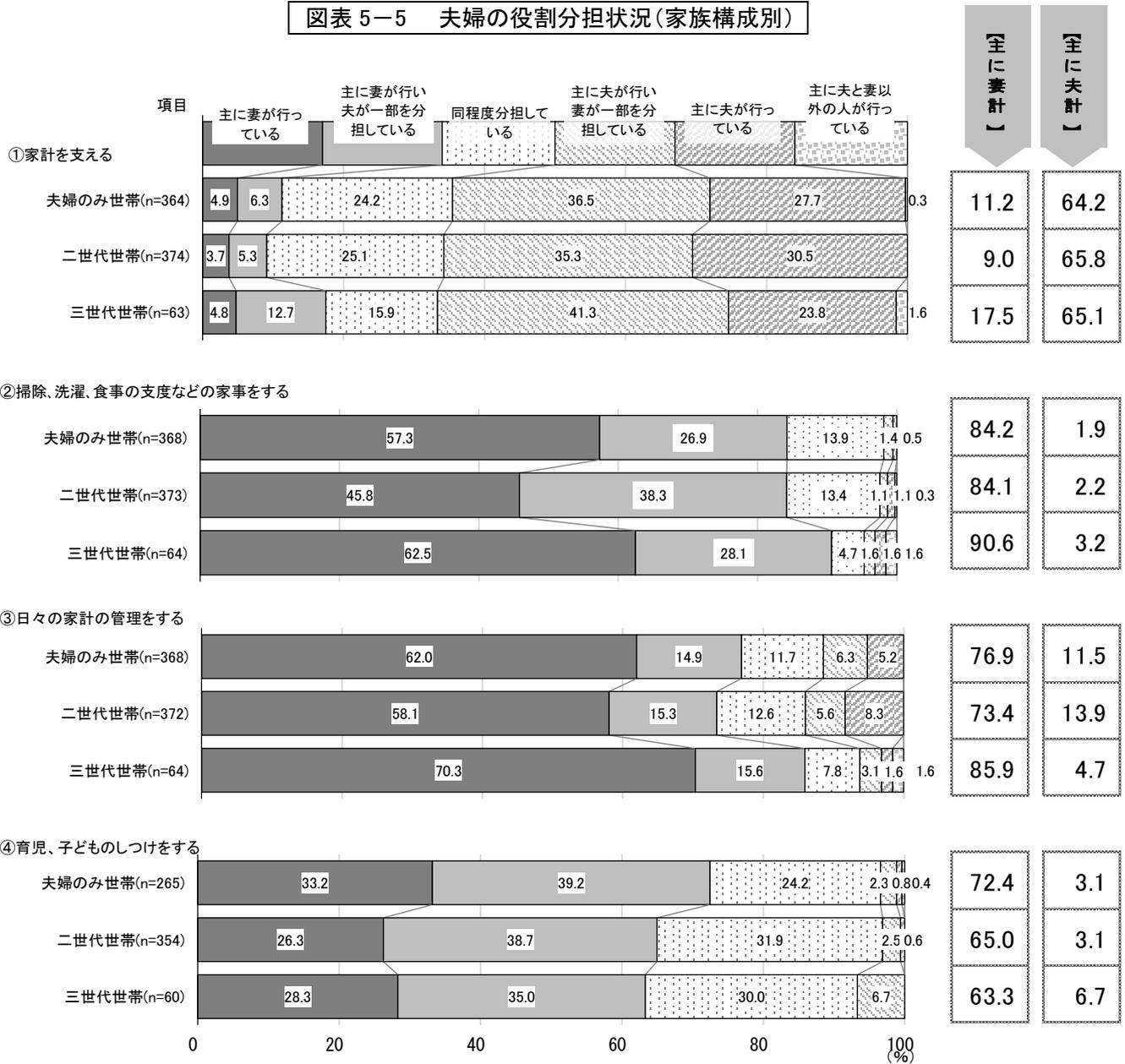
図表 5-4 夫婦の役割分担状況(婚姻状況別)

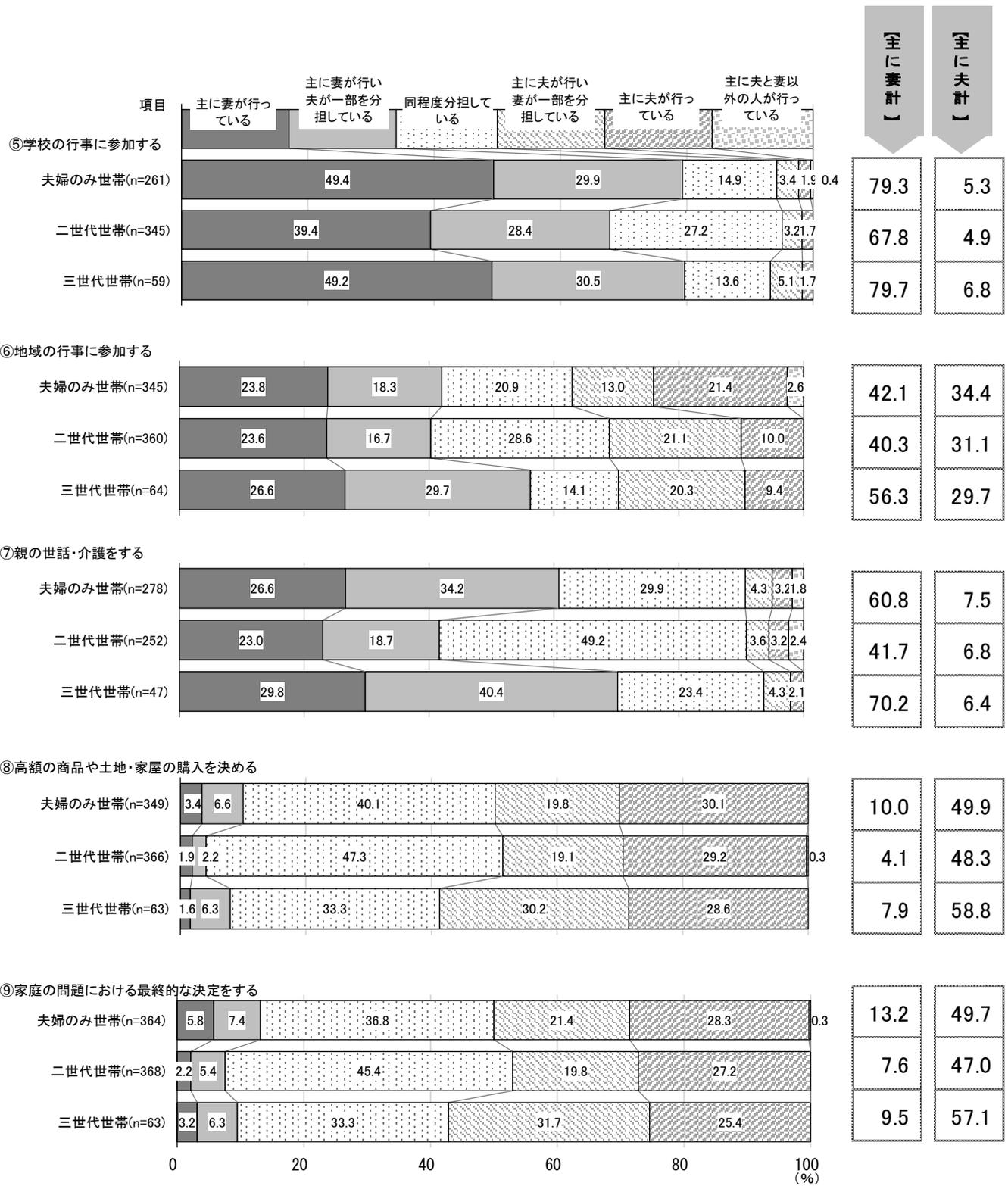




■ 家族構成別でみると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」では家族構成に関わらず『主に妻計』が60%を超えている。

図表 5-5 夫婦の役割分担状況(家族構成別)

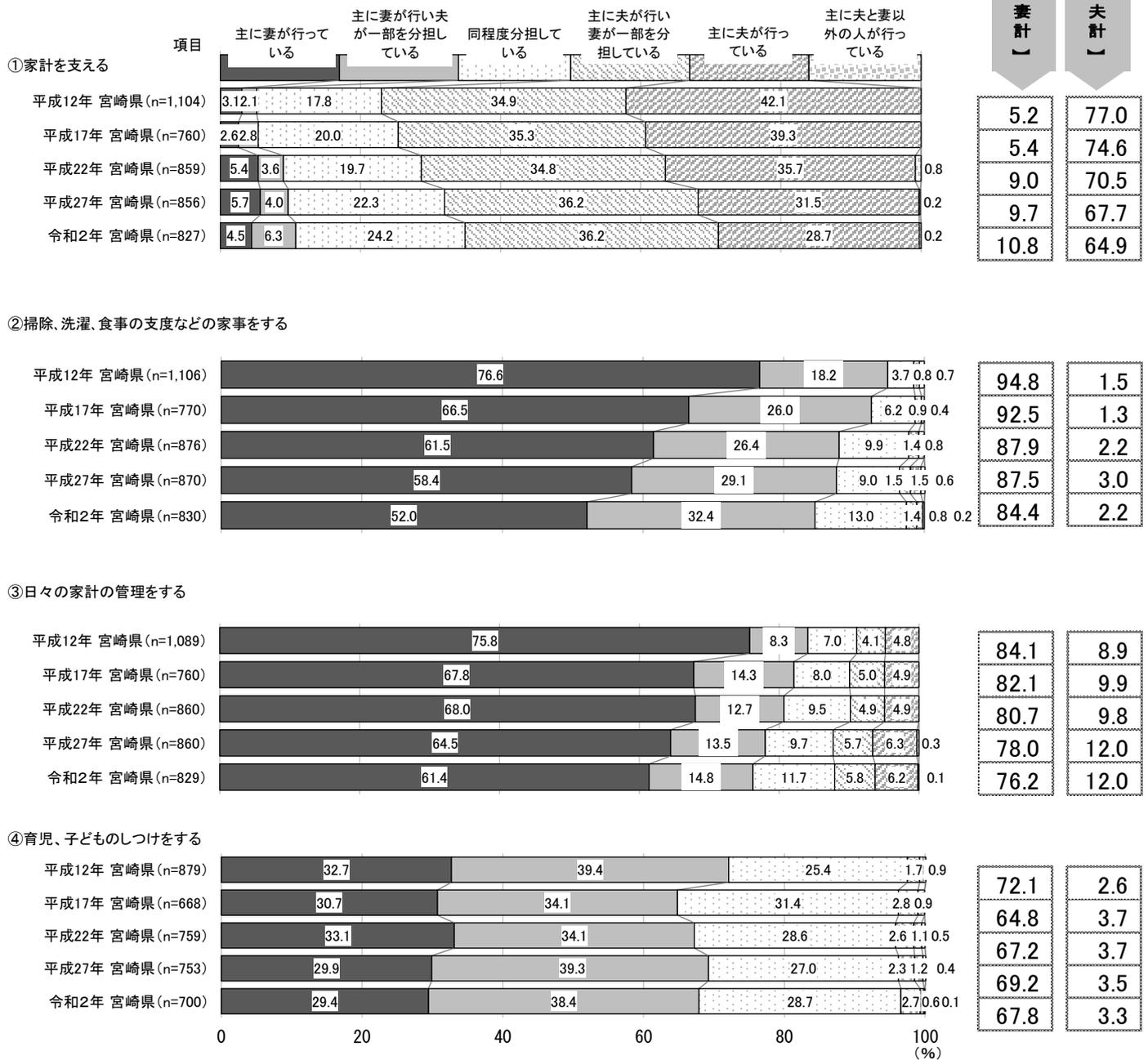


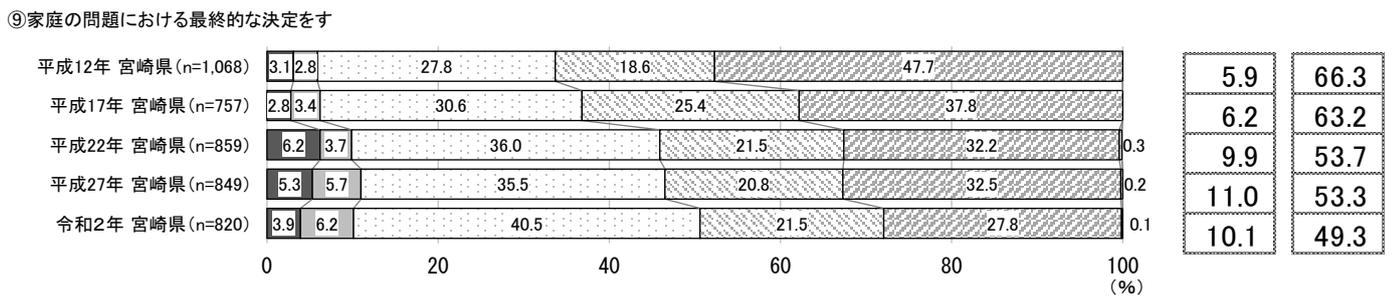
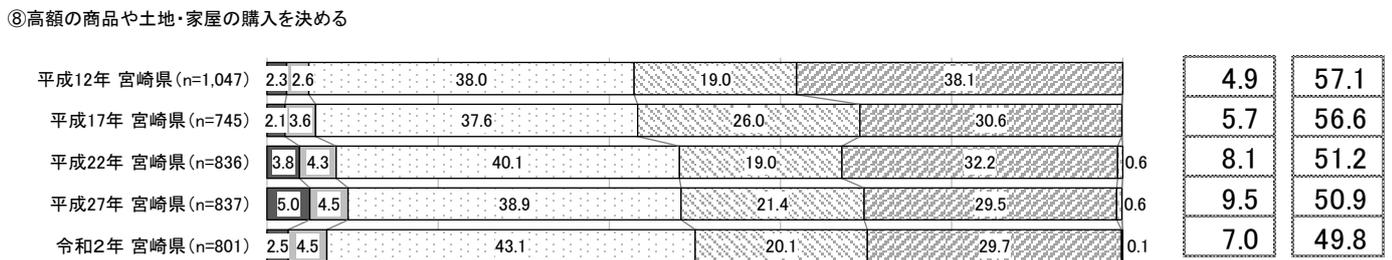
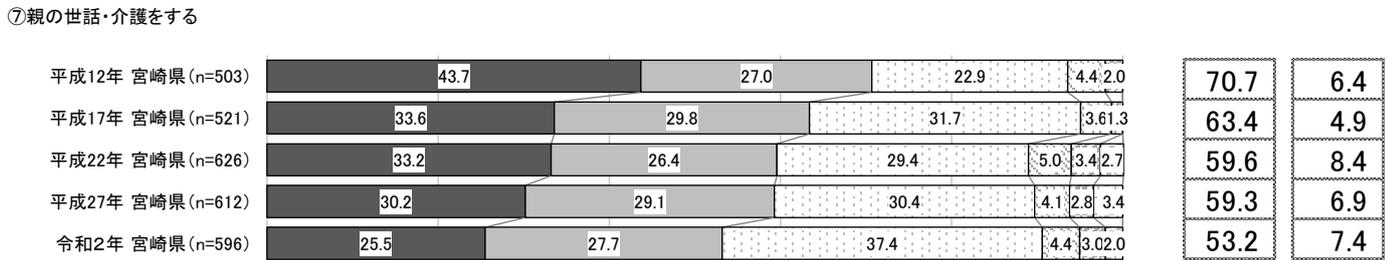
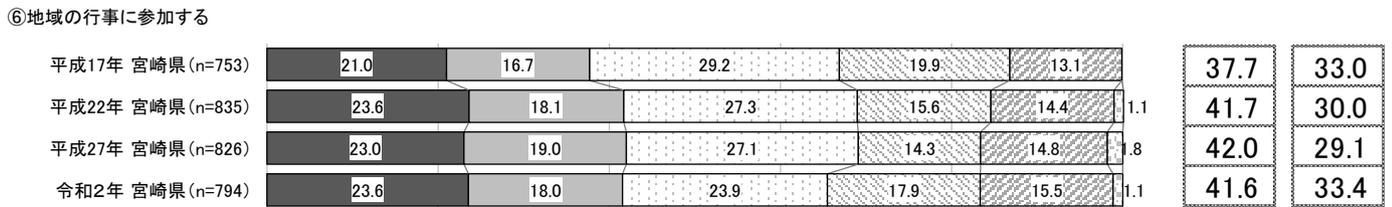
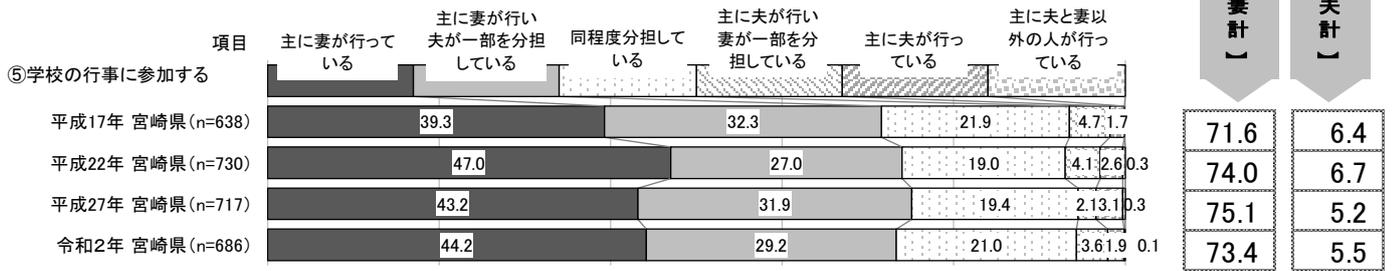


■ **時系列**で比較すると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「親の世話・介護をする」では『主に妻計』が低下し、「家計を支える」、「家庭の問題における最終的な決定をする」では『主に夫計』が低下している。

■ 「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「地域の行事に参加する」では『主に妻計』が変化していない。

図表 5-6 夫婦の役割分担状況(時系列比較)





※ ⑤、⑥は平成12年に該当項目なし

(6) 理想とする家庭生活での夫婦の役割分担

家庭生活での夫婦の役割について、理想としてどのように分担するのがよいとお考えですか。（〇はそれぞれ1つずつ）

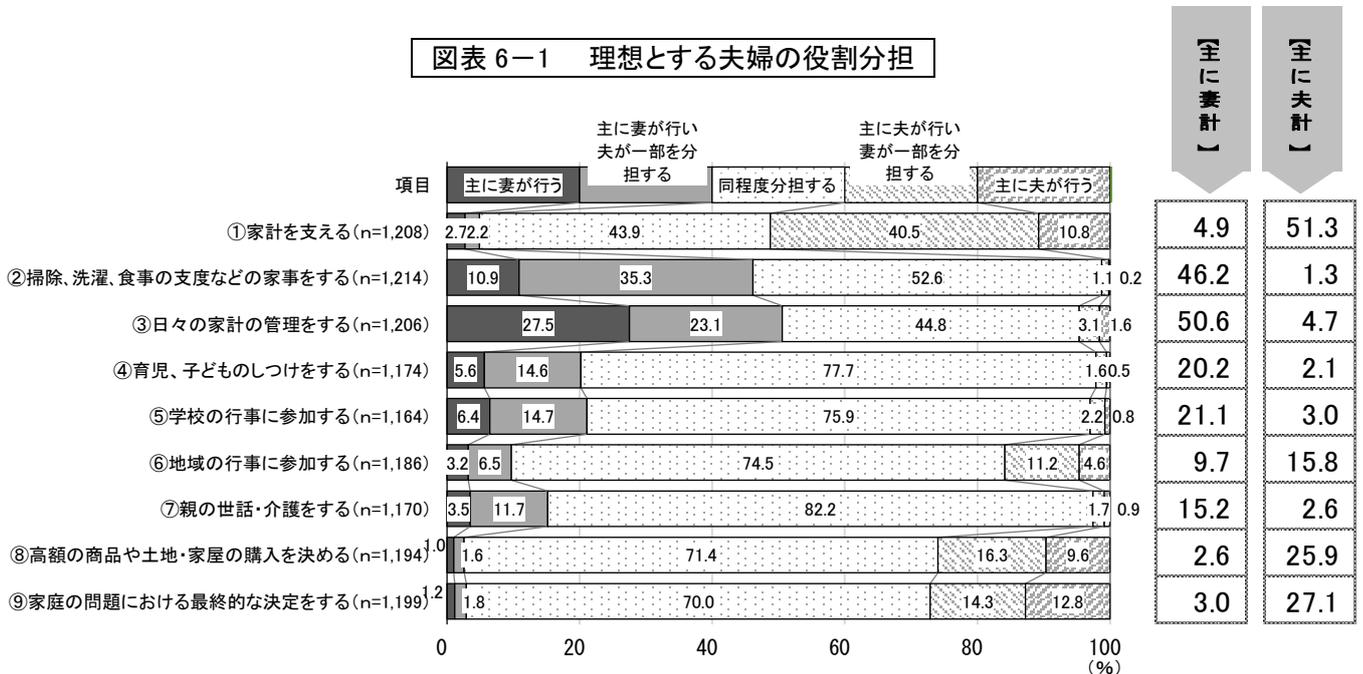
理想とする夫婦の役割分担は、

- 夫婦が同程度分担は「親の世話・介護をする」、「育児、子どものしつけをする」、  
「学校の行事に参加する」
- 主に妻の分担として「日々の家計の管理をする」
- 主に夫の分担として「家計を支える」

全ての設問において、無回答の方を除いて割合を比較している。

- 「同程度分担する」は、「親の世話・介護をする」が 82.2%と最も高く、次いで「育児、子どものしつけをする」が 77.7%、「学校行事に参加する」が 75.9%となっている。
- 「主に妻が行う」は、「日々の家計の管理をする」が 27.5%と最も高く、「主に夫が行う」は、「家庭の問題における最終的な決定をする」が 12.8%と最も高くなっている。

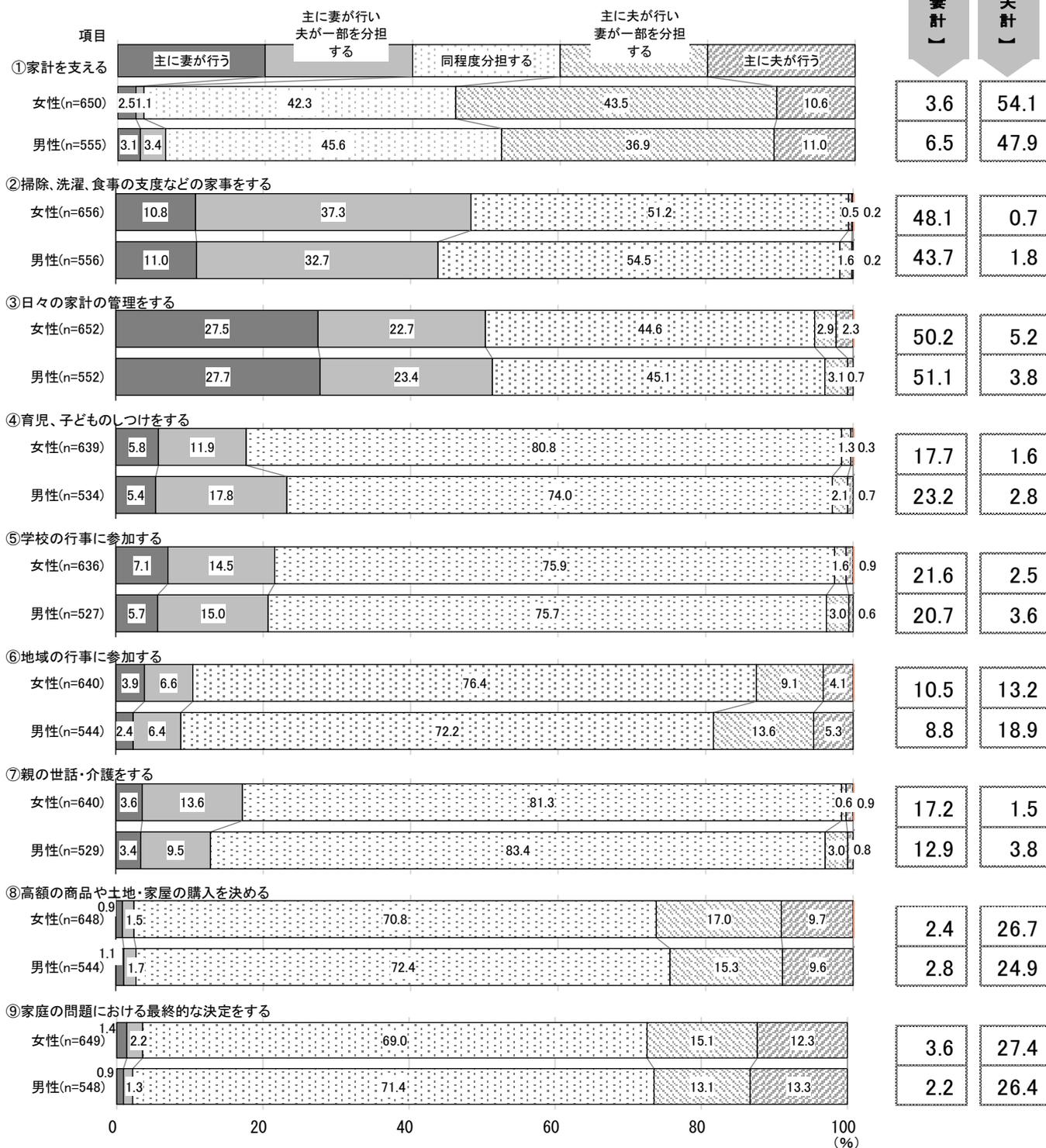
図表 6-1 理想とする夫婦の役割分担



■ 性別でみると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」では男女とも『主に妻計』が40%を超えている。

■ 『主に妻計』の男女差は、「育児、子どものしつけをする」（女性17.7%、男性23.2%）が5.5ポイントと最も高く、『主に夫計』の男女差は、「家計を支える」（女性54.1%、男性47.9%）が6.2ポイントと最も高くなっている。

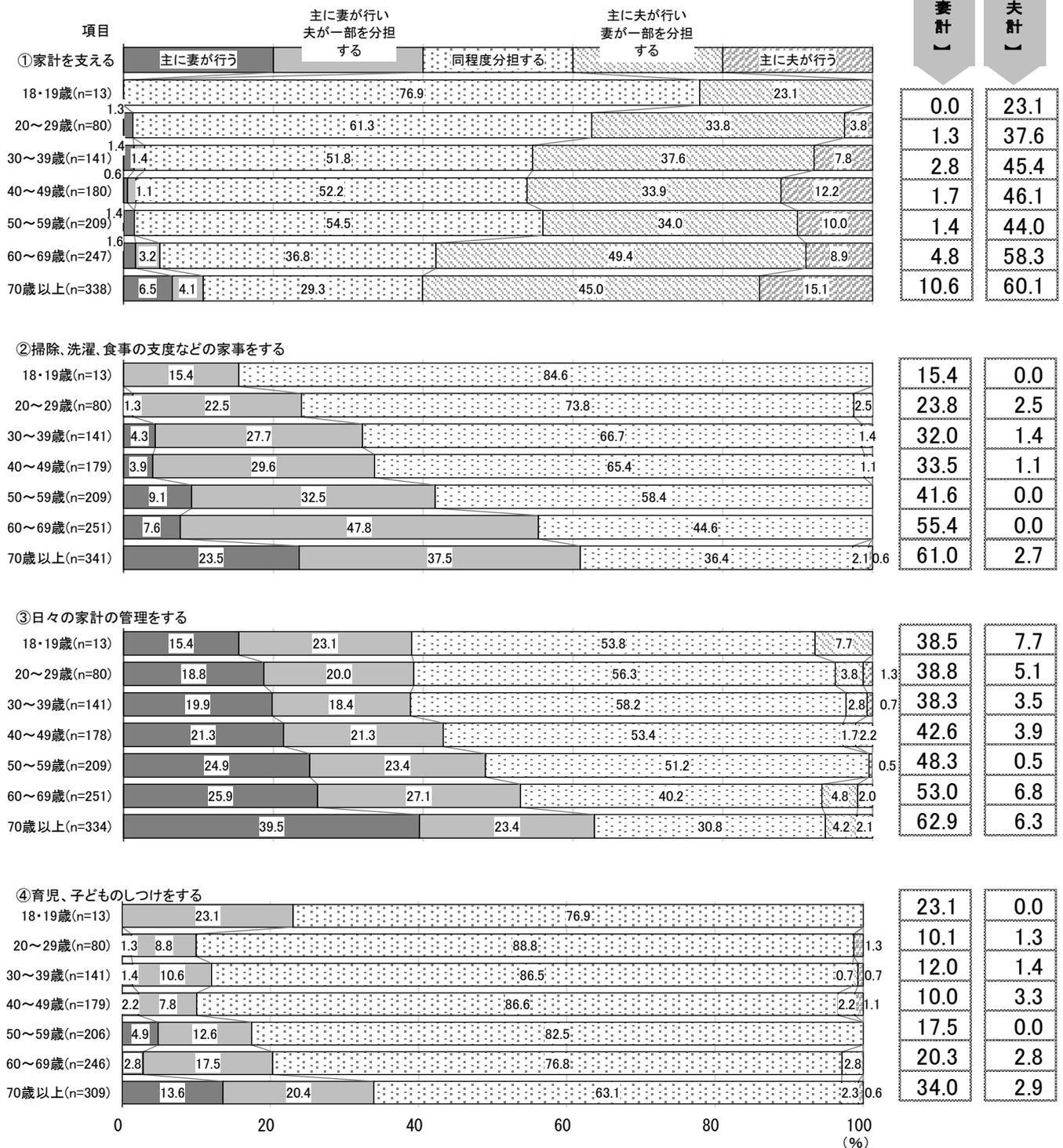
図表 6-2 理想とする夫婦の役割分担(性別)

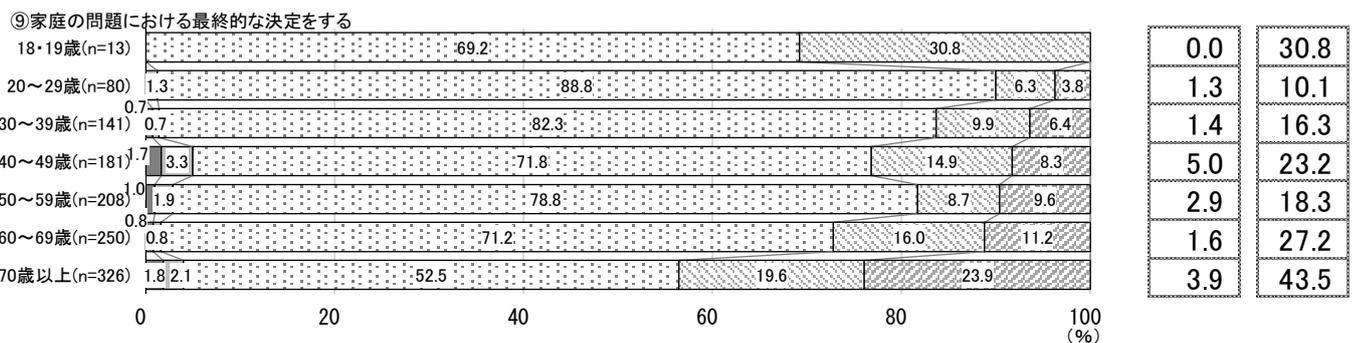
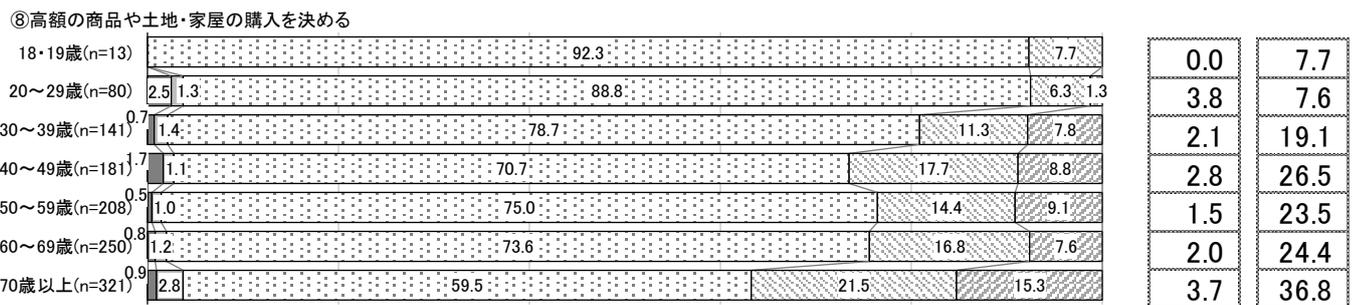
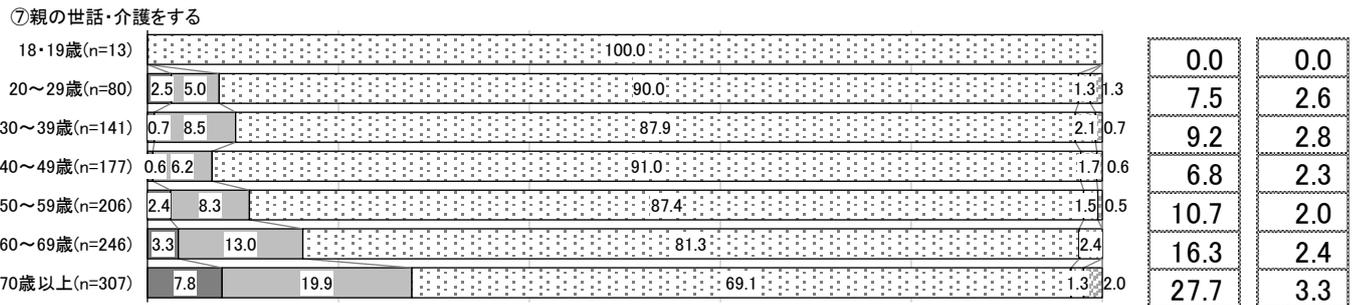
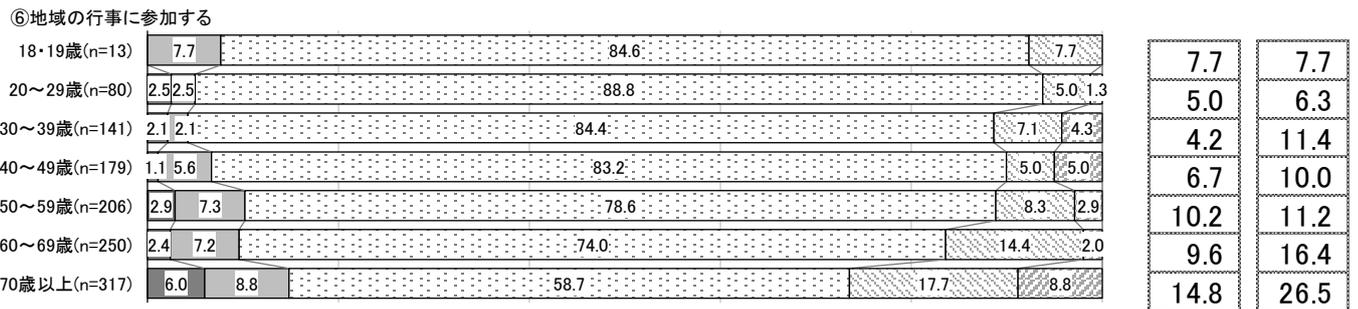
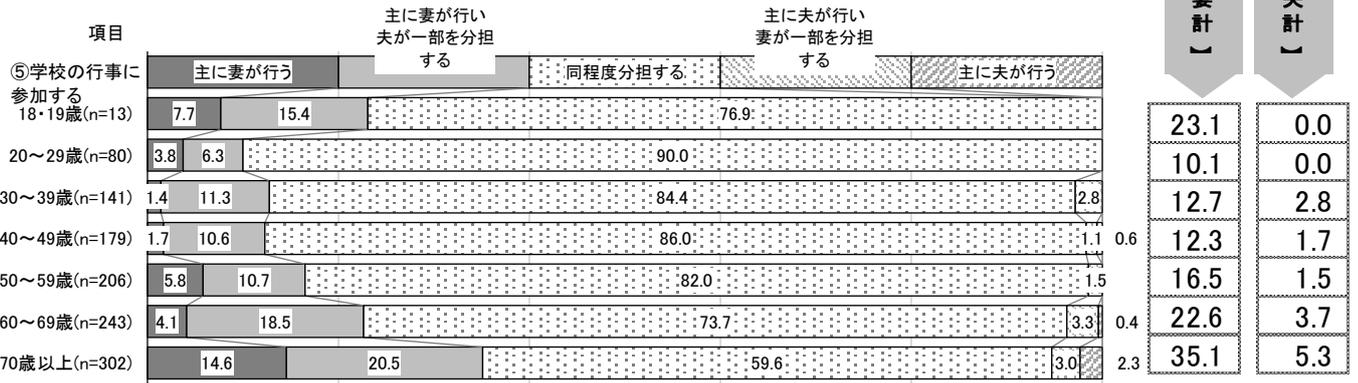


■ 年代別でみると、「日々の家計の管理をする」では、全ての年代において『主に妻計』が30%を超えている。

■ 「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「親の世話をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に妻計』が高くなる傾向にあり、「家計を支える」、「地域の行事に参加する」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「家庭の問題における最終的な決定をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に夫計』が高くなる傾向にある。

図表 6-3 理想とする夫婦の役割分担(年代別)

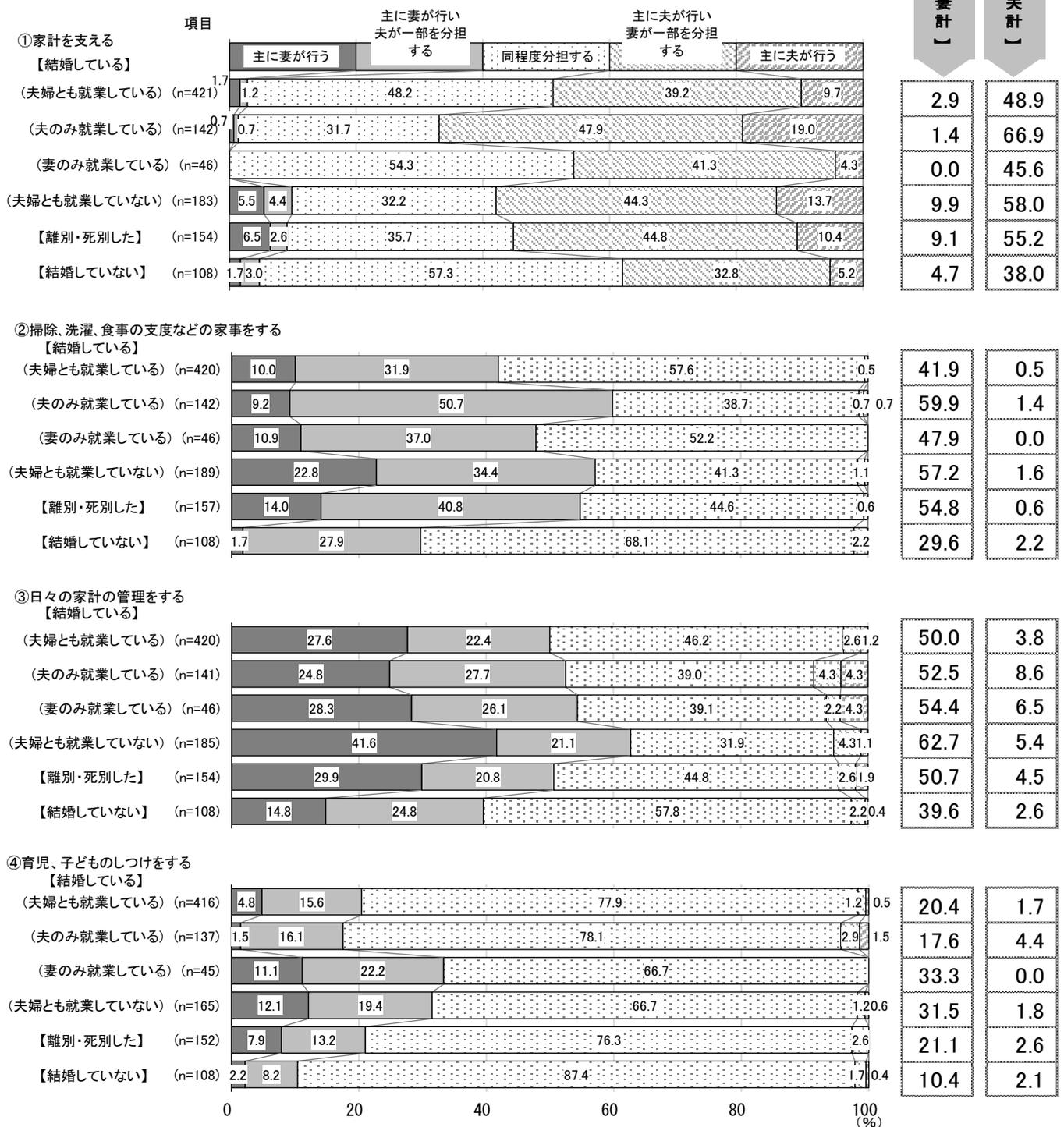


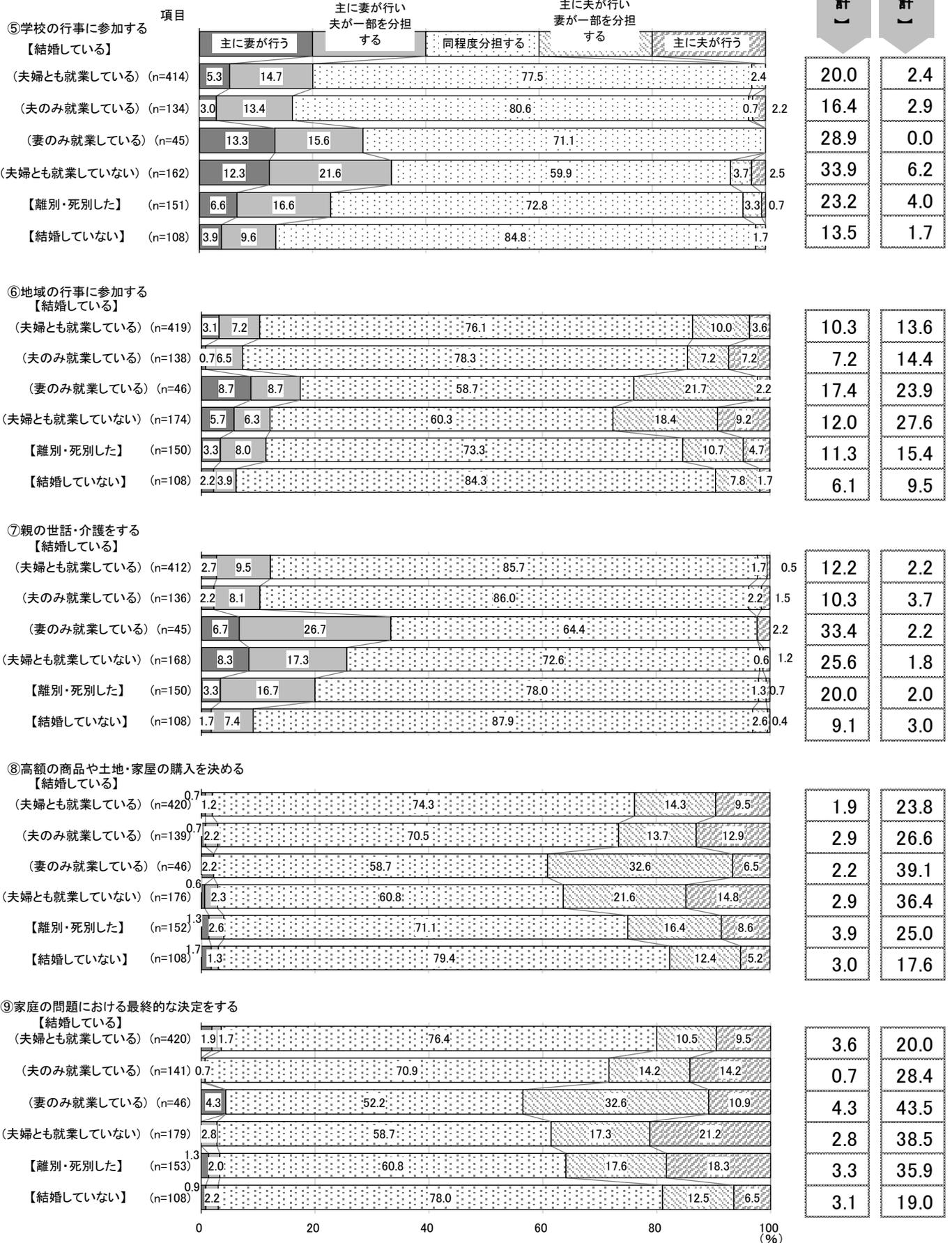


■ 婚姻状況別でみると、「育児、子どものしつけをする」、「親の世話・介護をする」、では婚姻状況に関わらず「同程度分担する」と回答した人の割合が60%を超えている。

■ 「夫婦ともに就業している」と「夫のみ就業している」における『主に妻計』の割合差は、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」（夫婦ともに就業している41.9%、夫のみ就業している59.9%）で18.0ポイントと最も高くなっている。

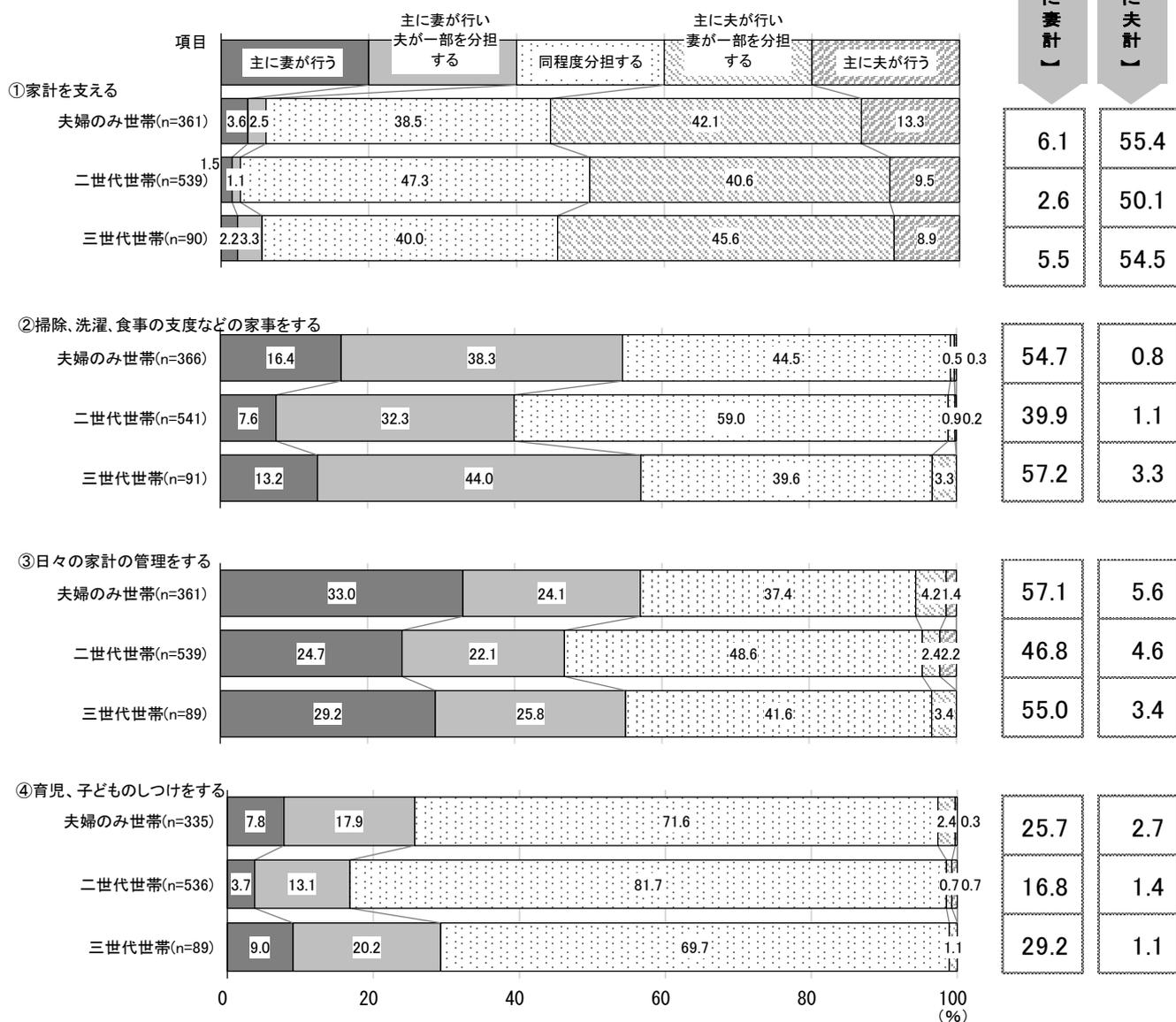
図表 6-4 理想とする夫婦の役割分担(婚姻状況別)

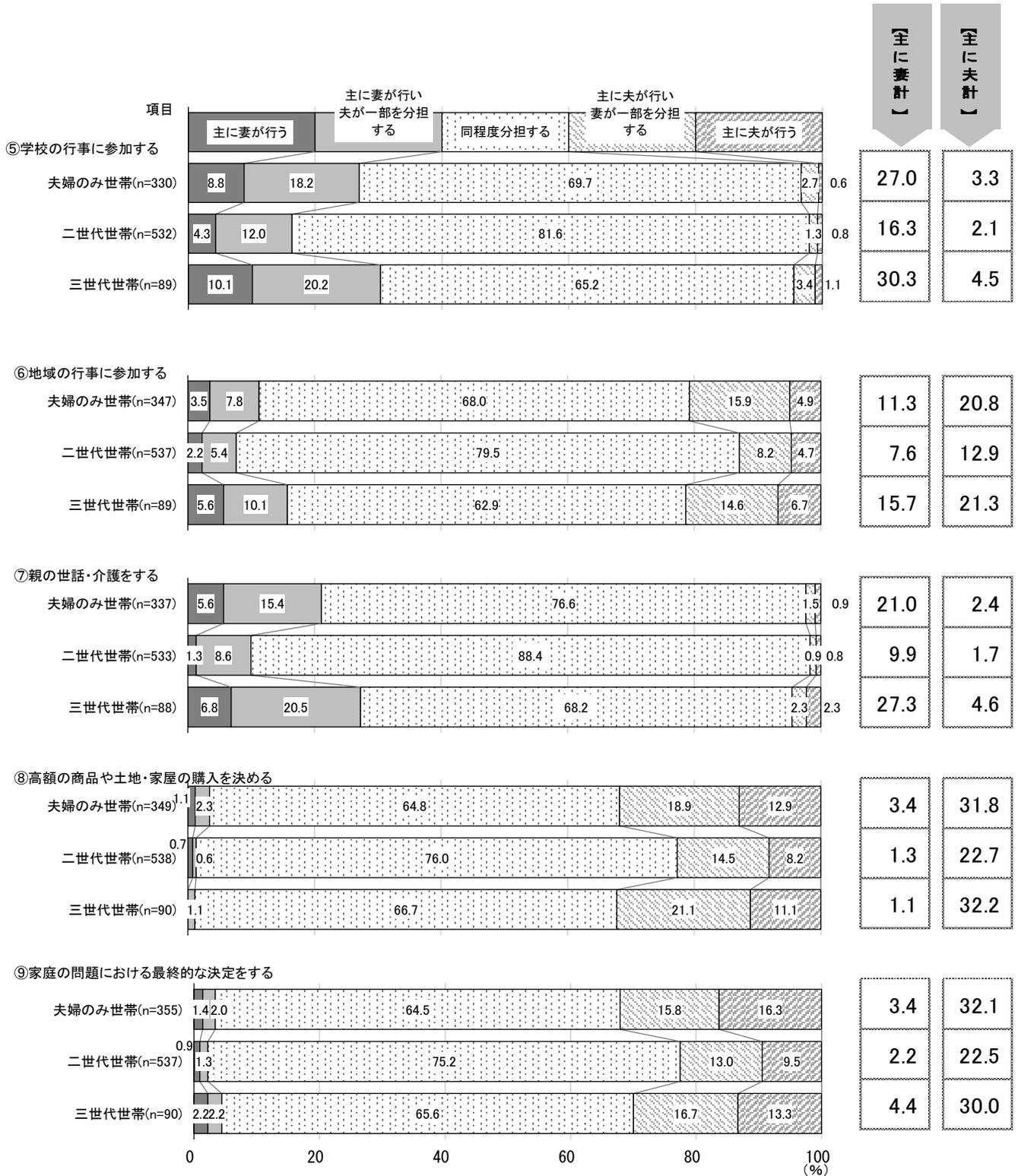




■ 家族構成別でみると、「日々の家計の管理をする」では家族構成に関わらず『主に妻計』が40%を超えている。

図表 6-5 理想とする夫婦の役割分担(家族構成別)

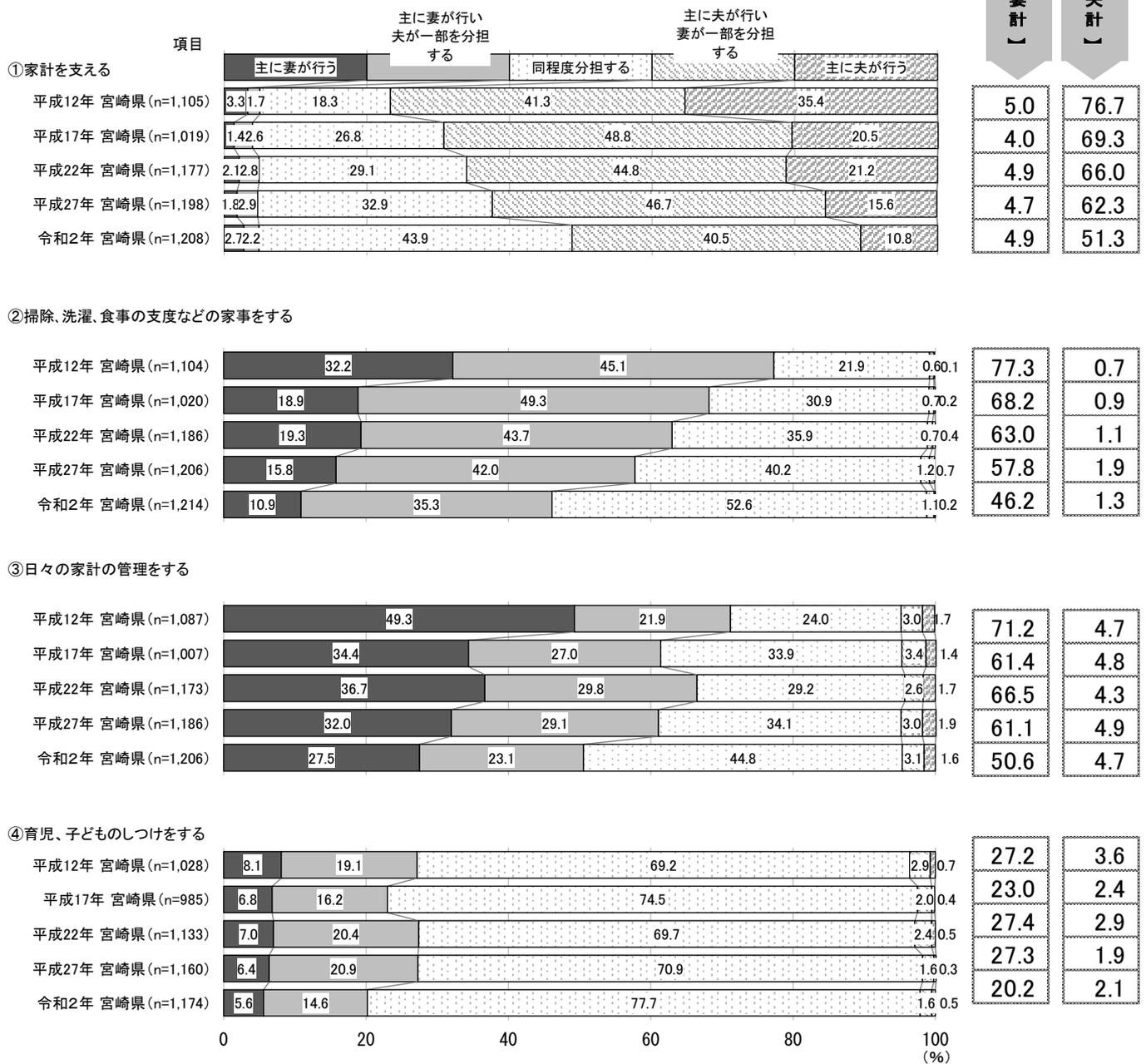


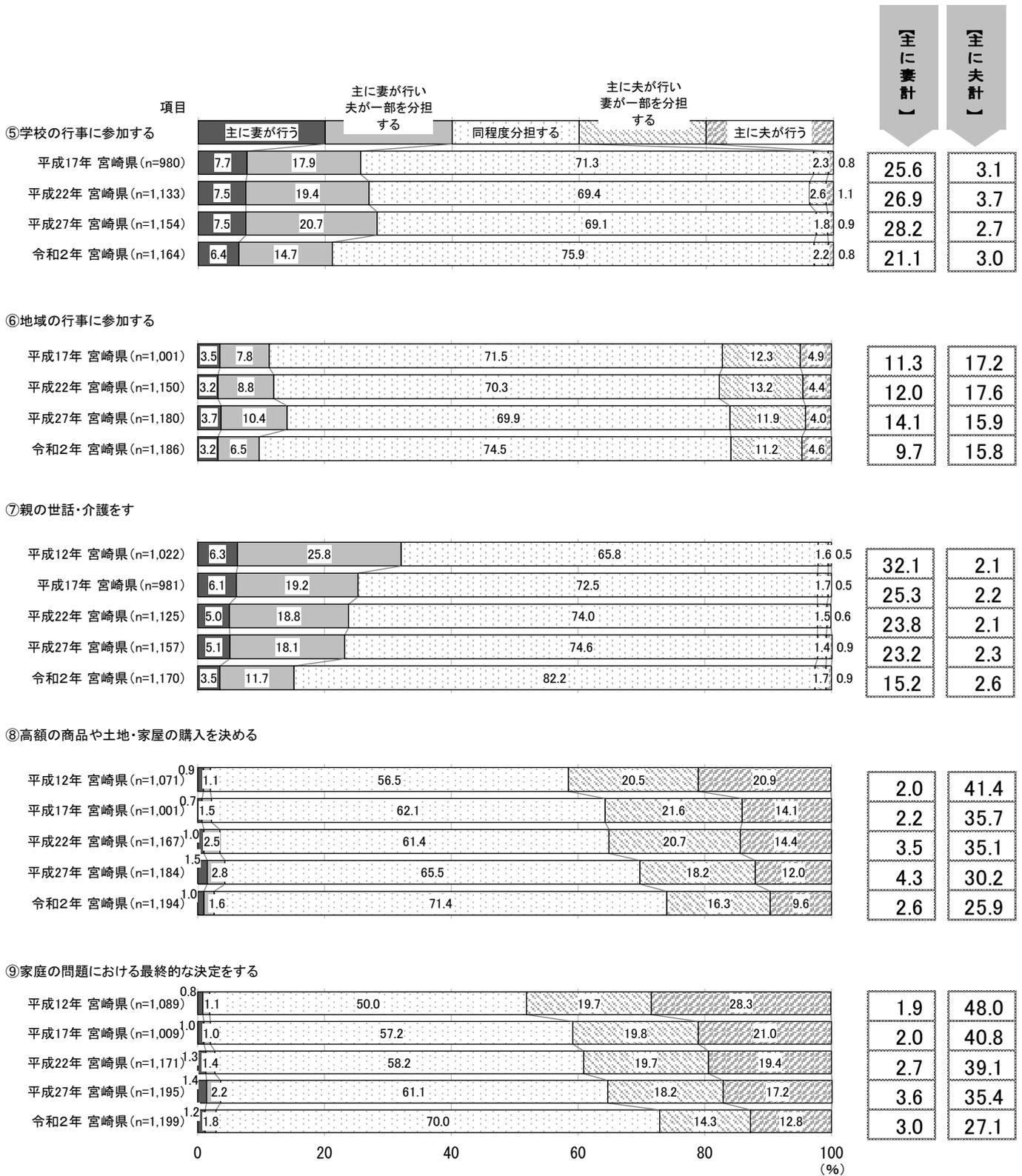


■ **時系列**で比較すると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「親の世話・介護をする」では『主に妻計』が低下傾向にあり、「家計を支える」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「家庭の問題における最終的な決定をする」では『主に夫計』が低下している。

■ 全ての項目において、「同程度分担する」は今回の調査が最も高くなっている。

図表 6-6 理想とする夫婦の役割分担(時系列比較)





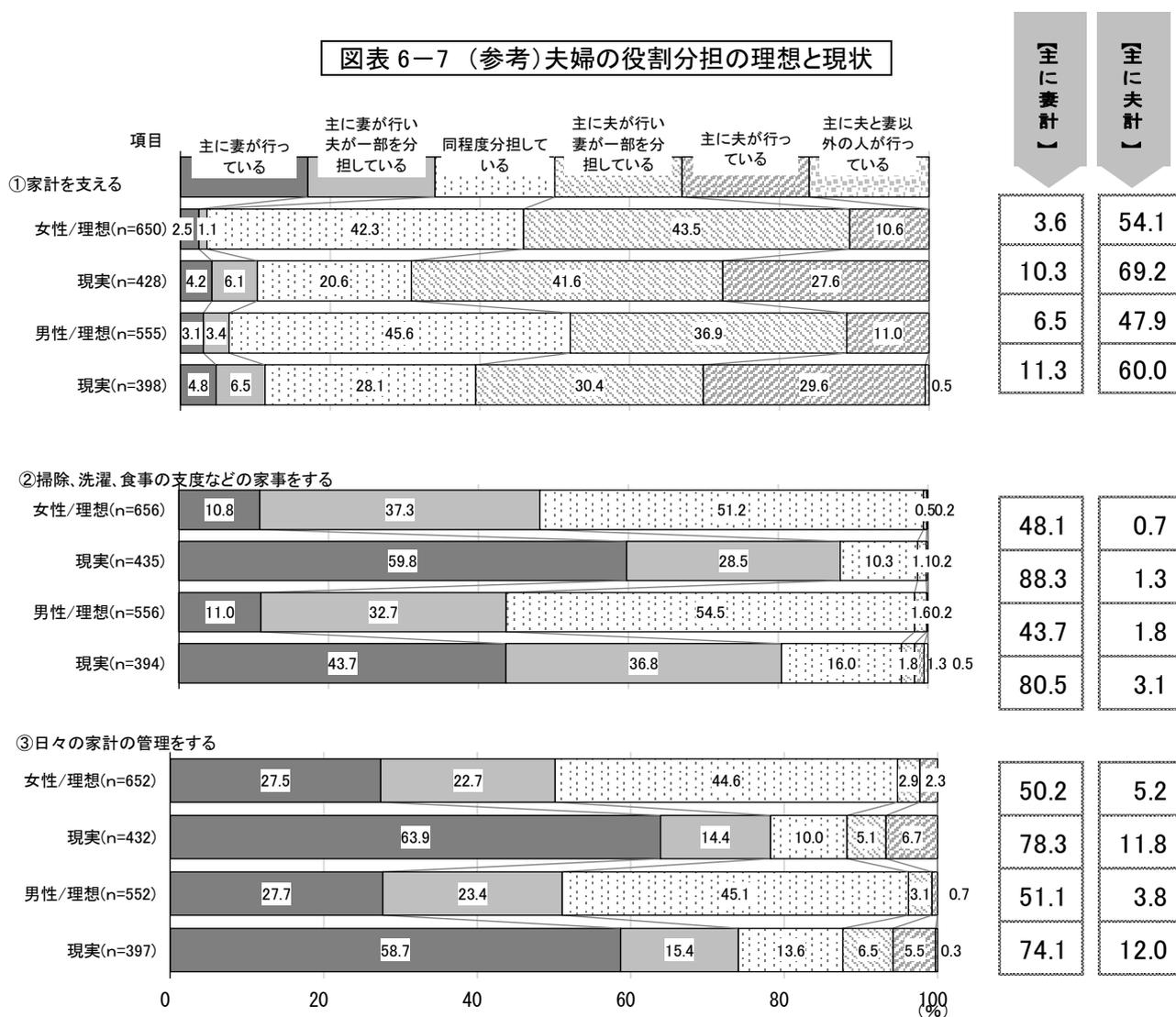
※ ⑤、⑥は平成12年に該当項目なし

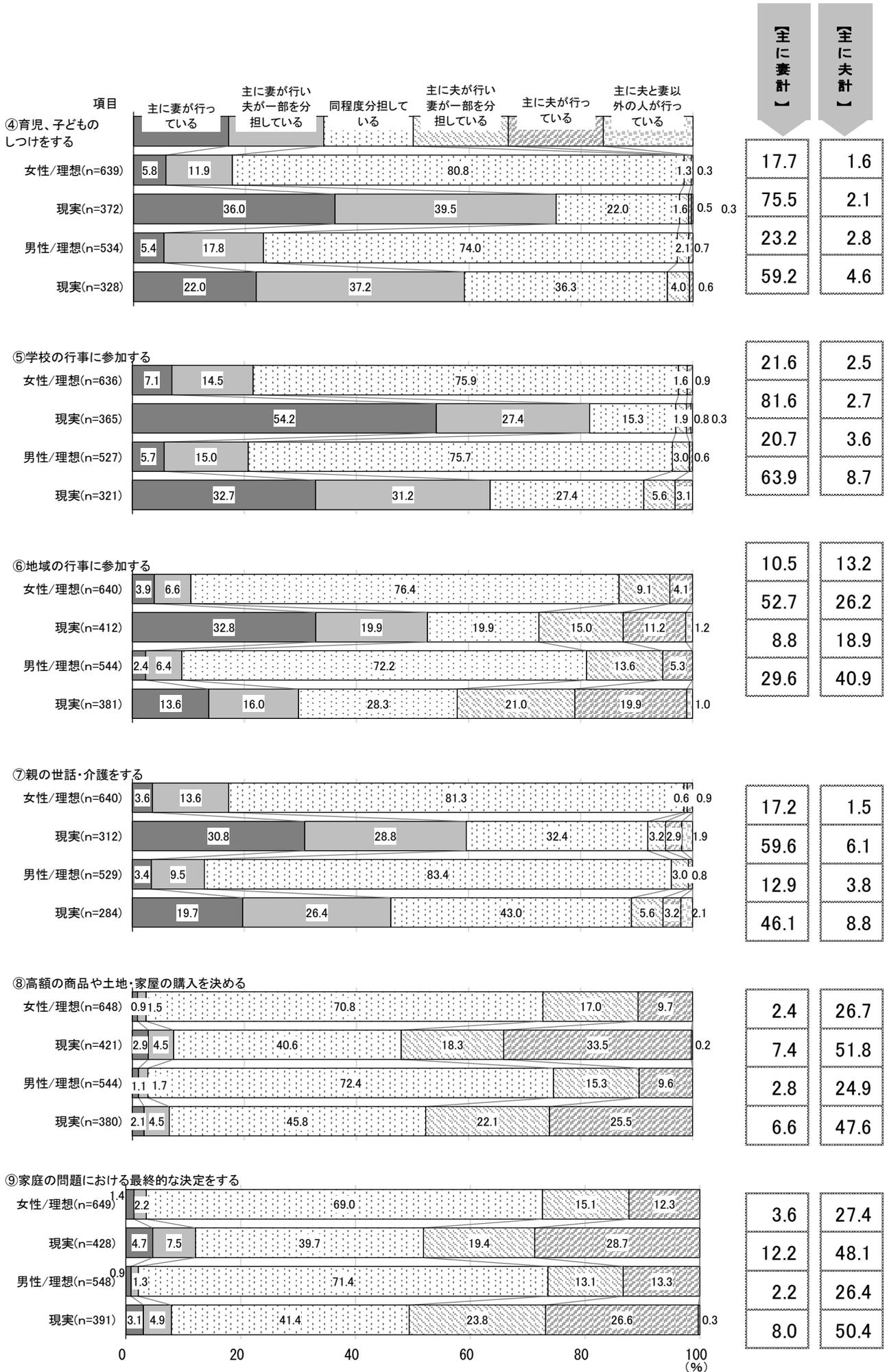
(参考) 家庭生活での夫婦の役割分担の理想と現状

「同程度分担している」の理想と現実の割合差は、  
男女ともに「学校の行事に参加する」が最も大きい

■ 「同程度分担している」の理想と現実の割合差は、女性では「学校の行事に参加する」(理想 75.9%、現実 15.3%) が 60.6 ポイントと最も高く、次いで「育児、子どものしつけをする」(理想 80.8%、現実 22.0%) が 58.8 ポイントとなっている。男性では「学校の行事に参加する」(理想 75.7%、現実 27.4%) が 48.3 ポイントと最も高く、次いで「地域の行事に参加する」(理想 72.2%、現実 28.3%) が 43.9 ポイントとなっている。

図表 6-7 (参考) 夫婦の役割分担の理想と現状





(7) 子どものしつけや教育について

あなたは次の①～③にあげるような子どものしつけや教育について、どのようにお考えですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

子どものしつけや教育については、

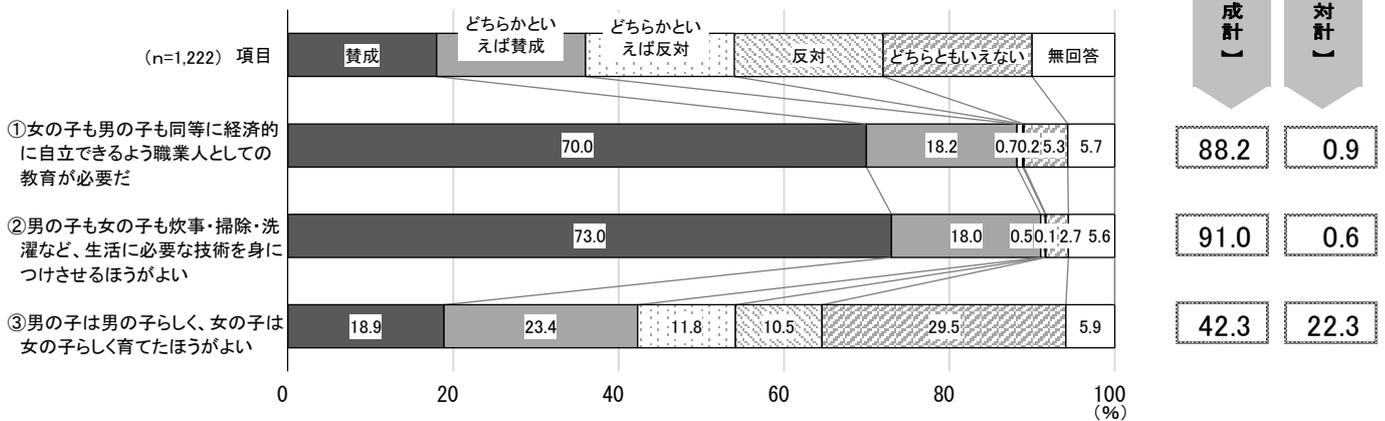
「男女とも同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育」、

「男女ともに家事などの生活に必要な技術を身に付けさせる」は賛成がほぼ9割

「男の子らしく、女の子らしく育てる」ことについては賛成が4割強、反対が2割強

- 「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」、「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」では、『賛成計』は約90%となっている。
- 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」では、『賛成計』は42.3%、『反対計』は22.3%となっている。

図表 7-1 子供のしつけや教育

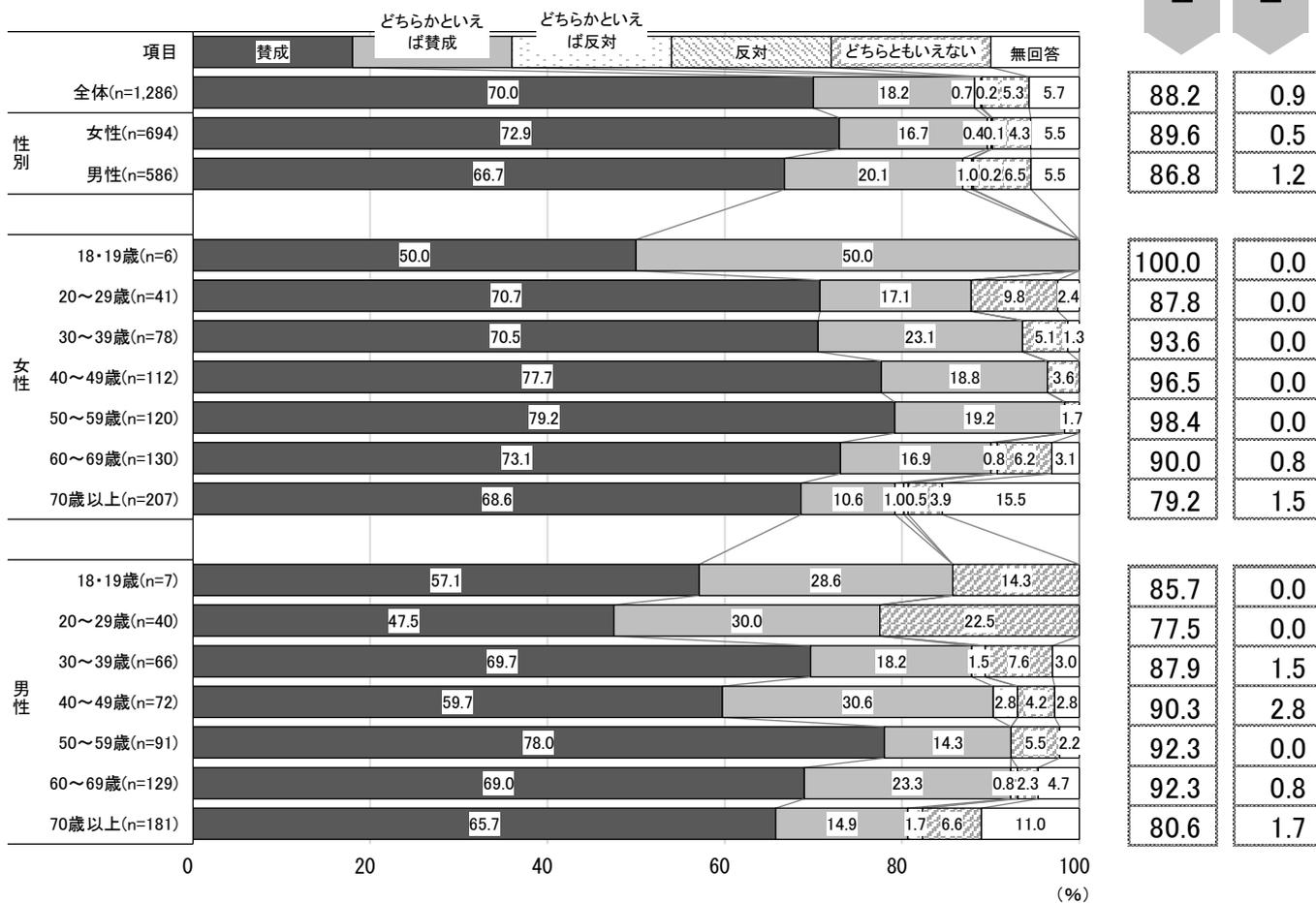


① 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

～『賛成派』が女性も男性も9割弱

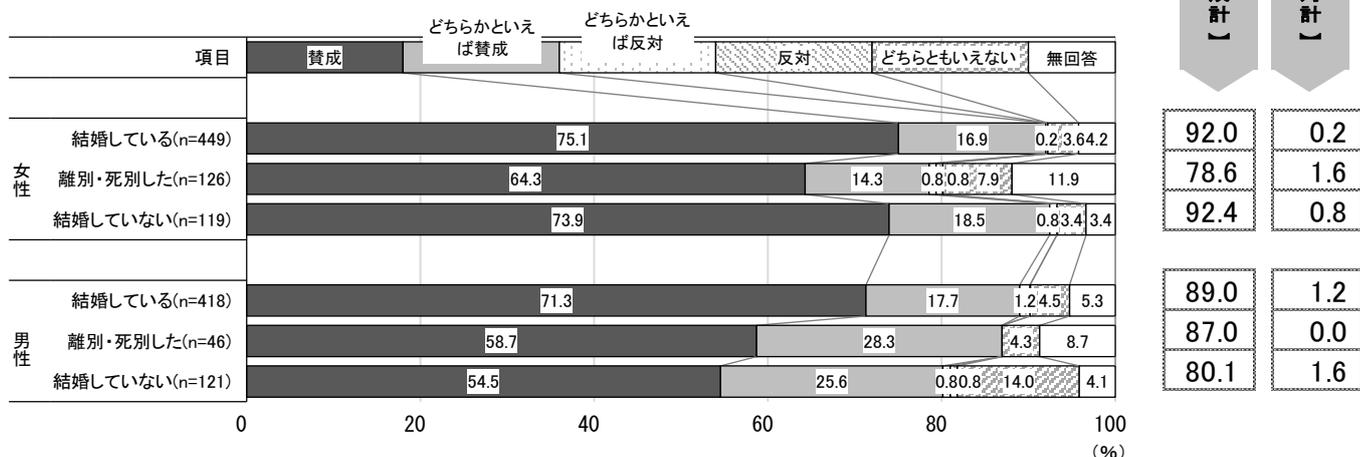
- 全体では、『賛成派』が88.2%となっている。
- 性別で見ると、『賛成派』は、女性が89.6%、男性が86.8%となっており、女性の方が2.8ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、30代から60代女性、40代から60代男性で『賛成派』が90%を超えている。

図表 7-①-1 職業人としての教育が必要(性別・年代別)



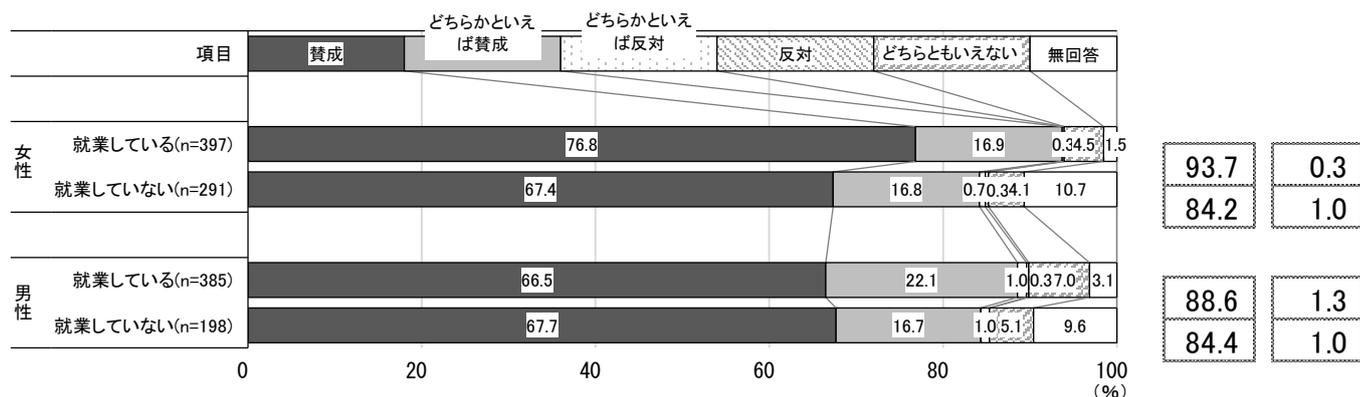
- **性別・婚姻状況別**で見ると、男女とも『賛成計』は婚姻状況にかかわらず高くなっており、『反対計』は1%前後となっている。

図表 7-①-2 職業人としての教育が必要(性別・婚姻状況別)



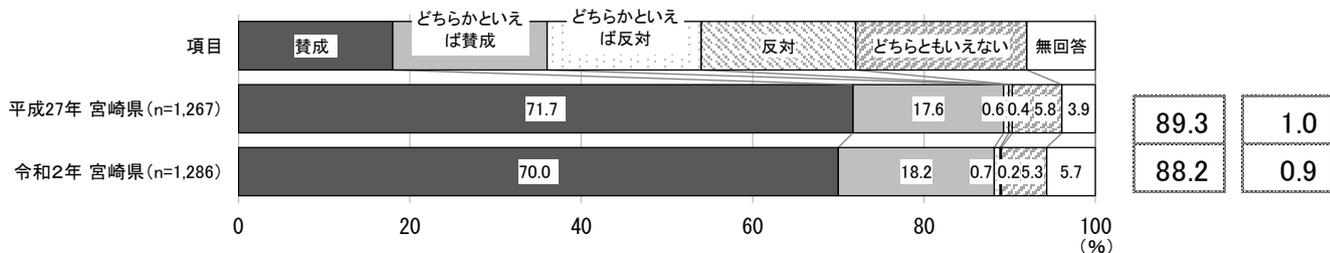
- **性別・就業状況別**で見ると、『賛成計』は、就業している人(女性 93.7%、男性 88.6%)が就業していない人(女性 84.2%、男性 84.4%)より男女とも高くなっている。

図表 7-①-3 職業人としての教育が必要(性別・就業状況別)



- **時系列**で比較すると、平成 27 年調査では『賛成計』は 89.3%、『反対計』は 1.0%となっており、今回調査とほぼ変わらない。

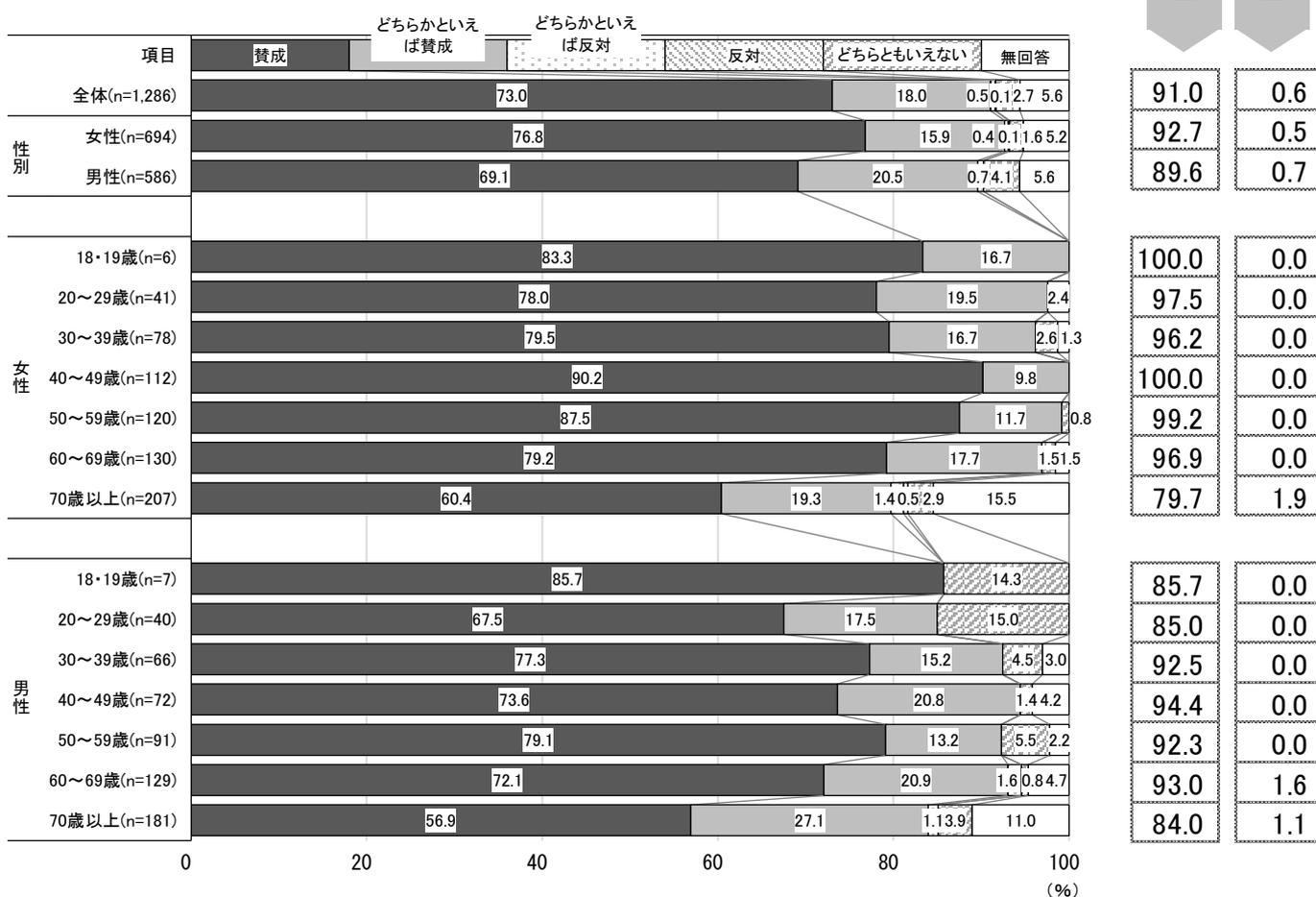
図表 7-①-4 職業人としての教育が必要(時系列比較)



② 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい  
 ~『賛成派』が女性では9割強、男性では9割弱

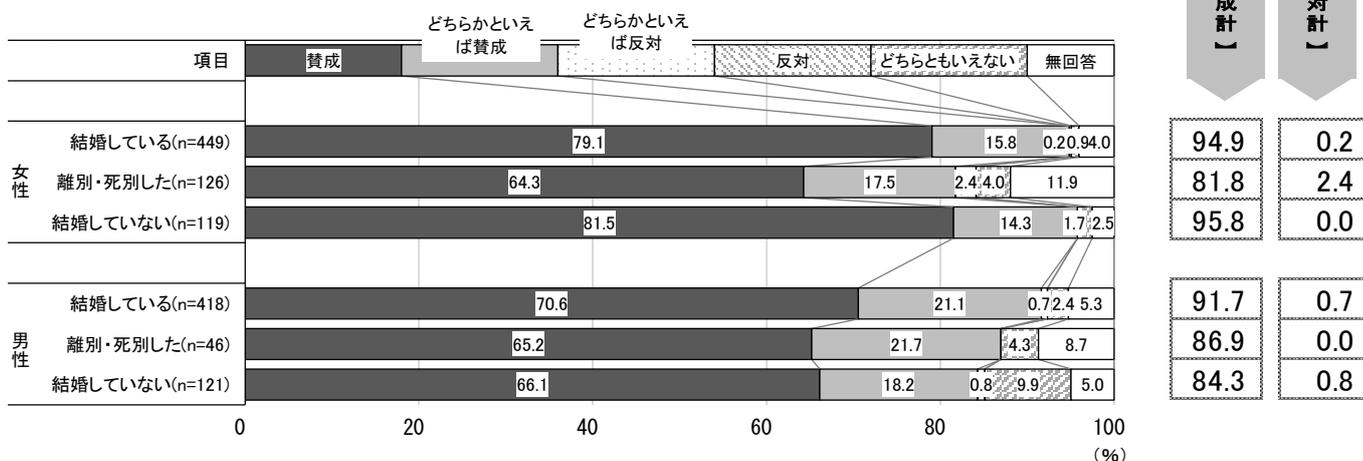
- 全体では、『賛成計』が91.0%となっている。
- 性別で見ると、『賛成計』は、女性が92.7%、男性が89.6%となっており、女性の方が3.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から60代女性、30代から60代男性で『賛成計』が90%を超えている。

図表 7-②-1 生活に必要な技術を身につけさせる(性別・年代別)



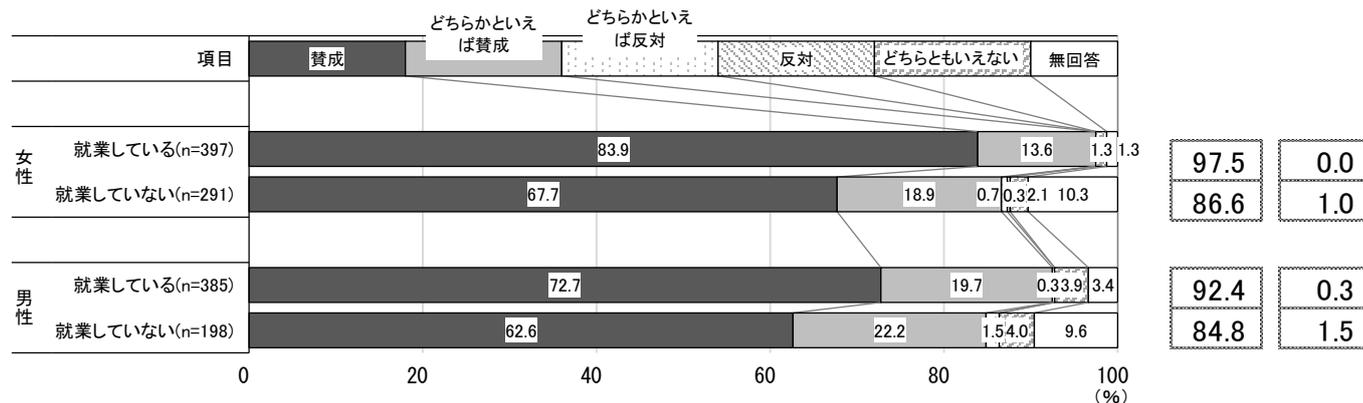
■ 性別・婚姻状況別でみると、男女とも『賛成計』は婚姻状況にかかわらず高くなっており、『反対計』は1～2%程度となっている。

図表 7-②-2 生活に必要な技術を身につけさせる(性別・婚姻状況別)



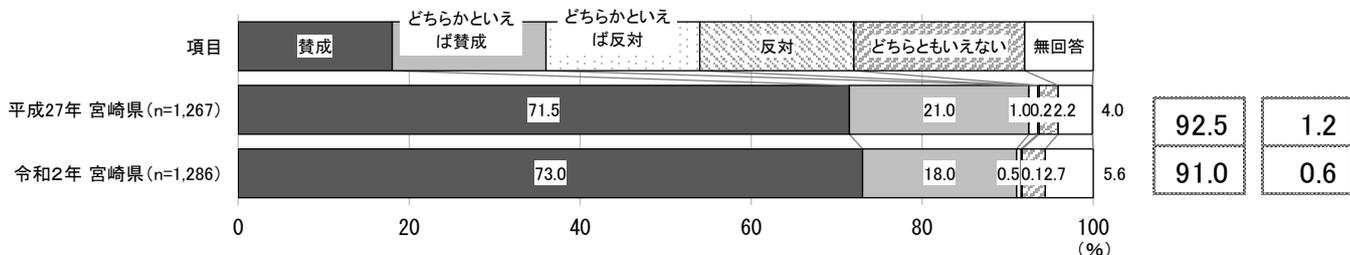
■ 性別・就業状況別でみると、『賛成計』は、就業している人(女性 97.5%、男性 92.4%)が就業していない人(女性 86.6%、男性 84.8%)より男女とも高くなっている。

図表 7-②-3 生活に必要な技術を身につけさせる(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、平成 27 年調査では『賛成計』は 92.5%、『反対計』は 1.2%となっており、今回調査とほぼ変わらない。

図表 7-②-4 生活に必要な技術を身につけさせる(時系列比較)

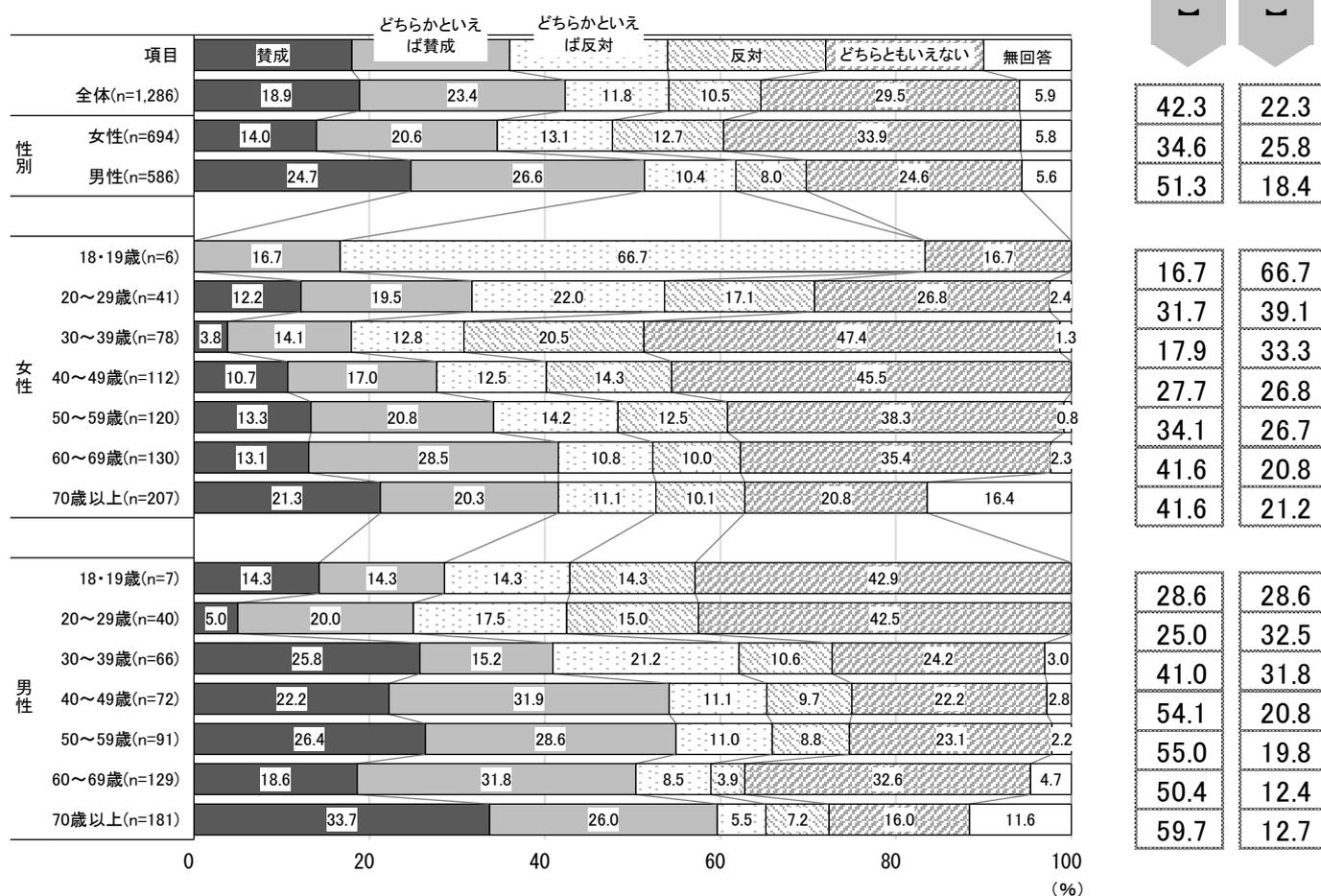


### ③ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい

～『賛成派』が女性では3割強、男性では5割強

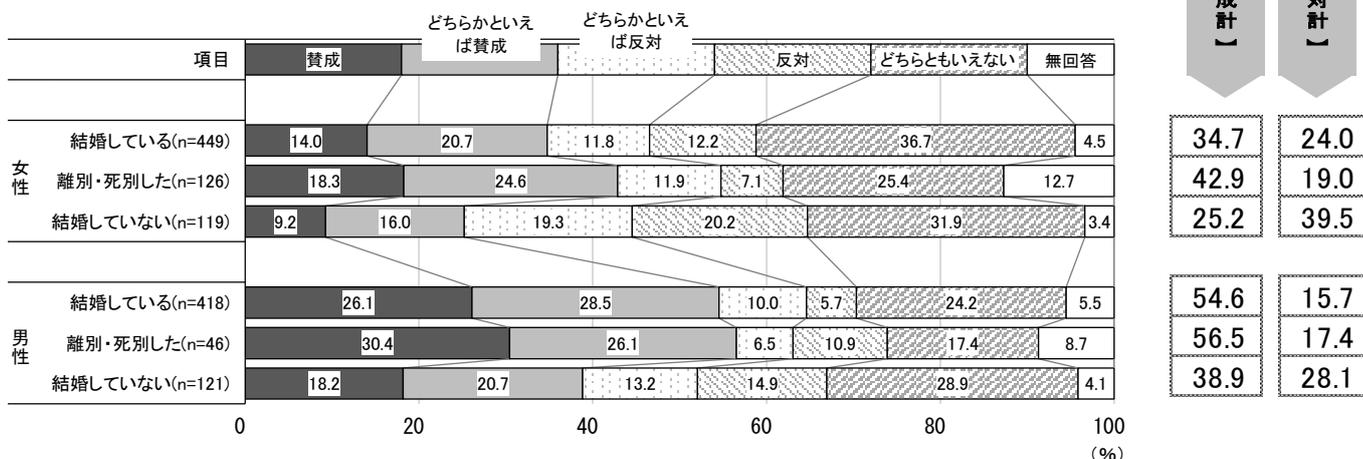
- 全体では、『賛成計』が42.3%、『反対計』が22.3%、「どちらともいえない」が29.5%となっている。
- 性別で見ると、『賛成計』は、女性が34.6%、男性が51.3%となっており、男性の方が16.7ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、60代から70歳以上女性、30代から70歳以上男性で『賛成計』が40%を超えている。

図表7-③-1 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(性別・年代別)



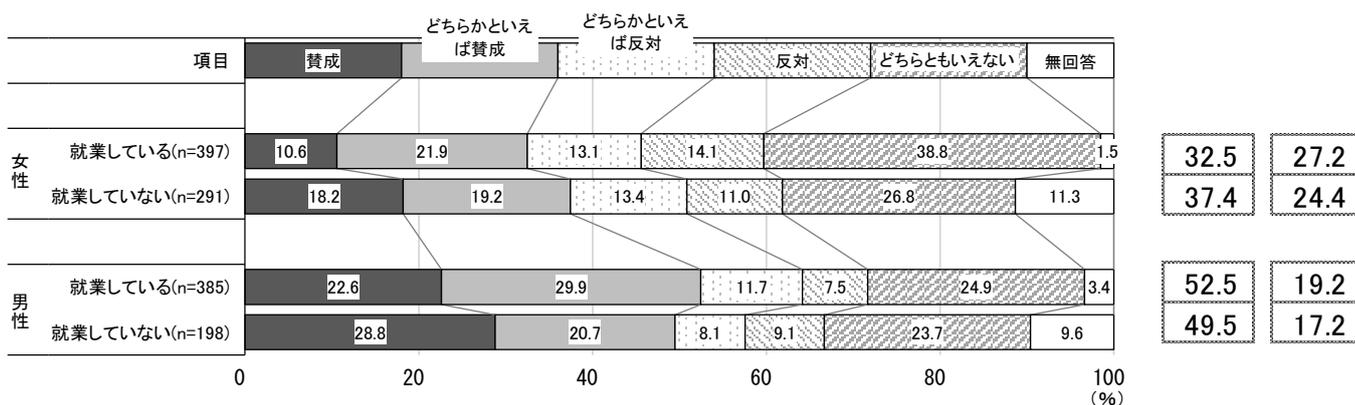
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は、結婚している人（女性 34.7%、男性 54.6%）が結婚していない人（女性 25.2%、男性 38.9%）より男女とも高くなっている。

図表 7-③-2 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(性別・婚姻状況別)



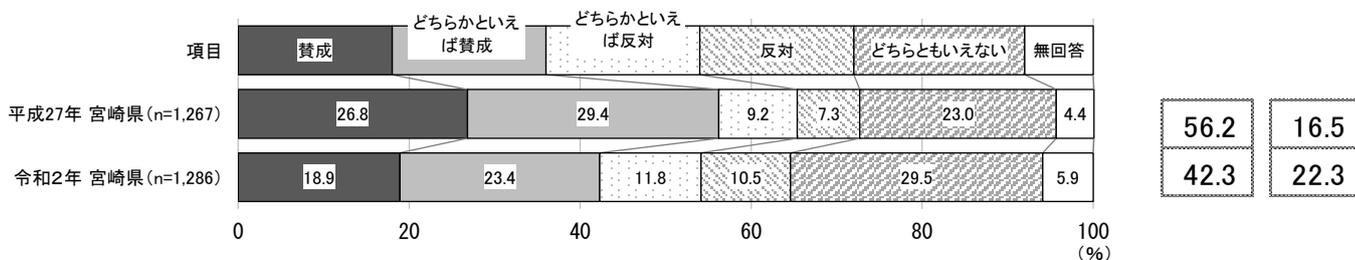
■ 性別・就業状況別で見ると、『反対計』は、就業している人（女性 27.2%、男性 19.2%）が就業していない人（女性 24.4%、男性 17.2%）より男女とも高くなっている。

図表 7-③-3 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、平成 27 年調査では『賛成計』は 56.2%、『反対計』は 16.5%となっており、今回調査では、『賛成計』は下がっており、『反対計』は上がっている。

図表 7-③-4 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(時系列比較)



(8) 結婚・家庭観

結婚、家庭、離婚について、あなたの御意見をお伺いします。

次の①～③にあげるような考え方について、どのようにお考えですか。

(○はそれぞれ1つずつ)

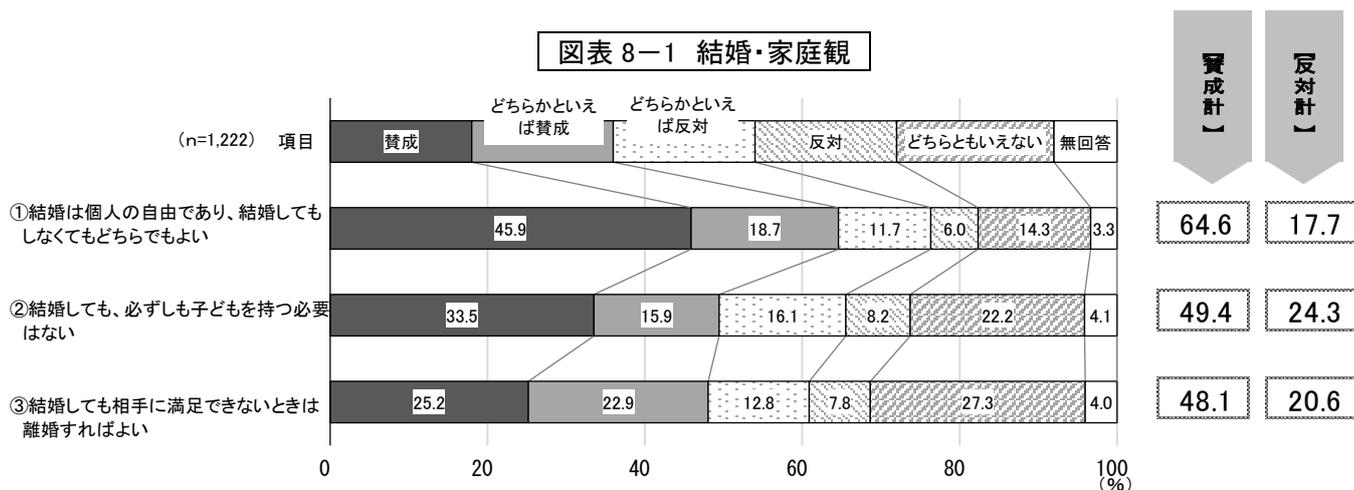
結婚、家庭観については

「結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えに

『賛成派』が6割強、『反対派』が2割弱

- 「結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい」については、『賛成計』は64.6%、『反対計』は17.7%となっている。
- 「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」および「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」については、『賛成計』は約50%となっている。

図表 8-1 結婚・家庭観

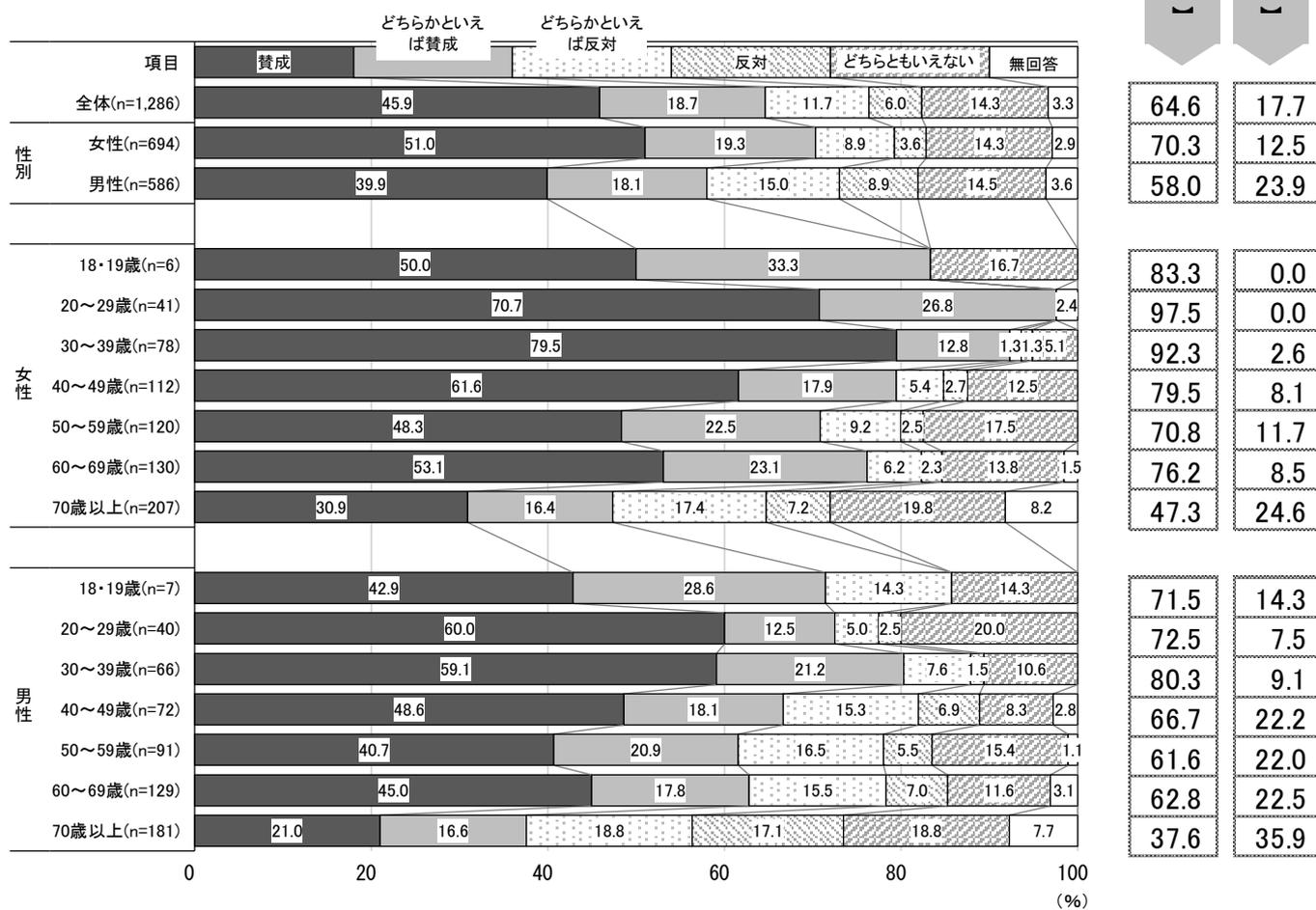


① 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい

～『賛成派』は全体の6割強  
『賛成派』は、女性の方が高い  
時系列で見ると、『賛成派』は上昇している

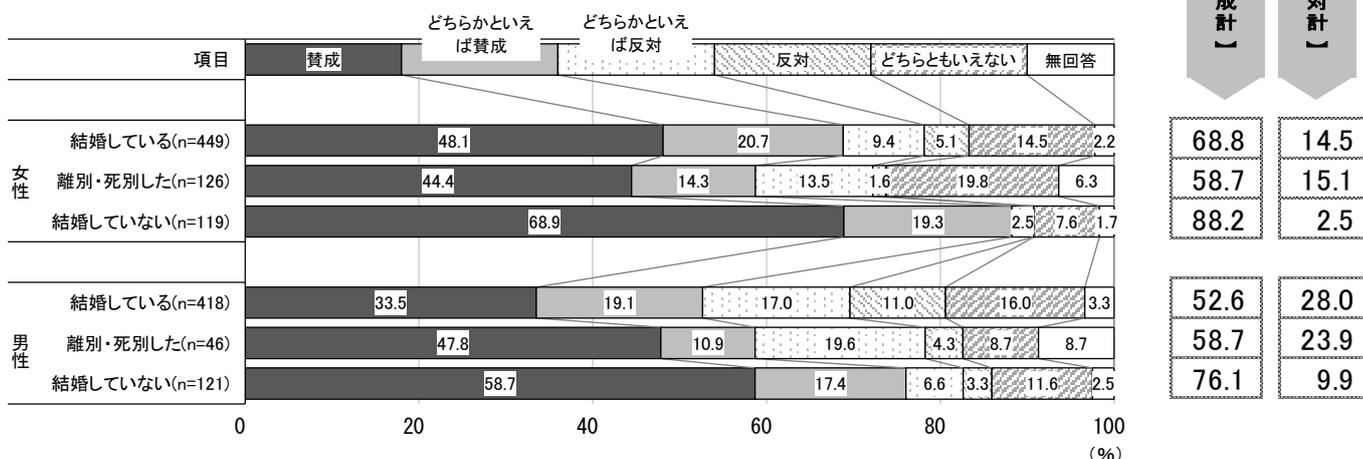
- 全体では、『賛成派』が64.6%、『反対派』が17.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっている。
- 性別で見ると、『賛成派』は、女性が70.3%、男性が58.0%となっており、女性の方が12.3ポイント高く  
なっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から60代女性、20代から30代男性で『賛成派』が70%を超えている。

図表 8-①-1 結婚は個人の自由(性別・年代別)



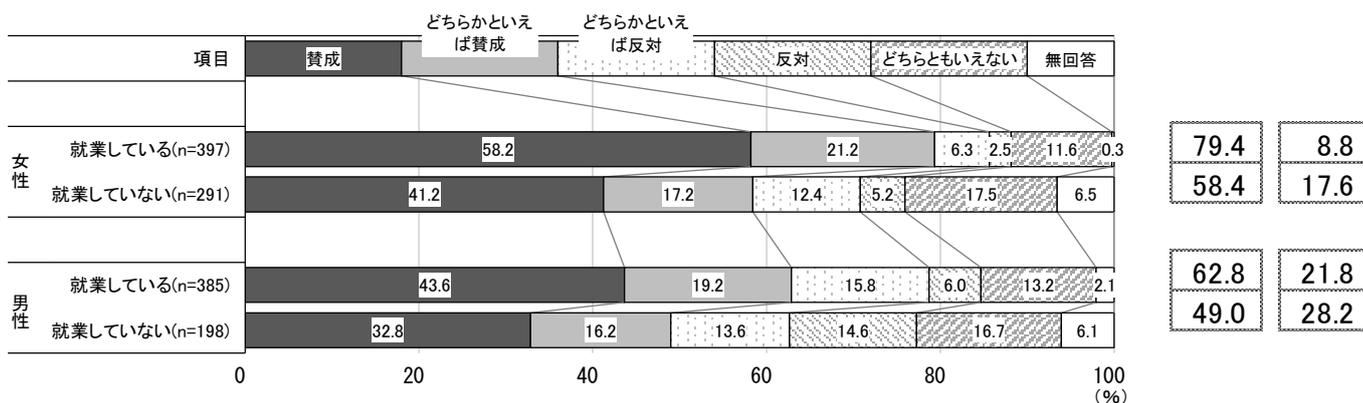
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は、結婚している人（女性 68.8%、男性 52.6%）が結婚していない人（女性 88.2%、男性 76.1%）より男女とも低くなっている。

図表 8-①-2 結婚は個人の自由(性別・婚姻状況別)



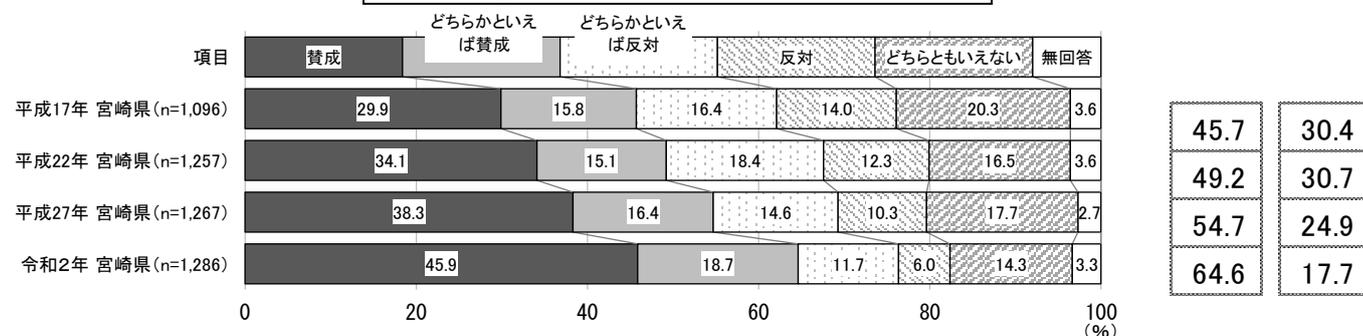
■ 性別・就業状況別で見ると、『賛成計』は、就業している人（女性 79.4%、男性 62.8%）が就業していない人（女性 58.4%、男性 49.0%）より男女とも高くなっている。

図表 8-①-3 結婚は個人の自由(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『賛成計』は平成 17 年調査では 45.7%であったが、22 年調査では 49.2%、27 年調査では 54.7%と推移しており、今回調査では 64.6%となっている。

図表 8-①-4 結婚は個人の自由(時系列比較)

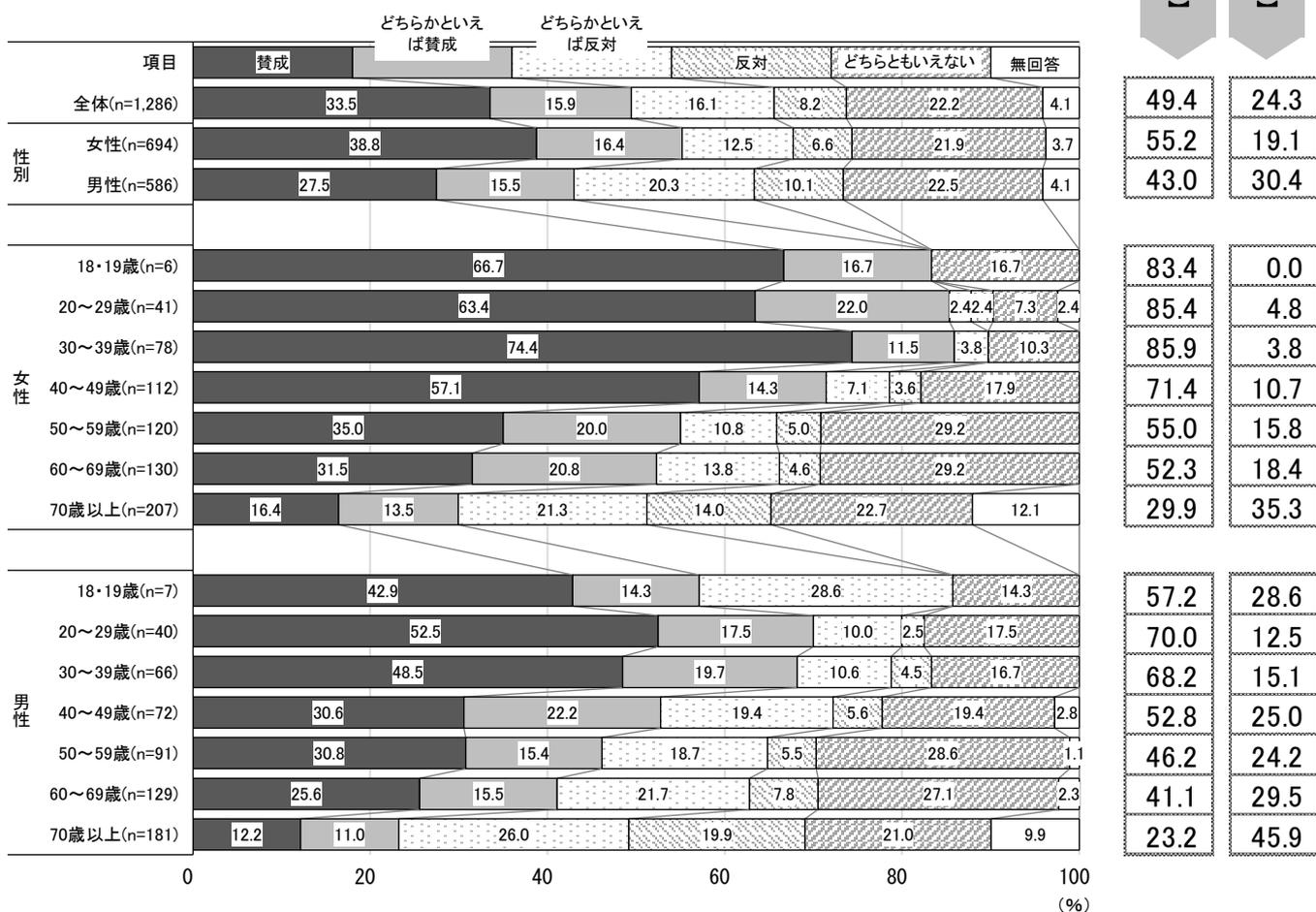


② 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

～『賛成派』は全体の5割弱  
『賛成派』は、女性の方が高い  
時系列で見ると、『賛成派』は上昇している

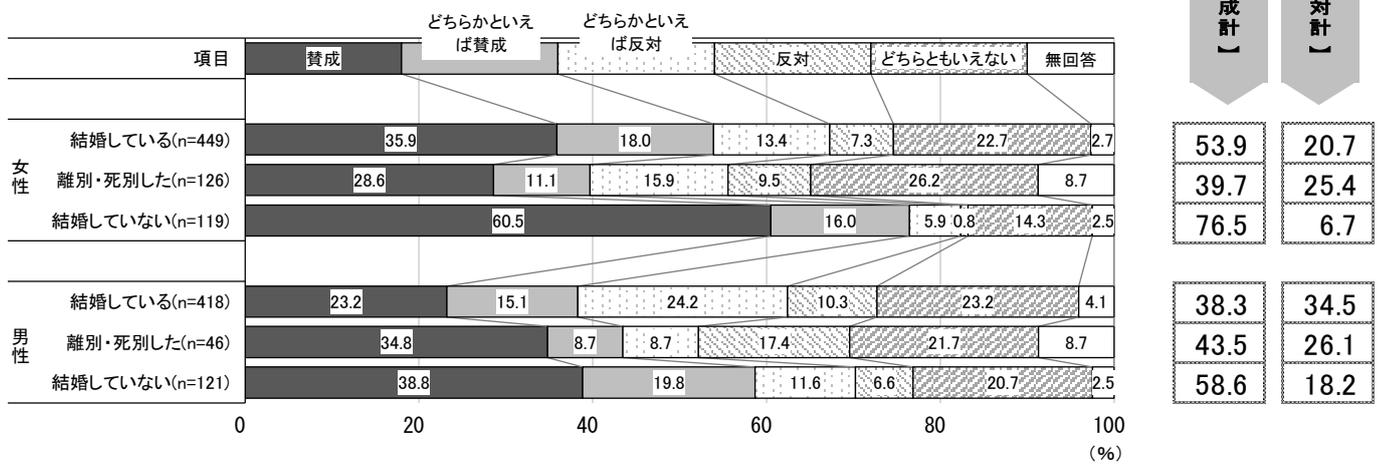
- 全体では、『賛成派』が49.4%、『反対派』が24.3%、「どちらともいえない」が22.2%となっている。
- 性別で見ると、『賛成派』は、女性が55.2%、男性が43.0%となっており、女性の方が12.2ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から40代女性、20代から30代男性で『賛成派』が60%を超えている。

図表8-②-1 子どもを持つ必要はない(性別・年代別)



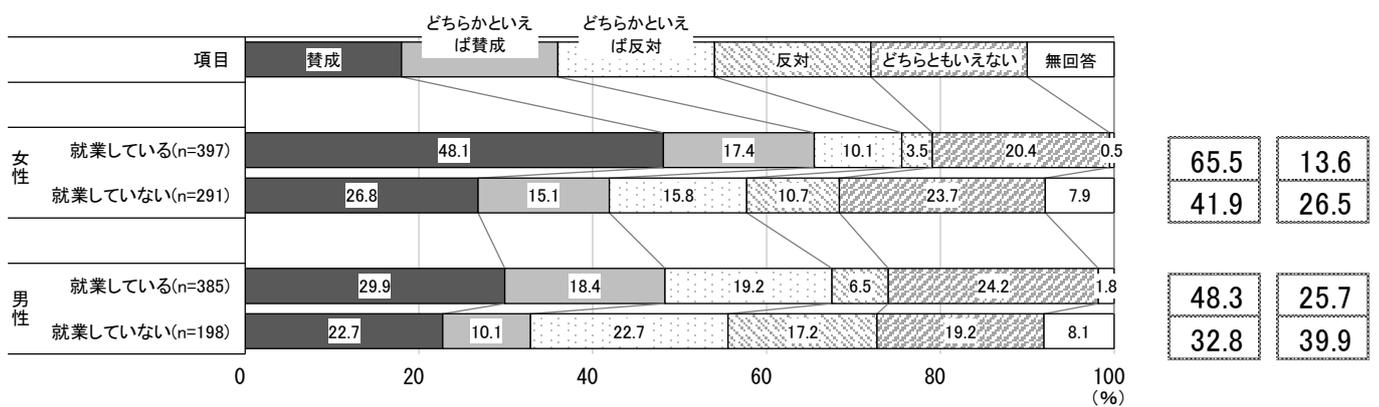
- 性別・婚姻状況別でみると、『賛成計』は、結婚している人（女性 53.9%、男性 38.3%）が結婚していない人（女性 76.5%、男性 58.6%）より男女とも低くなっている。

図表 8-②-2 子どもを持つ必要はない(性別・婚姻状況別)



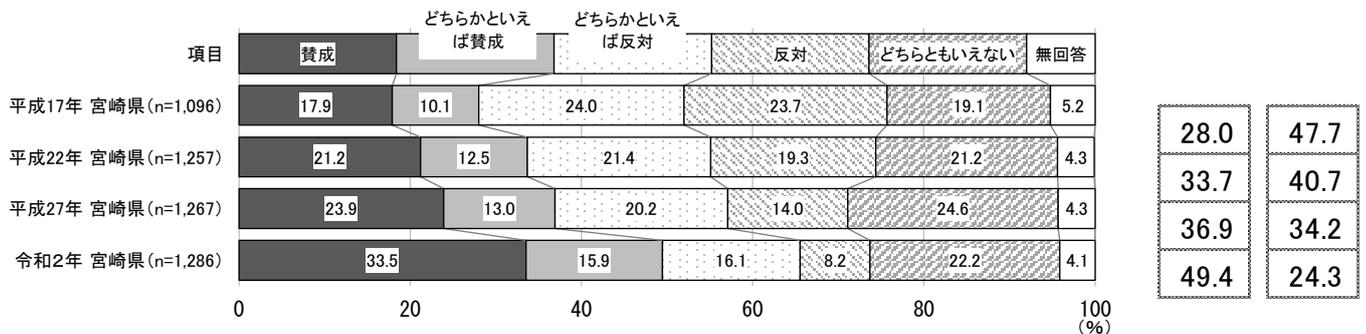
- 性別・就業状況別でみると、『賛成計』は、就業している人（女性 65.5%、男性 48.3%）が就業していない人（女性 41.9%、男性 32.8%）より男女とも高くなっている。

図表 8-②-3 子どもを持つ必要はない(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、『賛成計』は平成 17 年調査では 28.0%であったが、22 年調査では 33.7%、27 年調査では 36.9%と推移しており、今回調査では 49.4%となっている。

図表 8-②-4 子どもを持つ必要はない(時系列比較)

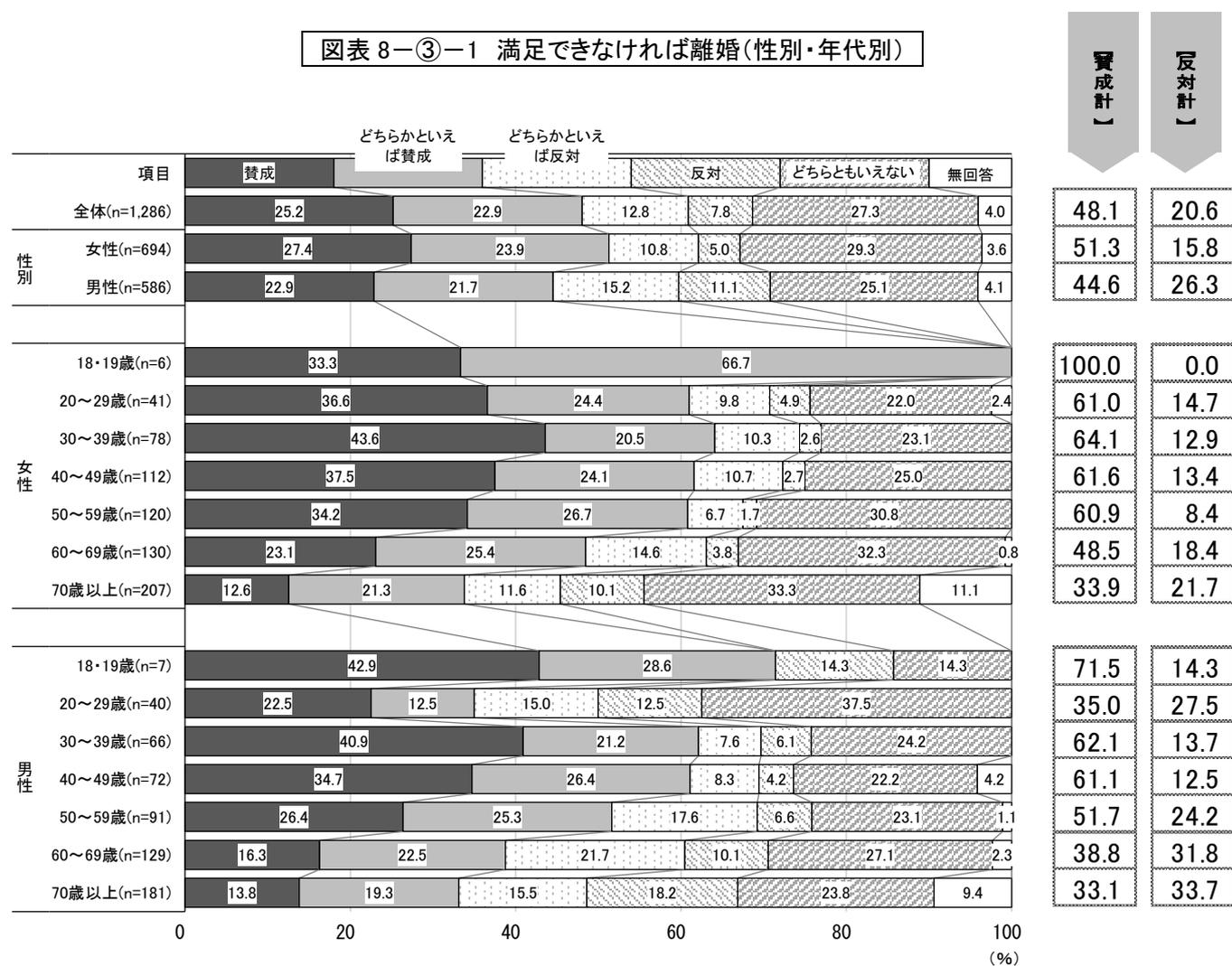


③ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

～『賛成派』は全体の 5 割弱  
『賛成派』は、女性の方が高い  
時系列でみると、『賛成派』は上昇傾向

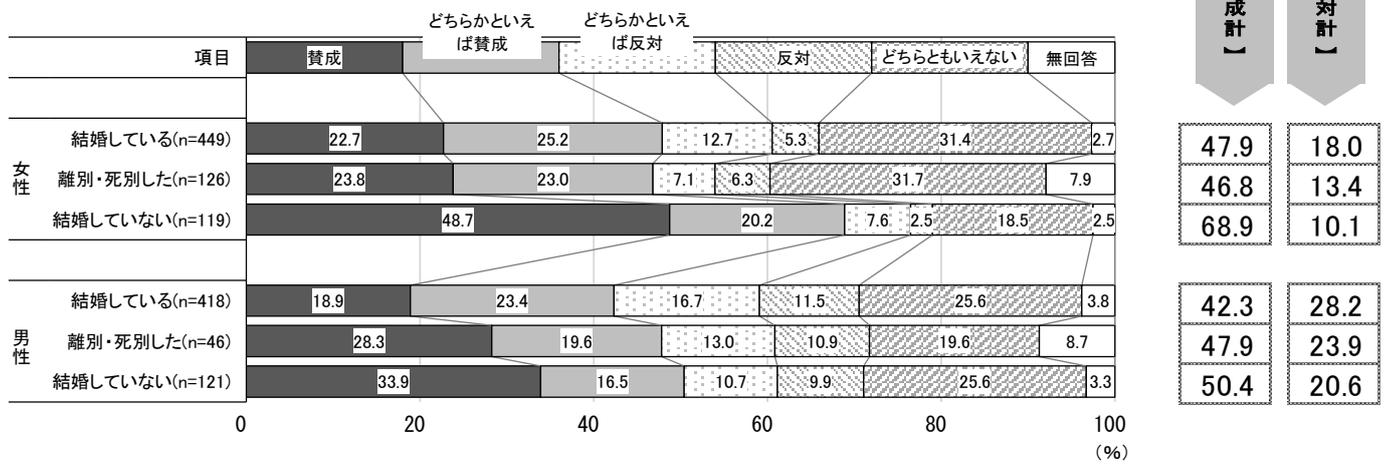
- 全体では、『賛成派』が 48.1%、『反対派』が 20.6%、「どちらともいえない」が 27.3%となっている。
- 性別でみると、『賛成派』は、女性が 51.3%、男性が 44.6%となっており、女性の方が 6.7 ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、20代から50代女性、30代から40代男性で『賛成派』が60%を超えている。

図表 8-③-1 満足できなければ離婚(性別・年代別)



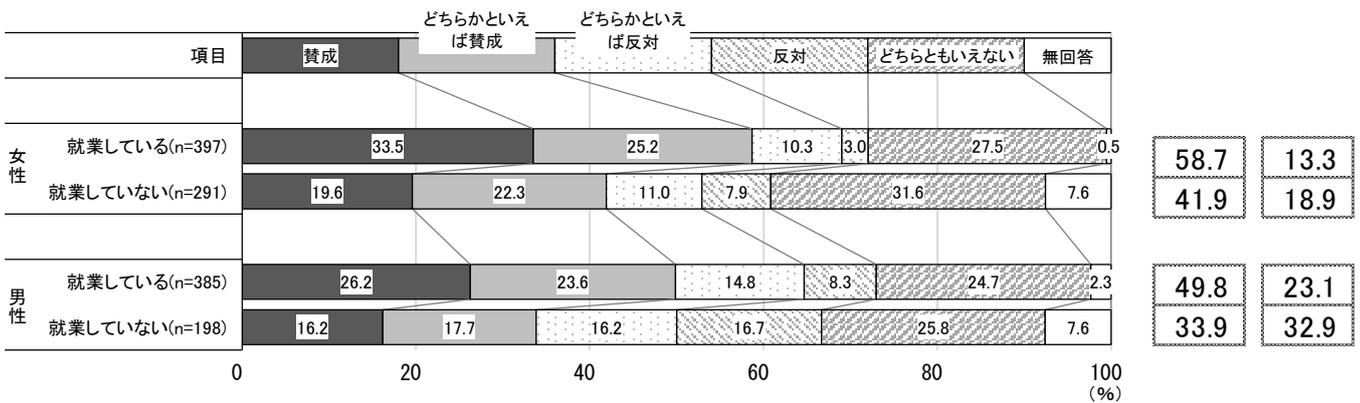
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は、結婚している人（女性47.9%、男性42.3%）が結婚していない人（女性68.9%、男性50.4%）より男女とも低くなっている。

図表 8-③-2 満足できなければ離婚(性別・婚姻状況別)



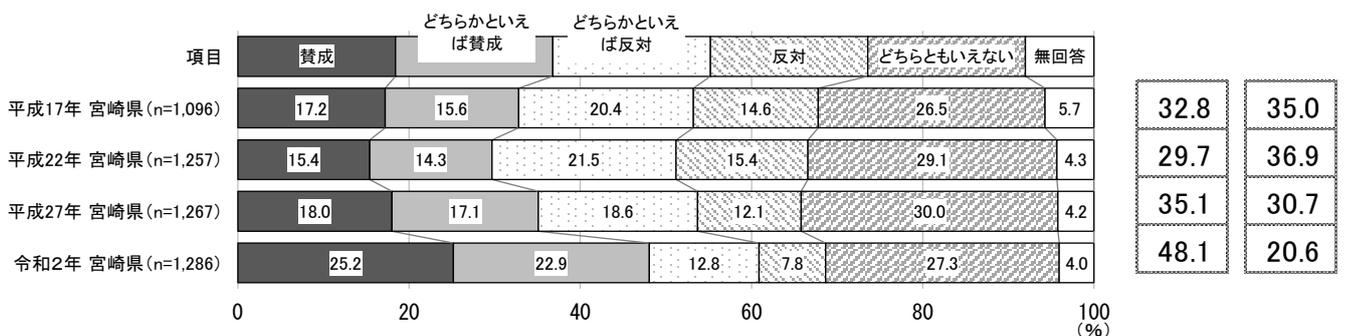
■ 性別・就業状況別で見ると、『賛成計』は、就業している人（女性58.7%、男性49.8%）が就業していない人（女性41.9%、男性33.9%）より男女とも高くなっている。

図表 8-③-3 満足できなければ離婚(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『賛成計』は平成17年調査では32.8%であったが、22年調査では29.7%、27年調査では35.1%と推移しており、今回調査では48.1%となっている。

図表 8-③-4 満足できなければ離婚(時系列比較)



(9) 男性が家事、育児に参加するために必要なこと

あなたは、今後、男性が家事、子育てに積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

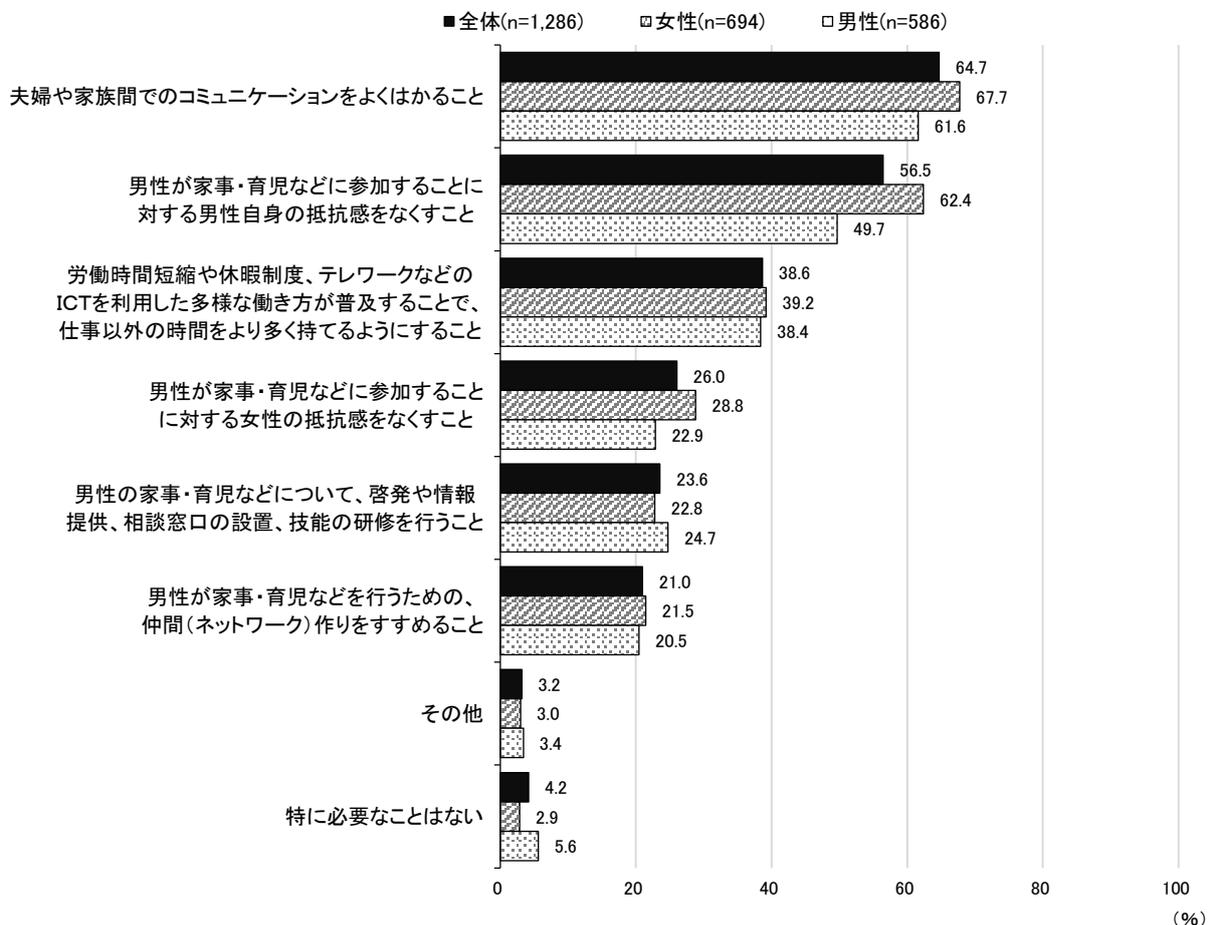
男性が家事、育児に参加するために必要なことについては、

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割強

「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が6割弱

- 全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が64.7%と最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が56.5%、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方が普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が38.6%となっている。
- 性別で見ると、男性と女性の割合差は、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（女性62.4%、男性49.7%）で12.7ポイントと最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（女性67.7%、男性61.6%）で6.1ポイントとなっている。

図表 9-1 男性が家事、育児に参加するために必要なこと



図表 9-2 男性が家事、育児に参加するために必要なこと

		夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくは	男性が自身の抵抗感をなくす	男性が家事・育児などに参加することに対する	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方が多く持てるようにすること	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	男性の家事・育児などの設置、技能の研修を行うこと	男性がネットワーク（作りをするための、仲間）	その他	特に必要なことはない
全体(n=1,286)		64.7	56.5	38.6	26.0	23.6	21.0	3.2	4.2	
性別	女性(n=694)	67.7	62.4	39.2	28.8	22.8	21.5	3.0	2.9	
	男性(n=586)	61.6	49.7	38.4	22.9	24.7	20.5	3.4	5.6	
性別・年齢別	女性									
	18・19歳(n=6)	83.3	33.3	66.7	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0	
	20～29歳(n=41)	73.2	56.1	53.7	24.4	36.6	29.3	2.4	0.0	
	30～39歳(n=78)	69.2	55.1	60.3	29.5	23.1	17.9	7.7	1.3	
	40～49歳(n=112)	64.3	61.6	41.1	26.8	22.3	16.1	2.7	4.5	
	50～59歳(n=120)	68.3	70.8	38.3	28.3	21.7	17.5	5.0	0.8	
	60～69歳(n=130)	76.9	71.5	36.2	32.3	23.1	20.8	3.1	4.6	
	70歳以上(n=207)	61.4	57.0	29.0	29.0	20.3	26.1	0.5	3.4	
	男性									
	18・19歳(n=7)	42.9	28.6	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	14.3	
	20～29歳(n=40)	57.5	47.5	45.0	20.0	22.5	20.0	7.5	7.5	
	30～39歳(n=66)	68.2	39.4	56.1	25.8	16.7	21.2	4.5	6.1	
40～49歳(n=72)	63.9	41.7	43.1	25.0	19.4	16.7	8.3	1.4		
50～59歳(n=91)	62.6	53.8	48.4	23.1	26.4	25.3	0.0	6.6		
60～69歳(n=129)	65.1	53.5	31.8	17.8	27.1	16.3	1.6	3.1		
70歳以上(n=181)	56.9	53.0	29.8	24.9	28.2	23.2	2.8	7.7		
性別・婚姻状況別	女性									
	結婚している(n=449)	68.8	64.4	38.5	27.8	22.9	20.3	3.1	2.4	
	離別・死別した(n=126)	68.3	57.1	28.6	29.4	16.7	23.8	1.6	4.0	
	結婚していない(n=119)	63.0	60.5	52.9	31.9	28.6	23.5	4.2	3.4	
	男性									
	結婚している(n=418)	62.2	50.7	38.8	21.5	25.8	20.3	2.9	6.0	
離別・死別した(n=46)	58.7	45.7	32.6	30.4	26.1	15.2	0.0	4.3		
結婚していない(n=121)	61.2	47.9	39.7	24.8	20.7	23.1	6.6	5.0		
性別・就業状況別	女性									
	就業している(n=397)	70.3	64.0	42.6	29.5	22.2	19.1	4.5	2.3	
	就業していない(n=291)	64.3	60.8	34.4	27.8	23.7	24.1	1.0	3.8	
	男性									
就業している(n=385)	62.3	50.1	42.9	23.4	24.2	20.3	3.6	5.5		
就業していない(n=198)	60.6	49.0	29.8	21.7	25.8	20.7	3.0	5.6		
令和元年 全国(n=2,645)		59.1	56.0	33.8	30.5	25.3	27.9	0.9	4.3	

### 3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

#### (10) 仕事と生活のバランスの希望

仕事と家庭生活、または町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。（〇は1つだけ）

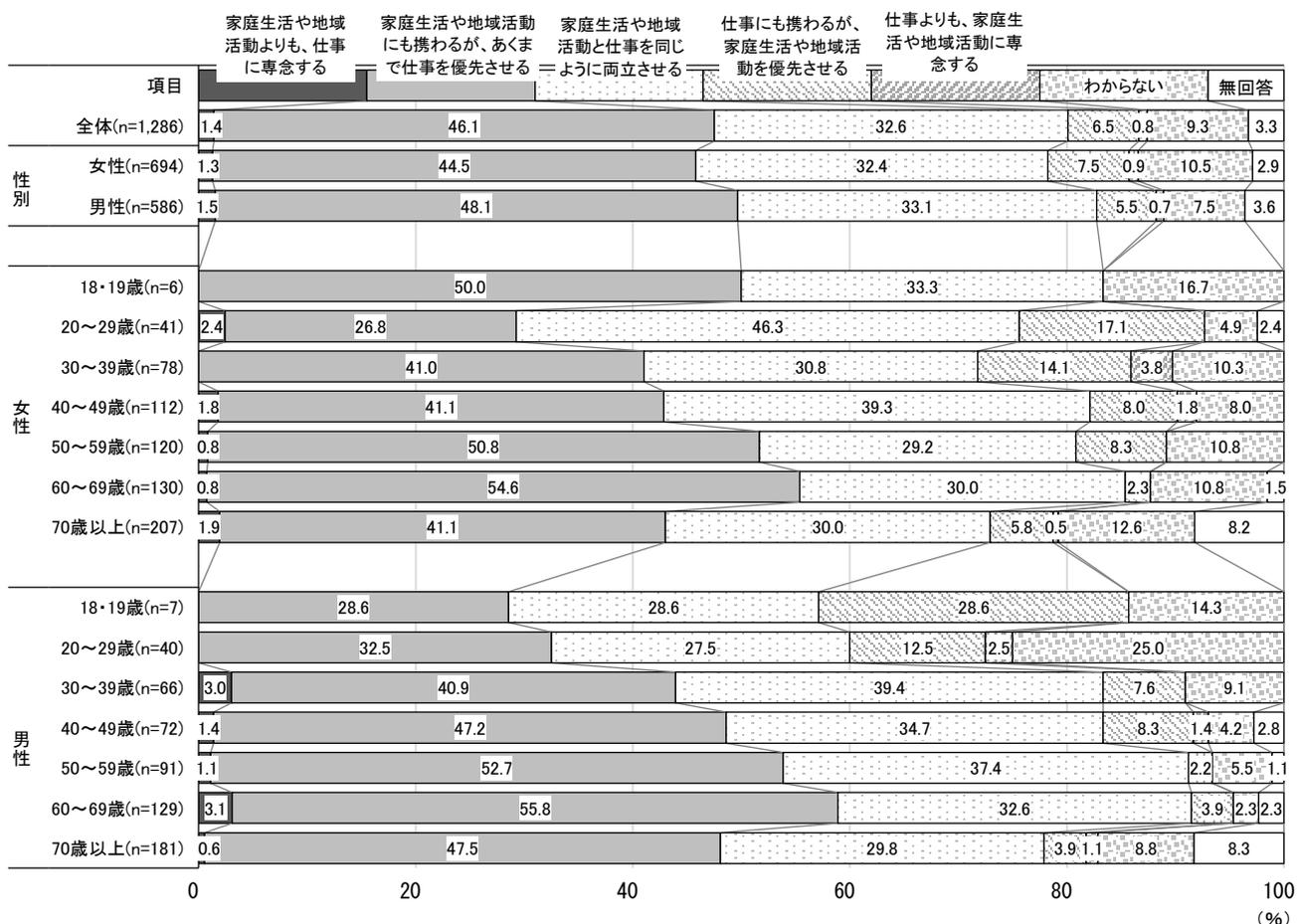
仕事と生活のバランスの希望は、

「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が 5 割弱

「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」が 3 割強

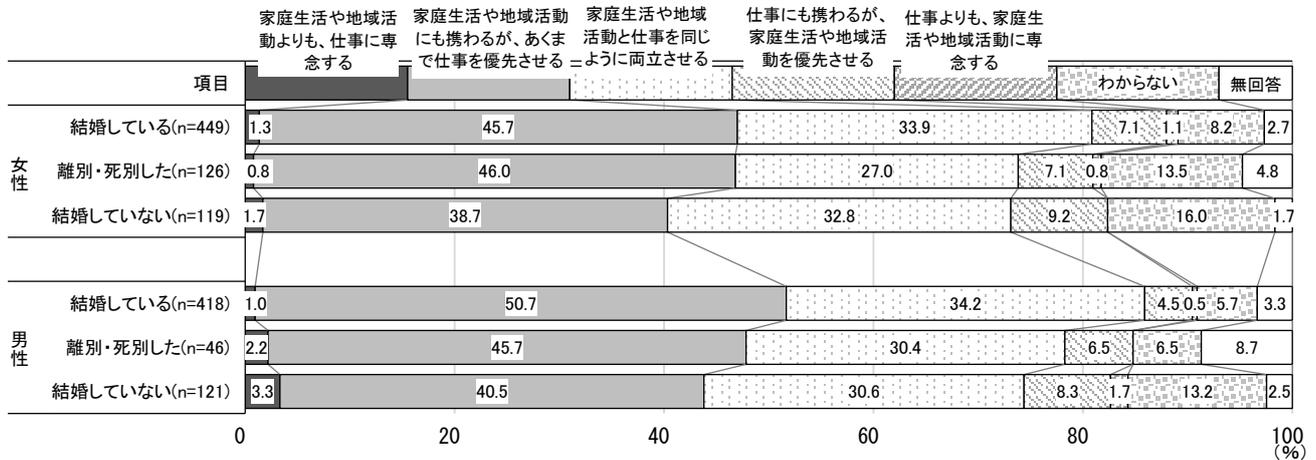
- 全体では、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が 46.1%と最も高く、次いで「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」が 32.6%となっている。
- 性別でみると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は、女性が 44.5%、男性が 48.1%となっており、男性の方が 3.6 ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、男女ともに 20 代から 60 代で「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」が年代が高くなるにつれ、高くなっている。

図表 10-1 仕事と生活のバランスの希望(性別・年齢別)



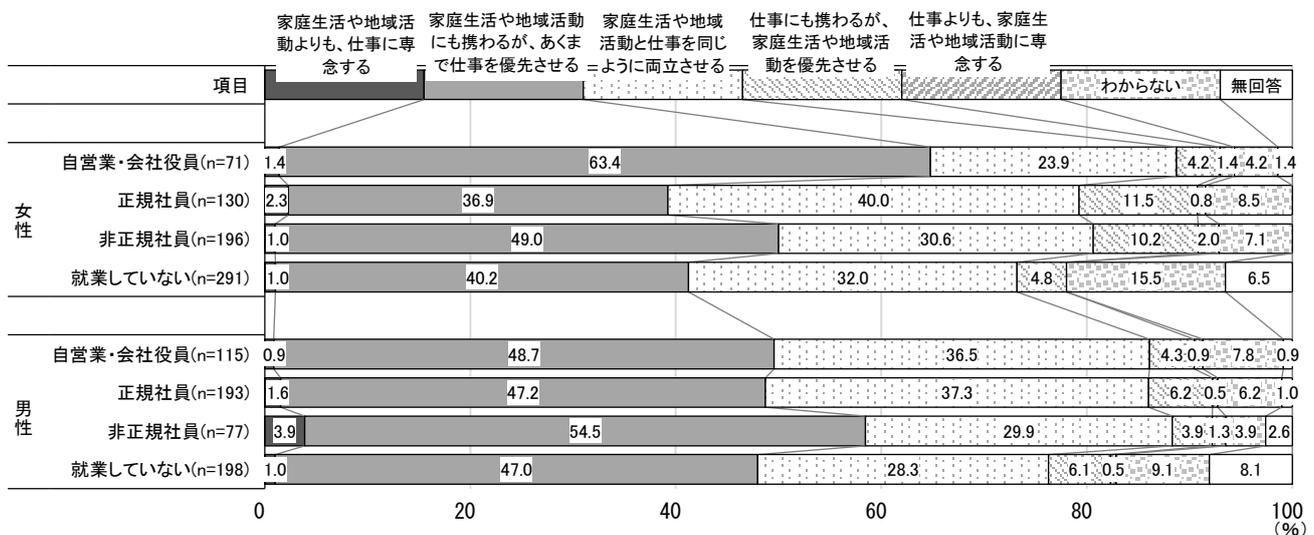
- **性別・婚姻状況別**でみると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は、結婚している人（女性 45.7%、男性 50.7%）が結婚していない人（女性 38.7%、男性 40.5%）より男女とも高くなっている。

図表 10-2 仕事と生活のバランスの希望(性別・婚姻状況別)



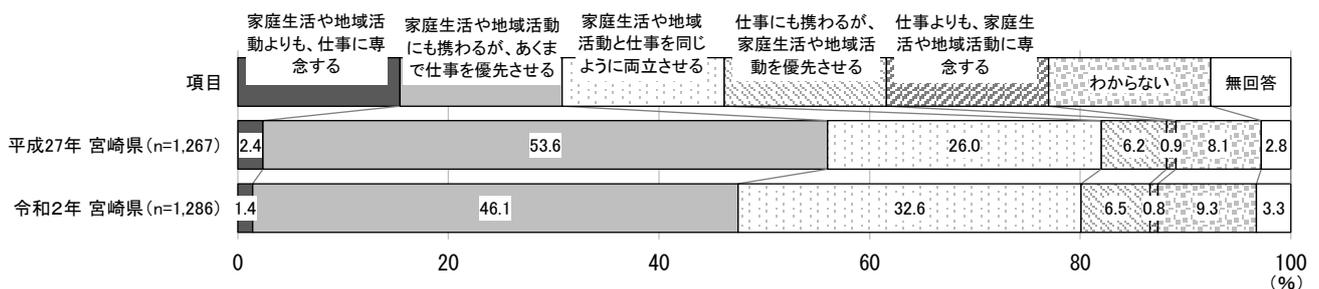
- **性別・就業状況別**でみると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は、正規社員（女性 36.9%、男性 47.2%）が非正規社員（女性 49.0%、男性 54.5%）より男女とも低くなっている。

図表 10-3 仕事と生活のバランスの希望(性別・就業状況別)



- **時系列**で比較すると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」（平成 27 年調査 53.6%、令和 2 年調査 46.1%）は下がっており、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」（平成 27 年調査 26.0%、令和 2 年調査 32.6%）は上がっている。

図表 10-4 仕事と生活のバランスの希望(時系列比較)



(11) 仕事と生活のバランスの現状

現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。(〇は1つだけ)

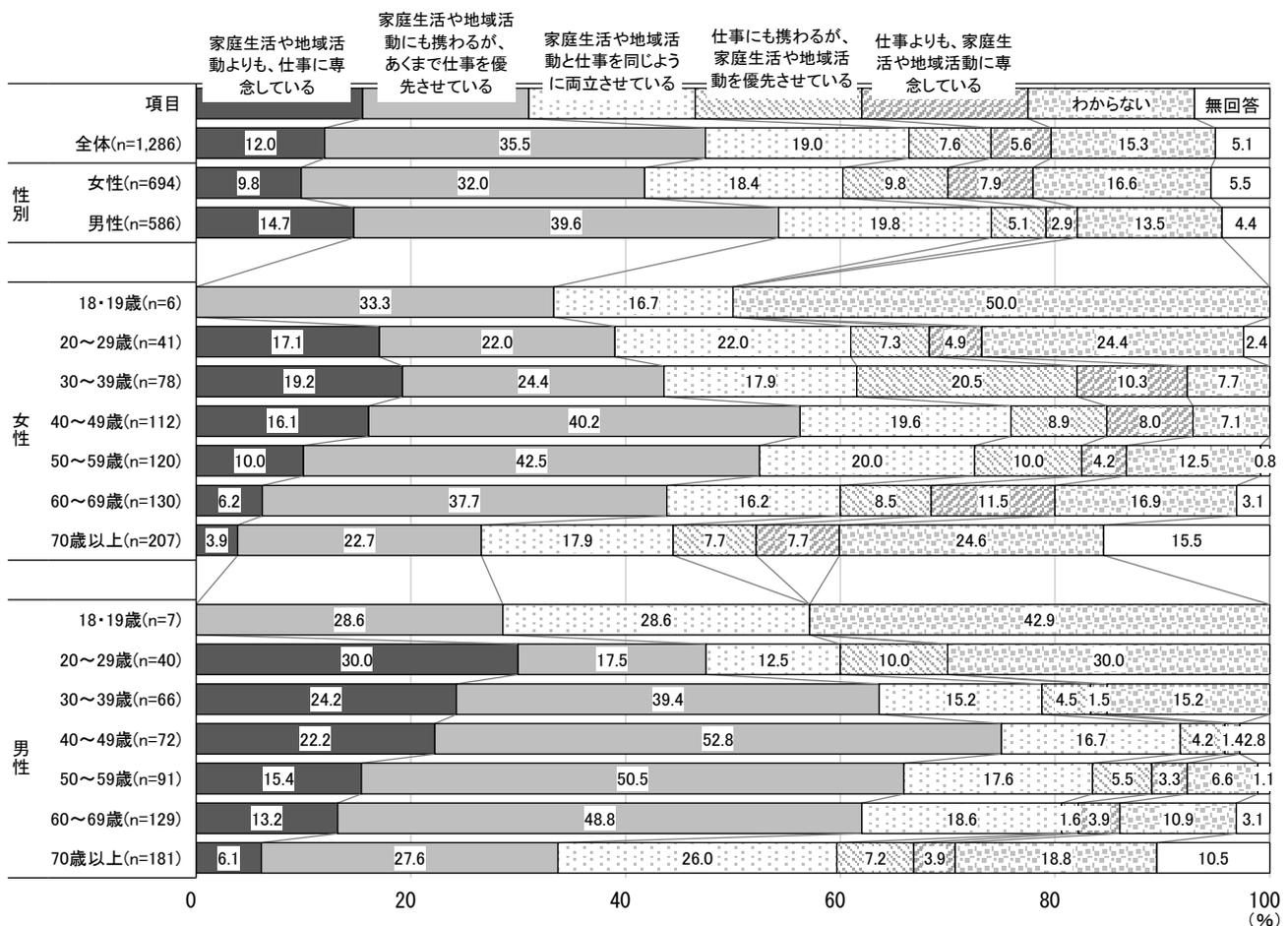
仕事と生活のバランスの現状は、

「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」が3割強

「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させている」は2割弱

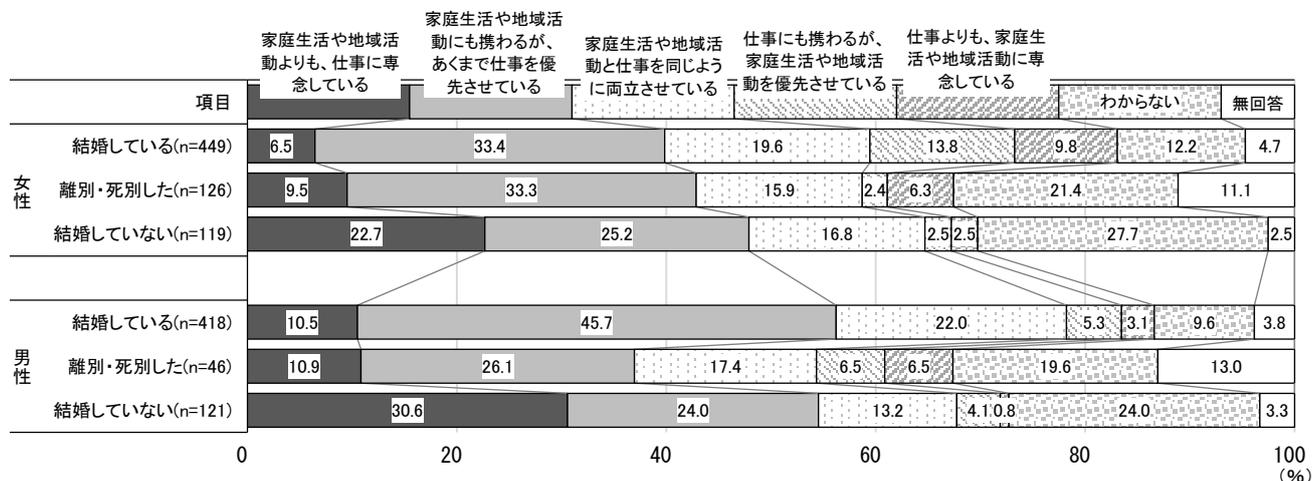
- 全体では、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」が35.5%と最も高く、次いで「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させている」が19.0%となっている。
- 性別で見ると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」は、女性が32.0%、男性が39.6%となっており、男性の方が7.6ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、40代から50代女性、40代から60代男性で「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」と回答した割合が40%を超えている。

図表 11-1 仕事と生活のバランスの現状(性別・年齢別)



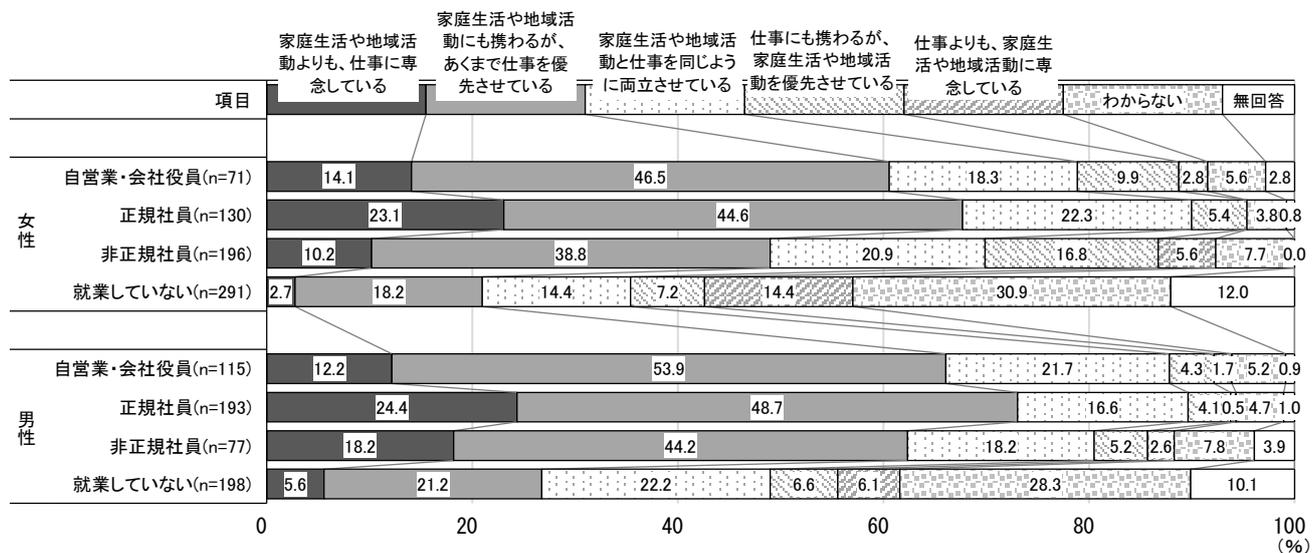
- **性別・婚姻状況別**でみると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」は、結婚している人（女性 33.4%、男性 45.7%）が結婚していない人（女性 25.2%、男性 24.0%）より男女とも高くなっている。

図表 11-2 仕事と生活のバランスの現状(性別・婚姻状況別)



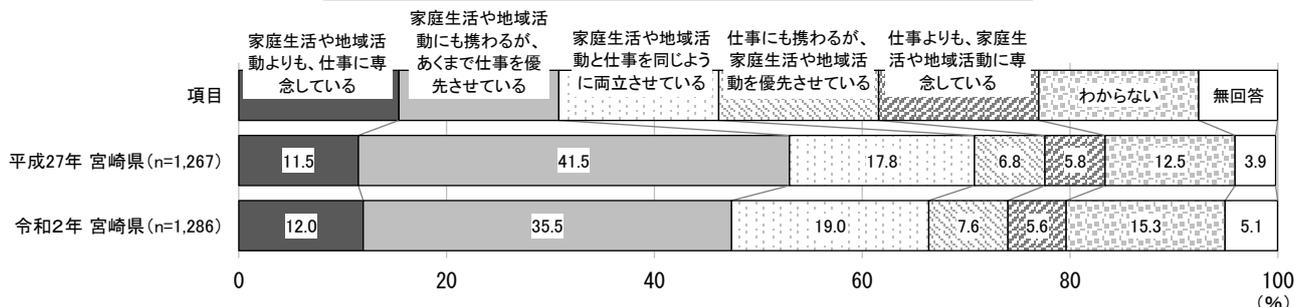
- **性別・就業状況別**でみると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」は、正規社員（女性 44.6%、男性 48.7%）が非正規社員（女性 38.8%、男性 44.2%）より男女とも高くなっている。

図表 11-3 仕事と生活のバランスの現状(性別・就業状況別)



- **時系列**で比較すると、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」（平成 27 年調査 41.5%、令和 2 年調査 35.5%）は下がっており、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させている」（平成 27 年調査 17.8%、令和 2 年調査 19.0%）は上がっている。

図表 11-4 仕事と生活のバランスの現状(時系列比較)

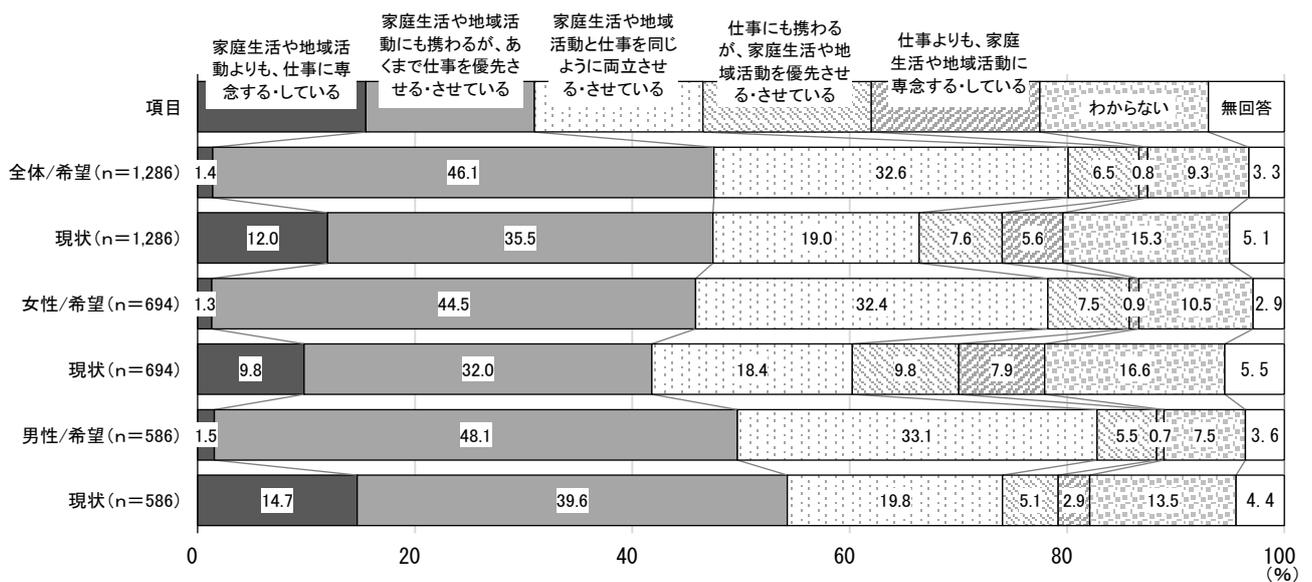


(参考) 仕事と生活のバランスの希望と現状

仕事と生活のバランスの希望と現状の割合差について、  
「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる・させている」が最も大きい

- 全体では、希望と現状の割合差は、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる・させている」(希望 32.6%、現状 19.0%) で 13.6 ポイントと最も高く、次いで「家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する・している」(希望 1.4%、現状 12.0%)、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる・させている」(希望 46.1%、現状 35.5%) で 10.6 ポイントとなっている。
- 性別で見ると、希望と現状の割合差は、女性では「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる・させている」(希望 32.4%、現状 18.4%) で 14.0 ポイントと最も高くなっている。男性も「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる・させている」(希望 33.1%、現状 19.8%) で 13.3 ポイントと最も高くなっている。

図表 11-4 仕事と生活のバランスの希望と現状



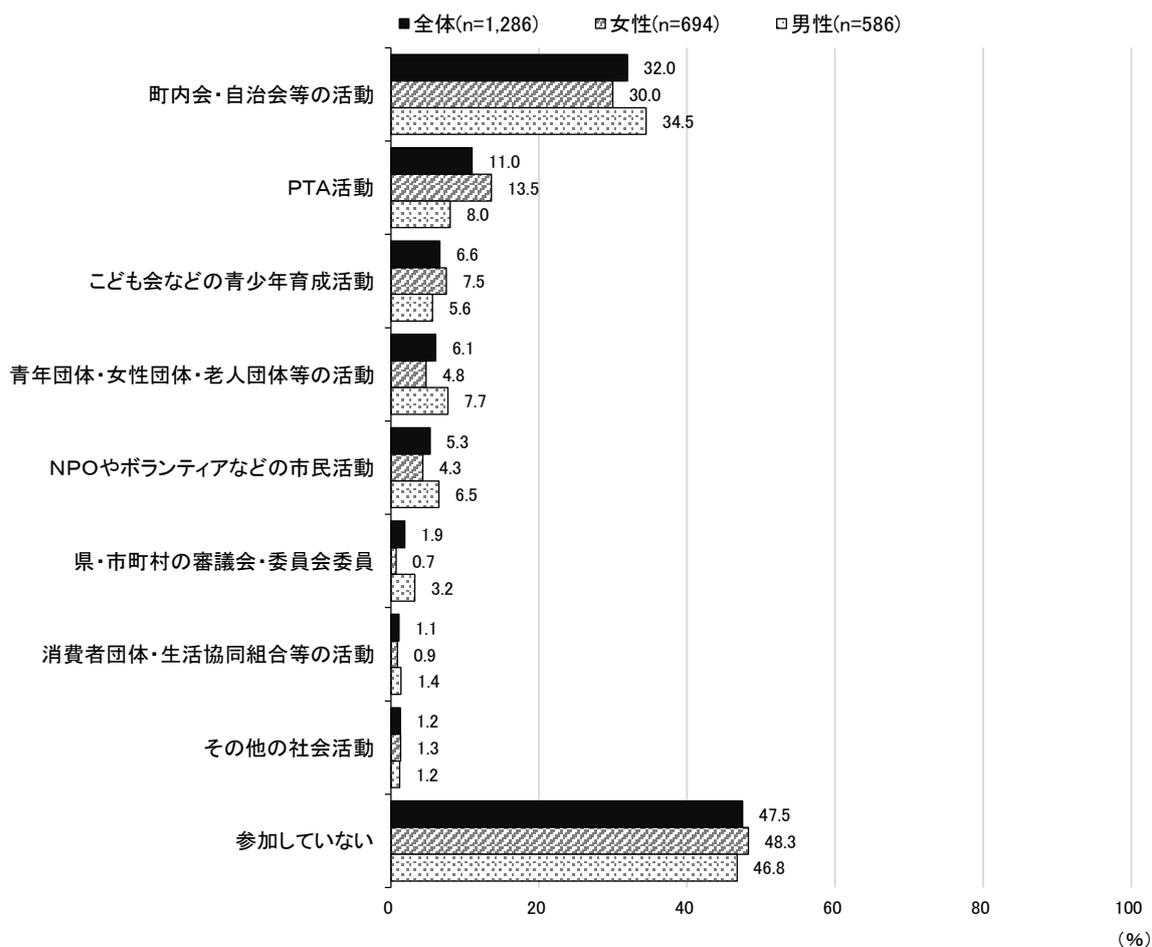
## (12) 地域活動への参加

あなたは、次のような活動をしていますか。（○はい/×いいえ）

地域活動については、参加していない人が5割弱と最も高い  
参加している活動では、「町内会・自治会等の活動」が最も高い

- 全体では、「町内会・自治会等の活動」が32.0%と最も高く、次いで「PTA活動」が11.0%、「子ども会などの青少年育成活動」が6.6%となっている。一方、「参加していない」は47.5%となっている。
- 性別で見ると、男性と女性の割合差は、「PTA活動」（女性13.5%、男性8.0%）で5.5ポイントと最も高く、次いで「町内会・自治会等の活動」（女性30.0%、男性34.5%）で4.5ポイントとなっている。

図表 12-1 地域活動への参加



図表 12-2 地域活動への参加

		町内会・自治会等の活動	P T A 活動	こども会などの青少年育成活動	青年団体・女性団体・老人団体等の活動	N P O やボランティアなどの市民活動	県・市町村の審議会・委員会委員	その他の社会活動	消費者団体・生活協同組合等の活動	参加していない
全体(n=1,286)		32.0	11.0	6.6	6.1	5.3	1.9	1.2	1.1	47.5
性別	女性(n=694)	30.0	13.5	7.5	4.8	4.3	0.7	1.3	0.9	48.3
	男性(n=586)	34.5	8.0	5.6	7.7	6.5	3.2	1.2	1.4	46.8
性別・年齢別	女性									
	18・19歳(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	83.3
	20～29歳(n=41)	9.8	2.4	2.4	4.9	2.4	0.0	0.0	0.0	78.0
	30～39歳(n=78)	14.1	20.5	12.8	2.6	1.3	1.3	0.0	0.0	65.4
	40～49歳(n=112)	20.5	42.9	18.8	0.9	3.6	0.9	0.9	0.0	42.0
	50～59歳(n=120)	39.2	15.0	7.5	3.3	4.2	0.0	0.8	0.0	44.2
	60～69歳(n=130)	50.8	3.8	3.1	3.1	5.4	0.0	2.3	0.8	39.2
	70歳以上(n=207)	27.5	2.9	3.4	9.7	5.3	1.4	1.9	2.4	46.4
	男性									
	18・19歳(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	85.7
	20～29歳(n=40)	5.0	0.0	0.0	2.5	12.5	0.0	2.5	0.0	77.5
	30～39歳(n=66)	28.8	10.6	6.1	13.6	4.5	0.0	1.5	3.0	54.5
	40～49歳(n=72)	27.8	23.6	9.7	5.6	1.4	0.0	1.4	1.4	51.4
	50～59歳(n=91)	45.1	14.3	9.9	7.7	8.8	2.2	2.2	2.2	39.6
60～69歳(n=129)	45.7	3.9	3.9	5.4	3.9	9.3	0.8	0.0	45.0	
70歳以上(n=181)	33.7	2.8	4.4	9.4	8.3	2.8	0.6	1.7	38.7	
性別・婚姻状況別	女性									
	結婚している(n=449)	36.3	18.3	9.4	5.1	3.3	0.2	1.3	0.9	38.3
	離別・死別した(n=126)	31.0	7.9	6.3	6.3	5.6	2.4	1.6	1.6	51.6
	結婚していない(n=119)	5.0	1.7	1.7	1.7	6.7	0.8	0.8	0.0	82.4
	男性									
	結婚している(n=418)	40.4	11.2	7.9	8.6	6.5	4.1	0.7	1.7	39.5
離別・死別した(n=46)	34.8	0.0	0.0	6.5	4.3	2.2	2.2	0.0	50.0	
結婚していない(n=121)	14.0	0.0	0.0	5.0	7.4	0.8	2.5	0.8	71.1	
性別・就業状況別	女性									
	就業している(n=397)	32.2	19.9	10.6	3.3	3.8	0.5	1.3	0.8	46.6
	就業していない(n=291)	27.1	5.2	3.1	6.5	4.8	1.0	1.4	1.0	50.9
	男性									
就業している(n=385)	36.6	11.2	6.8	8.1	5.5	3.6	1.6	1.6	46.2	
就業していない(n=198)	30.3	2.0	3.5	7.1	8.6	2.5	0.5	1.0	48.0	
前回	平成27年(n=1,267)	37.8	10.5	6.8	6.3	6.1	2.3	4.9	1.2	43.2
今回	令和 2年(n=1,286)	32.0	11.0	6.6	6.1	5.3	1.9	1.2	1.1	47.5

(13) 職場での男女差

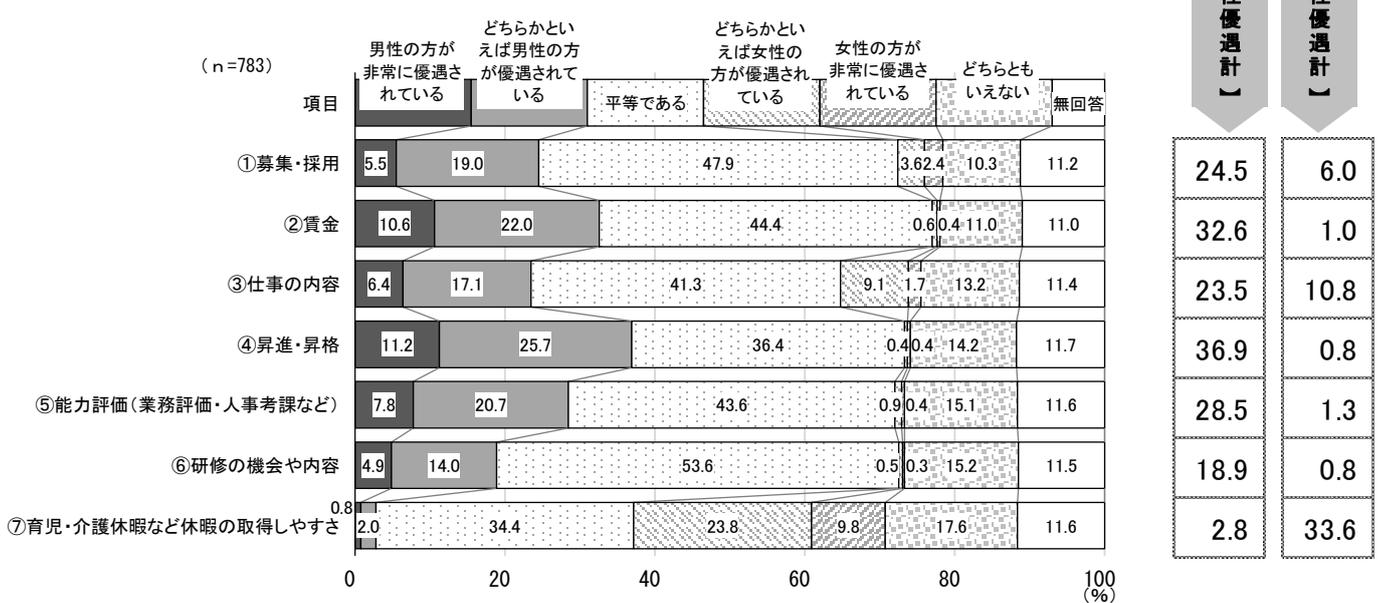
あなたの職場では、次の①～⑦にあげるような分野で、性別によって差があると思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

職場での男女差については、

「昇進・昇格」で男性優遇感が強く、「休暇の取得のしやすさ」で女性優遇感が強い

- 『男性優遇計』は「昇進・昇格」が36.9%と最も高く、次いで「賃金」が32.6%となっている。
- 『女性優遇計』は「育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ」が33.6%と最も高くなっている。
- 「平等である」は「研修の機会や内容」が53.6%と最も高く、次いで「募集・採用」が47.9%となっている。

図表 13-1 職場での男女差

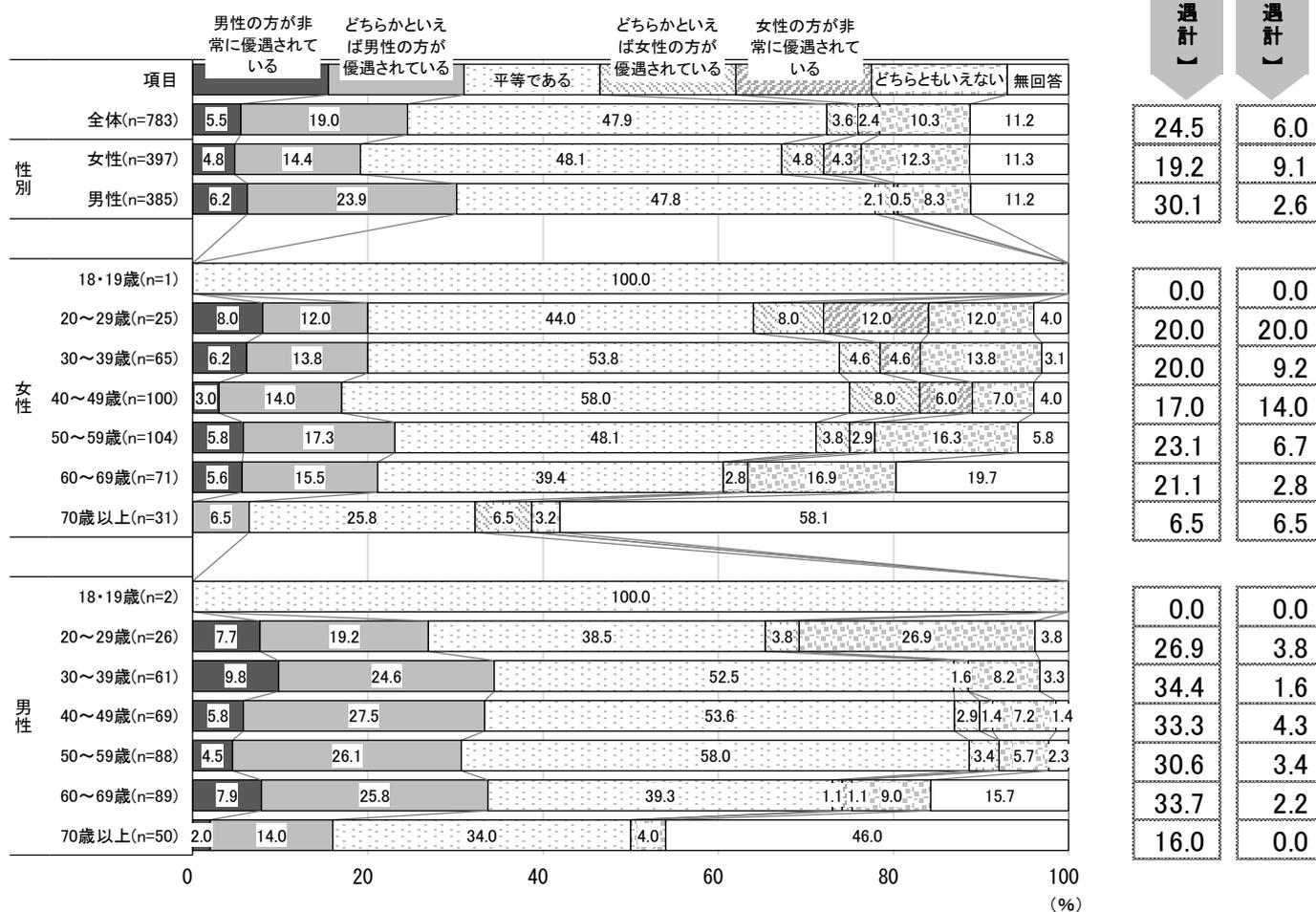


① 募集・採用

～平等と感じる人は5割弱、男性優遇感を持つ人は2割強

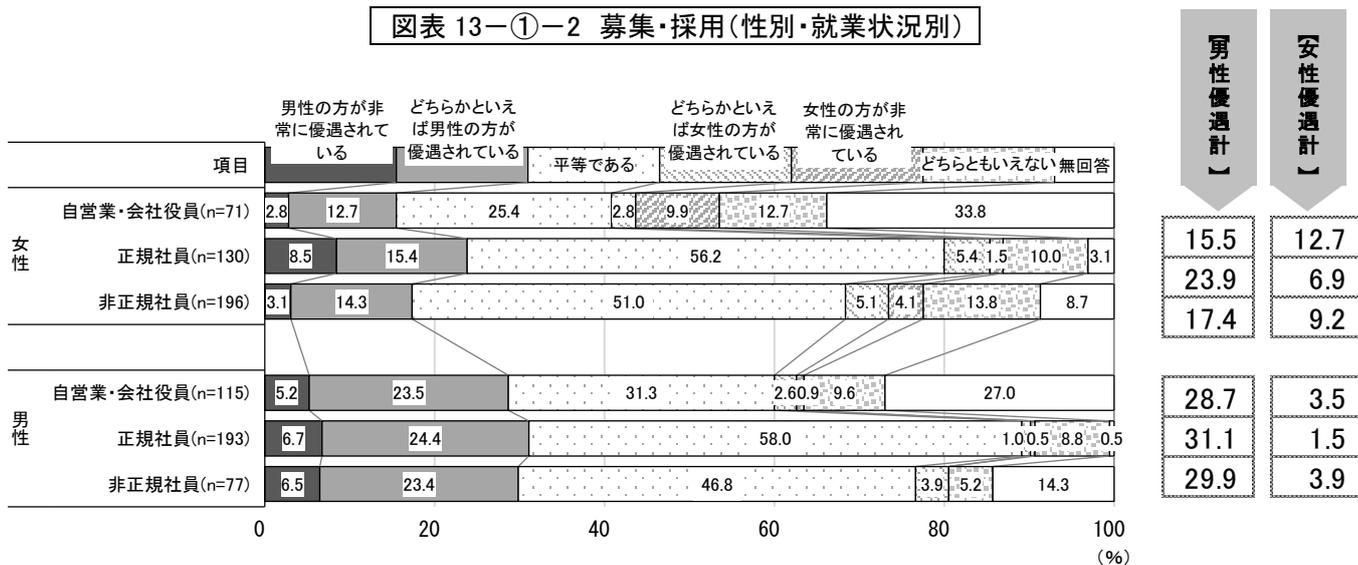
- 全体では、「平等である」は47.9%、『男性優遇計』は24.5%、『女性優遇計』は6.0%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が48.1%、男性が47.8%となっており、ほぼ同じ割合となっている。
- 性別・年代別で見ると、30代から40代女性、30代から50代男性で「平等である」が50%を超えている。

図表 13-①-1 募集・採用(性別・年代別)



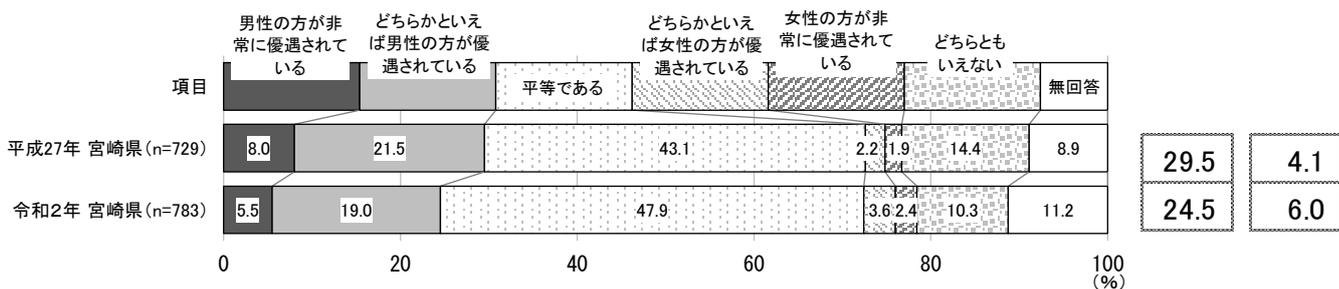
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、正規社員（女性 56.2%、男性 58.0%）が非正規社員（女性 51.0%、男性 46.8%）より男女とも高くなっている。

図表 13-①-2 募集・採用(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『男性優遇計』（平成 27 年調査 29.5%、令和 2 年調査 24.5%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 43.1%、令和 2 年調査 47.9%）は上がっている。

図表 13-①-3 募集・採用(時系列比較)

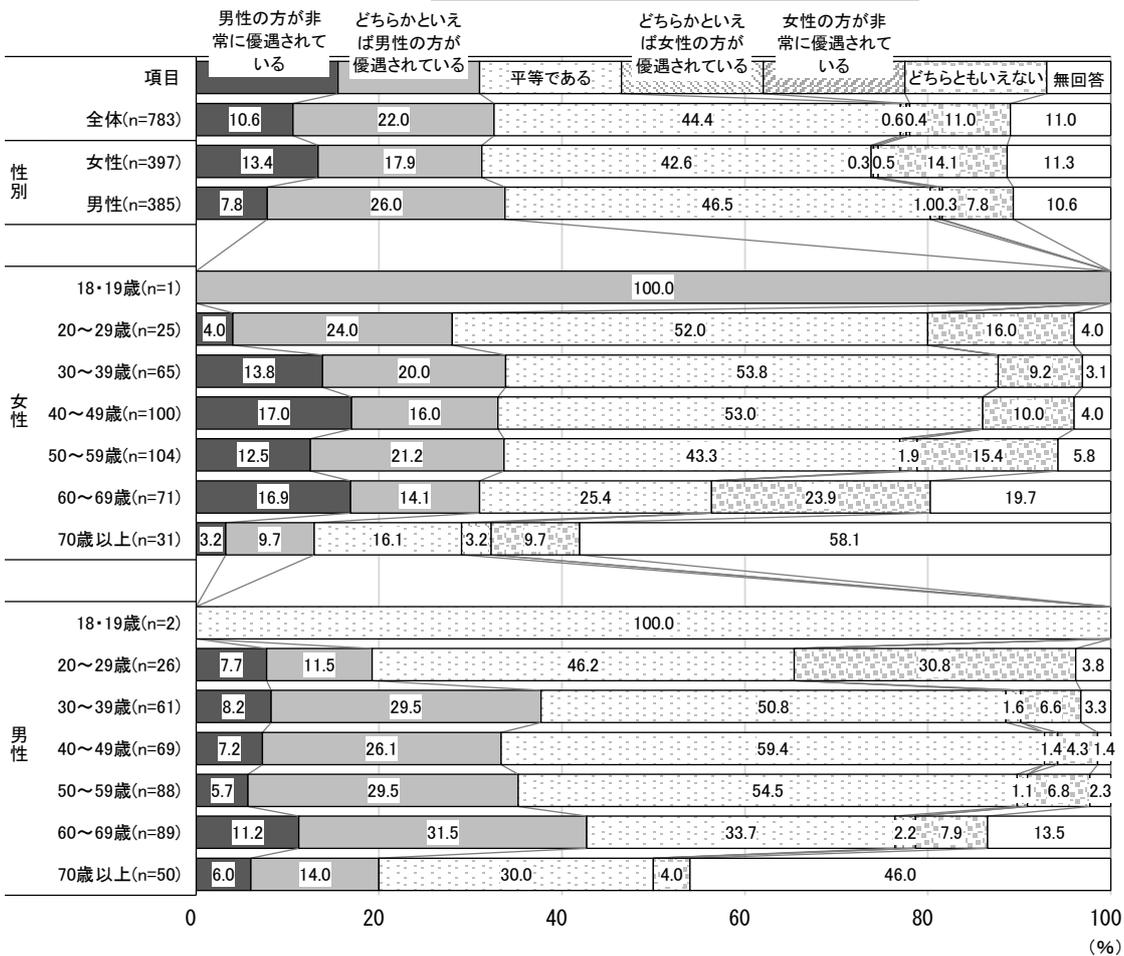


## ② 賃金

～平等と感じる人は4割強、男性優越感を持つ人は3割強

- 全体では、「平等である」は44.4%、『男性優越計』は32.6%、『女性優越計』は1.0%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が42.6%、男性が46.5%となっており、男性の方が3.9ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から40代女性、30代から50代男性で「平等である」が50%を超えている。

図表 13-②-1 賃金(性別・年代別)



男性優越計  
女性優越計

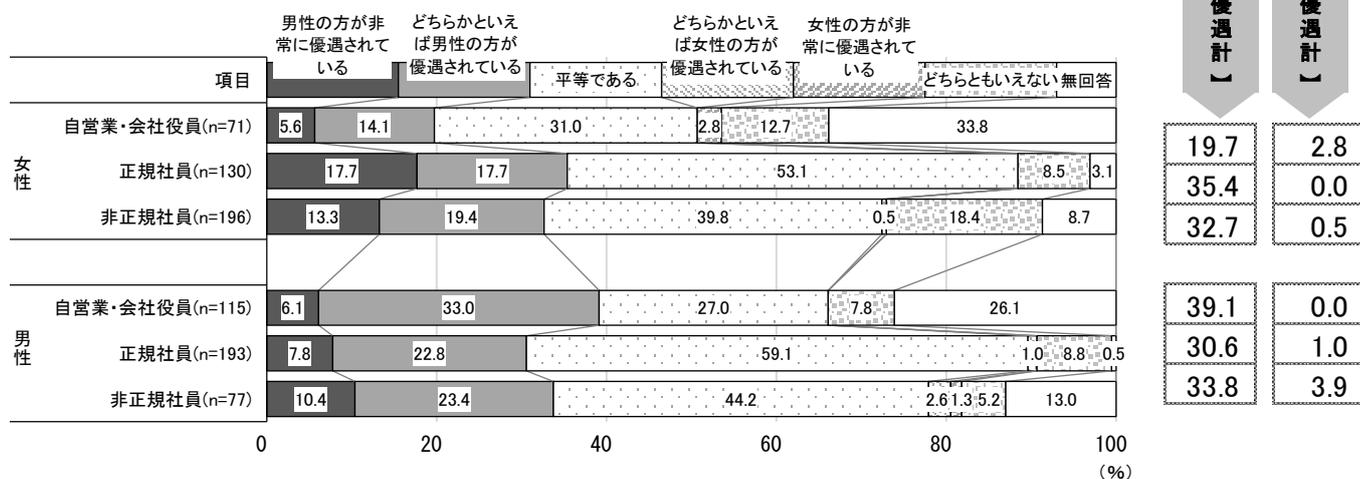
32.6	1.0
31.3	0.8
33.8	1.3

100.0	0.0
28.0	0.0
33.8	0.0
33.0	0.0
33.7	1.9
31.0	0.0
12.9	3.2

0.0	0.0
19.2	0.0
37.7	1.6
33.3	1.4
35.2	1.1
42.7	2.2
20.0	0.0

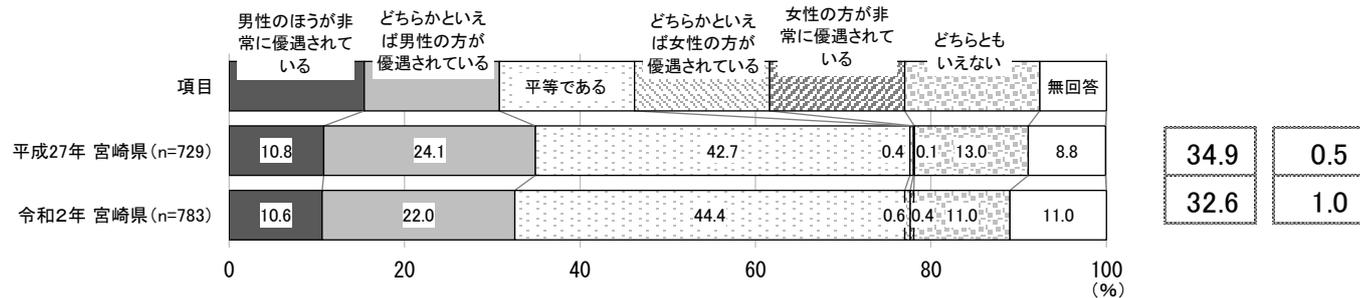
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、正規社員（女性 53.1%、男性 59.1%）が非正規社員（女性 39.8%、男性 44.2%）より男女とも高くなっている。

図表 13-②-2 賃金(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『男性優遇計』（平成 27 年調査 34.9%、令和 2 年調査 32.6%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 42.7%、令和 2 年調査 44.4%）は上がっている。

図表 13-②-3 賃金(時系列比較)

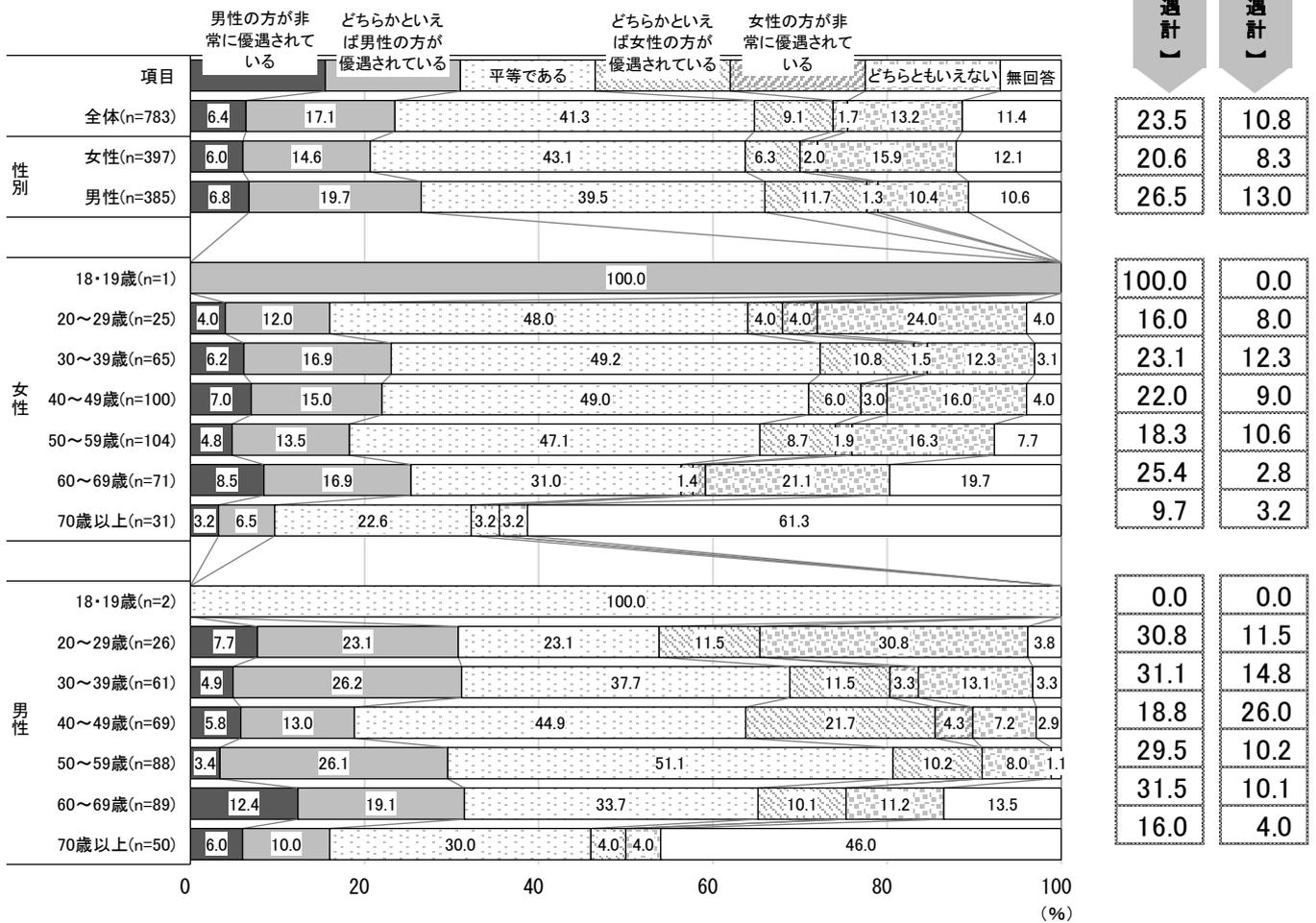


### ③ 仕事の内容

～平等と感じる人は4割強、男性優遇感を持つ人は2割強

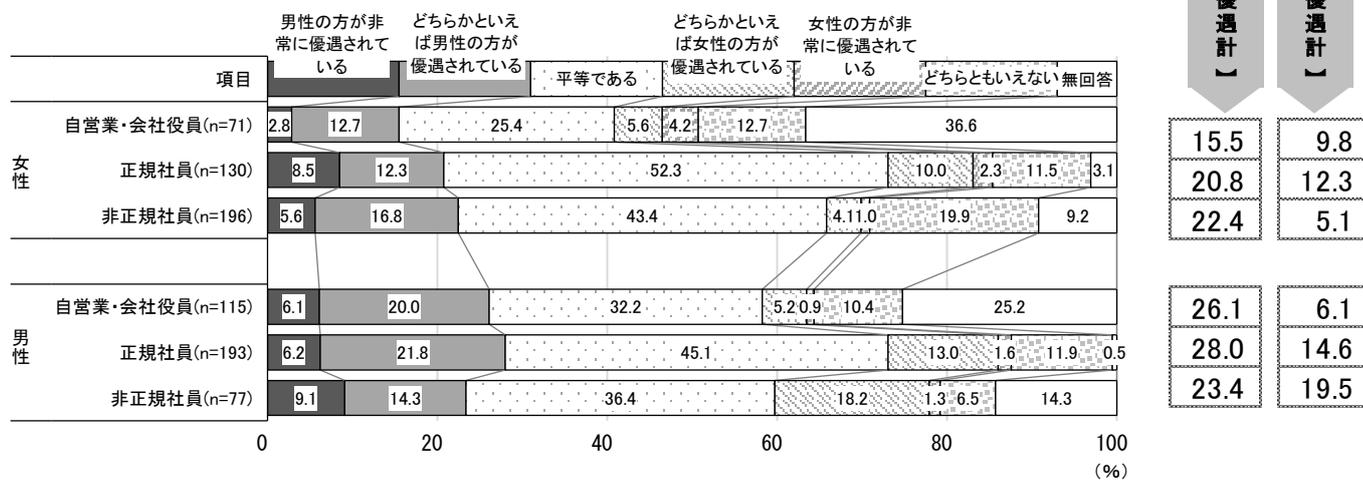
- 全体では、「平等である」は41.3%、『男性優遇計』は23.5%、『女性優遇計』は10.8%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が43.1%、男性が39.5%となっており、女性の方が3.6ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から50代女性、40代から50代男性で「平等である」が40%を超えている。

図表 13-③-1 仕事の内容(性別・年代別)



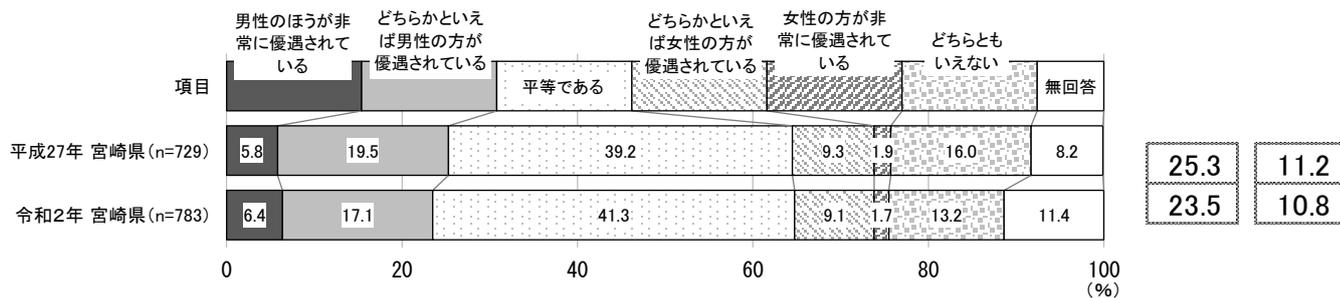
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は、正規社員（女性 52.3%、男性 45.1%）が非正規社員（女性 43.4%、男性 36.4%）より男女とも高くなっている。

図表 13-③-2 仕事の内容(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『男性優遇計』（平成 27 年調査 25.3%、令和 2 年調査 23.5%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 39.2%、令和 2 年調査 41.3%）は上がっている。

図表 13-③-3 仕事の内容(時系列比較)

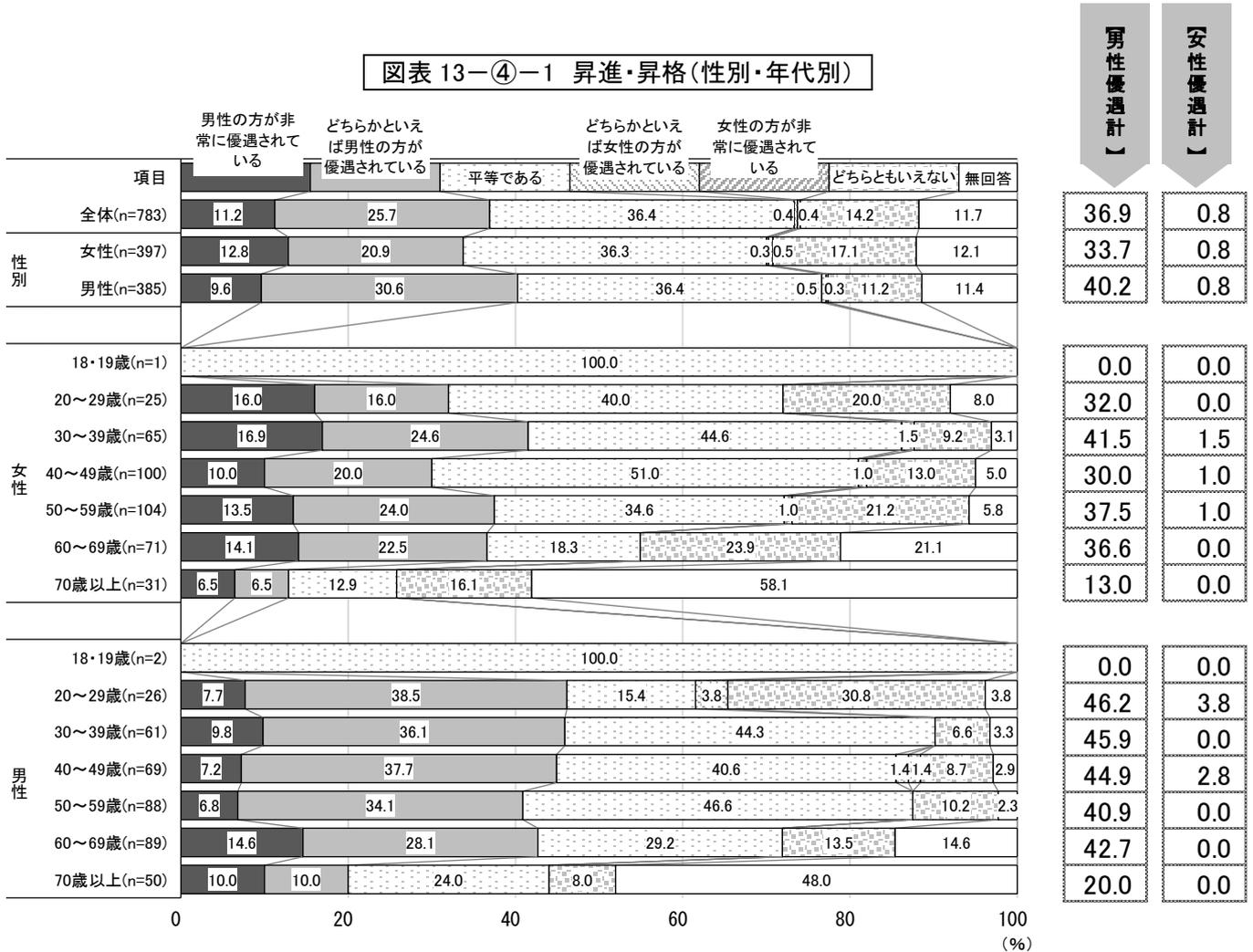


④ 昇進・昇格

～平等と感じる人は4割弱、男性優遇感を持つ人も4割弱

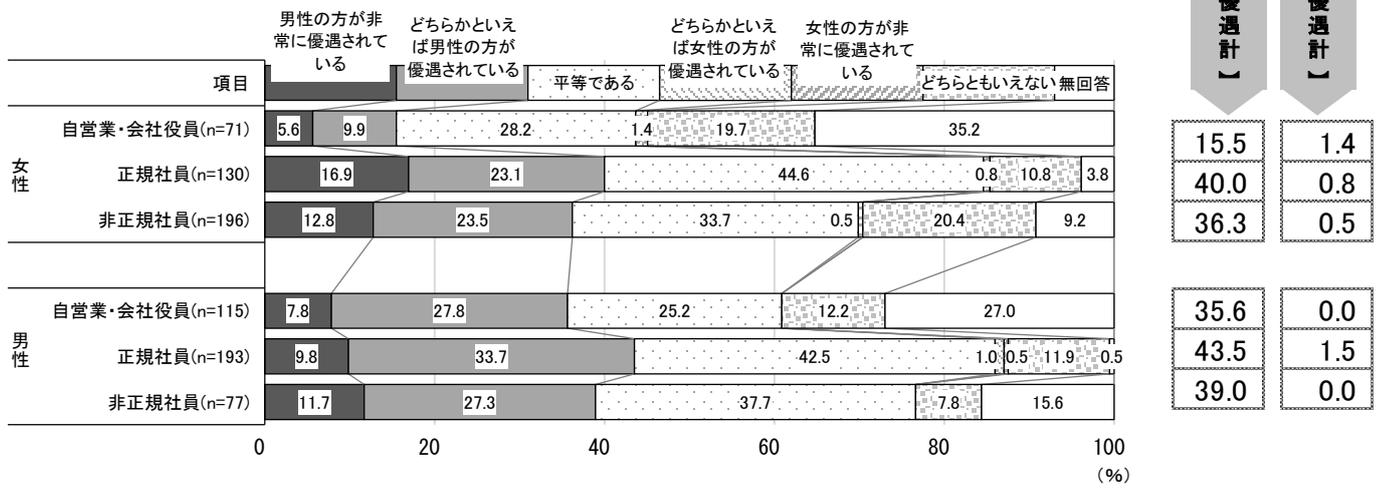
- 全体では、「平等である」は36.4%、『男性優遇計』は36.9%、『女性優遇計』は0.8%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が36.3%、男性が36.4%となっており、ほぼ同じ割合となっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から40代女性、30代から50代男性で「平等である」が40%を超えている。

図表 13-④-1 昇進・昇格(性別・年代別)



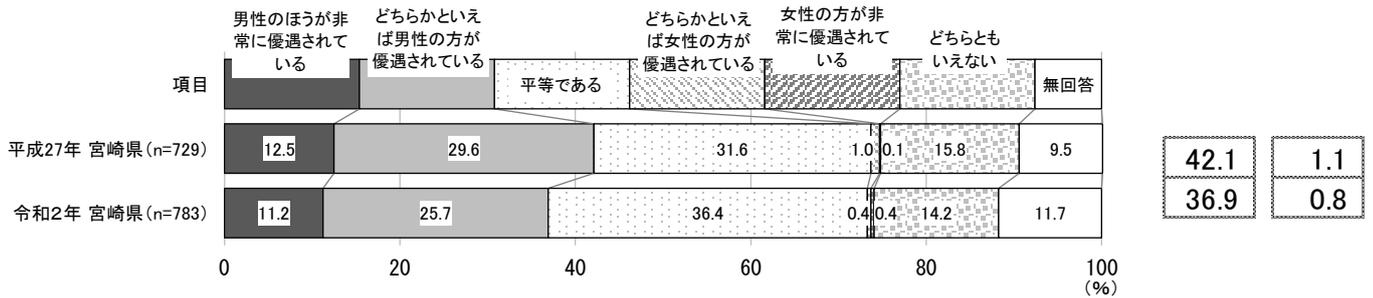
■ **性別・就業状況別**でみると、「平等である」は、正規社員（女性 44.6%、男性 42.5%）が非正規社員（女性 33.7%、男性 37.7%）より男女とも高くなっている。

図表 13-④-2 昇進・昇格(性別・就業状況別)



■ **時系列**で比較すると、『男性優遇計』（平成 27 年調査 42.1%、令和 2 年調査 36.9%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 31.6%、令和 2 年調査 36.4%）は上がっている。

図表 13-④-3 昇進・昇格(時系列比較)

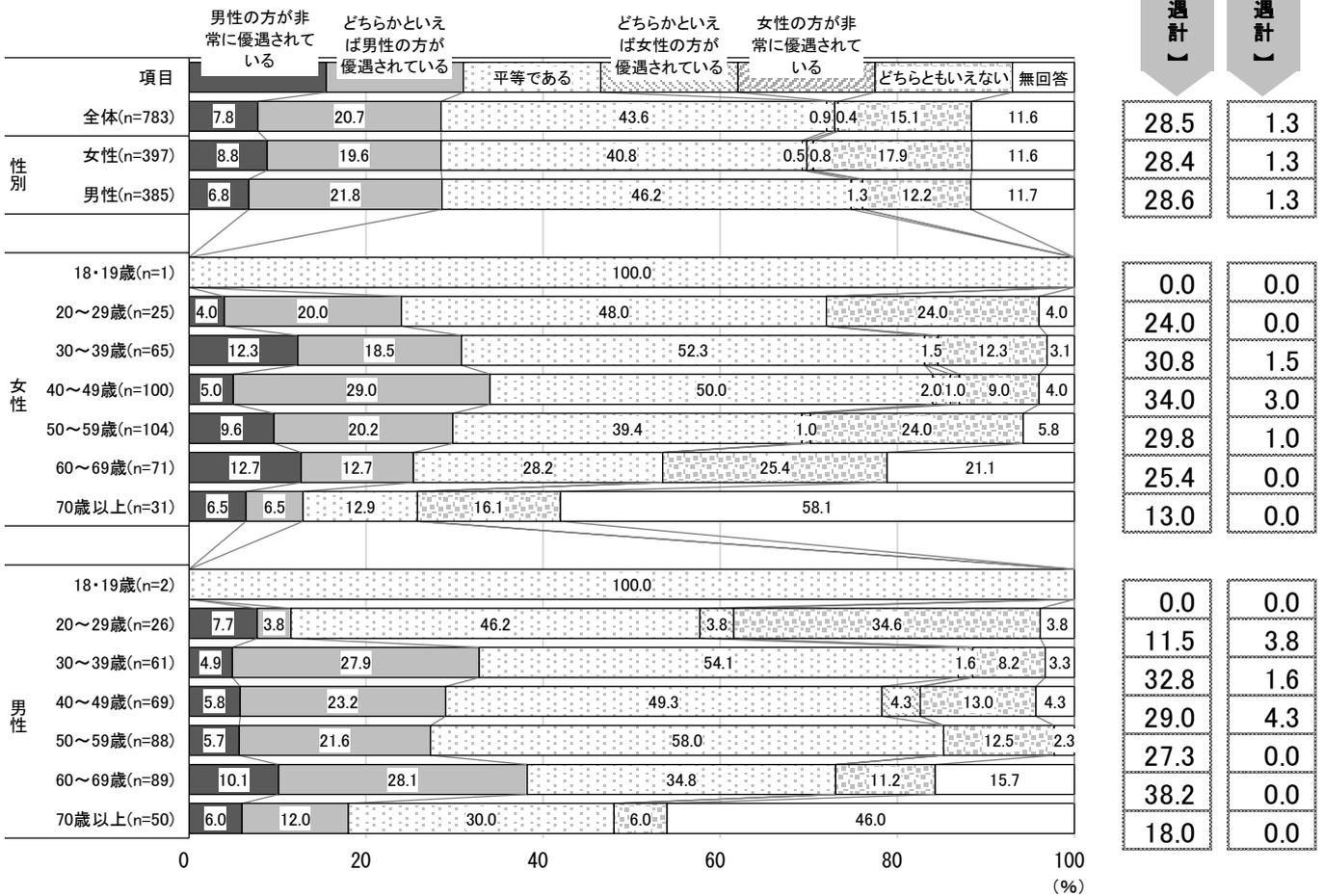


⑤ 能力評価

～平等と感じる人は4割強、男性優越感をもつ人は3割弱

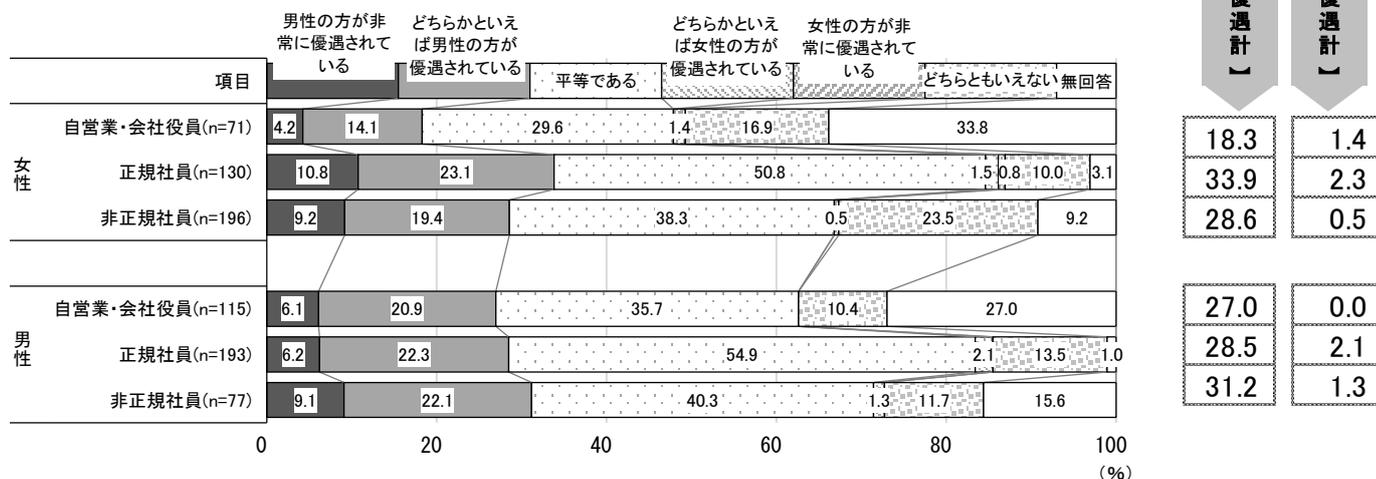
- 全体では、「平等である」は43.6%、『男性優越計』は28.5%、『女性優越計』は1.3%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が40.8%、男性が46.2%となっており、男性の方が5.4ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から40代女性、20代から50代男性で「平等である」が40%を超えている。

図表 13-⑤-1 能力評価(性別・年代別)



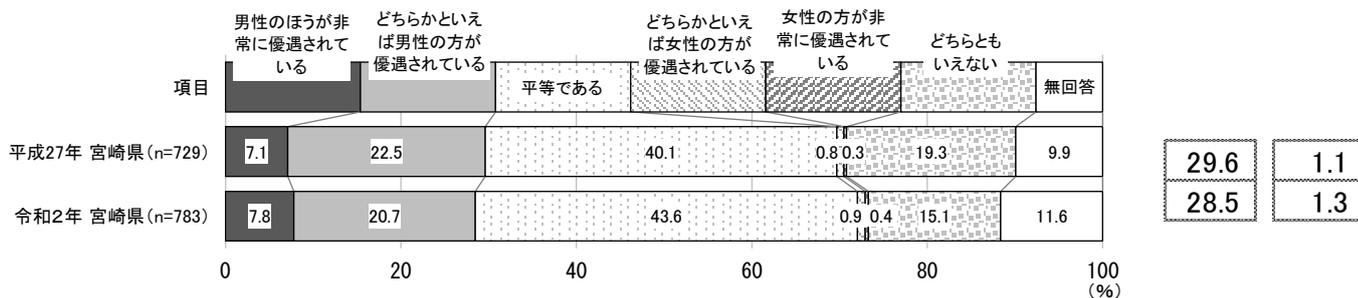
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、正規社員（女性 50.8%、男性 54.9%）が非正規社員（女性 38.3%、男性 40.3%）より男女とも高くなっている。

図表 13-⑤-2 能力評価(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『男性優遇計』（平成 27 年調査 29.6%、令和 2 年調査 28.5%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 40.1%、令和 2 年調査 43.6%）は上がっている。

図表 13-⑤-3 能力評価(時系列比較)

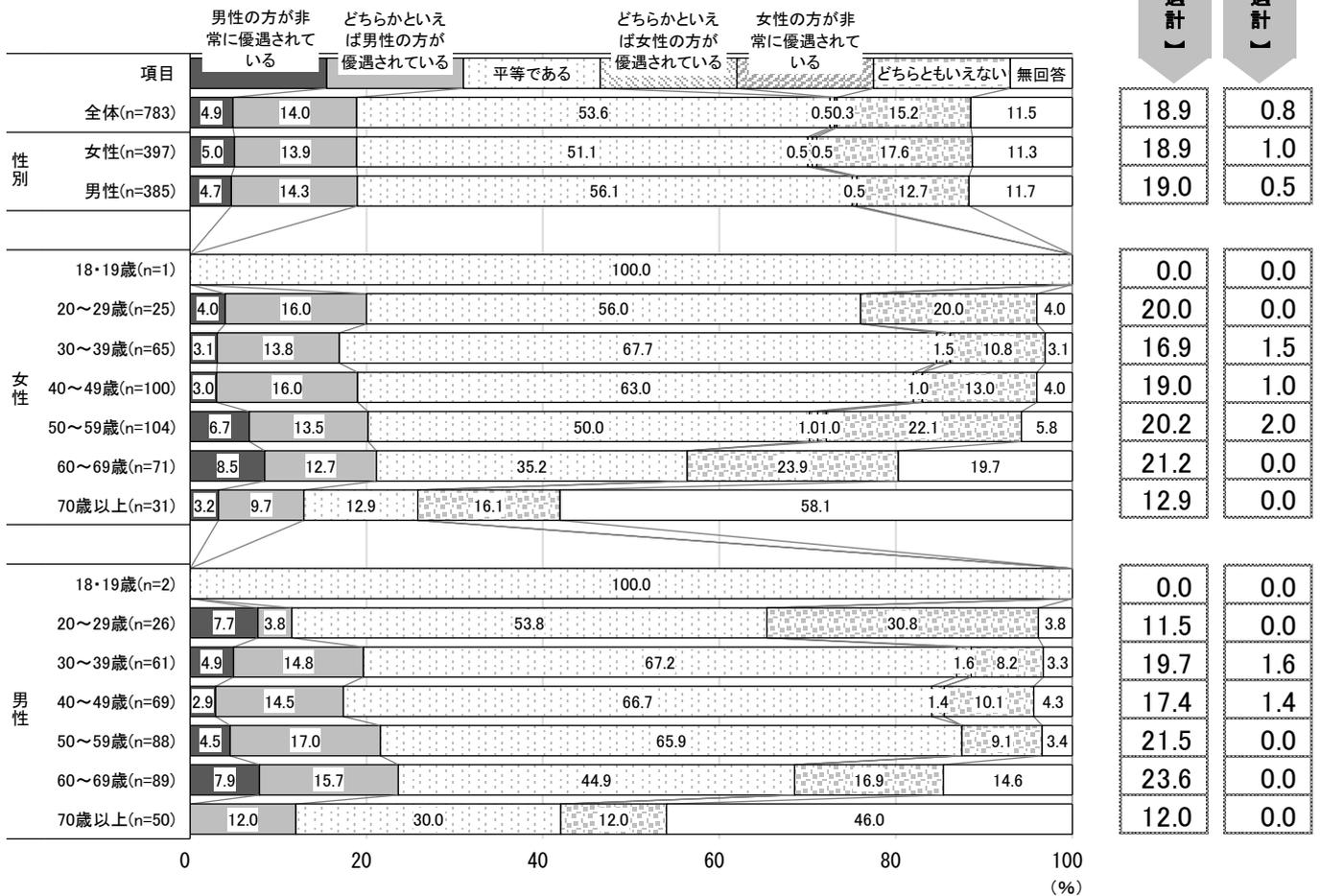


⑥ 研修の機会や内容

～平等と感じる人は5割強

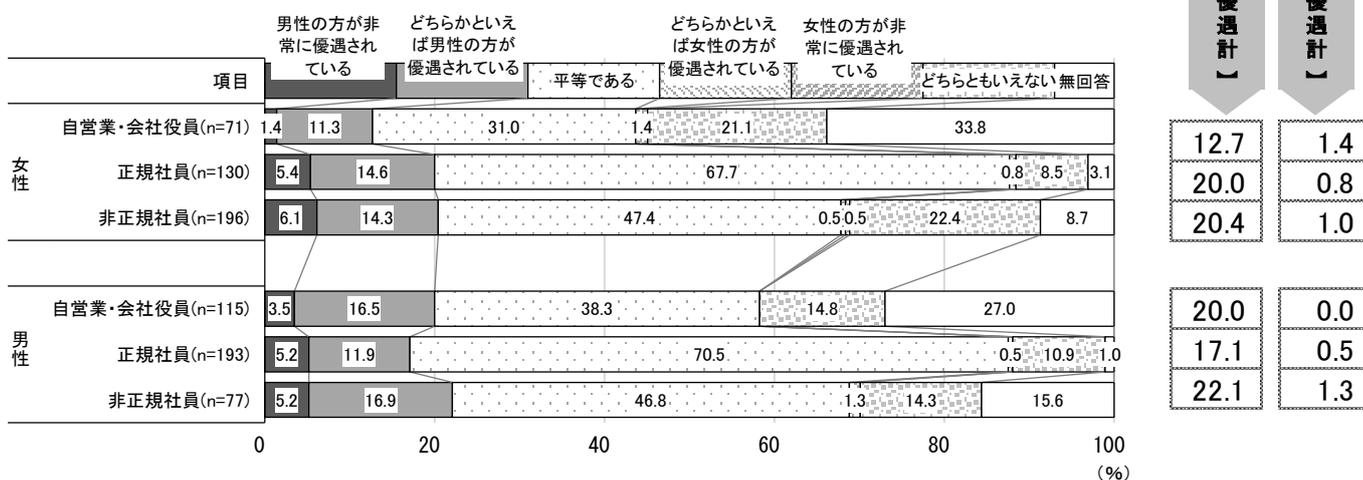
- 全体では、「平等である」は53.6%、『男性優遇計』は18.9%、『女性優遇計』は0.8%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が51.1%、男性が56.1%となっており、男性の方が5.0ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から50代女性、20代から50代男性で「平等である」が50%を超えている。

図表 13-⑥-1 研修の機会や内容(性別・年代別)



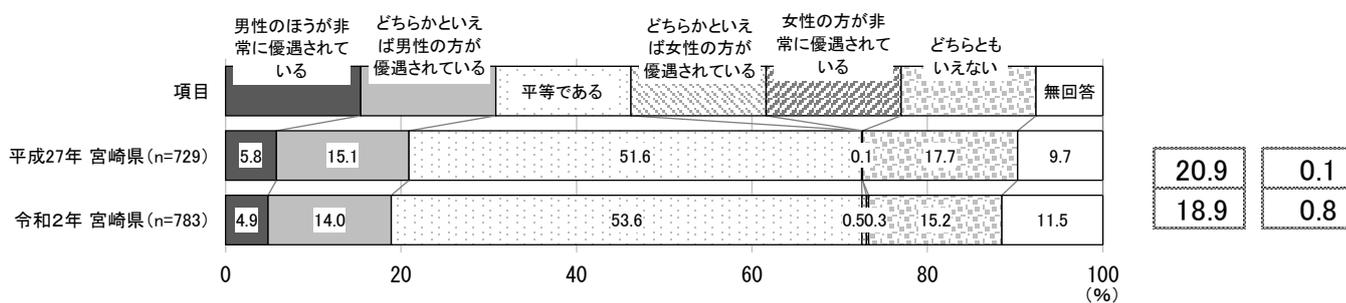
- 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、正規社員（女性 67.7%、男性 70.5%）が非正規社員（女性 47.4%、男性 46.8%）より男女とも高くなっている。

図表 13-⑥-2 研修の機会や内容(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、『男性優遇計』（平成 27 年調査 20.9%、令和 2 年調査 18.9%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 51.6%、令和 2 年調査 53.6%）は上がっている。

図表 13-⑥-3 研修の機会や内容(時系列比較)

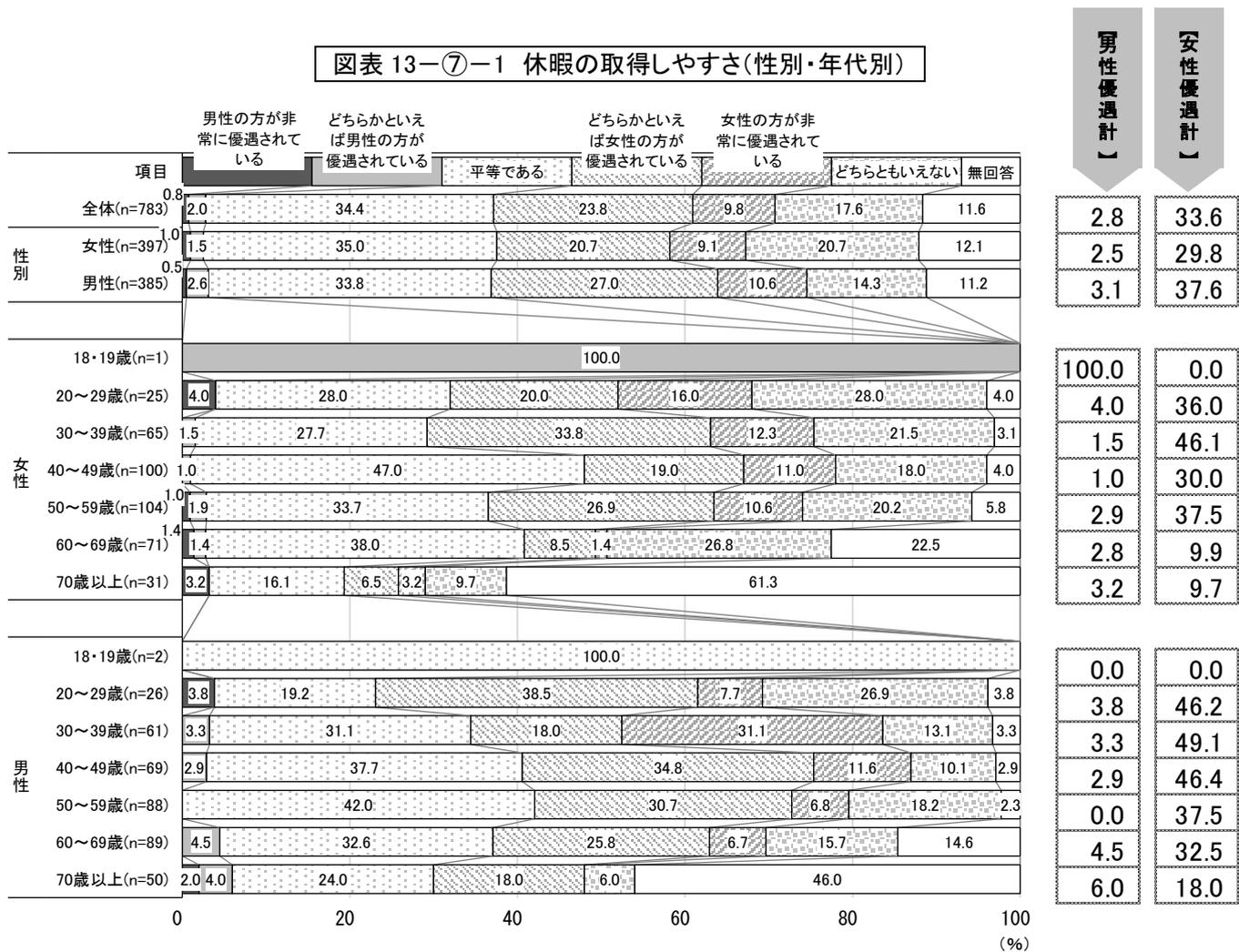


⑦ 育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ

～平等と感じる人は3割強、女性優遇感をもつ人も3割強

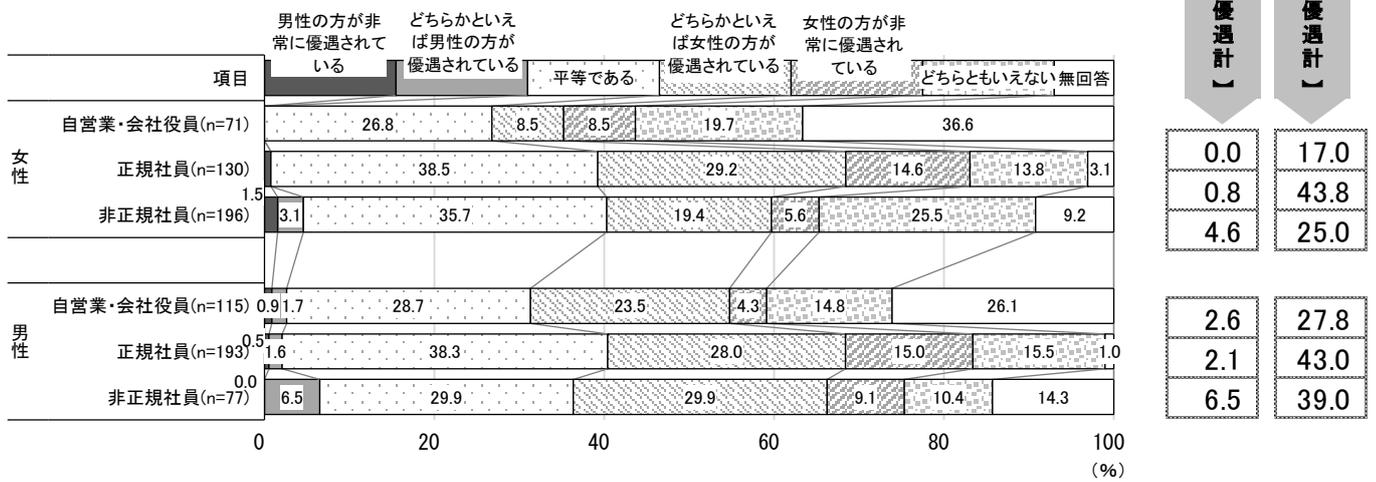
- 全体では、「平等である」は34.4%、『女性優遇計』は33.6%、『男性優遇計』は2.8%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は、女性が35.0%、男性が33.8%となっており、女性の方が1.2ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、40代から60代女性、30代から60代男性で「平等である」が30%を超えている。

図表 13-⑦-1 休暇の取得しやすさ(性別・年代別)



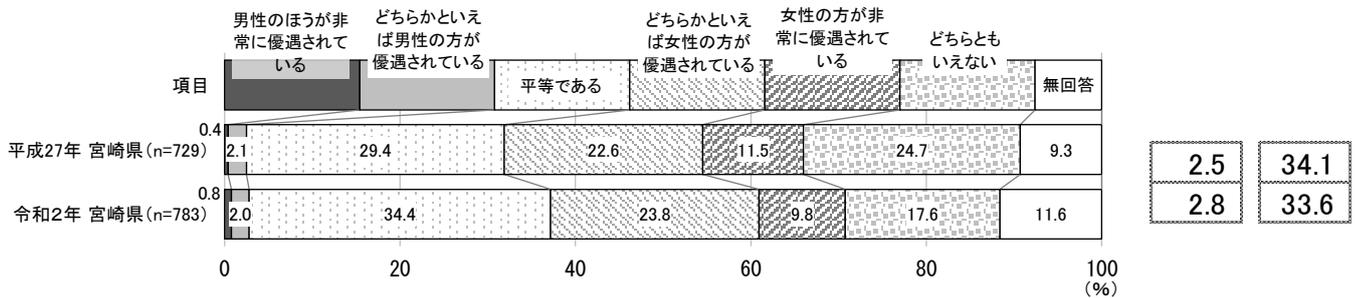
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は、正規社員（女性 38.5%、男性 38.3%）が非正規社員（女性 35.7%、男性 29.9%）より男女とも高くなっている。

図表 13-⑦-2 休暇の取得しやすさ(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『女性優遇計』（平成 27 年調査 34.1%、令和 2 年調査 33.6%）は下がっており、「平等である」（平成 27 年調査 29.4%、令和 2 年調査 34.4%）は上がっている。

図表 13-⑦-3 休暇の取得しやすさ(時系列比較)



(14) 女性の就業についての意識

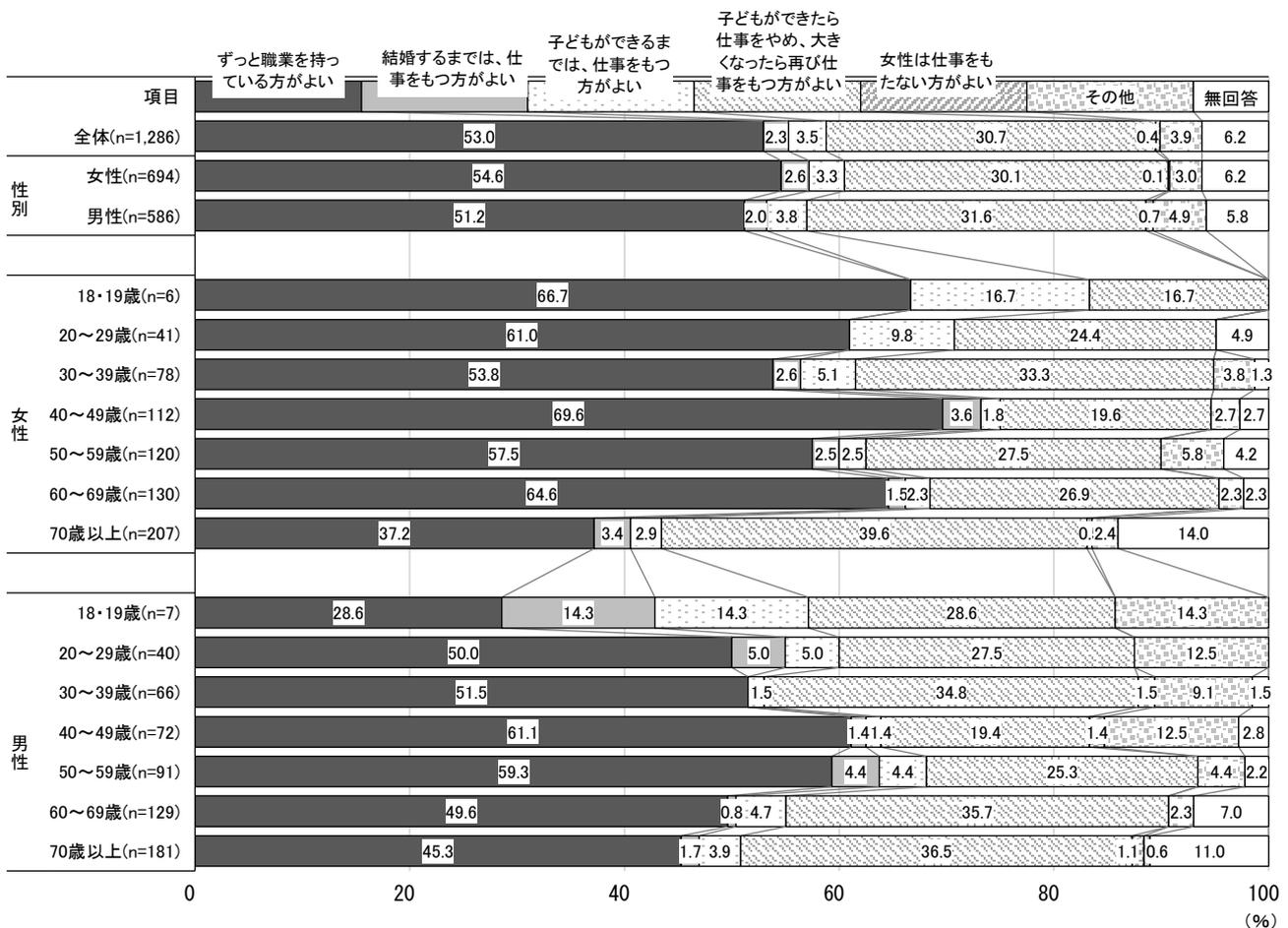
女性が出産や育児によって職を離れ、30代を中心に働く女性が減少する「M字カーブ減少」は欧米にない日本の特徴です。近年、このカーブは浅くなってきていますが、女性の就労について、あなたはどのような考えをお持ちですか。（〇は1つだけ）

女性の働き方についての意識は、

「就業継続型」が5割強、「中断再就職型」が3割強  
時系列で見ると、「就業継続型」は上昇している

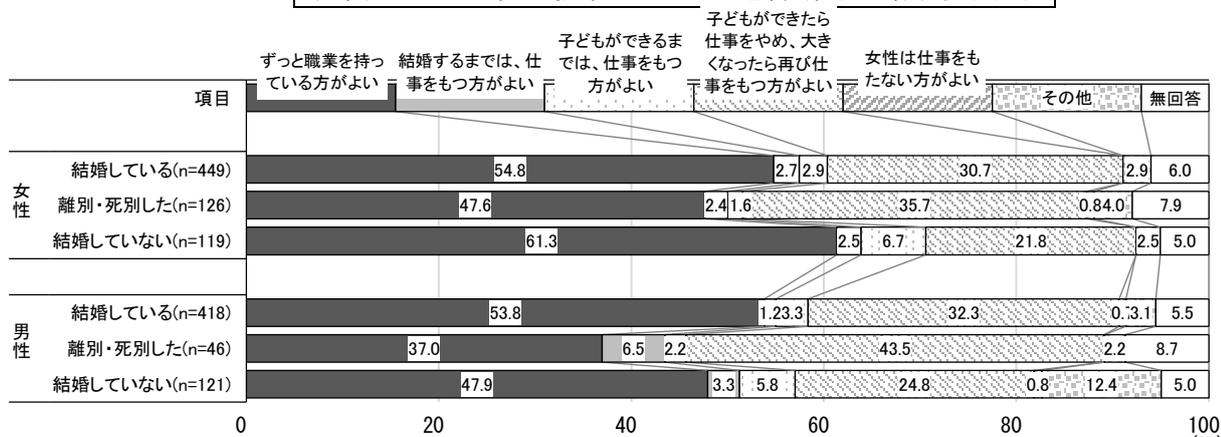
- 全体では、『就業継続型（ずっと職業を持っている方がよい）』が53.0%と最も高く、次いで『中断再就職型（子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい）』が30.7%となっている。
- 性別で見ると、女性では『就業継続型』が54.6%、『中断再就職型』が30.1%となっており、男性では『就業継続型』が51.2%、『中断再就職型』が31.6%となっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から60代女性、20代から50代男性で『就業継続型』が50%を超えている。

図表 14-1 女性の就業についての意識(性別・年代別)



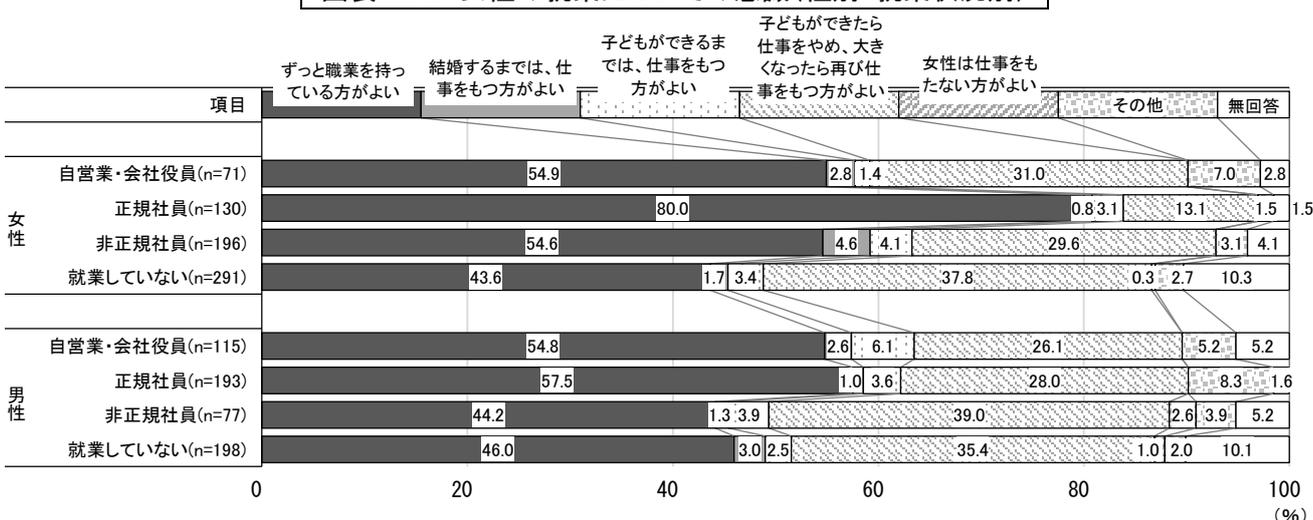
- 性別・婚姻状況別で見ると、『就業継続型』の男女差は、結婚している（女性 54.8%、男性 53.8%）では 1.0 ポイントとなっているが、結婚していない（女性 61.3%、男性 47.9%）では 13.4 ポイントとなっている。

図表 14-2 女性の就業についての意識(性別・婚姻状況別)



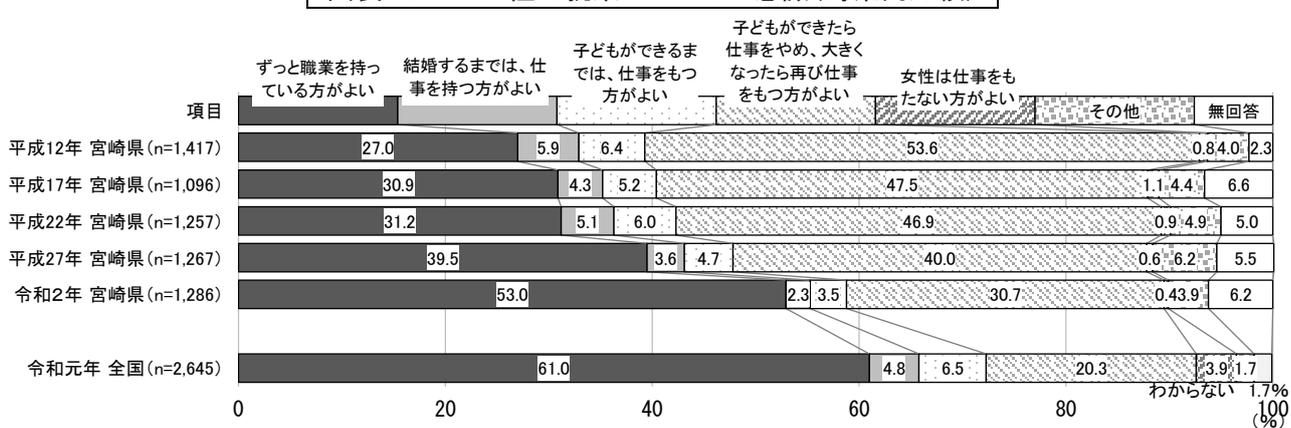
- 性別・就業状況別で見ると、『就業継続型』は、正規社員（女性 80.0%、男性 57.5%）が非正規社員（女性 54.6%、男性 44.2%）より男女とも高くなっている。

図表 14-3 女性の就業についての意識(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、『就業継続型』は平成 12 年調査では 27.0%であったが、17 年調査では 30.9%、22 年調査では 31.2%、27 年調査では 39.5%と推移しており、今回調査では 53.0%となっている。

図表 14-4 女性の就業についての意識(時系列比較)



※選択肢「ずっと職業を持っている方がよい」について、平成 27 年は「子どもができても、仕事を続ける方がよい」、平成 17・22 年は「子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい」という表現であるが、同一として集計した。

※選択肢の順については、平成 27 年調査以前とは異なっている。

※全国調査については、選択肢に「わからない」がある。

(15) 女性の就業継続について

女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

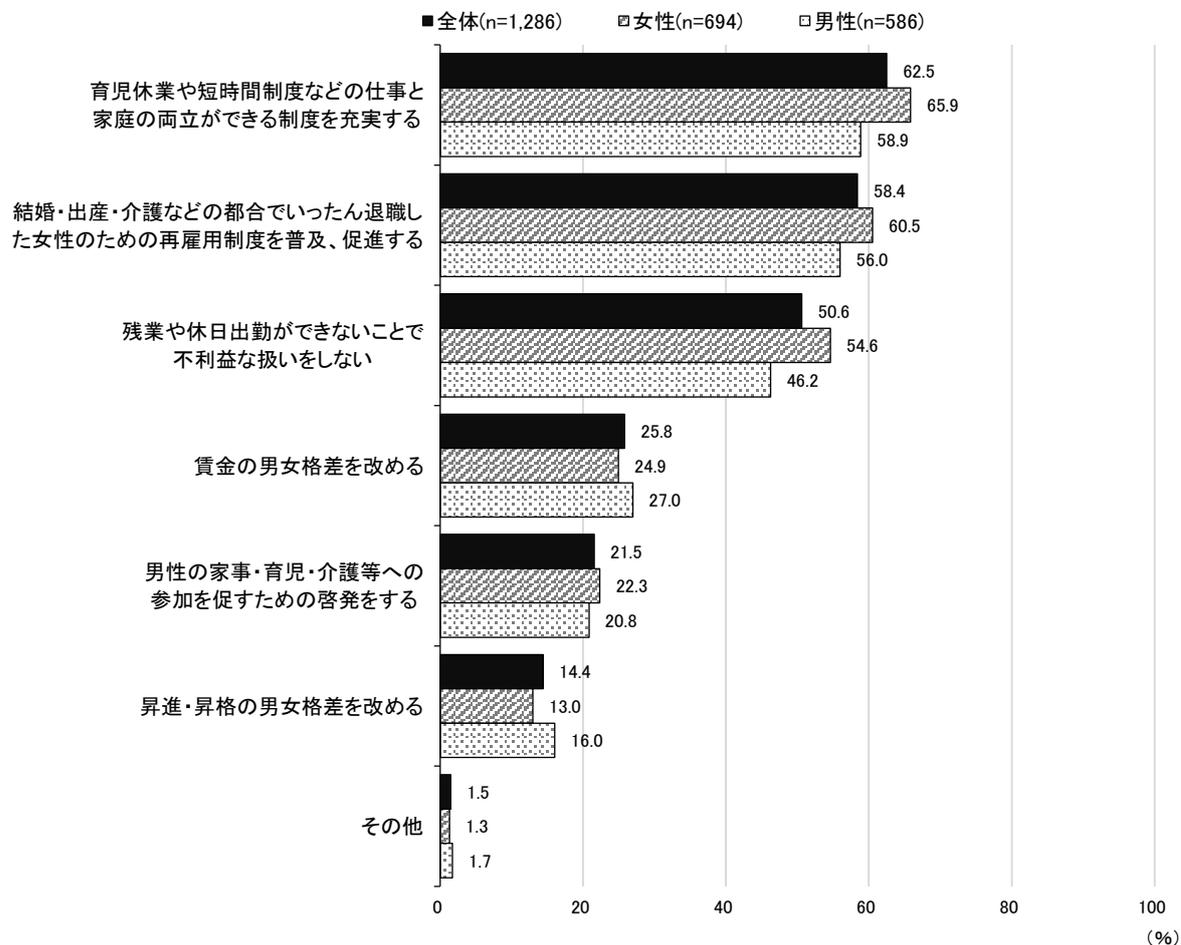
女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるために必要だと思うことは

「仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が 6 割強

「退職した女性のための再雇用制度の普及・促進」が 6 割弱

- 全体では、「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が 62.5%と最も高く、次いで「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する」が 58.4%、「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」が 50.6%となっている。
- 性別でみると、男女差は、「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」（女性 54.6%、男性 46.2%）で 8.4 ポイントと最も高く、次いで「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」（女性 65.9%、男性 58.9%）で 7.0 ポイントとなっている。

図表 15-1 女性の就業継続のために必要な措置



図表 15-2 女性の就業継続のために必要な措置

		が育 児休 業や 短時 間制 度を 充実 する	結 婚・ 出産 のた めの 再雇 用制 度を 普及 、促 進す る	残 業や 休日 出勤 がで きな いこ とで 不利 益な 扱い をす ない	賃 金 の男 女格 差を 改め る	男 性の 家事 ・育 児・ 介護 等へ の参 加を 促す ため の啓 発を する	昇 進・ 昇格 の男 女格 差を 改め る	そ の他
全体(n=1,286)		62.5	58.4	50.6	25.8	21.5	14.4	1.5
性別	女性(n=694)	65.9	60.5	54.6	24.9	22.3	13.0	1.3
	男性(n=586)	58.9	56.0	46.2	27.0	20.8	16.0	1.7
性別・年齢別	女性							
	18・19歳(n=6)	100.0	83.3	66.7	16.7	66.7	0.0	0.0
	20～29歳(n=41)	65.9	53.7	61.0	24.4	34.1	19.5	0.0
	30～39歳(n=78)	74.4	57.7	64.1	21.8	15.4	12.8	2.6
	40～49歳(n=112)	66.1	52.7	59.8	27.7	26.8	10.7	0.9
	50～59歳(n=120)	66.7	60.8	55.0	27.5	20.8	17.5	0.8
	60～69歳(n=130)	73.1	68.5	63.8	26.2	22.3	10.0	0.8
	70歳以上(n=207)	56.5	61.4	40.6	22.7	19.8	12.6	1.9
	男性							
	18・19歳(n=7)	14.3	42.9	42.9	57.1	0.0	28.6	0.0
	20～29歳(n=40)	55.0	40.0	37.5	27.5	20.0	20.0	2.5
	30～39歳(n=66)	62.1	54.5	50.0	22.7	27.3	15.2	1.5
	40～49歳(n=72)	70.8	48.6	47.2	23.6	16.7	18.1	2.8
	50～59歳(n=91)	62.6	56.0	49.5	20.9	23.1	15.4	2.2
60～69歳(n=129)	62.8	60.5	50.4	24.0	20.2	14.7	0.0	
70歳以上(n=181)	50.8	60.2	42.0	33.7	20.4	15.5	2.2	
性別・婚姻状況別	女性							
	結婚している(n=449)	68.4	60.8	56.8	24.7	23.4	12.2	1.8
	離別・死別した(n=126)	55.6	63.5	43.7	23.8	18.3	11.1	0.8
	結婚していない(n=119)	67.2	56.3	58.0	26.9	22.7	17.6	0.0
	男性							
	結婚している(n=418)	62.0	58.1	49.0	27.3	22.2	15.1	1.0
離別・死別した(n=46)	41.3	56.5	34.8	21.7	21.7	15.2	4.3	
結婚していない(n=121)	55.4	48.8	41.3	27.3	15.7	19.8	3.3	
性別・就業状況別	女性							
	就業している(n=397)	69.5	59.7	59.2	25.2	22.9	12.6	1.0
	就業していない(n=291)	60.8	61.2	48.5	24.7	22.0	13.7	1.7
	男性							
就業している(n=385)	63.9	56.9	49.6	23.4	21.3	17.1	1.8	
就業していない(n=198)	49.5	54.5	40.4	33.3	20.2	14.1	1.5	
前回	平成27年(n=1,267)	63.5	61.0	52.2	18.3	24.5	11.5	2.9
今回	令和 2年(n=1,286)	62.5	58.4	50.6	25.8	21.5	14.4	1.5

### (16) 男性の育児休業取得について

宮崎県の令和元年度の労働条件等実態調査によると育児休業取得率は女性が 91.8 パーセントであるのに対し、男性は 10.2 パーセントと低い水準になっています。男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思えますか。（〇はいくつでも）

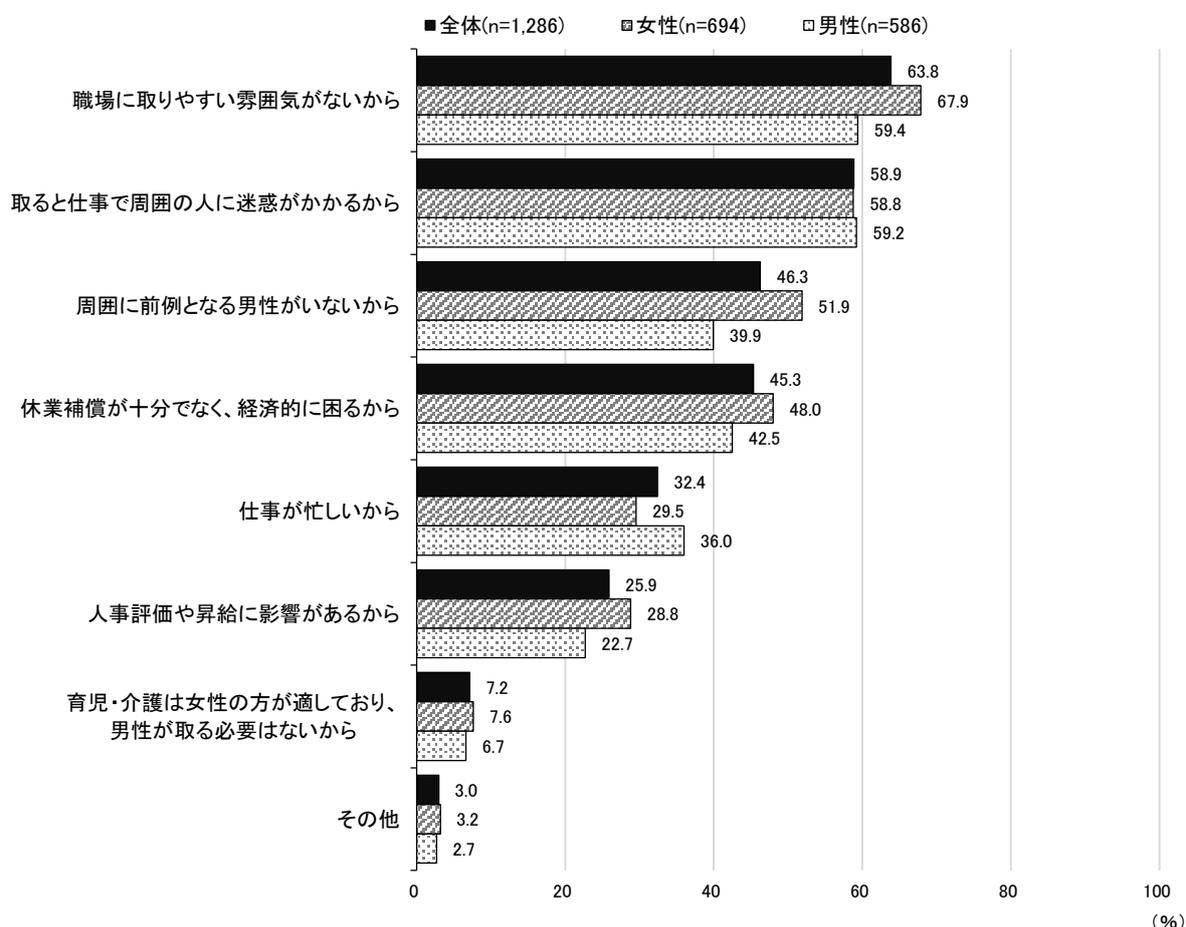
#### 男性の育児休業取得率が低い理由は

「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 6 割強

「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が 6 割弱

- 全体では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 63.8%と最も高く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が 58.9%、「周囲に前例となる男性がないから」が 46.3%となっている。
- 性別でみると、男女差は、「周囲に前例となる男性がないから」（女性 51.9%、男性 39.9%）で 12.0 ポイントと最も高く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」（女性 67.9%、男性 59.4%）で 8.5 ポイントとなっている。

図表 16-1 男性の育児休業取得率が低い理由



図表 16-2 男性の育児休業取得率が低い理由

		職場に取りやすい雰囲気がないから	取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから	周囲に前例となる男性がいないから	休業補償が十分でなく、経済的に困るから	仕事が忙しいから	人事評価や昇給に影響があるから	育児・介護は女性の方が適しており、男性が取る必要はないから	その他
全体(n=1,286)		63.8	58.9	46.3	45.3	32.4	25.9	7.2	3.0
性別	女性(n=694)	67.9	58.8	51.9	48.0	29.5	28.8	7.6	3.2
	男性(n=856)	59.4	59.2	39.9	42.5	36.0	22.7	6.7	2.7
性別・年齢別	女性								
	18・19歳(n=6)	66.7	16.7	100.0	83.3	16.7	16.7	0.0	0.0
	20～29歳(n=41)	80.5	65.9	58.5	58.5	34.1	26.8	4.9	2.4
	30～39歳(n=78)	83.3	60.3	70.5	64.1	39.7	41.0	9.0	3.8
	40～49歳(n=112)	62.5	67.0	60.7	42.9	37.5	37.5	6.3	6.3
	50～59歳(n=120)	76.7	65.0	62.5	44.2	35.8	26.7	10.0	1.7
	60～69歳(n=130)	76.9	62.3	49.2	53.1	29.2	34.6	6.9	3.1
	70歳以上(n=207)	51.7	47.8	32.9	40.6	17.4	17.9	7.7	2.4
	男性								
	18・19歳(n=7)	57.1	28.6	57.1	28.6	14.3	28.6	14.3	0.0
	20～29歳(n=40)	60.0	52.5	55.0	37.5	40.0	25.0	5.0	7.5
	30～39歳(n=66)	66.7	60.6	53.0	53.0	53.0	30.3	7.6	1.5
	40～49歳(n=72)	68.1	76.4	51.4	44.4	48.6	22.2	4.2	8.3
	50～59歳(n=91)	62.6	58.2	47.3	53.8	39.6	29.7	3.3	1.1
60～69歳(n=129)	58.9	61.2	34.9	37.2	27.9	16.3	4.7	1.6	
70歳以上(n=181)	51.9	53.6	26.5	37.6	28.7	20.4	10.5	1.7	
性別・婚姻状況別	女性								
	結婚している(n=449)	69.7	59.9	52.8	49.9	33.6	29.0	8.2	3.6
	離別・死別した(n=126)	57.9	58.7	42.9	40.5	22.2	26.2	8.7	1.6
	結婚していない(n=119)	71.4	54.6	58.0	48.7	21.8	31.1	4.2	3.4
	男性								
	結婚している(n=418)	60.5	60.3	40.0	41.9	35.9	22.0	6.0	2.6
離別・死別した(n=46)	47.8	50.0	26.1	45.7	34.8	26.1	6.5	0.0	
結婚していない(n=121)	60.3	59.5	45.5	43.8	37.2	24.0	8.3	4.1	
性別・就業状況別	女性								
	就業している(n=397)	71.0	64.0	60.2	51.9	33.2	31.0	8.3	3.8
	就業していない(n=291)	64.3	52.6	40.2	43.0	24.7	25.8	6.9	2.4
	男性								
就業している(n=385)	62.3	60.5	45.5	45.2	41.0	23.1	5.2	3.4	
就業していない(n=198)	54.0	57.1	29.3	37.4	26.8	21.7	8.6	1.5	
前回	平成27年(n=1,267)	47.4	33.0	25.3	28.6	12.0	11.8	5.3	2.4
今回	令和 2年(n=1,286)	63.8	58.9	46.3	45.3	32.4	25.9	7.2	3.0

※前回の調査(平成27年)は、回答を2つまでとしている。

## 4 人権への配慮について

### (17) 配偶者等からの暴力に対する意識

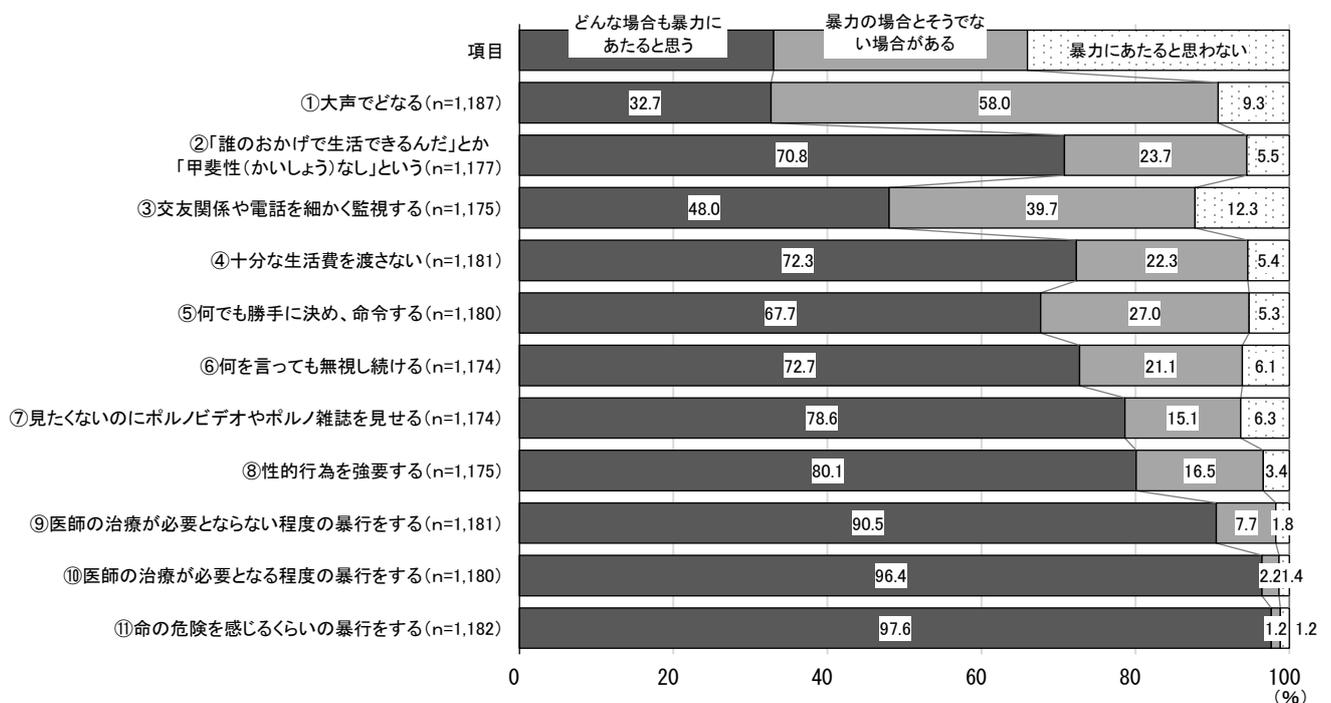
あなたは、あなたの夫や妻又は恋人が、次の①～⑪のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

**暴行や性的行為の強要など身体におよぶ行為は、  
「どんな場合も暴力にあたる」との考えが8割以上**

全ての設問において、無回答の方を除いて割合を比較している。

- 暴行や性的行為の強要など身体におよぶ行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」は80%以上となっている。
- 身体に直接およばない行為については、身体におよぶ行為と比較して「どんな場合も暴力にあたると思う」は低くなっている。
- 「どんな場合も暴力にあたると思う」は「大声でどなる」が32.7%と最も低くなっており、「暴力にあたると思わない」は「交友関係や電話を細かく監視する」が12.3%と最も高くなっている。

図表 17-1 配偶者等からの暴力に対する意識

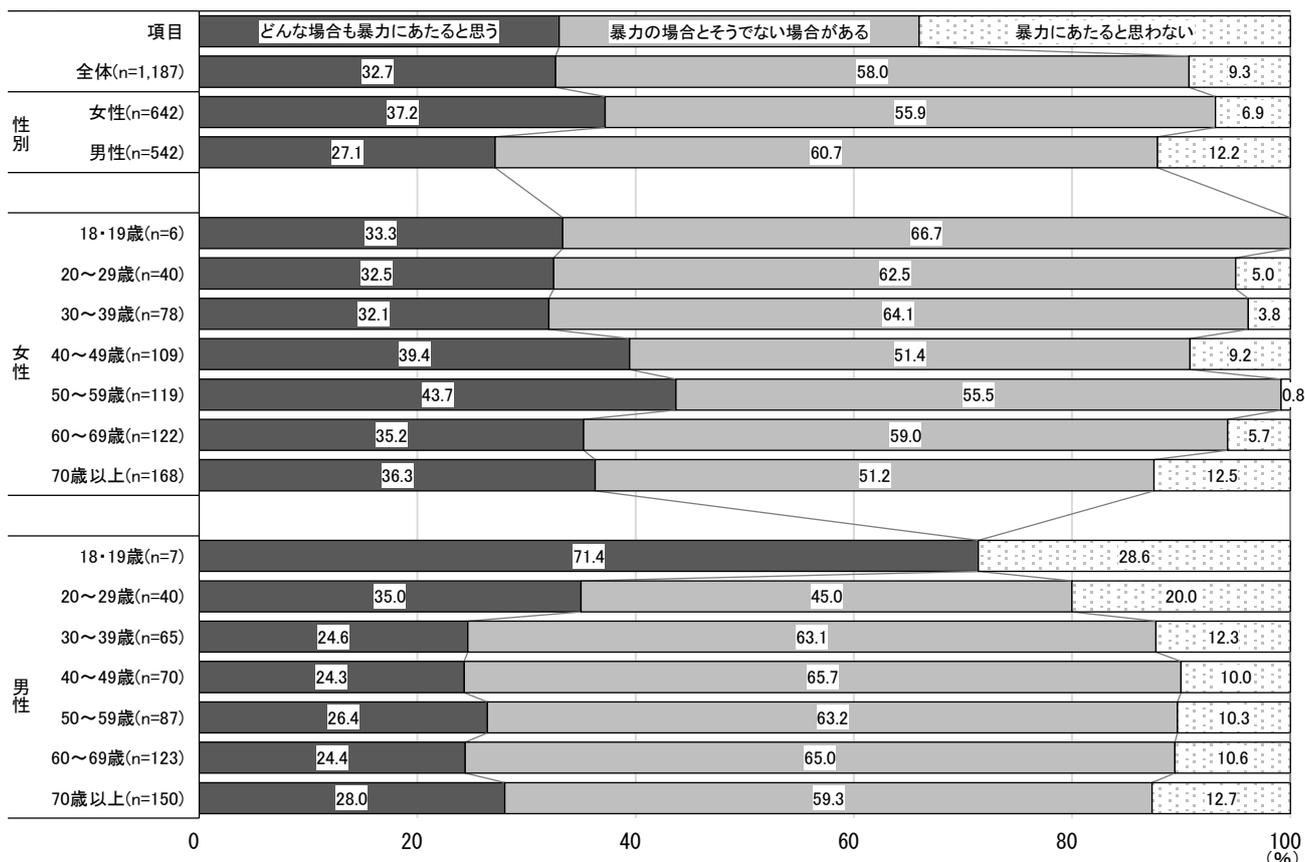


## ① 大声でどなる

### ～どんな場合も暴力にあたると思う人が3割強

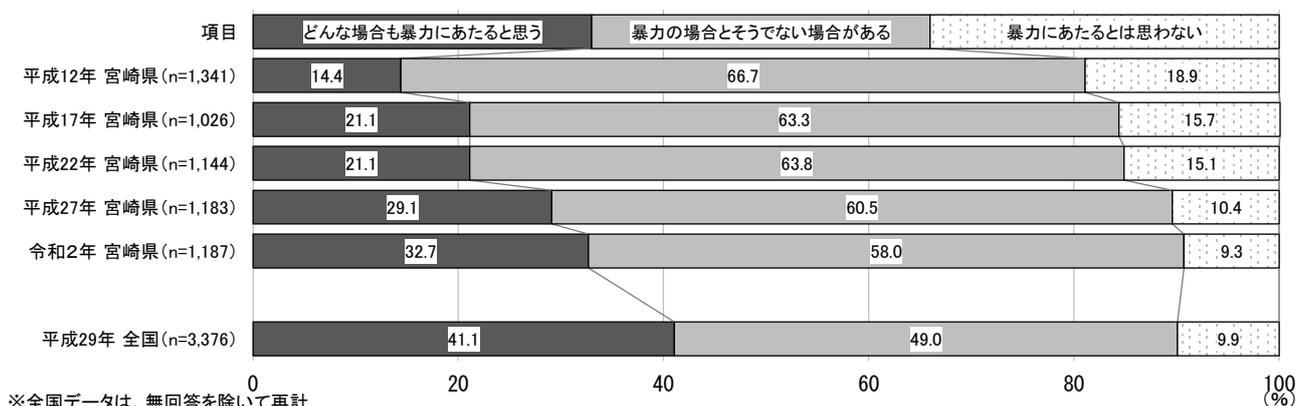
- **全体**では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は32.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は58.0%、「暴力にあたると思わない」は9.3%となっている。
- **性別**でみると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が37.2%、男性が27.1%となっており、女性の方が10.1ポイント高くなっている。

図表 17-①-1 大声でどなる(性別・年代別)



- **時系列**で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では14.4%であったが、17年調査、22年調査では21.1%、27年調査では29.1%と推移しており、今回調査では32.7%となっている。

図表 17-①-2 大声でどなる(時系列・全国比較)



※全国データは、無回答を除いて再計

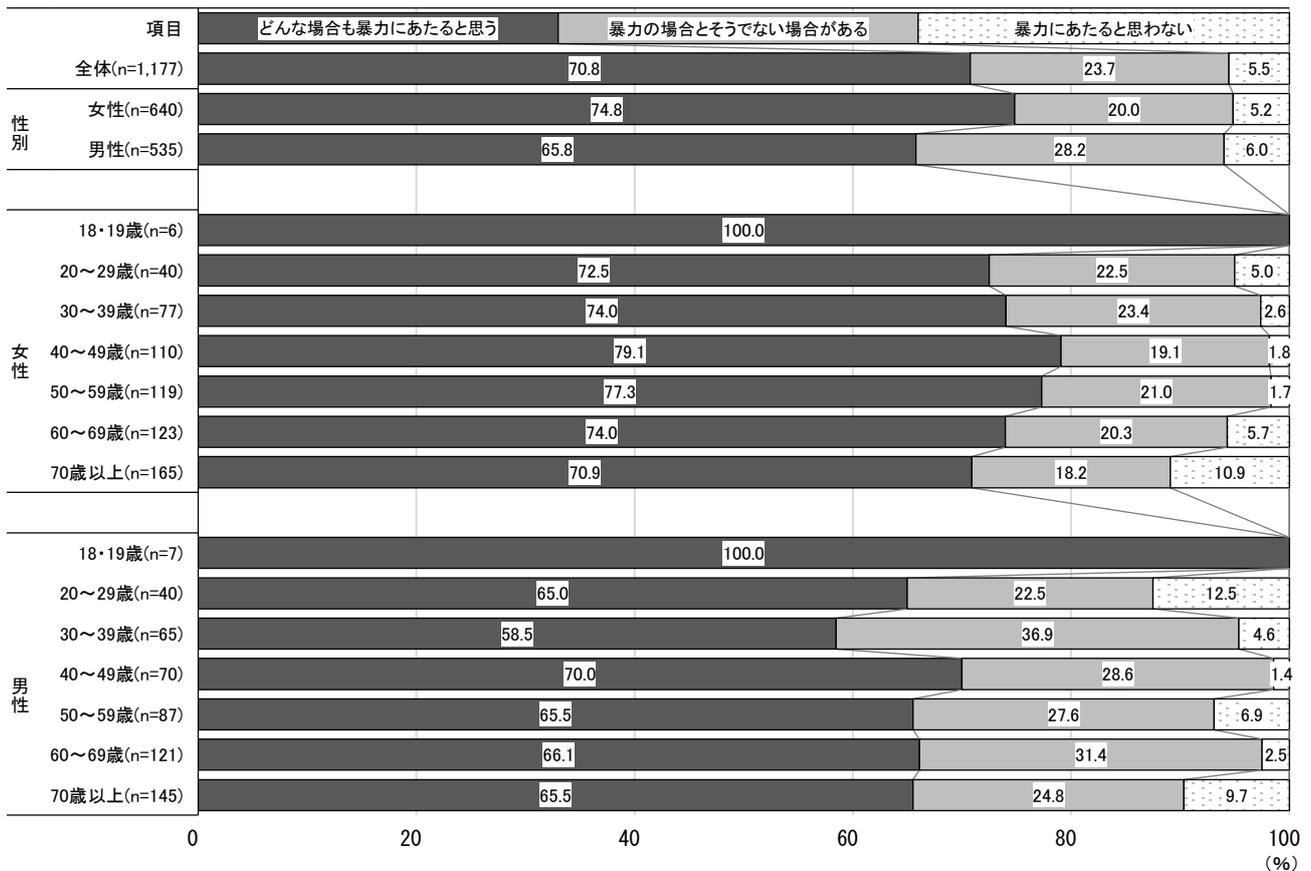
② 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性（かいしょう）なし」という

～どんな場合も暴力にあたると思う人が7割強

■ 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は70.8%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は23.7%、「暴力にあたると思わない」は5.5%となっている。

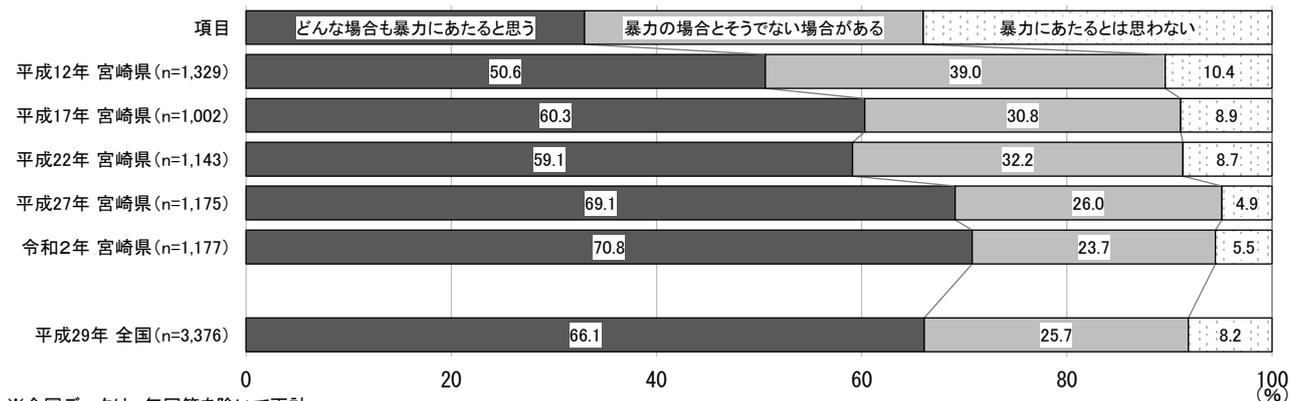
■ 性別でみると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が74.8%、男性が65.8%となっており、女性の方が9.0ポイント高くなっている。

図表 17-②-1 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」という(性別・年代別)



■ 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では50.6%であったが、17年調査では60.3%、22年調査では59.1%、27年調査では69.1%と推移しており、今回調査では70.8%となっている。

図表 17-②-2 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」という(時系列・全国比較)



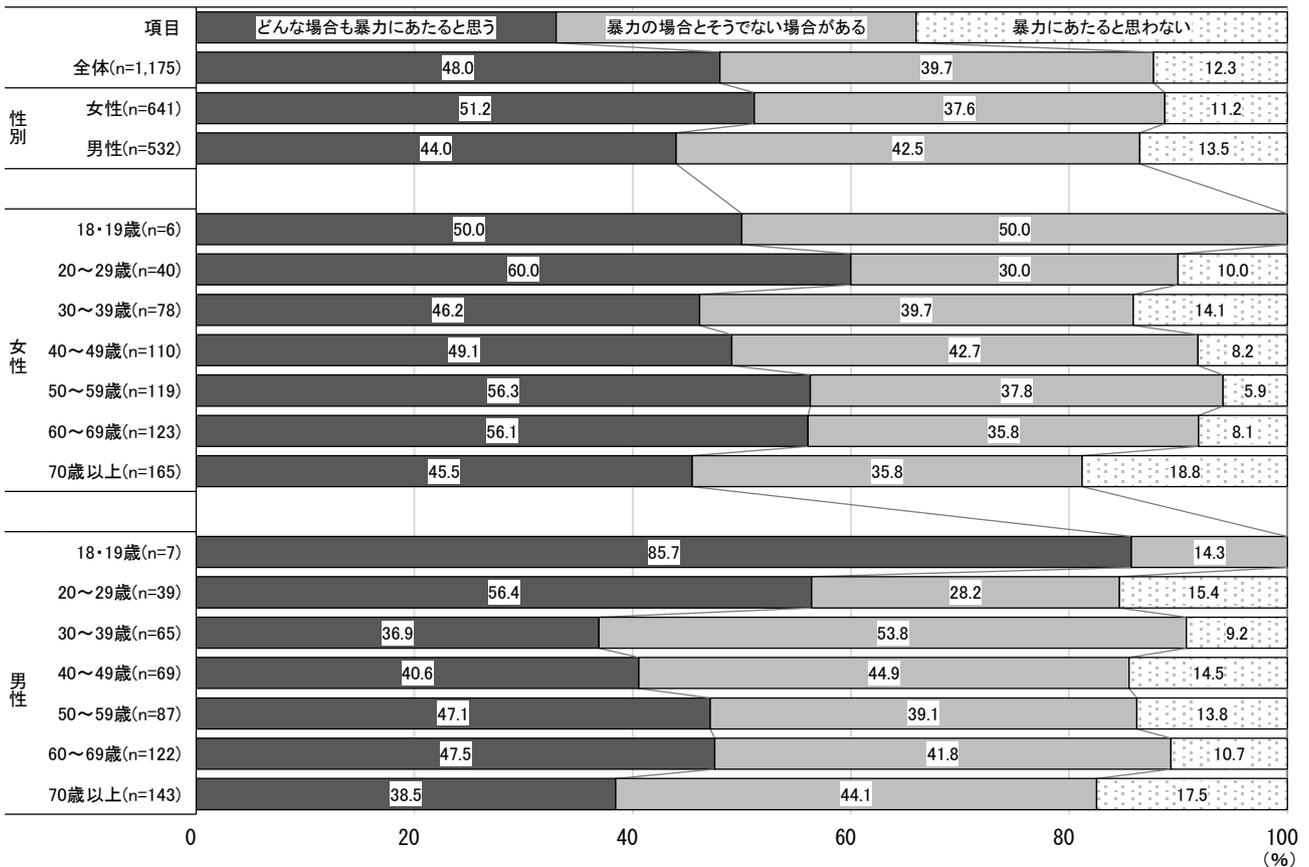
※全国データは、無回答を除いて再計

③ 交友関係や電話を細かく監視する

～どんな場合も暴力にあたると思う人が5割弱

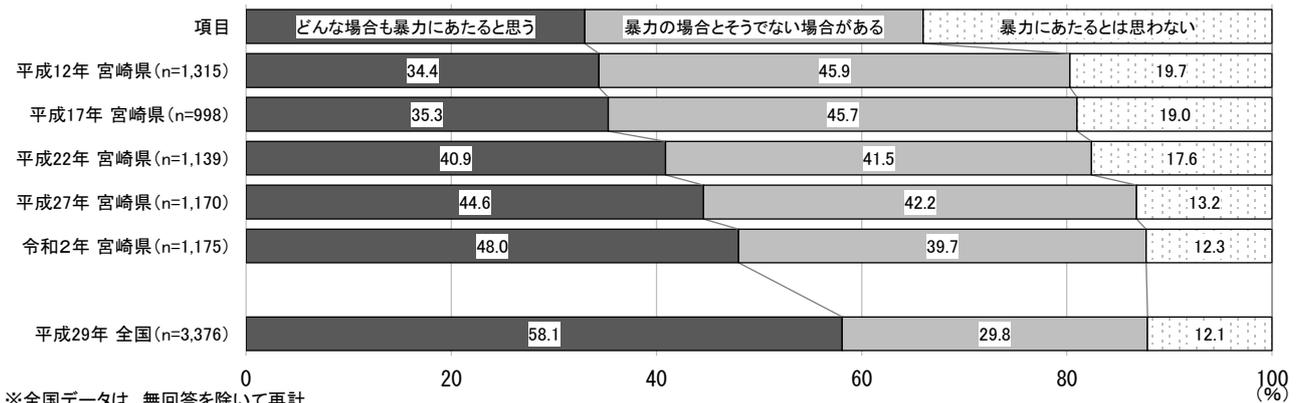
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は48.0%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は39.7%、「暴力にあたると思わない」は12.3%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が51.2%、男性が44.0%となっており、女性の方が7.2ポイント高くなっている。

図表 17-③-1 交友関係や電話を細かく監視する(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では34.4%であったが、17年調査では35.3%、22年調査では40.9%、27年調査では44.6%と推移しており、今回調査では48.0%となっている。

図表 17-③-2 交友関係や電話を細かく監視する(時系列・全国比較)



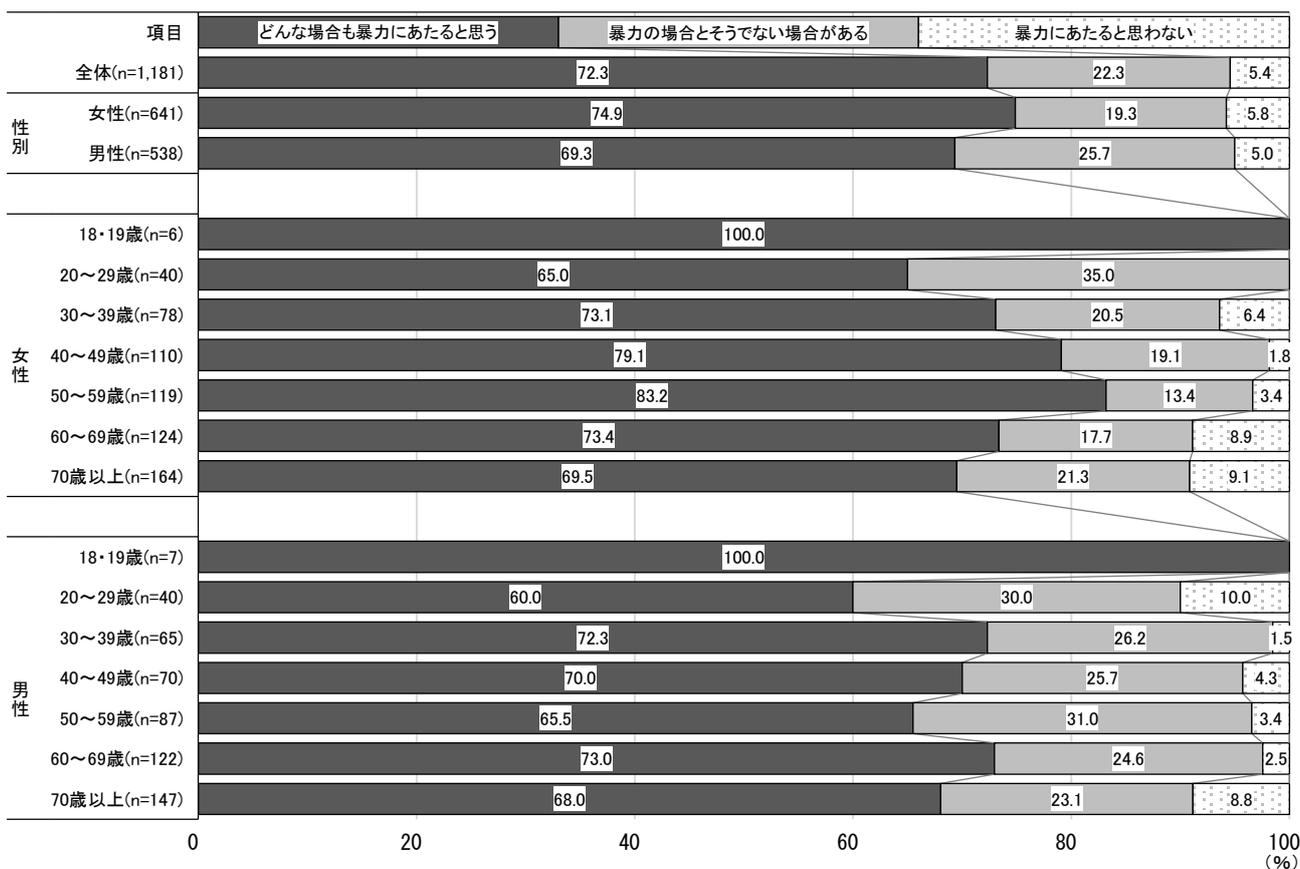
※全国データは、無回答を除いて再計

④ 十分な生活費を渡さない

～どんな場合も暴力にあたると思う人が7割強

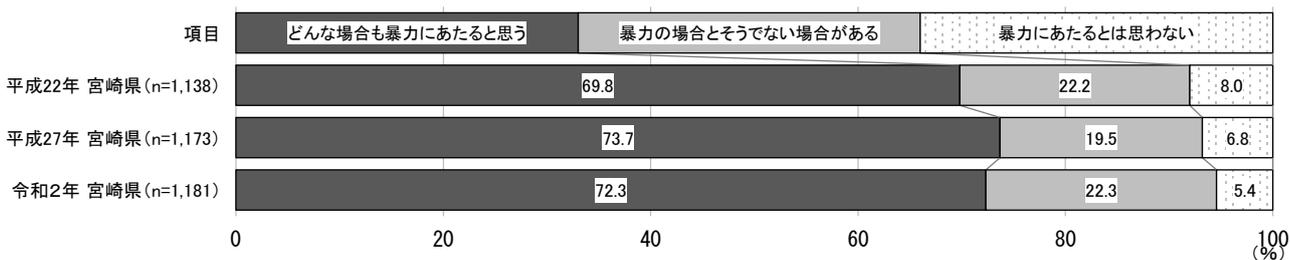
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は72.3%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は22.3%、「暴力にあたると思わない」は5.4%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が74.9%、男性が69.3%となっており、女性の方が5.6ポイント高くなっている。

図表 17-④-1 十分な生活費を渡さない(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成22年調査では69.8%であったが、27年調査では73.7%となっており、今回調査では72.3%となっている。

図表 17-④-1 十分な生活費を渡さない(時系列比較)

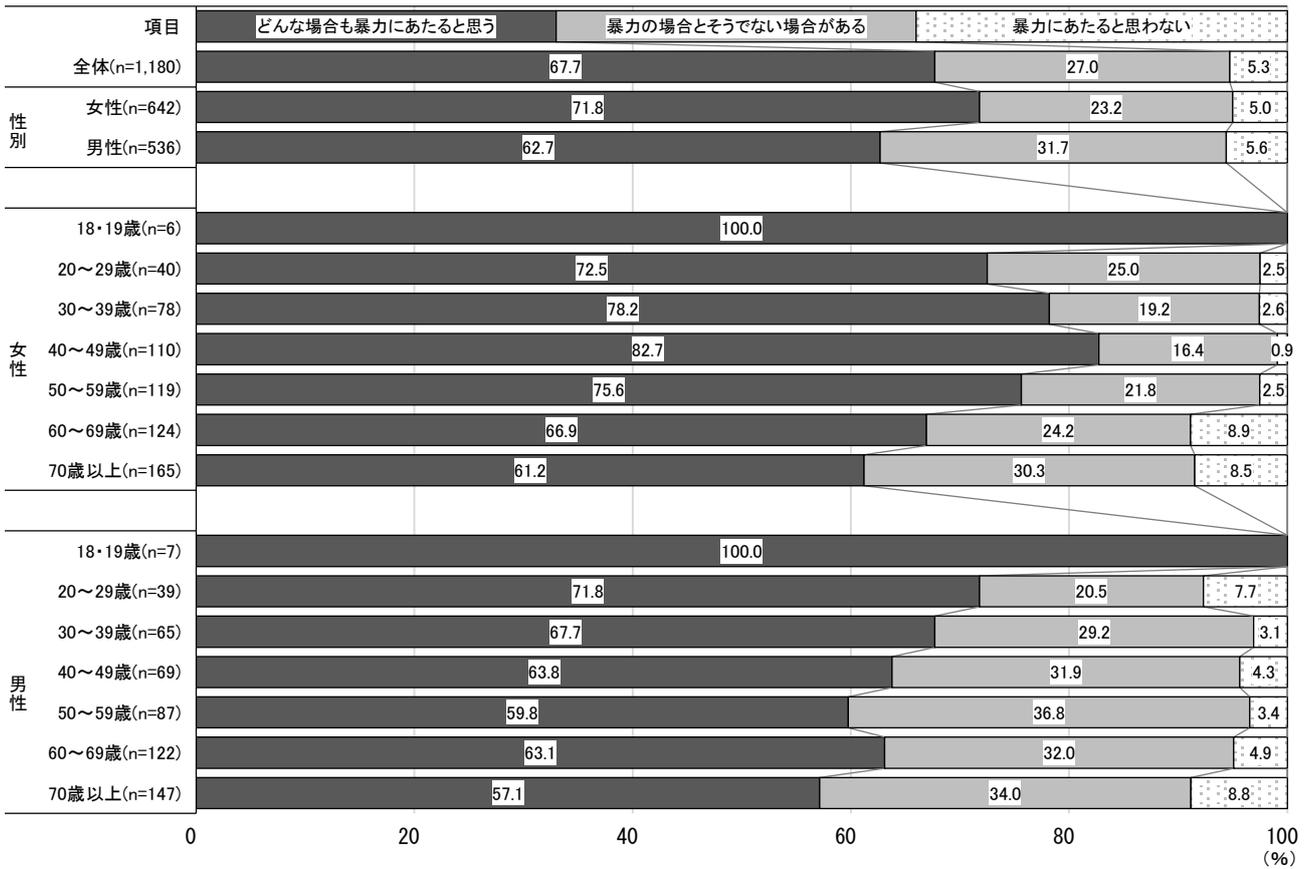


⑤ 何でも勝手に決め、命令する

～どんな場合も暴力にあたると思う人が7割弱

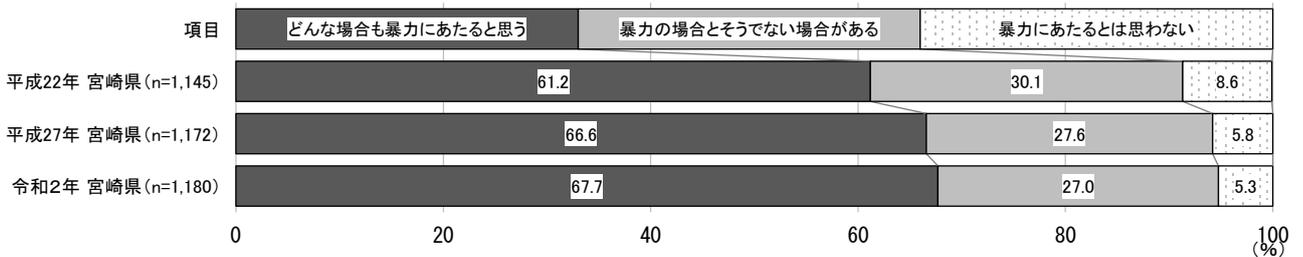
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は67.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は27.0%、「暴力にあたると思わない」は5.3%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が71.8%、男性が62.7%となっており、女性の方が9.1ポイント高くなっている。

図表 17-⑤-1 何でも勝手に決め、命令する(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成22年調査では61.2%であったが、27年調査では66.6%となっており、今回調査では67.7%となっている。

図表 17-⑤-1 何でも勝手に決め、命令する(時系列比較)

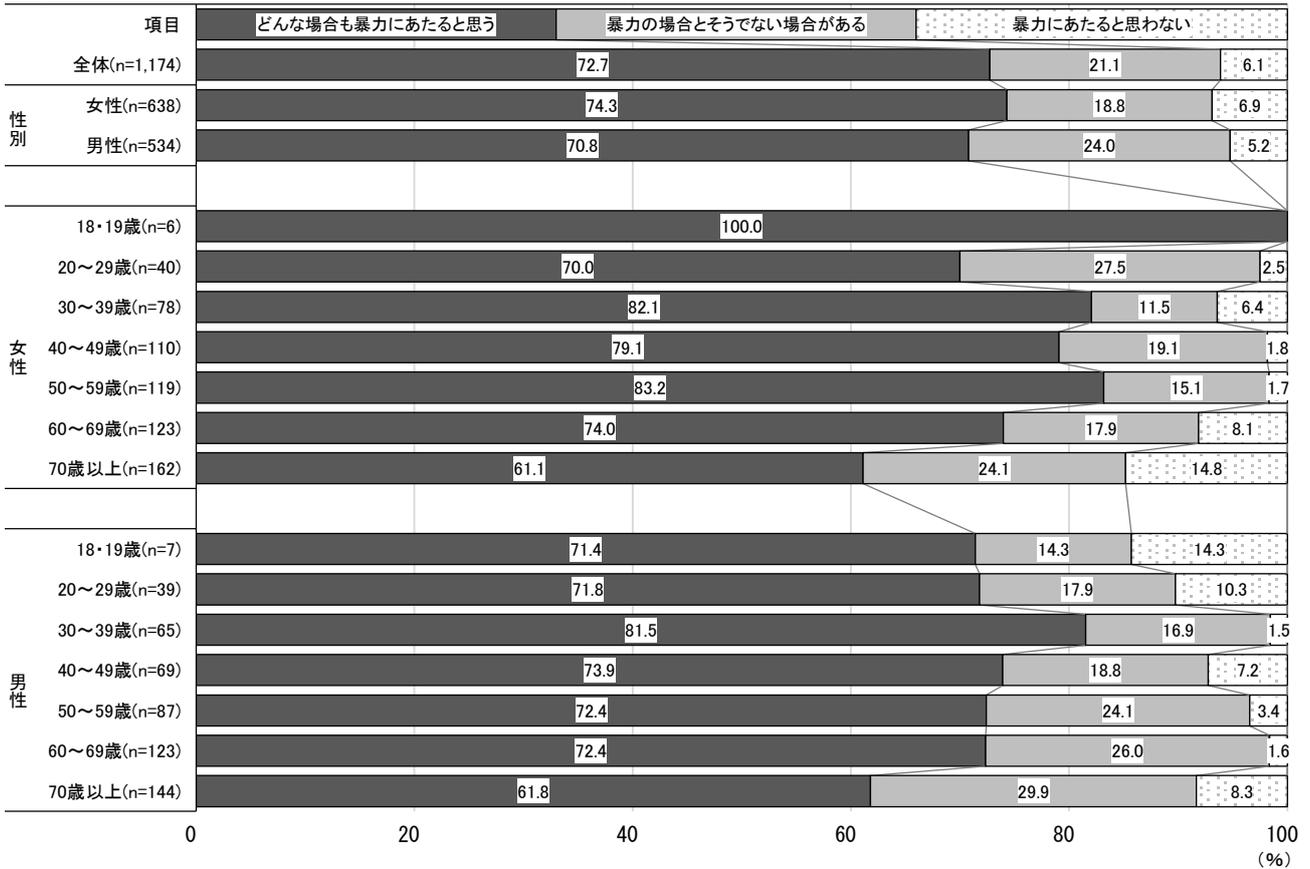


⑥ 何を言っても無視し続ける

～どんな場合も暴力にあたると思う人が7割強

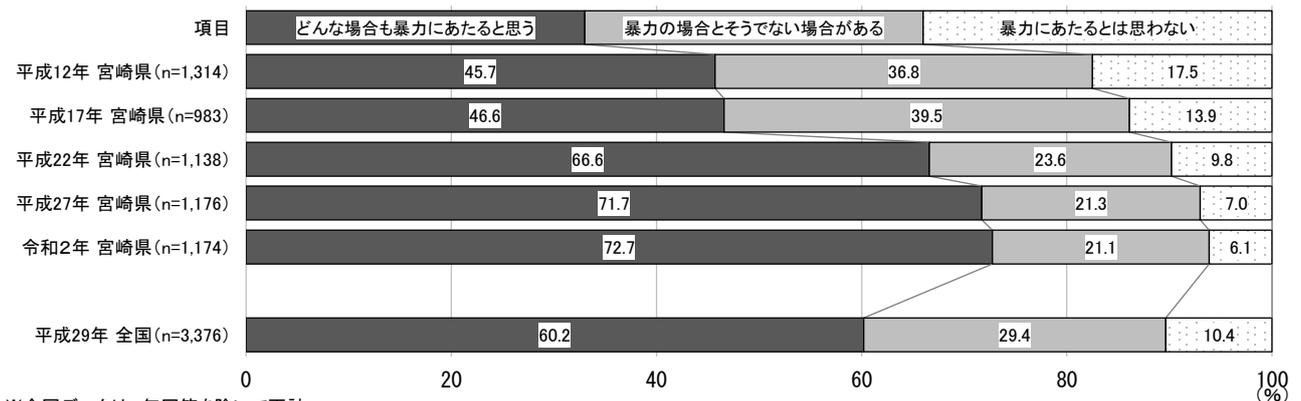
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は72.7%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は21.1%、「暴力にあたると思わない」は6.1%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が74.3%、男性が70.8%となっており、女性の方が3.5ポイント高くなっている。

図表 17-⑥-1 何を言っても無視し続ける(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では45.7%であったが、17年調査では46.6%、22年調査では66.6%、27年調査では71.7%と推移しており、今回調査では72.7%となっている。

図表 17-⑥-2 何を言っても無視し続ける(時系列・全国比較)



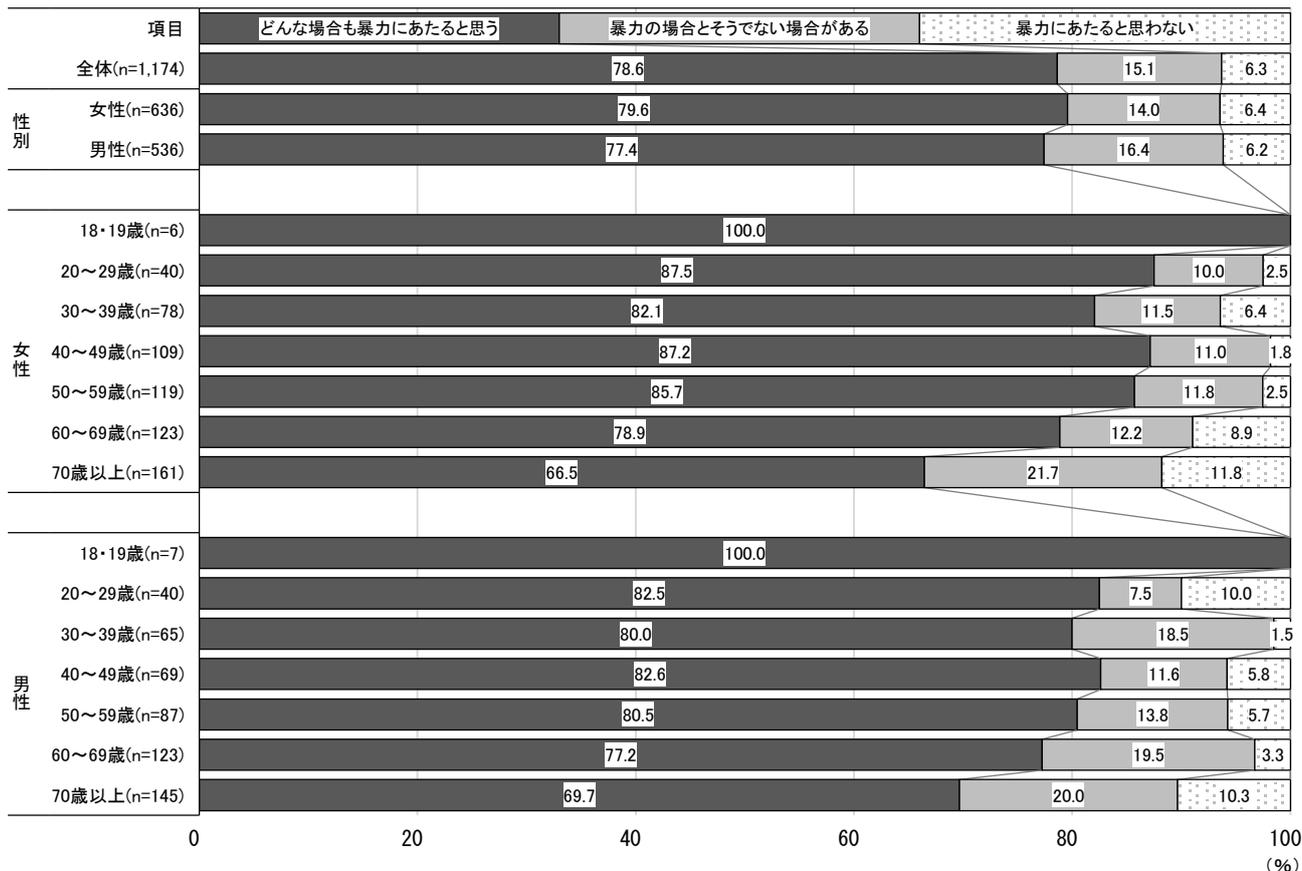
※全国データは、無回答を除いて再計

⑦ 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

～どんな場合も暴力にあたると思う人が 8 割弱

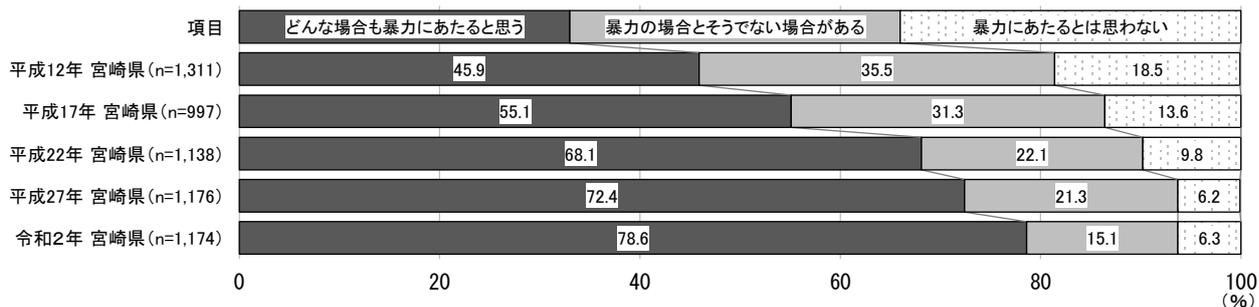
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は 78.6%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は 15.1%、「暴力にあたると思わない」は 6.3%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が 79.6%、男性が 77.4%となっており、女性の方が 2.2 ポイント高くなっている。

図表 17-⑦-1 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成 12 年調査では 45.9%であったが、17 年調査では 55.1%、22 年調査では 68.1%、27 年調査では 72.4%と推移しており、今回調査では 78.6%となっている。

図表 17-⑦-2 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる(時系列比較)

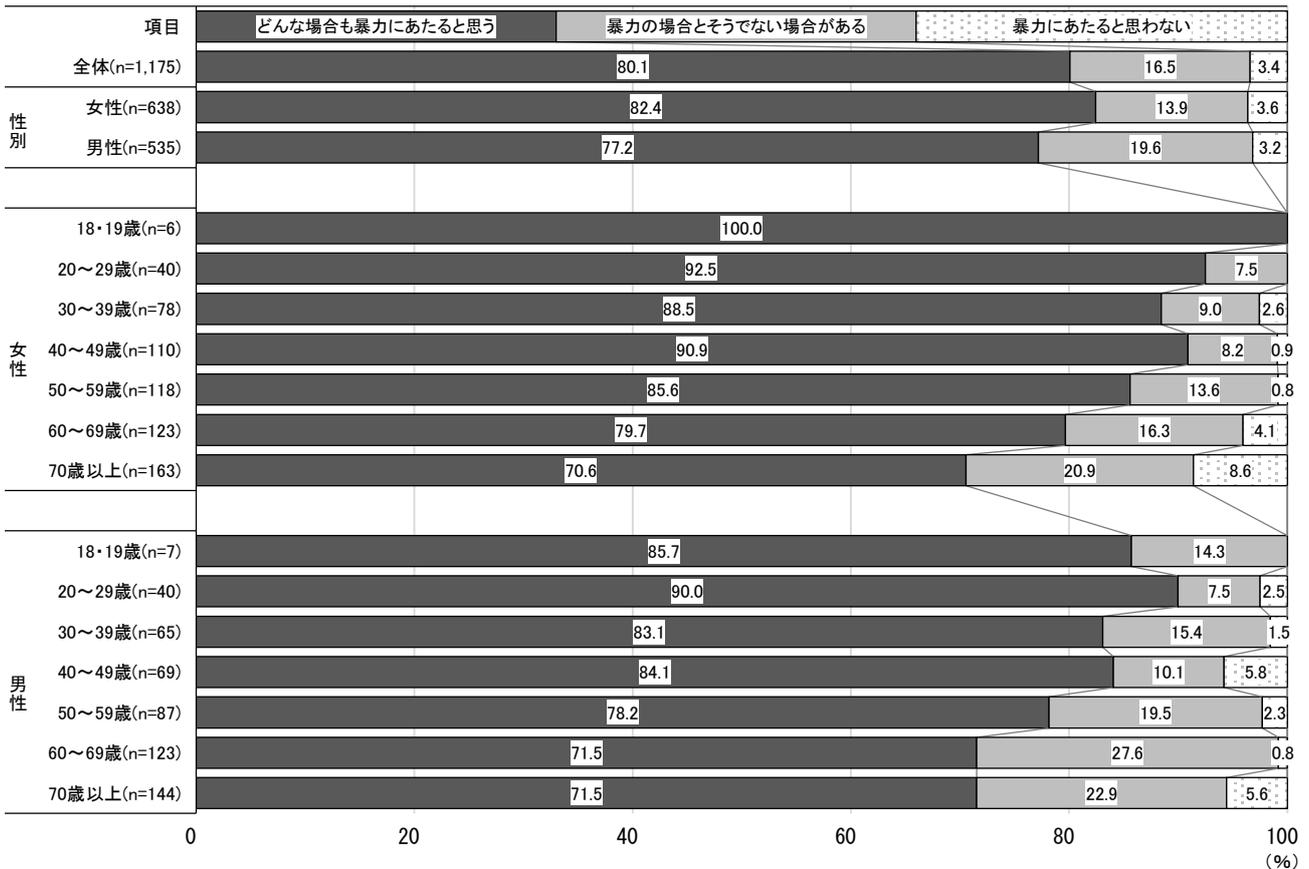


⑧ 性的行為を強要する

～どんな場合も暴力にあたると思う人が 8 割強

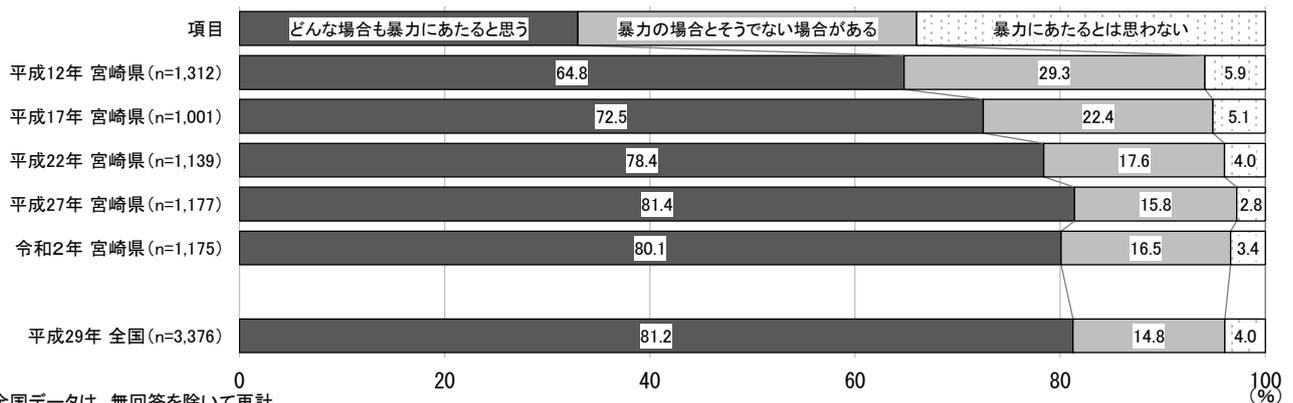
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は80.1%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は16.5%、「暴力にあたると思わない」は3.4%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が82.4%、男性が77.2%となっており、女性の方が5.2ポイント高くなっている。

図表 17-⑧-1 性的行為を強要する(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では64.8%であったが、17年調査では72.5%、22年調査では78.4%、27年調査では81.4%と推移しており、今回調査では80.1%となっている。

図表 17-⑧-2 性的行為を強要する(時系列・全国比較)



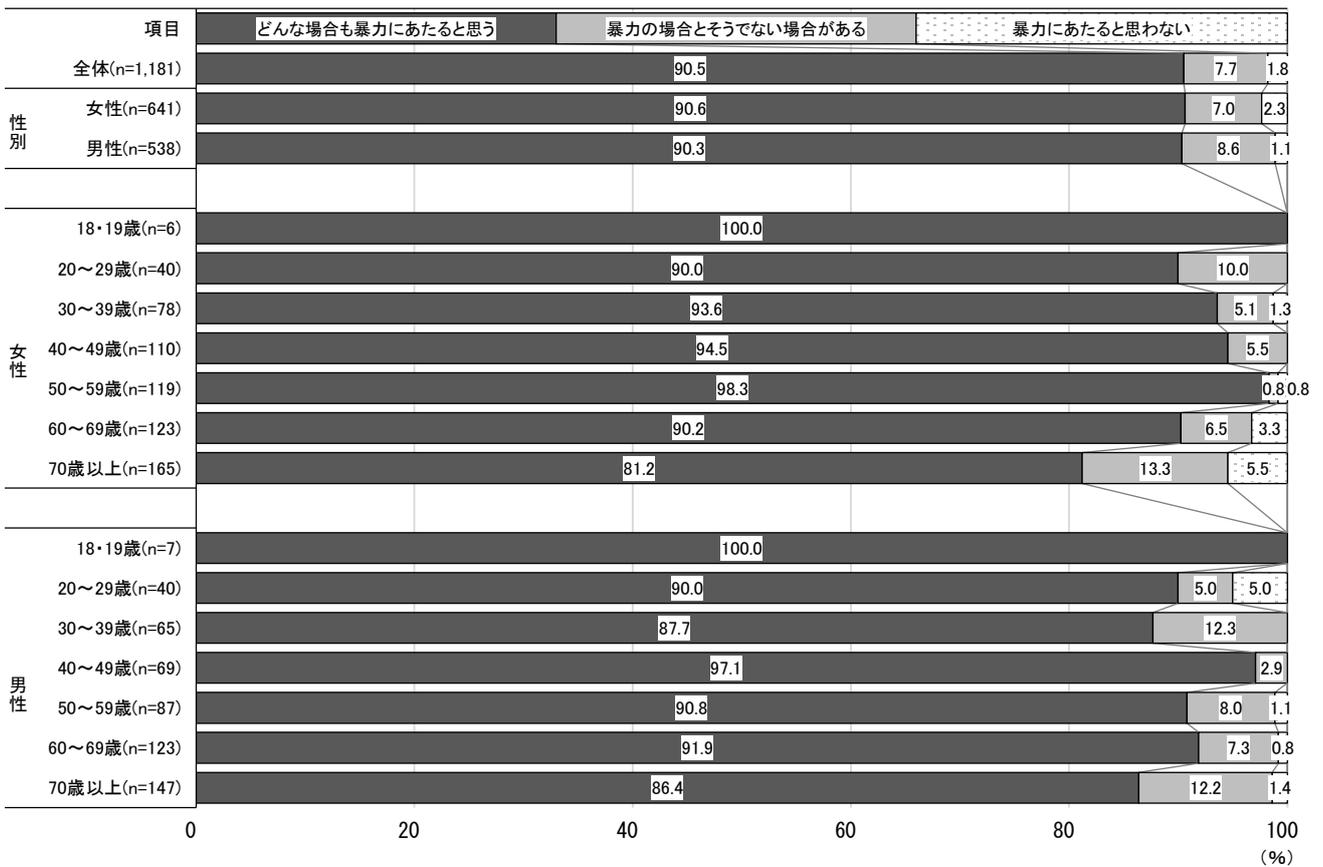
※全国データは、無回答を除いて再計

⑨ 医師の治療が必要とまらない程度の暴行をする

～どんな場合も暴力にあたると思う人が 9 割強

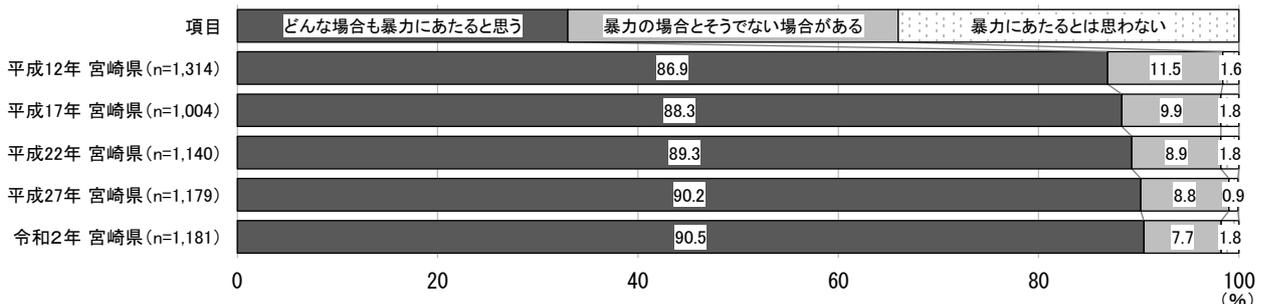
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は 90.5%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は 7.7%、「暴力にあたると思わない」は 1.8%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が 90.6%、男性が 90.3%となっており、ほぼ同じ割合となっている。

図表 17-⑨-1 医師の治療が必要とまらない程度の暴行をする(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成 12 年調査では 86.9%であったが、17 年調査では 88.3%、22 年調査では 89.3%、27 年調査では 90.2%と推移しており、今回調査では 90.5%となっている。

図表 17-⑨-2 医師の治療が必要とまらない程度の暴行をする(時系列比較)

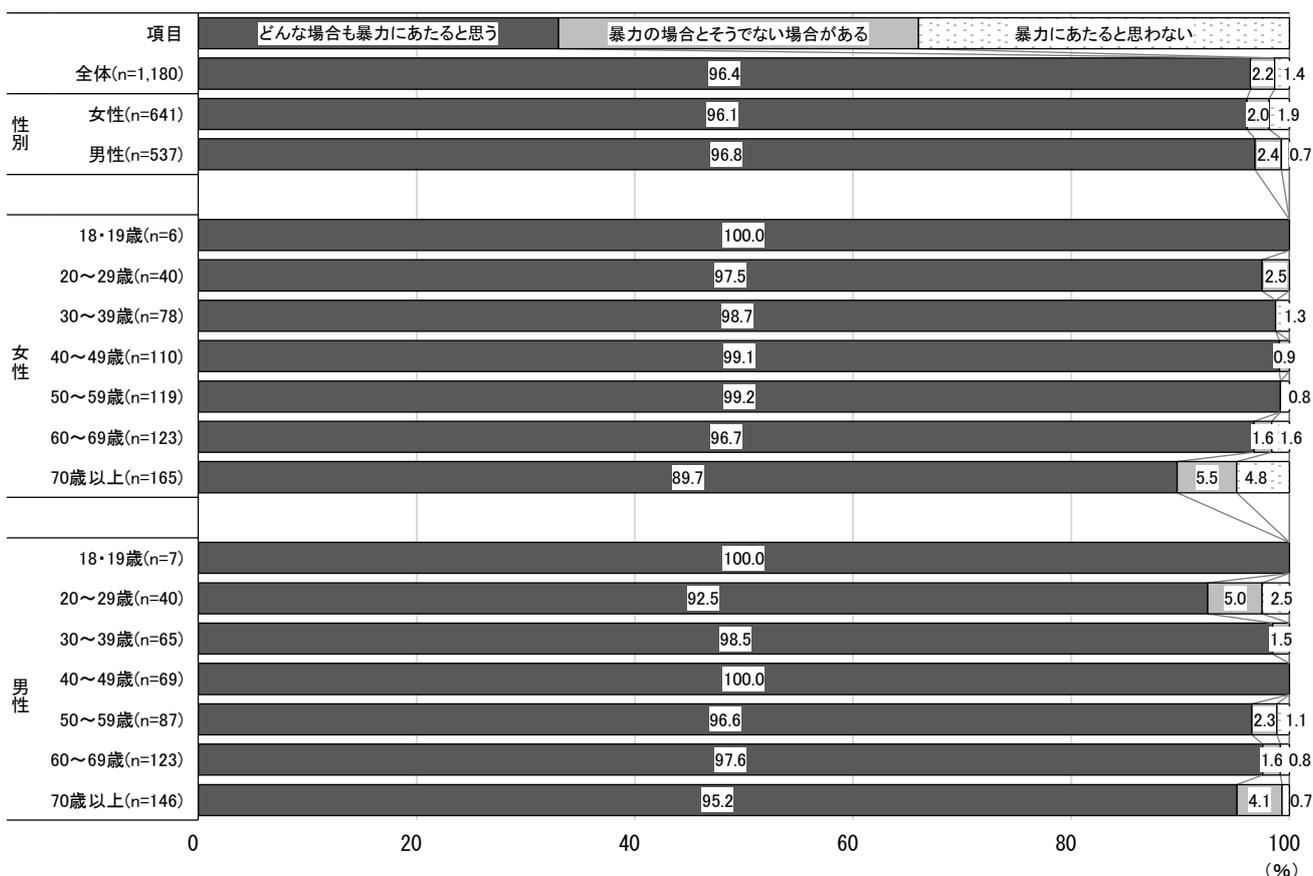


⑩ 医師の治療が必要となる程度の暴行をする

～どんな場合も暴力にあたると思う人が大多数

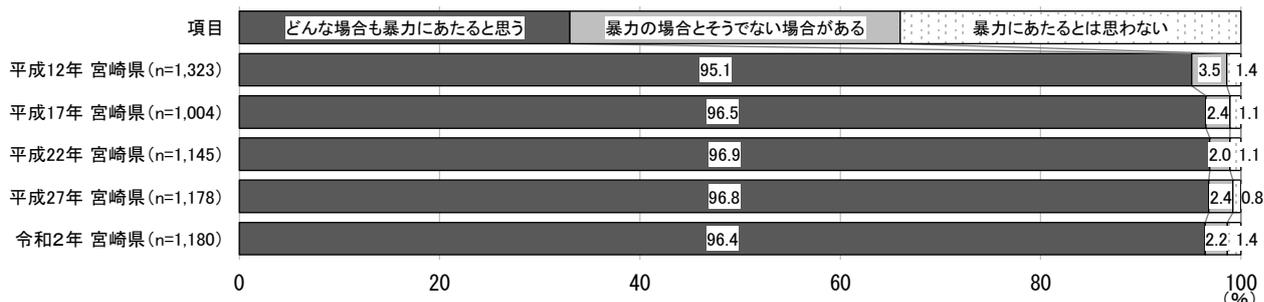
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は96.4%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は2.2%、「暴力にあたると思わない」は1.4%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が96.1%、男性が96.8%となっており、男性の方が0.7ポイント高くなっている。

図表 17-⑩-1 医師の治療が必要となる程度の暴行をする(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では95.1%であったが、17年調査では96.5%、22年調査では96.9%、27年調査では96.8%となっており、今回調査では96.4%となっている。

図表 17-⑩-2 医師の治療が必要となる程度の暴行をする(時系列比較)

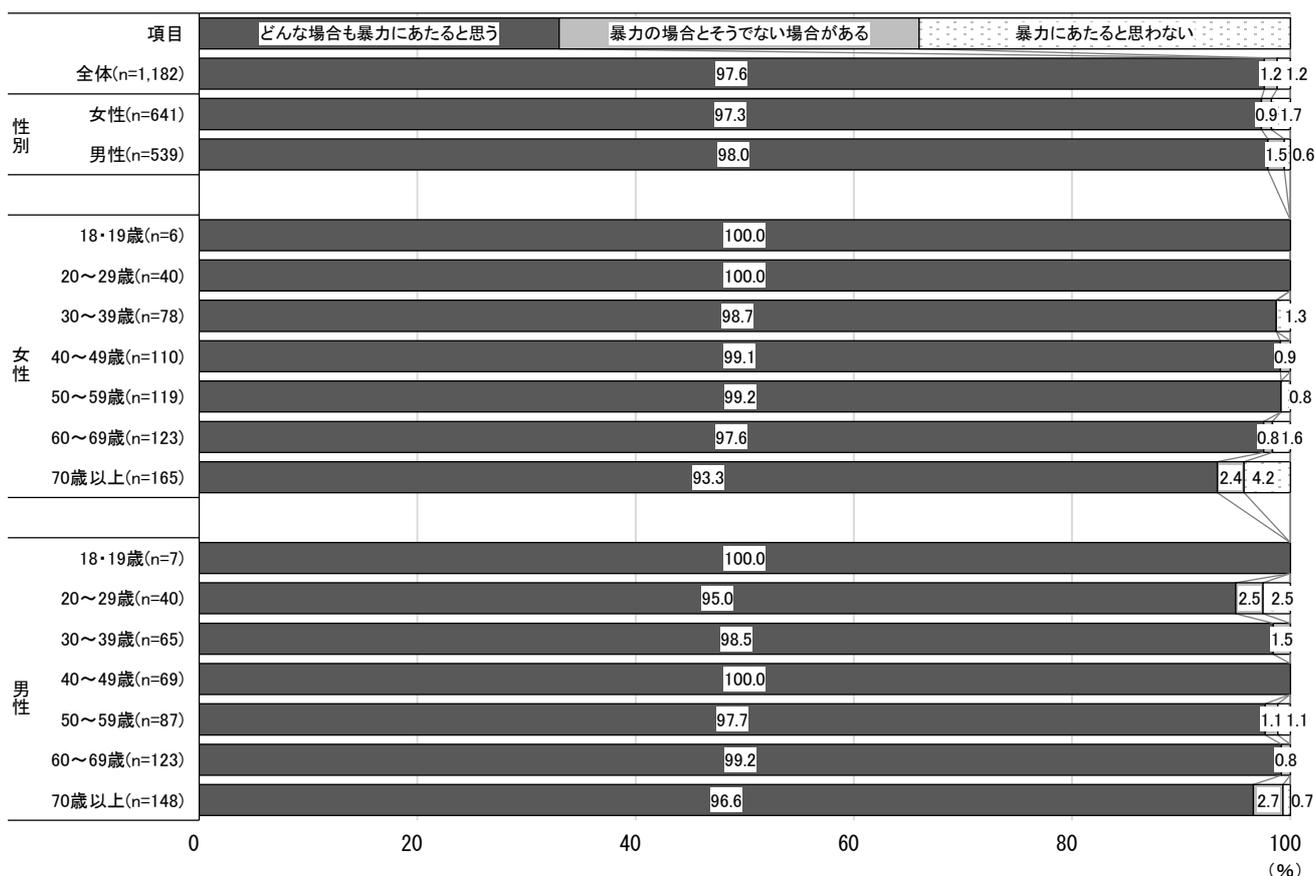


⑪ 命の危険を感じるくらいの暴行をする

～どんな場合も暴力にあたると思う人が大多数

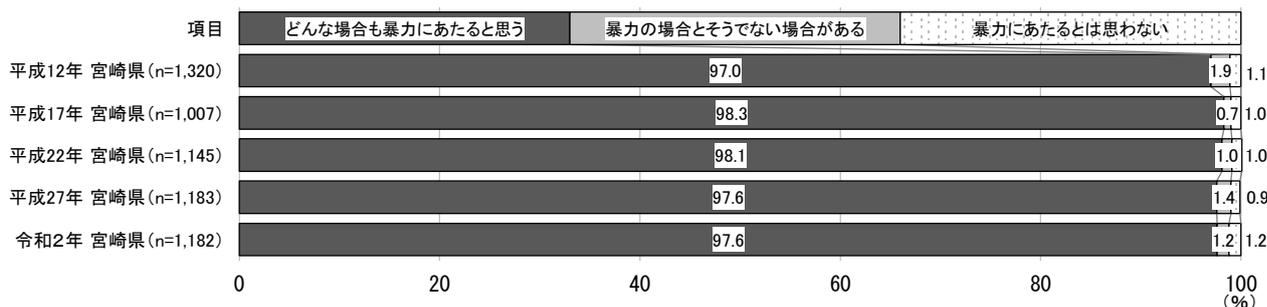
- 全体では、「どんな場合も暴力にあたると思う」は97.6%、「暴力の場合とそうでない場合がある」は1.2%、「暴力にあたると思わない」は1.2%となっている。
- 性別で見ると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は、女性が97.3%、男性が98.0%となっており、男性の方が0.7ポイント高くなっている。

図表 17-⑪-1 命の危険を感じるくらいの暴行をする(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「どんな場合も暴力にあたると思う」は平成12年調査では97.0%であったが、17年調査では98.3%、22年調査では98.1%、27年調査では97.6%となっており、今回調査では97.6%となっている。

図表 17-⑪-2 命の危険を感じるくらいの暴行をする(時系列比較)



(18) 配偶者等からの暴力を受けた経験

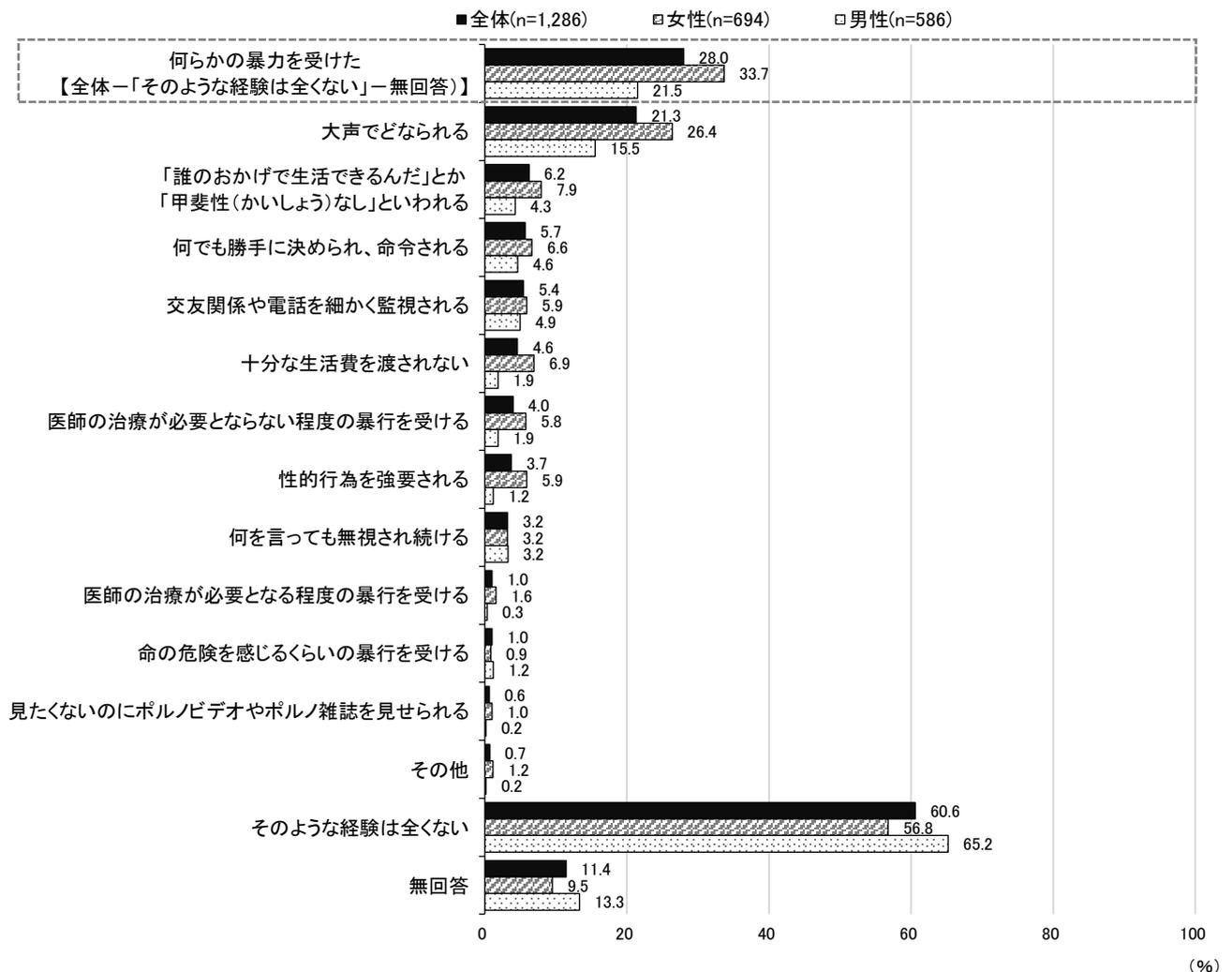
あなたは、あなたの夫や妻または恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

(○はい/□いいえ)

配偶者等から何らかの暴力を受けた経験のある人が、女性は3割強、男性は2割強

- 全体では、『何らかの暴力を受けた（全体から「暴力を受けた経験は全くない」（60.6%）と無回答（11.4%）を除いた割合）』は28.0%となっています。暴力を受けた行為は「大声でどなられる」が21.3%と最も高く、次いで『誰のおかげで生活できるんだ』とか『甲斐性（かいしよう）なし』といわれる」が6.2%、「何でも勝手に決められ、命令される」が5.7%となっている。
- 性別でみると、『何らかの暴力を受けた』は、女性が33.7%、男性が21.5%となっており、女性が12.2ポイント高くなっている。また、「何を言っても無視され続ける」と「命の危険を感じるくらいの暴力を受ける」を除いた全ての行為で、男性より女性の方が高くなっている。

図表 18-1 配偶者からの暴力を受けた経験の有無



図表 18-2 配偶者からの暴力を受けた経験の有無

		大声で どなられる	「誰のお かげで生 活でき るんだ」と か「甲斐 性 (かいし ょう)なし」と いわれる	何 でも勝 手に決 められ 、命令 される	交 友関 係や電 話を細 かく監 視され る	十 分な生 活費を 渡され ない	医 師の治 療が必 要とな らない 程度 の暴行 を受け る	性 的 行 為 を強 要され る	何 を言 つても 無視さ れ続け る	医 師の治 療が必 要とな る程度 の暴行 を受け る	命 の危 険を感 じるく らいの 暴行を 受ける	見 たく ないの にポル ノビデ オやポ ルノ雑 誌を見 せられ る	そ の 他	そ のよ うな 経験 は全 くない	無 回 答
全体(n=1,286)		21.3	6.2	5.7	5.4	4.6	4.0	3.7	3.2	1.0	1.0	0.6	0.7	60.6	11.4
性別	女性(n=694)	26.4	7.9	6.6	5.9	6.9	5.8	5.9	3.2	1.6	0.9	1.0	1.2	56.8	9.5
	男性(n=586)	15.5	4.3	4.6	4.9	1.9	1.9	1.2	3.2	0.3	1.2	0.2	0.2	65.2	13.3
性別・ 年齢別	女性														
	18・19歳(n=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0
	20～29歳(n=41)	7.3	0.0	4.9	9.8	0.0	0.0	7.3	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	85.4	2.4
	30～39歳(n=78)	23.1	7.7	7.7	6.4	6.4	3.8	2.6	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	70.5	0.0
	40～49歳(n=112)	23.2	8.0	6.3	6.3	8.9	7.1	6.3	1.8	2.7	0.9	1.8	0.9	66.1	4.5
	50～59歳(n=120)	35.0	15.0	7.5	8.3	10.8	8.3	5.8	8.3	2.5	0.8	0.8	4.2	46.7	4.2
	60～69歳(n=130)	28.5	6.9	7.7	3.8	6.2	4.6	9.2	0.8	2.3	0.8	0.8	0.8	56.9	8.5
	70歳以上(n=207)	27.1	6.3	5.8	4.8	5.8	6.3	4.8	2.9	1.0	1.4	1.0	0.5	45.9	21.3
	男性														
	18・19歳(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	14.3
	20～29歳(n=40)	5.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	7.5
	30～39歳(n=66)	16.7	4.5	6.1	10.6	1.5	3.0	0.0	9.1	0.0	3.0	0.0	0.0	71.2	4.5
40～49歳(n=72)	20.8	6.9	1.4	6.9	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	68.1	6.9	
50～59歳(n=91)	19.8	7.7	4.4	7.7	3.3	3.3	2.2	2.2	0.0	1.1	0.0	0.0	68.1	4.4	
60～69歳(n=129)	14.0	3.9	7.0	5.4	1.6	1.6	2.3	5.4	0.8	0.8	0.0	0.8	62.8	14.0	
70歳以上(n=181)	14.9	2.8	4.4	1.7	2.8	1.7	1.1	1.7	0.6	1.7	0.6	0.0	56.4	24.3	
性別・ 婚姻状 況別	女性														
	結婚している(n=449)	30.5	9.6	7.1	4.7	5.6	5.8	5.6	2.9	1.3	0.7	0.7	0.9	55.2	7.8
	離別・死別した(n=126)	28.6	8.7	7.9	11.1	16.7	11.1	11.1	6.3	3.2	2.4	2.4	2.4	39.7	16.7
	結婚していない(n=119)	8.4	0.8	3.4	5.0	1.7	0.0	1.7	0.8	0.8	0.0	0.8	0.8	80.7	8.4
	男性														
	結婚している(n=418)	17.2	4.3	5.0	4.5	2.2	2.2	1.2	3.3	0.5	1.2	0.2	0.0	65.3	12.2
離別・死別した(n=46)	15.2	8.7	4.3	6.5	4.3	4.3	4.3	4.3	0.0	2.2	0.0	2.2	52.2	17.4	
結婚していない(n=121)	9.9	2.5	3.3	5.8	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.8	0.0	0.0	70.2	14.9	
性別・ 就業状 況別	女性														
	就業している(n=397)	28.7	10.1	7.3	8.1	8.1	7.1	7.8	3.5	2.0	1.3	1.3	1.5	57.4	5.0
	就業していない(n=291)	23.7	4.8	5.8	3.1	5.2	4.1	3.1	2.7	1.0	0.3	0.7	0.7	55.7	15.5
	男性														
就業している(n=385)	16.1	4.7	4.7	6.2	1.6	1.8	1.3	3.4	0.3	1.0	0.0	0.3	68.3	9.4	
就業していない(n=198)	14.6	3.5	4.5	2.5	2.5	2.0	1.0	3.0	0.5	1.5	0.5	0.0	59.1	20.7	
前々回 前回 今回	平成12年(n=1,417)	31.1	8.4	-	6.2	-	6.9	6.9	8.3	2.4	0.8	1.1	1.6	47.8	11.2
	平成17年(n=1,096)	26.0	7.4	-	8.1	-	6.9	6.9	7.8	2.2	1.6	0.9	1.2	48.8	15.3
	平成22年(n=1,257)	23.1	8.0	5.4	5.8	3.3	5.1	5.1	4.9	1.0	0.8	1.0	1.7	54.0	14.2
	平成27年(n=1,267)	23.4	6.9	5.1	4.4	3.9	4.6	4.8	4.2	1.4	1.0	0.5	1.3	56.3	12.8
	令和2年(n=1,286)	21.3	6.2	5.7	5.4	4.6	4.0	3.7	3.2	1.0	1.0	0.6	0.7	60.6	11.4

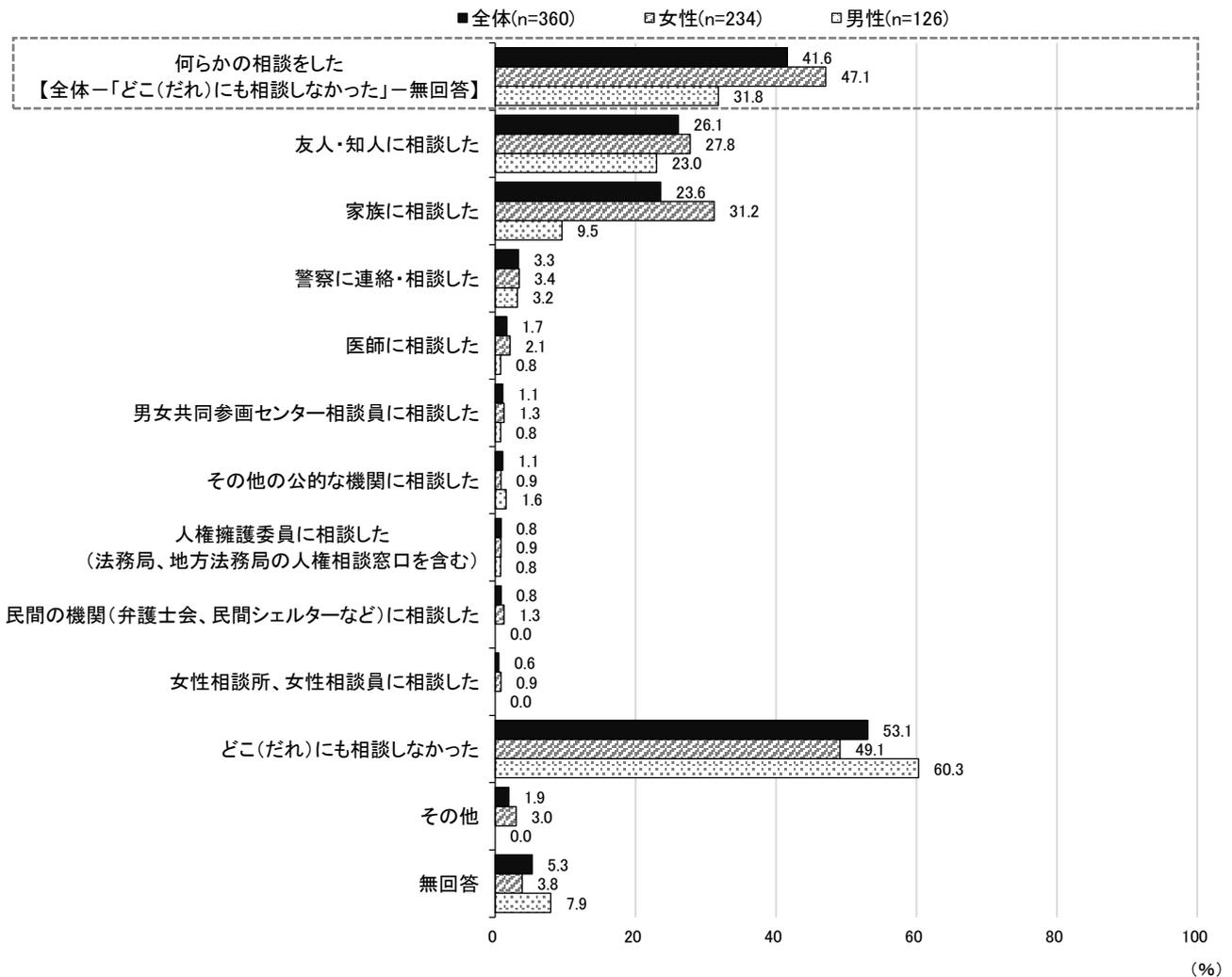
(19) 配偶者等からの暴力を受けた時の相談先

あなたは、問(18)であげたような夫や妻または恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

**配偶者等から暴力を受けた時、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が5割強  
相談しなかった人の割合は、女性よりも男性が高い**

- 全体では、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は53.1%、『何らかの相談をした(全体から「どこ(だれ)にも相談しなかった」(53.1%)と「無回答」(5.3%)を除いた割合)』は41.6%となっている。相談先は「友人・知人に相談した」が26.1%と最も高く、次いで「家族に相談した」が23.6%、「警察に連絡・相談した」が3.3%となっている。
- 性別で見ると、『何らかの相談をした』は、女性が47.1%、男性が31.8%となっており、女性が15.3ポイント高くなっている。また、相談先としては、女性は「家族に相談した」が最も高く、男性は「友人・知人に相談した」が最も高くなっている。

図表 19-1 配偶者からの暴力を受けた時の相談先



図表 19-2 配偶者からの暴力を受けた時の相談先

		友人・知人に相談した	家族に相談した	警察に連絡・相談した	医師に相談した	男女共同参画センター相談員に相談した	その他の公的な機関に相談した	人権擁護委員に相談した(法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む)	民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)に相談した	女性相談所、女性相談員に相談した	どこ(だれ)にも相談しなかった	その他	無回答	
全体(n=360)		26.1	23.6	3.3	1.7	1.1	1.1	0.8	0.8	0.6	53.1	1.9	5.3	
性別	女性(n=234)	27.8	31.2	3.4	2.1	1.3	0.9	0.9	1.3	0.9	49.1	3.0	3.8	
	男性(n=126)	23.0	9.5	3.2	0.8	0.8	1.6	0.8	0.0	0.0	60.3	0.0	7.9	
性別・年齢別	女性													
	18・19歳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	20～29歳(n=5)	80.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30～39歳(n=23)	17.4	34.8	8.7	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	47.8	4.3	0.0	
	40～49歳(n=33)	27.3	27.3	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	6.1	3.0	54.5	3.0	0.0	
	50～59歳(n=59)	37.3	39.0	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0	44.1	0.0	0.0	
	60～69歳(n=45)	33.3	35.6	4.4	2.2	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	44.4	2.2	6.7	
	70歳以上(n=68)	16.2	22.1	1.5	1.5	1.5	0.0	1.5	0.0	1.5	57.4	5.9	8.8	
	男性													
	18・19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	30～39歳(n=16)	31.3	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	68.8	0.0	0.0	
	40～49歳(n=18)	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0	5.6	
	50～59歳(n=25)	32.0	8.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	52.0	0.0	4.0	
60～69歳(n=30)	23.3	16.7	10.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	6.7		
70歳以上(n=35)	17.1	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	60.0	0.0	17.1		
性別・婚姻状況別	女性													
	結婚している(n=166)	28.9	31.9	2.4	1.2	0.6	1.2	0.0	1.2	0.6	48.8	2.4	4.2	
	離別・死別した(n=55)	27.3	30.9	3.6	3.6	3.6	0.0	3.6	1.8	1.8	47.3	5.5	1.8	
	結婚していない(n=13)	15.4	23.1	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.5	0.0	7.7	
	男性													
	結婚している(n=94)	18.1	8.5	2.1	0.0	1.1	1.1	1.1	0.0	0.0	63.8	0.0	9.6	
離別・死別した(n=14)	28.6	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0		
結婚していない(n=18)	44.4	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	5.6		
性別・就業状況別	女性													
	就業している(n=149)	32.9	30.9	4.7	2.7	2.0	0.0	1.3	2.0	1.3	49.7	2.0	1.3	
	就業していない(n=84)	19.0	31.0	1.2	1.2	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	48.8	4.8	8.3	
	男性													
就業している(n=86)	24.4	8.1	3.5	0.0	1.2	2.3	0.0	0.0	0.0	60.5	0.0	5.8		
就業していない(n=40)	20.0	12.5	2.5	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	60.0	0.0	12.5		
前々回 前回 今回	平成12年(n=582)	25.8	14.4	0.7	0.9	0.5	-	0.3	0.3	0.3	52.1	4.3	10.3	
	平成17年(n=393)	24.9	18.6	2.5	1.3	1.3	0.3	0.5	1.3	1.0	52.7	3.3	11.5	
	平成22年(n=399)	30.3	17.0	1.8	1.5	0.8	1.3	1.3	1.3	1.5	48.6	2.5	9.0	
	平成27年(n=554)	21.7	15.2	2.2	1.3	0.2	0.5	0.2	1.1	1.4	34.3	2.5	34.7	
	令和 2年(n=360)	26.1	23.6	3.3	1.7	1.1	1.1	0.8	0.8	0.6	53.1	1.9	5.3	
平成29年 全国(n=650)		26.2	28.0	2.2	2.3	0.9	1.2	0.5	3.4	-	48.9	1.7	4.0	

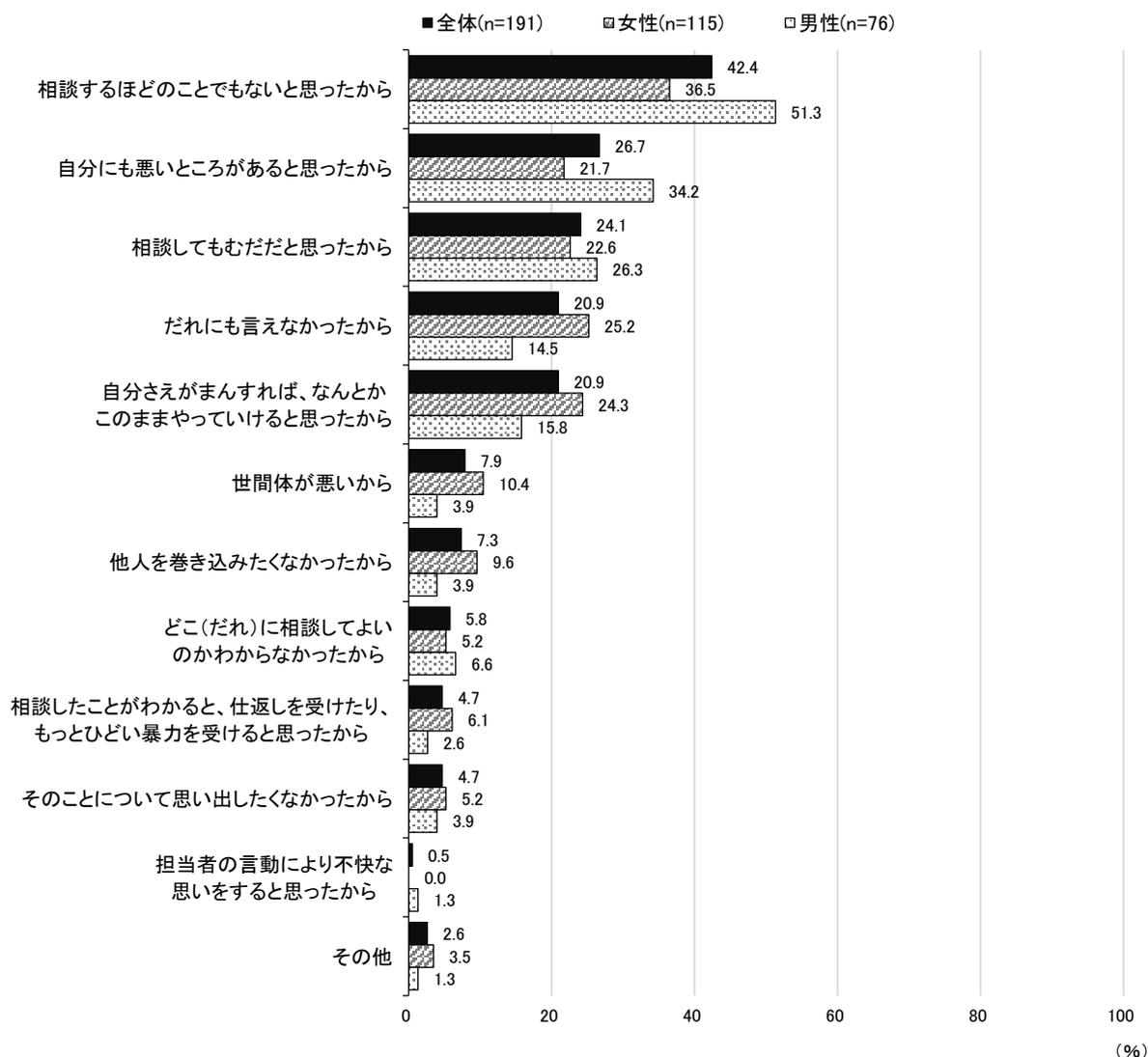
(20) 配偶者等から暴力を受けたときに相談しなかった理由

どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

配偶者等からの暴力を相談しなかった理由は、  
「相談するほどのことでもないと思ったから」が 4 割強

- 全体では、「相談するほどのことでもないと思ったから」が 42.4%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 26.7%、「相談してもむだだと思ったから」が 24.1%となっている。
- 性別で見ると、「だれにも言えなかったから」(女性 25.2%、男性 14.5%)は女性の方が 10.7 ポイント高く、「相談するほどのことでもないと思ったから」(女性 36.5%、男性 51.3%)は男性の方が 14.8 ポイント高くなっている。

図表 20-1 配偶者等から暴力を受けた時に相談しなかった理由



図表 20-2 配偶者等から暴力を受けた時に相談しなかった理由

		相談するほどのことでもないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談してもむだだと思ったから	だれにもいえなかったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたら、もっとひどい暴力を受けると思ったから	そのことについて思い出しにくかったから	担当者の言動により不快な思いをすることを思ったから	その他	
全体(n=191)		42.4	26.7	24.1	20.9	20.9	7.9	7.3	5.8	4.7	4.7	0.5	2.6	
性別	女性(n=115)	36.5	21.7	22.6	25.2	24.3	10.4	9.6	5.2	6.1	5.2	0.0	3.5	
	男性(n=76)	51.3	34.2	26.3	14.5	15.8	3.9	3.9	6.6	2.6	3.9	1.3	1.3	
性別・年齢別	女性													
	18・19歳(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20～29歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30～39歳(n=11)	0.0	36.4	36.4	36.4	36.4	9.1	27.3	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0	
	40～49歳(n=18)	33.3	22.2	16.7	16.7	5.6	16.7	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0	11.1	
	50～59歳(n=26)	34.6	11.5	34.6	34.6	23.1	7.7	3.8	7.7	0.0	3.8	0.0	0.0	
	60～69歳(n=20)	65.0	20.0	20.0	10.0	15.0	0.0	5.0	0.0	5.0	10.0	0.0	10.0	
	70歳以上(n=39)	35.9	23.1	15.4	28.2	35.9	15.4	10.3	2.6	10.3	5.1	0.0	0.0	
	男性													
	18・19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30～39歳(n=11)	72.7	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
40～49歳(n=14)	42.9	42.9	21.4	14.3	14.3	7.1	0.0	7.1	7.1	14.3	0.0	7.1		
50～59歳(n=13)	38.5	23.1	46.2	30.8	30.8	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0		
60～69歳(n=15)	53.3	26.7	26.7	20.0	6.7	6.7	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0		
70歳以上(n=21)	52.4	47.6	23.8	9.5	23.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	0.0		
性別・婚姻状況別	女性													
	結婚している(n=81)	37.0	21.0	27.2	22.2	22.2	8.6	8.6	3.7	2.5	7.4	0.0	4.9	
	離別・死別した(n=26)	34.6	23.1	7.7	34.6	34.6	19.2	15.4	3.8	11.5	0.0	0.0	0.0	
	結婚していない(n=8)	37.5	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	男性													
	結婚している(n=60)	56.7	35.0	28.3	15.0	18.3	5.0	1.7	5.0	3.3	3.3	1.7	0.0	
離別・死別した(n=7)	42.9	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
結婚していない(n=9)	22.2	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1		
性別・就業状況別	女性													
	就業している(n=74)	37.8	20.3	27.0	24.3	24.3	12.2	13.5	5.4	8.1	5.4	0.0	5.4	
	就業していない(n=41)	34.1	24.4	14.6	26.8	24.4	7.3	2.4	4.9	2.4	4.9	0.0	0.0	
	男性													
就業している(n=52)	50.0	30.8	30.8	13.5	11.5	1.9	3.8	5.8	1.9	3.8	1.9	1.9		
就業していない(n=24)	54.2	41.7	16.7	16.7	25.0	8.3	4.2	8.3	4.2	4.2	0.0	0.0		
前々回	平成12年(n=303)	63.7	40.6	13.2	7.9	20.5	4.0	7.6	1.3	1.7	1.0	0.7	3.0	
	平成17年(n=207)	53.6	36.7	16.9	7.2	21.7	8.2	3.9	14.5	2.4	2.4	4.3	1.0	
	平成22年(n=199)	47.2	23.6	20.1	7.0	21.6	6.0	7.0	12.1	2.0	2.0	3.0	2.5	
	平成27年(n=190)	56.3	28.4	20.0	9.5	20.0	5.8	10.0	5.8	2.6	3.2	2.6	1.1	
	今回	令和2年(n=191)	42.4	26.7	24.1	20.9	20.9	7.9	7.3	5.8	4.7	4.7	0.5	2.6
平成29年 全国(n=318)		58.2	34.3	22.3	16.0	22.3	5.7	5.7	6.0	0.9	5.3	1.3	6.3	

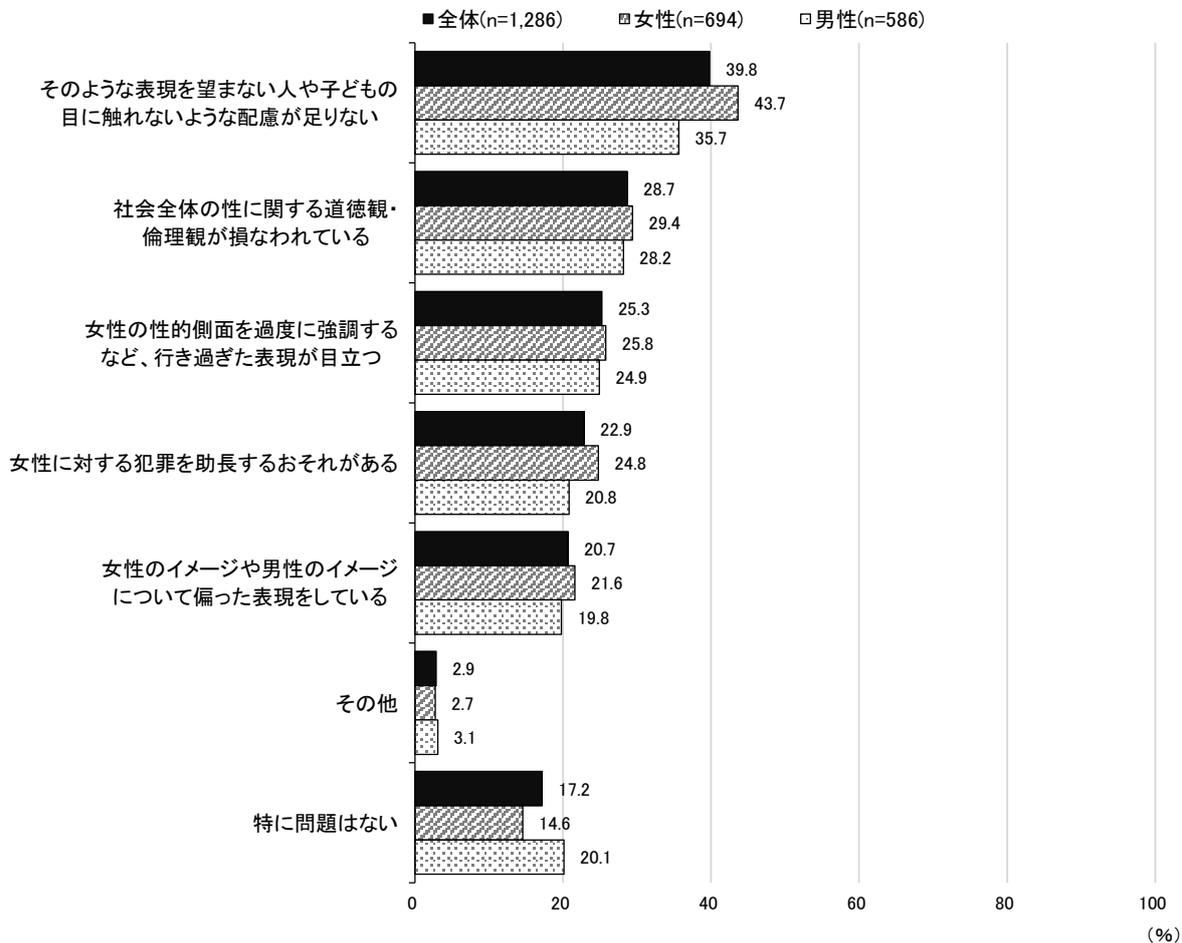
(21) メディアにおける性・暴力表現についての意識

テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。（〇はいくつでも）

メディアにおける性・暴力表現についての意識は、  
「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」  
が4割弱

- 全体では、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」と考える人が39.8%と最も高く、次いで「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」と考える人が28.7%、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」と考える人が25.3%となっている。一方で、「特に問題ない」は17.2%となっている。
- 性別でみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」（女性43.7%、男性35.7%）は女性の方が8.0ポイント高く、「特に問題ない」（女性14.6%、男性20.1%）は男性の方が5.5ポイント高くなっている。

図表 21-1 メディアにおける性・暴力表現についての意識



図表 21-2 メディアにおける性・暴力表現についての意識

		触れられないような表現を望まない人や子どもの目に	わ社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損な	過ぎた性的側面を過度に強調するなど、行き	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	偏ったイメージや男性のイメージについて	その他	特に問題はない
全体(n=1,286)		39.8	28.7	25.3	22.9	20.7	2.9	17.2
性別	女性(n=694)	43.7	29.4	25.8	24.8	21.6	2.7	14.6
	男性(n=586)	35.7	28.2	24.9	20.8	19.8	3.1	20.1
性別・年齢別	女性							
	18・19歳(n=6)	50.0	33.3	66.7	16.7	33.3	0.0	0.0
	20～29歳(n=41)	39.0	41.5	22.0	14.6	34.1	2.4	19.5
	30～39歳(n=78)	43.6	20.5	21.8	23.1	35.9	3.8	23.1
	40～49歳(n=112)	37.5	21.4	25.9	32.1	18.8	4.5	22.3
	50～59歳(n=120)	52.5	28.3	29.2	36.7	19.2	0.8	8.3
	60～69歳(n=130)	45.4	38.5	23.8	25.4	20.0	3.1	13.8
	70歳以上(n=207)	41.5	29.5	26.1	16.4	17.4	2.4	10.6
	男性							
	18・19歳(n=7)	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	42.9
	20～29歳(n=40)	30.0	20.0	12.5	22.5	22.5	2.5	22.5
	30～39歳(n=66)	25.8	18.2	21.2	18.2	28.8	6.1	30.3
	40～49歳(n=72)	36.1	29.2	33.3	20.8	23.6	8.3	20.8
	50～59歳(n=91)	35.2	31.9	26.4	28.6	28.6	2.2	18.7
60～69歳(n=129)	41.9	29.5	27.1	25.6	17.8	1.6	17.8	
70歳以上(n=181)	36.5	31.5	23.8	14.9	11.6	1.7	17.1	
性別・婚姻状況別	女性							
	結婚している(n=449)	47.0	28.7	26.7	27.2	20.5	2.7	15.6
	離別・死別した(n=126)	38.9	31.7	21.4	21.4	13.5	2.4	11.9
	結婚していない(n=119)	36.1	29.4	26.9	19.3	34.5	3.4	13.4
	男性							
	結婚している(n=418)	38.8	29.7	27.8	21.1	19.9	3.3	18.4
離別・死別した(n=46)	37.0	26.1	17.4	21.7	17.4	0.0	13.0	
結婚していない(n=121)	24.8	24.0	18.2	19.8	20.7	3.3	28.9	
性別・就業状況別	女性							
	就業している(n=397)	42.6	28.2	26.2	28.5	24.2	2.5	16.9
	就業していない(n=291)	45.0	30.9	24.7	19.6	17.9	3.1	11.7
	男性							
就業している(n=385)	36.1	28.3	26.2	22.3	22.3	3.9	21.8	
就業していない(n=198)	34.8	28.3	22.2	17.7	15.2	1.5	16.7	
前々回	平成12年(n=1417)	62.0	57.7	46.4	40.0	22.7	2.6	6.1
	平成17年(n=1096)	58.1	50.7	39.9	32.8	20.1	1.9	6.1
	平成22年(n=1257)	52.9	41.8	30.9	33.7	17.3	2.5	10.5
	平成27年(n=1267)	46.8	34.9	27.2	29.4	16.7	1.4	14.9
	今回	令和2年(n=1,286)	39.8	28.7	25.3	22.9	20.7	2.9

## 5 男女共同参画センターについて

### (22) 宮崎県男女共同参画センターの認知度

県では、男女共同参画社会づくりの拠点として「宮崎県男女共同参画センター」を設置し、次のような事業を行っています。

所在地：宮崎市宮田町3番46号（県庁9号館1階）

- ① 情報提供事業～図書・DVD・啓発資料などの閲覧、貸出
- ② 啓発事業～広報啓発誌などの発行、男女共同参画講座の開催
- ③ 相談事業～電話相談・面接相談
- ④ 交流事業～交流・学習活動の支援

あなたは、上記の事業についてどの程度ご存じですか。1つ選んで番号に○をつけてください。  
(○は1つだけ)

### 宮崎県男女共同参画センターについて

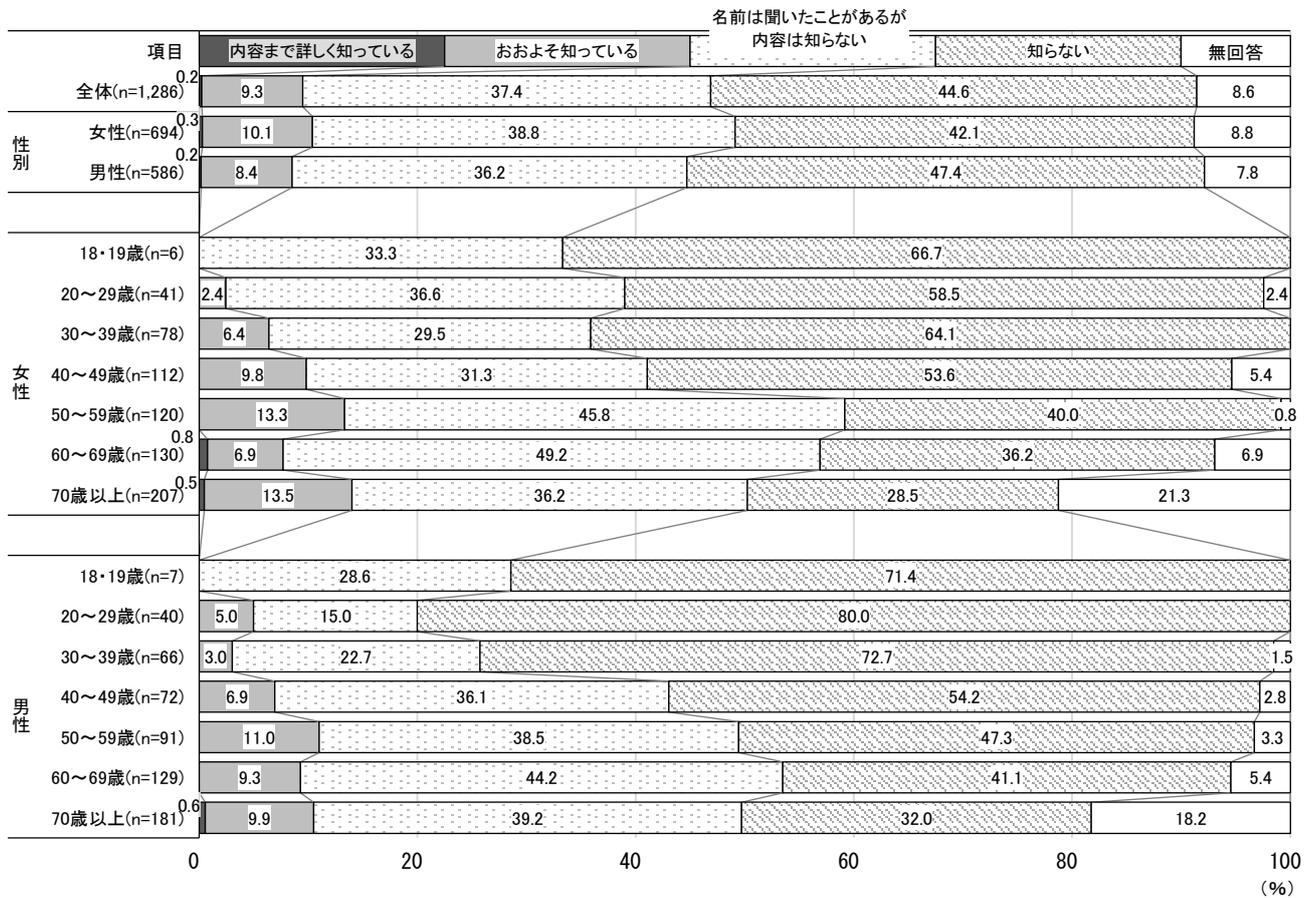
「内容まで詳しく知っている」、又は「おおよそ知っている」が 1 割弱

「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が 4 割弱

「知らない」が 4 割強

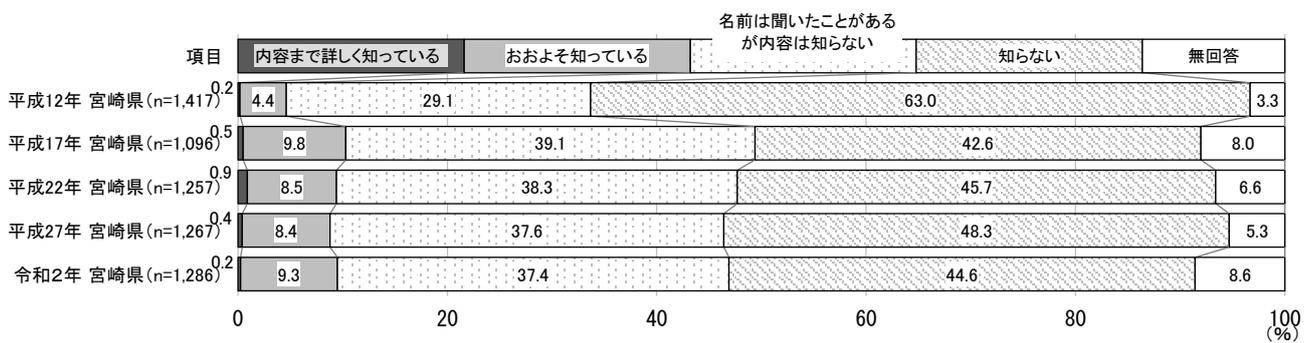
- 全体では、「宮崎県男女共同参画センター」の存在を『何らかの形で知っている（「内容まで詳しく知っている」「おおよそ知っている」「名前は聞いたことがあるが内容までは知らない」の合計）』は46.9%となっており、そのうち「内容まで詳しく知っている」及び「おおよそ知っている」は9.5%となっている。一方、「知らない」は44.6%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が42.1%、男性が47.4%となっており、男性の方が5.3ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、男女ともに20代から40代で「知らない」が50%を超えている。

図表 22-1 男女共同参画センターの認知度(性別・年代別)



■ 時系列で比較すると、「知らない」は平成12年調査では63.0%であったが、17年調査では42.6%、22年調査では45.7%、27年調査では48.3%と推移しており、今回調査では44.6%となっている。

図表 22-2 男女共同参画センターの認知度(時系列比較)



### (23) 男女共同参画センターの利用の有無等

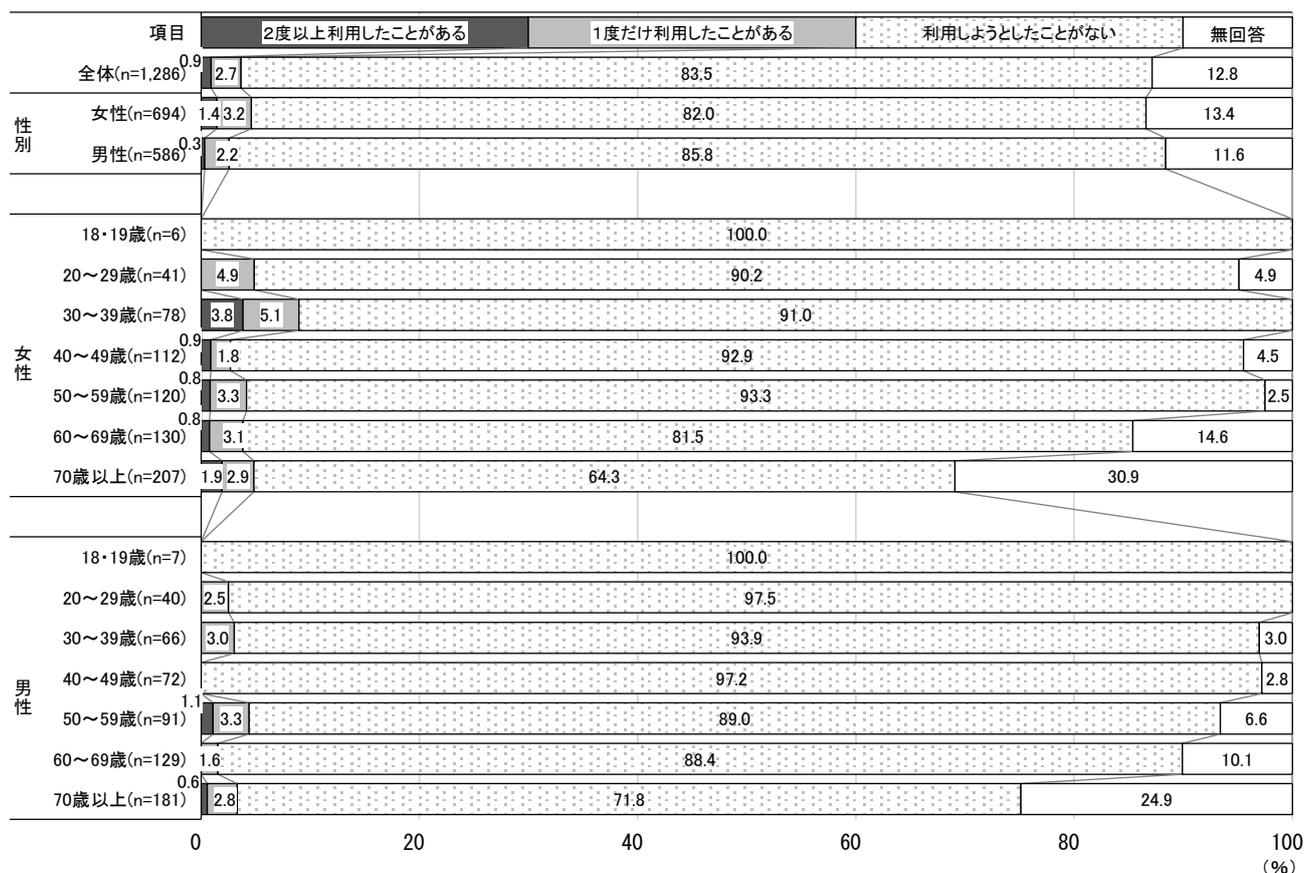
実際に宮崎県男女共同参画センターを利用したことがありますか。(○は1つだけ)

宮崎県男女共同参画センターの利用について、利用経験者は1割未満

利用しようとしたことがない理由は、「存在や内容を知らない」「利用する必要がない」など

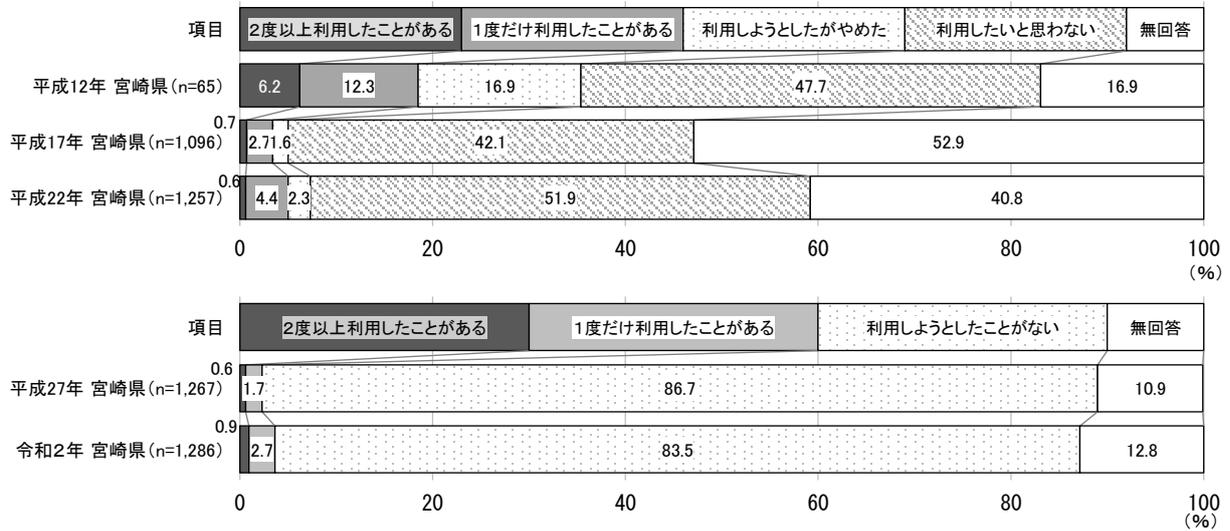
- 全体では、『1度でも利用したことがある(「2度以上利用したことがある」および「1度だけ利用したことがある」の合計)』は3.6%で、「利用しようとしたことがない」は83.5%となっている。
- 性別で見ると、「利用しようとしたことがない」は、女性が82.0%、男性が85.8%となっており、男性の方が3.8ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から50代女性、20代から40代男性で「利用しようとしたことがない」が90%を超えている。

図表 23-1 男女共同参画センター利用の有無等(性別・年代別)



- 時系列で比較すると、「利用しようとしたことがない」は平成27年調査では86.7%であったが、今回調査では83.5%となっている。

図表 23-2 男女共同参画センター利用の有無等(時系列比較)



※平成12年度調査はセンターを「内容まで詳しく知っている」又は「おおそ知っている」と回答した人の利用状況の数値

また、「利用しようとしたことがない」と答えた人に対し、その理由についてたずねたところ、552名から回答を得た。

「宮崎県男女共同参画センター」を利用しない主な理由としては、「存在や内容を知らない」(278名)、「利用する必要性がない」(253名)等が挙げられた。

なお、主な回答内容については次ページのとおり。

<存在や内容を知らない>

- ・ 使うタイミングがわからない。 (女性・20代)
- ・ どういう機会を利用すればいいかわからないから。 (女性・30代)
- ・ 何の施設かわからない。 (男性・30代)
- ・ 何をしているかどこにあるかわからない。 (女性・40代)
- ・ 情報を知らない。 (女性・50代)
- ・ 利用の仕方がわからないし、必要が今のところない。 (女性・60代)
- ・ 日がわからない。 (女性・70歳以上)

<利用する必要性がない>

- ・ 利用に至る経緯がなかったため。 (男性・18・19歳)
- ・ 利用してもしなくても変わらないと思うから。 (女性・20代)
- ・ 関心があまりなく、また利用しようと思っても県庁に駐車場がない。 (男性・30代)
- ・ 時間もないし結局解決しない。 (女性・40代)
- ・ 利用して具体的な効果が目に見えない。 (男性・40代)
- ・ 行って何になるのかと思ったから。 (女性・50代)
- ・ 問題意識が無かった。 (男性・60代)
- ・ 今は家庭が平穏だから。 (男性・70歳以上)
- ・ 県公報、市広報、地域生活情報等で間にある。 (女性・70歳以上)

<その他>

- ・ 名前しか知らないし、身近でない。  
カフェ(買い物ができるなど)が併設されていれば、利用するきっかけになるかも。 (女性・30代)
- ・ どうせ平日の日中しかしていないだろうと思うから。 (女性・30代)
- ・ 自分の仕事が忙しいため。 (男性・40代)
- ・ 身近さを感じられない。 (女性・50代)
- ・ 身近に感じた事がない。 (女性・60代)
- ・ 1人で外に出ることが出来ない。 (女性・70歳以上)

(24) 男女共同参画センターに期待すること

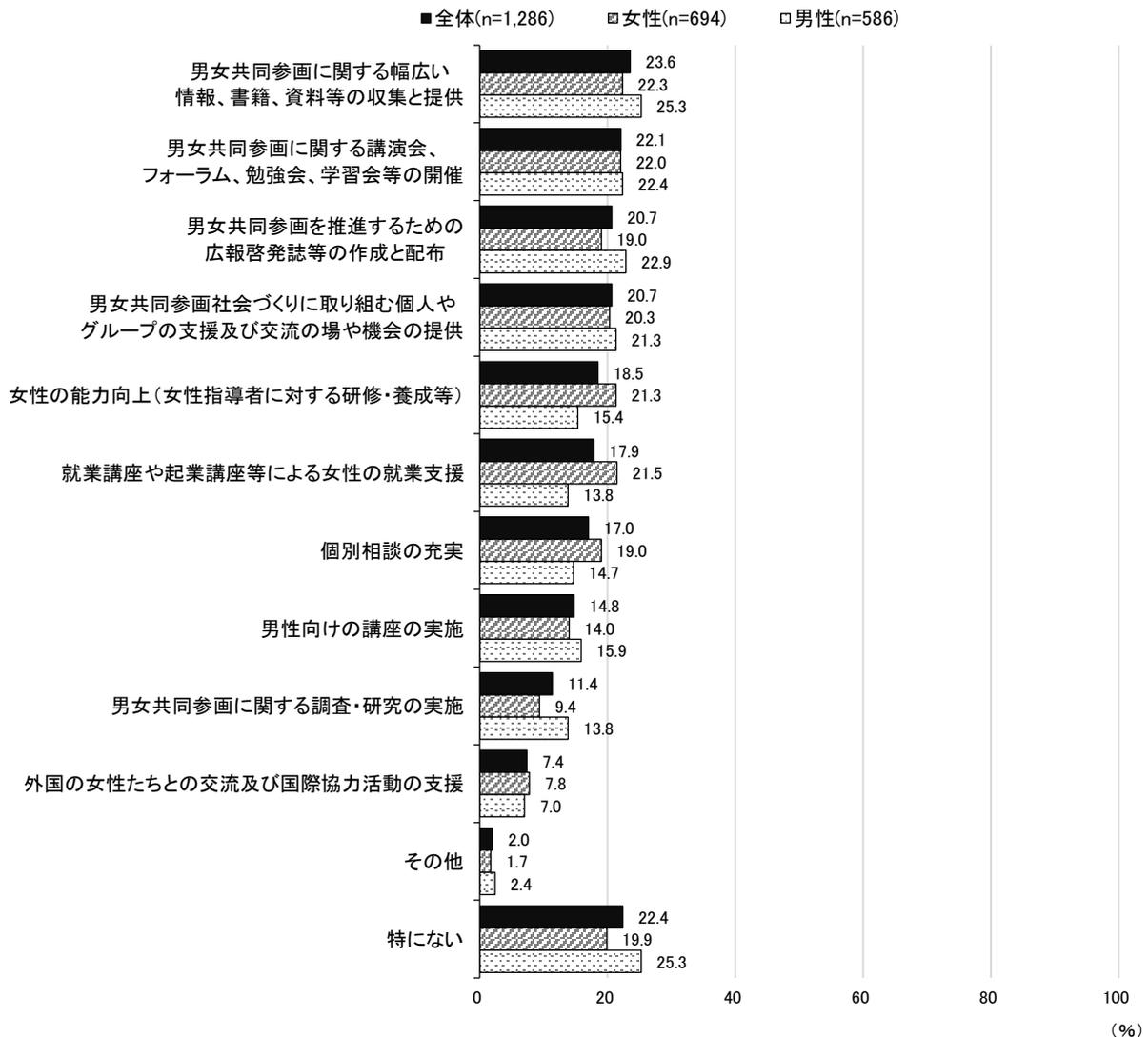
あなたが男女共同参画センターに必要だと思う、または期待する機能は何ですか。

(〇はいくつでも)

男女共同参画センターに期待することは、  
 「幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」、  
 「講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催」

- 全体では、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」が23.6%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催」が22.1%となっている。一方で、「特にない」が22.4%となっている。

図表 24-1 男女共同参画センターに期待すること



図表 24-2 男女共同参画センターに期待すること

		男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供	男女共同参画に関する講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催	男女共同参画を推進するための広報啓発誌等の作成と配布	男女共同参画社会づくりに取り組む個人やグループの支援及び交流の場や機会の提供	女性の能力向上（女性指導者に対する研修・養成等）	就業講座や起業講座等による女性の就業支援	個別相談の充実	男性向けの講座の実施	男女共同参画に関する調査・研究の実施	外国の女性たちとの交流及び国際協力活動の支援	その他	特になし	
全体(n=1,286)		23.6	22.1	20.7	20.7	18.5	17.9	17.0	14.8	11.4	7.4	2.0	22.4	
性別	女性(n=694)	22.3	22.0	19.0	20.3	21.3	21.5	19.0	14.0	9.4	7.8	1.7	19.9	
	男性(n=586)	25.3	22.4	22.9	21.3	15.4	13.8	14.7	15.9	13.8	7.0	2.4	25.3	
性別・年齢別	女性													
	18・19歳(n=6)	50.0	33.3	16.7	50.0	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	
	20～29歳(n=41)	29.3	26.8	17.1	26.8	22.0	24.4	34.1	26.8	17.1	14.6	2.4	17.1	
	30～39歳(n=78)	24.4	24.4	14.1	21.8	24.4	29.5	24.4	16.7	19.2	16.7	5.1	24.4	
	40～49歳(n=112)	17.0	19.6	26.8	13.4	23.2	22.3	22.3	20.5	11.6	8.0	1.8	22.3	
	50～59歳(n=120)	27.5	24.2	18.3	20.0	25.8	29.2	29.2	14.2	8.3	6.7	1.7	19.2	
	60～69歳(n=130)	26.2	20.8	23.8	24.6	20.8	26.9	16.2	9.2	6.2	6.2	0.8	16.9	
	70歳以上(n=207)	16.9	20.8	14.5	18.8	17.4	8.2	8.7	9.2	4.8	4.3	1.0	20.3	
	男性													
	18・19歳(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	42.9	
	20～29歳(n=40)	27.5	20.0	17.5	22.5	15.0	7.5	7.5	15.0	10.0	12.5	0.0	35.0	
	30～39歳(n=66)	27.3	21.2	22.7	16.7	18.2	16.7	16.7	22.7	16.7	10.6	1.5	31.8	
	40～49歳(n=72)	29.2	33.3	30.6	20.8	20.8	15.3	25.0	23.6	22.2	4.2	6.9	23.6	
	50～59歳(n=91)	26.4	30.8	26.4	24.2	20.9	23.1	24.2	17.6	17.6	9.9	0.0	23.1	
60～69歳(n=129)	30.2	21.7	20.9	21.7	13.2	10.9	14.0	11.6	12.4	5.4	1.6	24.0		
70歳以上(n=181)	19.3	16.0	21.5	22.1	11.6	11.6	7.7	13.3	9.4	5.0	2.8	22.7		
性別・婚姻状況別	女性													
	結婚している(n=449)	23.6	22.0	20.3	19.8	20.9	20.9	16.9	13.6	8.5	6.5	1.6	20.7	
	離別・死別した(n=126)	19.0	19.8	17.5	18.3	19.0	16.7	18.3	7.9	8.7	8.7	0.8	19.8	
	結婚していない(n=119)	21.0	24.4	16.0	24.4	25.2	28.6	27.7	21.8	13.4	11.8	3.4	16.8	
	男性													
	結婚している(n=418)	25.1	22.0	25.6	22.0	15.8	14.8	14.4	16.0	14.8	5.7	2.6	22.0	
離別・死別した(n=46)	26.1	19.6	19.6	19.6	19.6	15.2	15.2	10.9	6.5	4.3	2.2	30.4		
結婚していない(n=121)	25.6	24.8	14.9	19.8	12.4	9.9	15.7	17.4	13.2	12.4	1.7	34.7		
性別・就業状況別	女性													
	就業している(n=397)	23.4	22.9	20.4	18.1	23.7	25.7	20.9	15.6	10.6	8.3	2.5	19.9	
	就業していない(n=291)	21.0	21.0	17.5	23.4	17.9	15.8	16.5	12.0	7.9	6.9	0.7	19.9	
	男性													
就業している(n=385)	27.5	25.2	24.7	21.0	16.4	15.1	18.2	17.4	15.3	6.5	2.3	25.5		
就業していない(n=198)	21.2	17.2	19.7	22.2	13.6	11.6	8.1	13.1	11.1	8.1	2.5	24.7		
前々回 前回 今回	平成12年(n=1417)	19.0	21.7	-	27.7	34.4	23.7	43.2	24.8	13.6	12.5	1.8	6.6	
	平成17年(n=1096)	27.7	22.6	24.8	26.5	23.0	18.1	13.5	14.3	9.3	6.9	2.6	12.1	
	平成22年(n=1257)	23.5	20.4	19.3	24.5	23.7	17.7	14.0	14.4	8.7	6.0	3.3	18.7	
	平成27年(n=1267)	23.8	19.4	21.2	24.3	23.8	17.0	11.6	14.1	8.8	6.6	2.7	20.2	
	令和2年(n=1,286)	23.6	22.1	20.7	20.7	18.5	17.9	17.0	14.8	11.4	7.4	2.0	22.4	

## 6 男女共同参画施策について

### (25) 男女共同参画に関する言葉の認知度

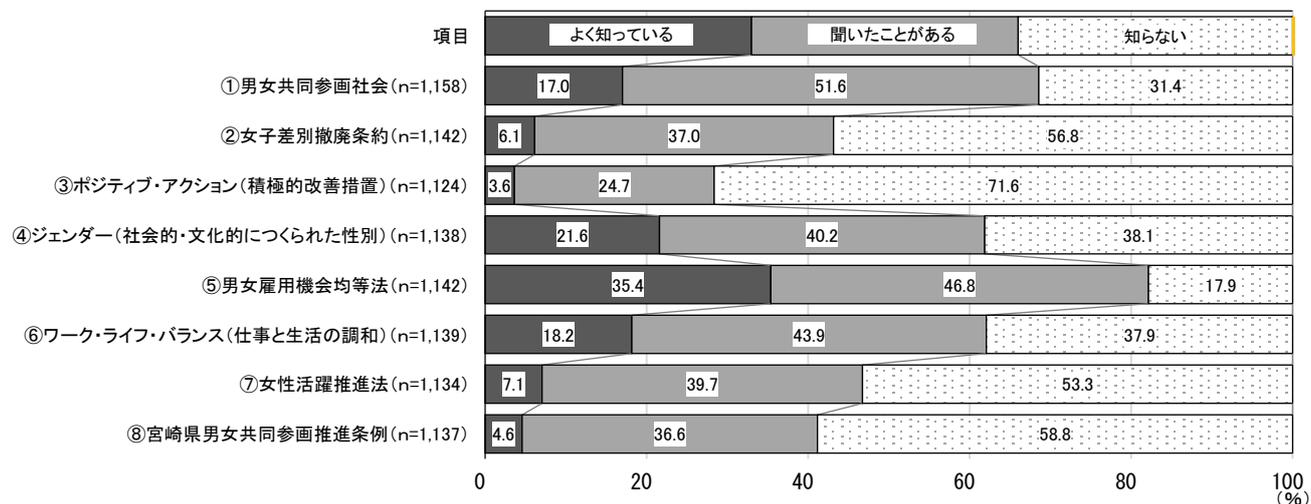
あなたは、次の①～⑧にあげる言葉をご存知ですか。（〇はそれぞれ1つずつ）

全ての設問において、無回答の方を除いて割合を比較している。

男女共同参画に関する言葉のうち、  
比較的よく知られているのは、  
「男女雇用機会均等法」、「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)」、  
知られていないのは、  
「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」、「宮崎県男女共同参画推進条例」

- 「よく知っている」は「男女雇用機会均等法」が35.4%と最も高く、次いで「ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)」が21.6%、「ワーク・ライフ・バランス」が18.2%となっている。
- 「知らない」は「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」が71.6%と最も高く、次いで「宮崎県男女共同参画推進条例」が58.8%、「女子差別撤廃条約」が56.8%となっている。

図表 25-1 男女共同参画に関する言葉の認知度

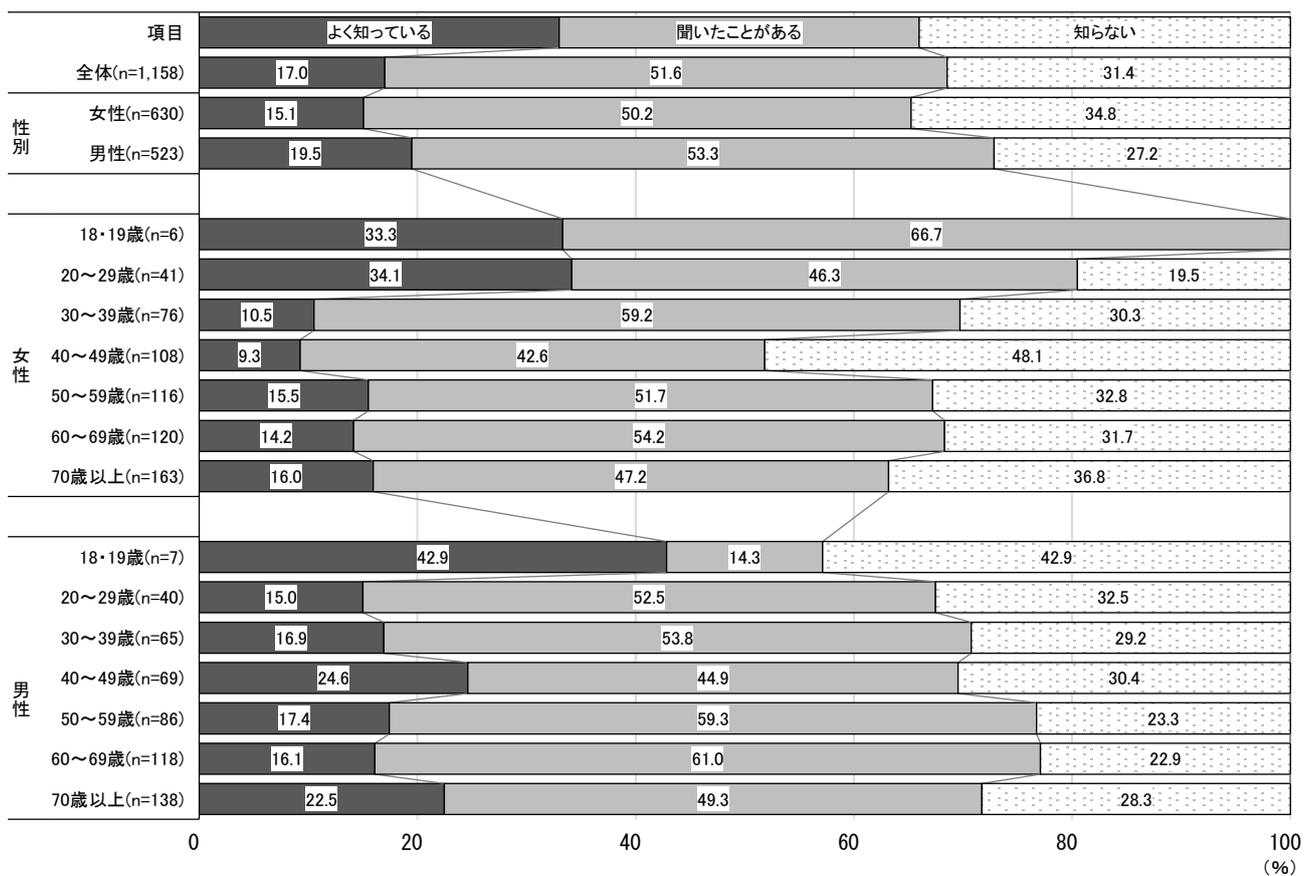


# ① 男女共同参画社会

～「知らない」人が3割強

- 全体では、「よく知っている」は17.0%、「聞いたことがある」は51.6%、「知らない」は31.4%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が34.8%、男性が27.2%となっており、女性の方が7.6ポイント高くなっている。

図表 25-①-1 男女共同参画社会(性別・年齢別)

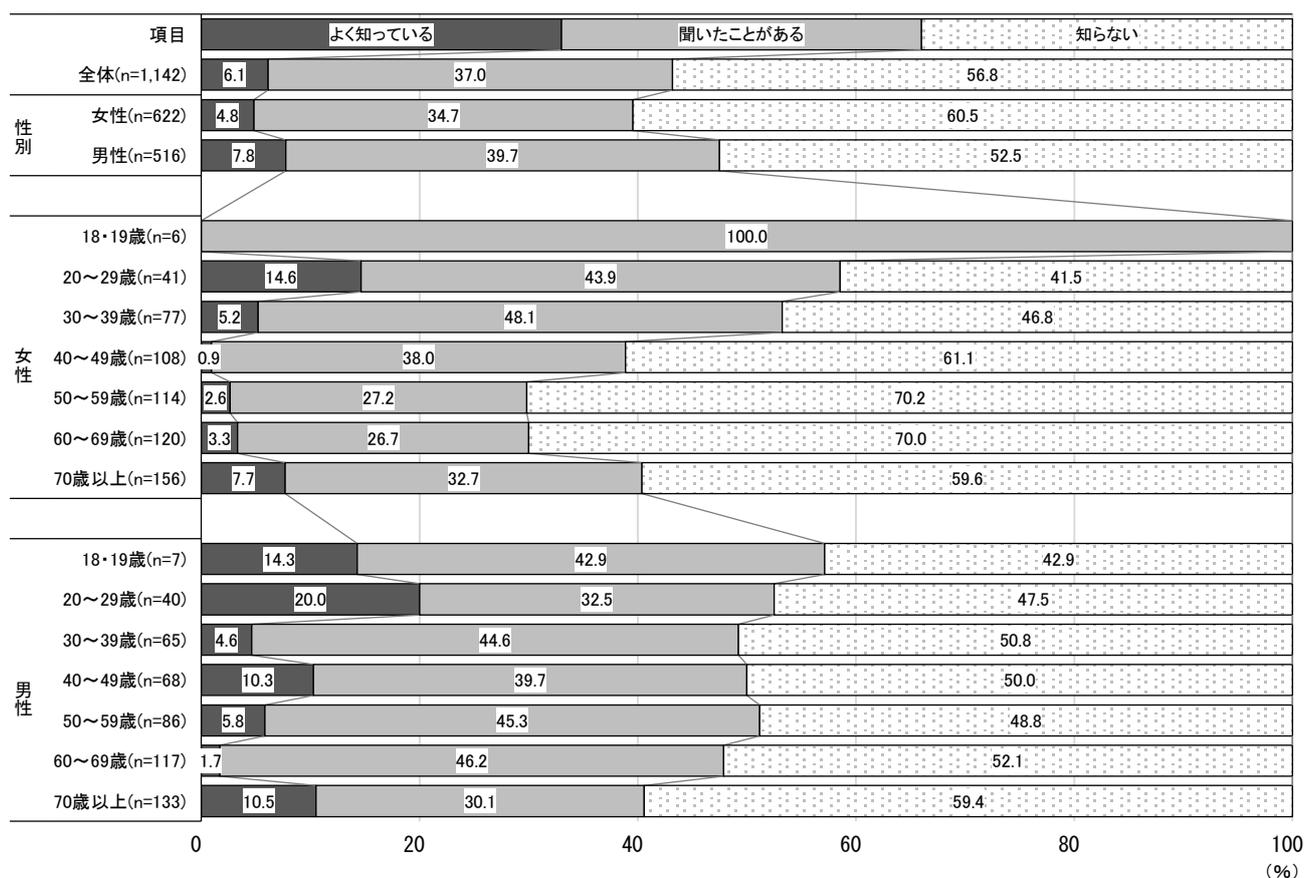


## ② 女子差別撤廃条約

～「知らない」人が6割弱

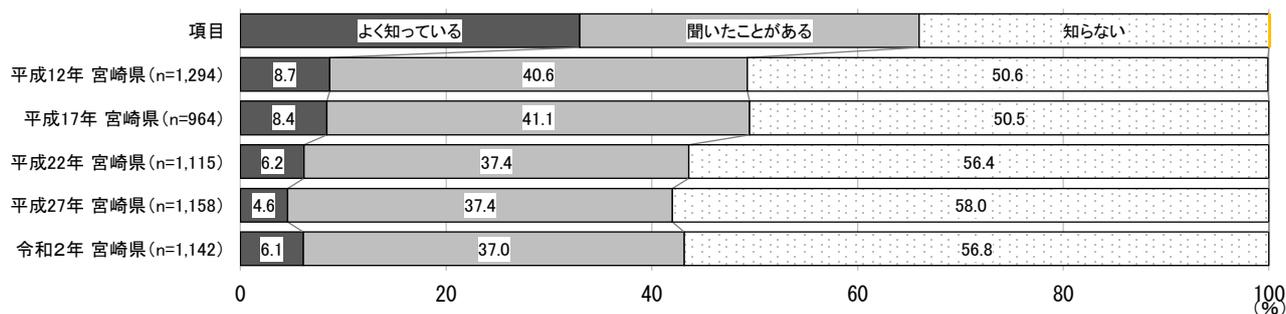
- 全体では、「よく知っている」は6.1%、「聞いたことがある」は37.0%、「知らない」は56.8%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が60.5%、男性が52.5%となっており、女性の方が8.0ポイント高くなっている。

図表 25-②-1 女子差別撤廃条約(性別・年齢別)



- 時系列で比較すると、「知らない」は平成12年調査では50.6%であったが、17年調査では50.5%、22年調査では56.4%、27年調査では58.0%と推移しており、今回調査では56.8%となっている。

図表 25-②-2 女子差別撤廃条約(時系列比較)

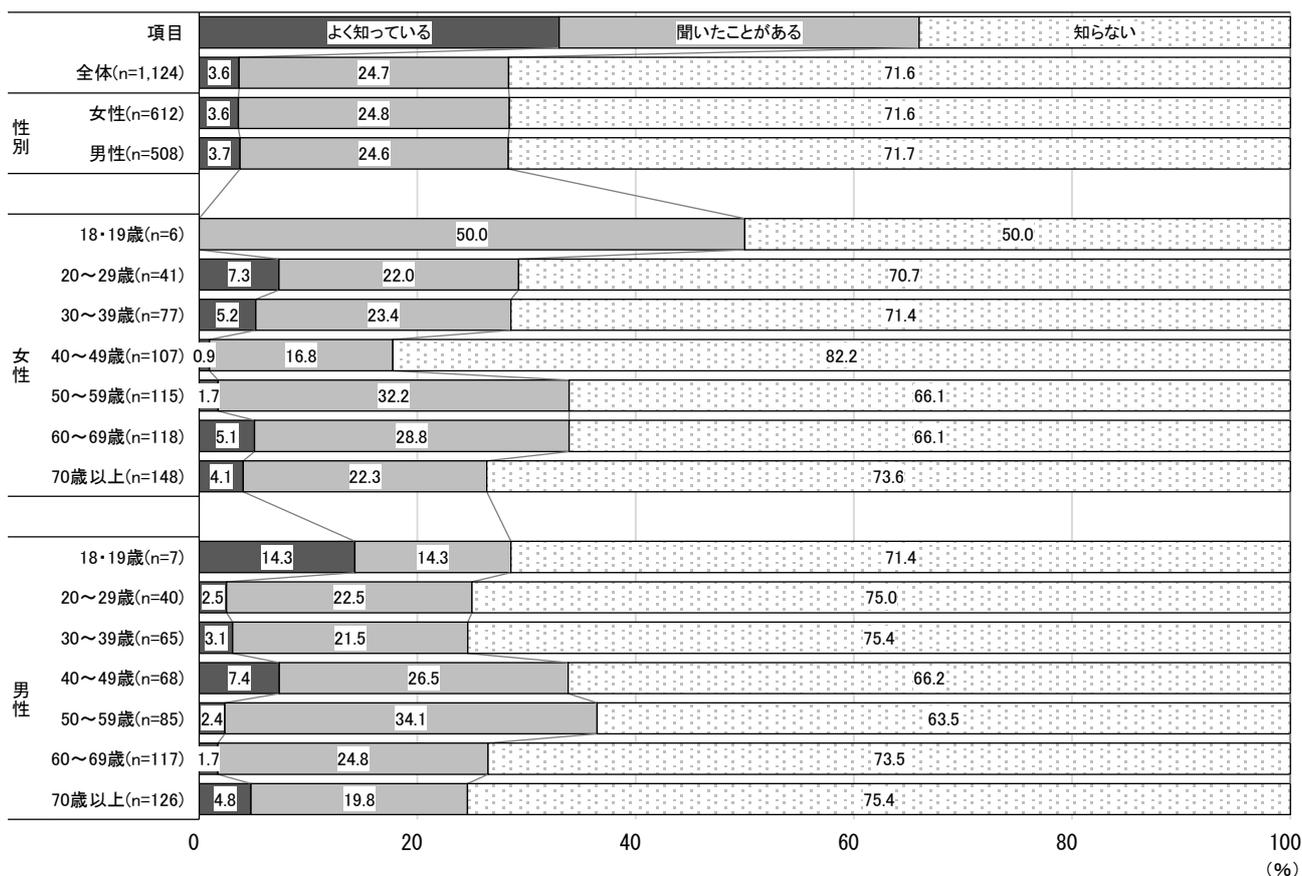


### ③ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

～「知らない」人が7割強

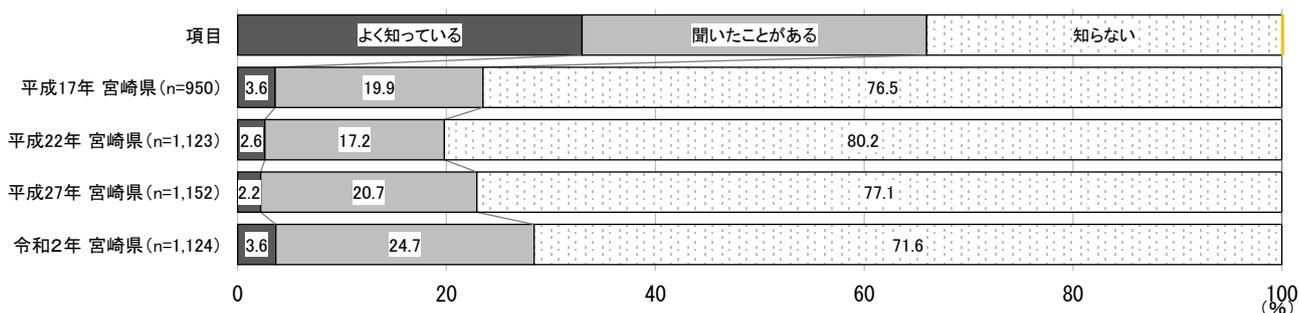
- 全体では、「よく知っている」は3.6%、「聞いたことがある」は24.7%、「知らない」は71.6%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が71.6%、男性が71.7%となっており、ほぼ同じ割合となっている。

図表 25-③-1 ポジティブ・アクション(性別・年齢別)



- 時系列で比較すると、「知らない」は平成17年調査では76.5%であったが、22年調査では80.2%、27年調査では77.1%と推移しており、今回調査では71.6%となっている。

図表 25-③-2 ポジティブ・アクション(時系列比較)

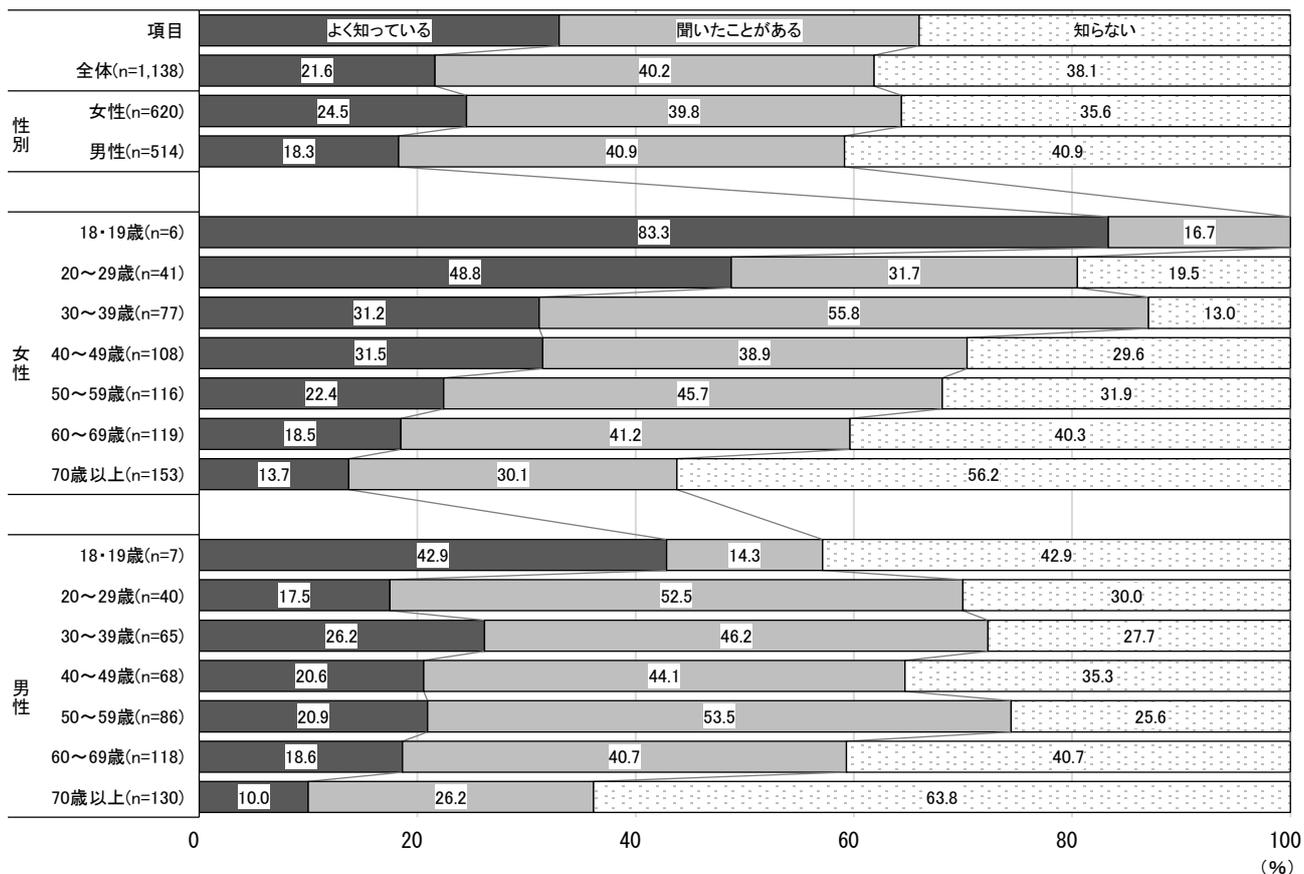


#### ④ ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

～「知らない」人が4割弱

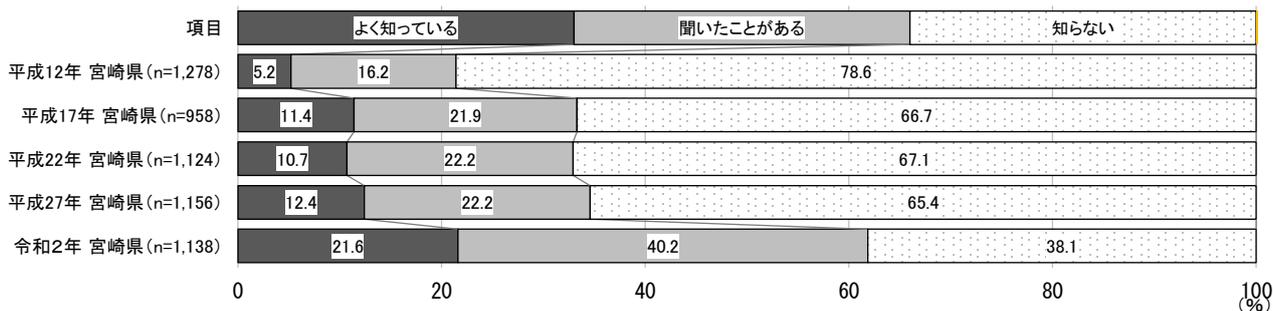
- 全体では、「よく知っている」は21.6%、「聞いたことがある」は40.2%、「知らない」は38.1%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が35.6%、男性が40.9%となっており、男性の方が5.3ポイント高くなっている。

図表 25-④-1 ジェンダー(性別・年齢別)



- 時系列で比較すると、「知らない」は平成12年調査では78.6%であったが、17年調査では66.7%、22年調査では67.1%、27年調査では65.4%と推移しており、今回調査では38.1%となっている。

図表 25-④-2 ジェンダー(時系列比較)

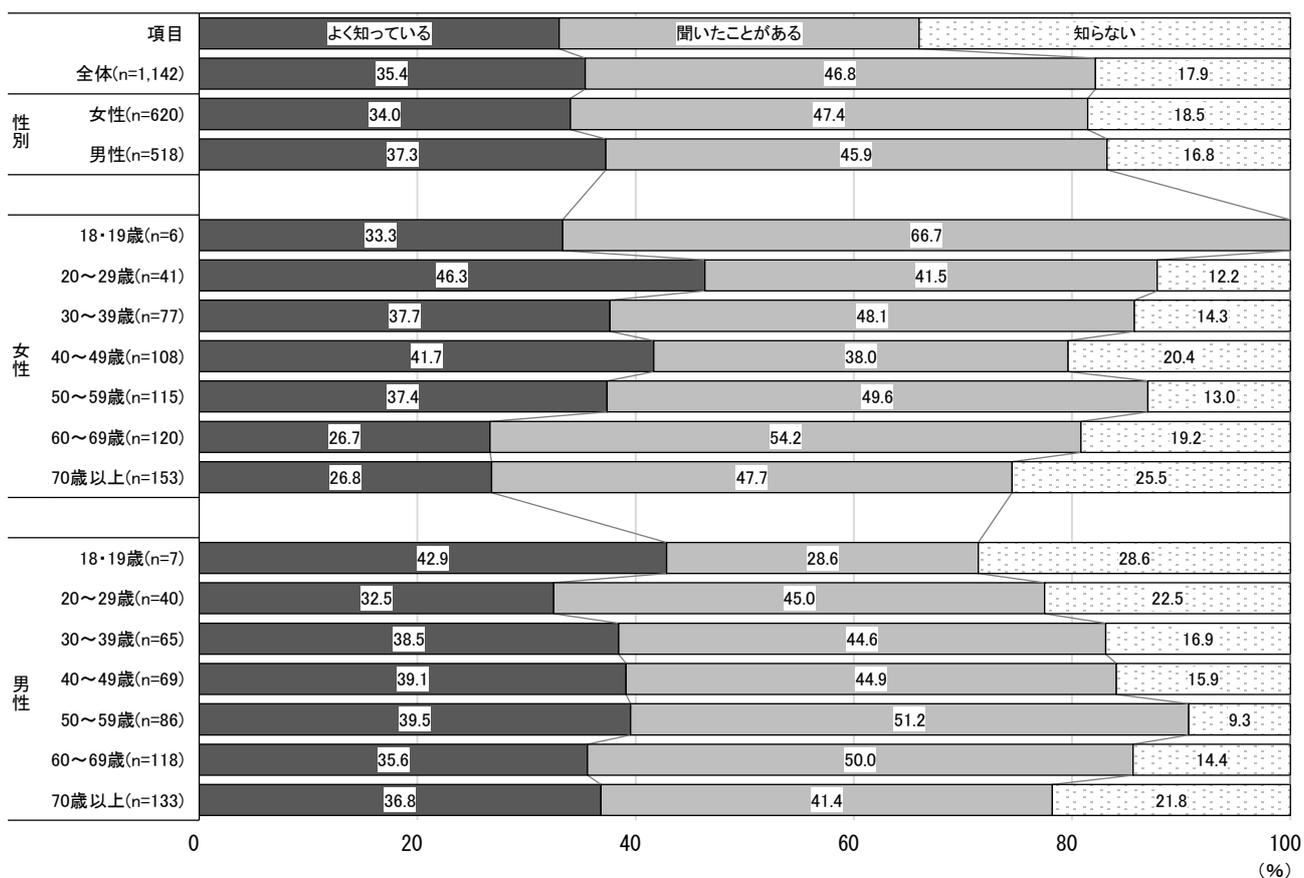


## ⑤ 男女雇用機会均等法

～「知らない」人が2割弱

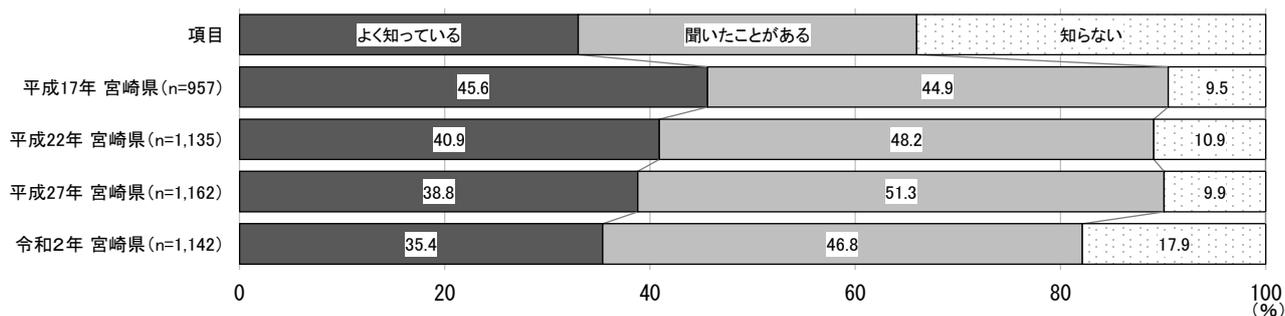
- 全体では、「よく知っている」は35.4%、「聞いたことがある」は46.8%、「知らない」は17.9%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が18.5%、男性が16.8%となっており、女性の方が1.7ポイント高くなっている。

図表 25-⑤-1 男女雇用機会均等法(性別・年齢別)



- 時系列で比較すると、「知らない」は平成17年調査では9.5%であったが、22年調査では10.9%、27年調査では9.9%となっており、今回調査では17.9%となっている。

図表 25-⑤-2 男女雇用機会均等法(時系列比較)

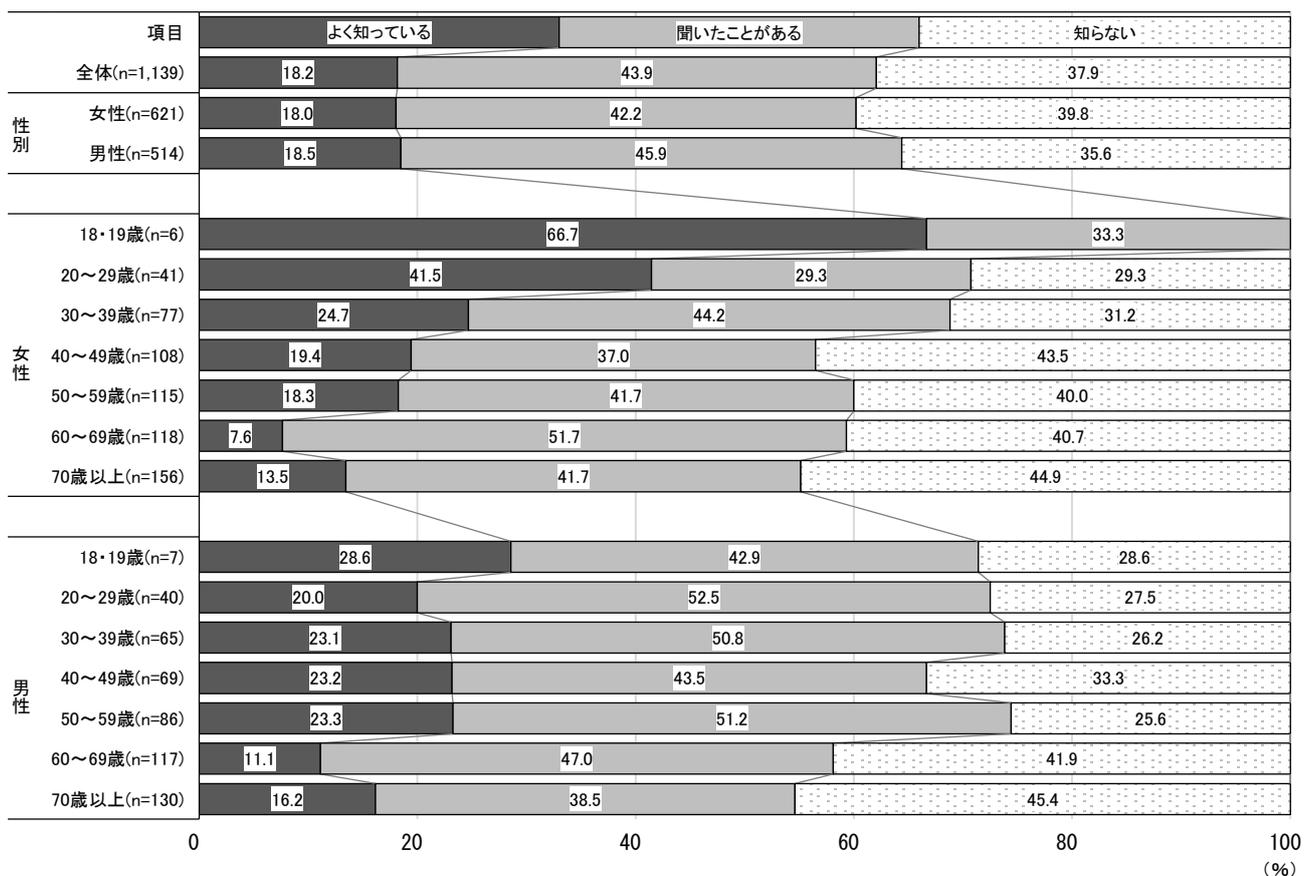


## ⑥ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

～「知らない」人が4割弱

- 全体では、「よく知っている」は18.2%、「聞いたことがある」は43.9%、「知らない」は37.9%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が39.8%、男性が35.6%となっており、女性の方が4.2ポイント高くなっている。

図表 25-⑥-1 ワーク・ライフ・バランス(性別・年齢別)

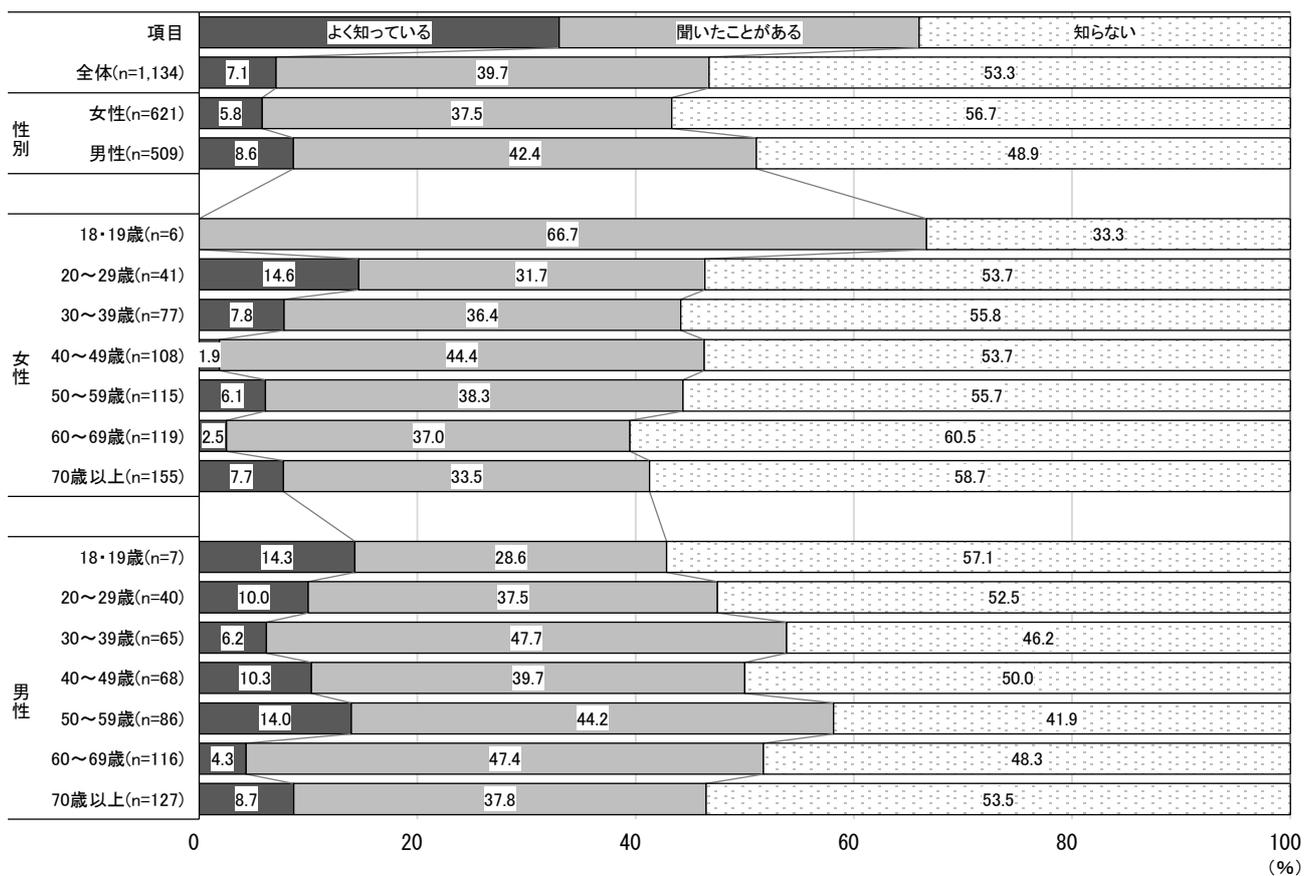


⑦ 女性活躍推進法

～「知らない」人が5割強

- 全体では、「よく知っている」は7.1%、「聞いたことがある」は39.7%、「知らない」は53.3%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が56.7%、男性が48.9%となっており、女性の方が7.8ポイント高くなっている。

図表 25-⑦-1 女性活躍推進法(性別・年齢別)

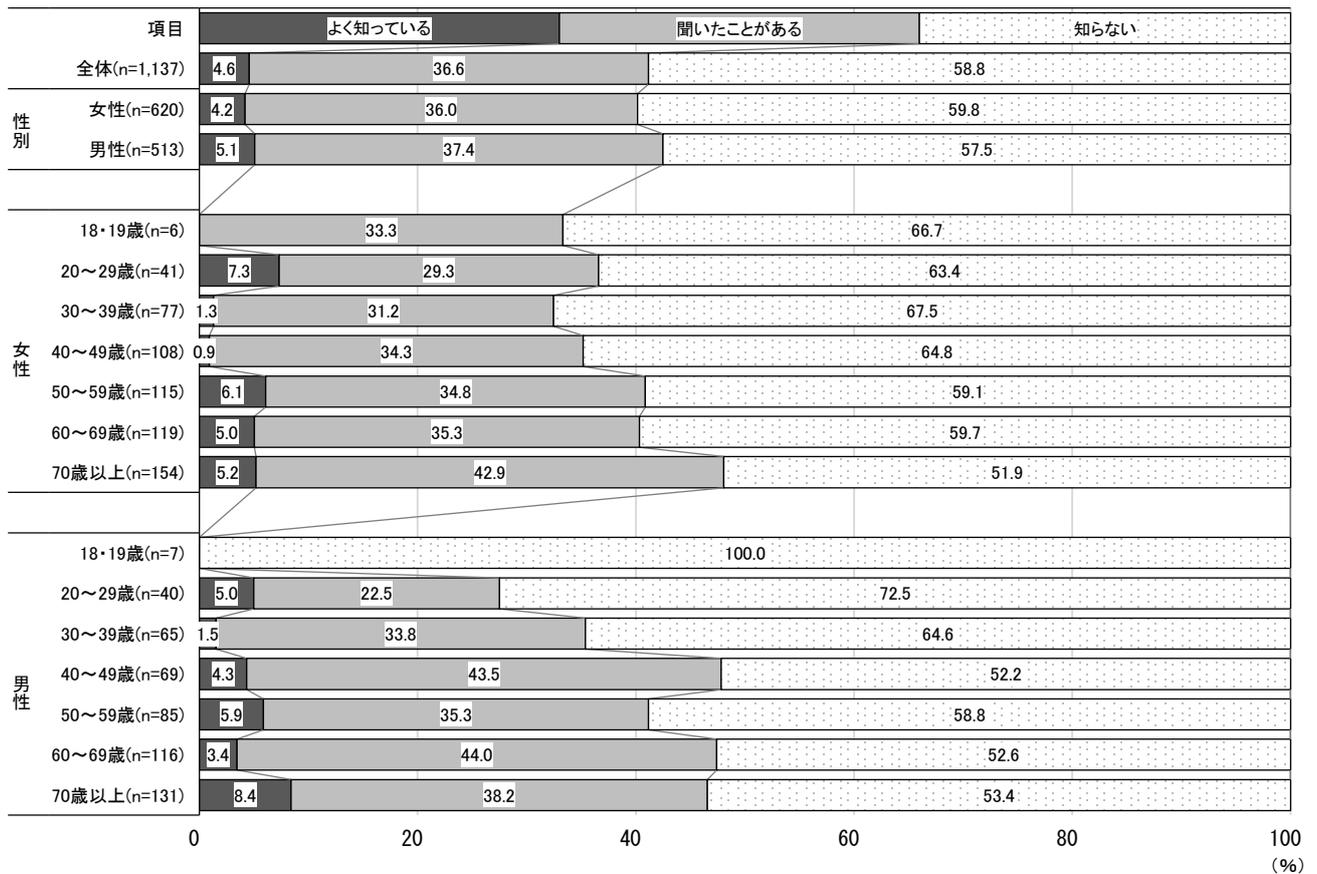


⑧ 宮崎県男女共同参画推進条例

～「知らない」人が6割弱

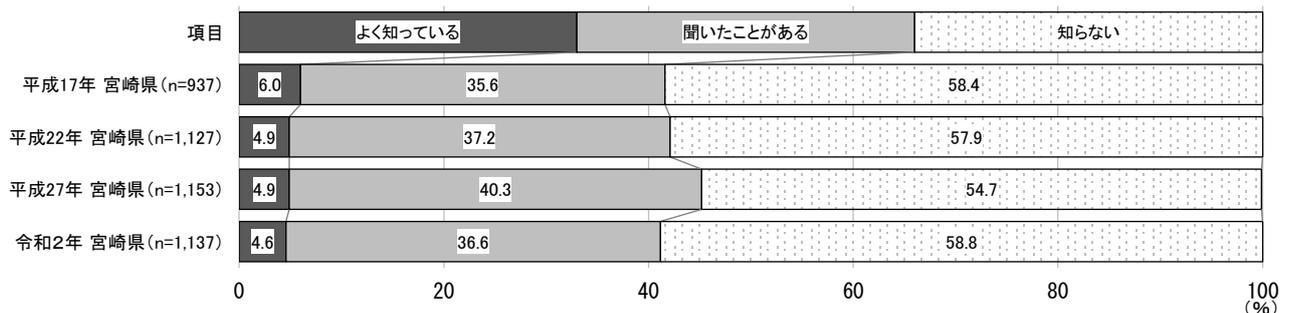
- 全体では、「よく知っている」は4.6%、「聞いたことがある」は36.6%、「知らない」は58.8%となっている。
- 性別で見ると、「知らない」は、女性が59.8%、男性が57.5%となっており、女性の方が2.3ポイント高くなっている。

図表 25-⑧-1 宮崎県男女共同参画推進条例(性別・年齢別)



- 時系列で比較すると、「知らない」は平成17年調査では58.4%であったが、22年調査では57.9%、27年調査では54.7%となっており、今回調査では58.8%となっている。

図表 25-⑧-2 宮崎県男女共同参画推進条例(時系列比較)



(26) 県が推進すべき男女共同参画施策について

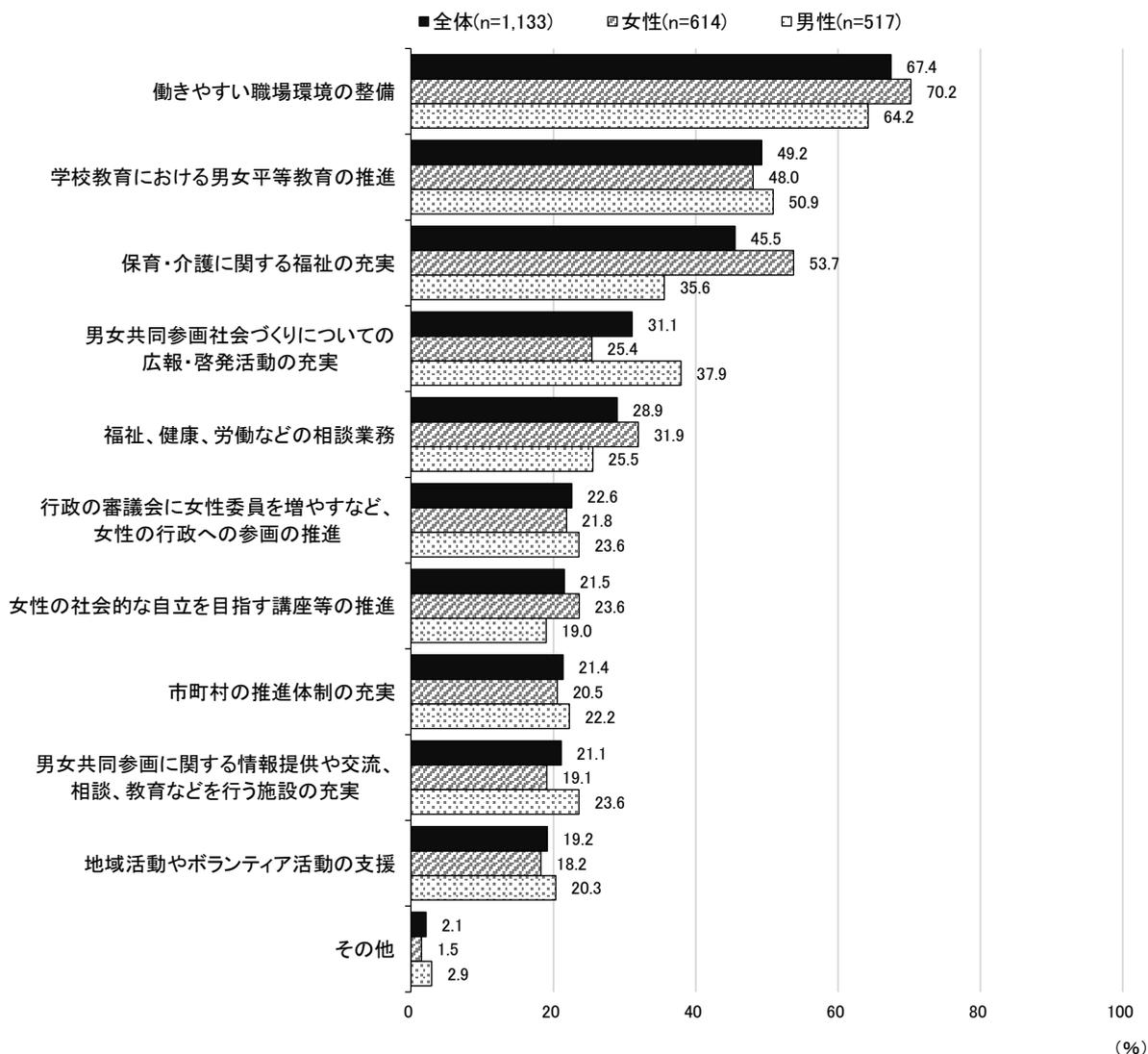
「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、県は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

全ての選択肢において回答のない方を除いて割合を比較している。

県が推進すべき男女共同参画施策としては、  
「働きやすい職場環境の整備」が7割弱

- 全体では、「働きやすい職場環境の整備」が67.4%と最も高く、次いで「学校教育における男女平等教育の推進」が49.2%、「保育・介護に関する福祉の充実」が45.5%となっている。
- 性別でみると、「保育・介護に関する福祉の充実」（女性53.7%、男性35.6%）は女性が18.1ポイント高く、「男女共同参画社会づくりについての広報・啓発活動の充実」（女性25.4%、男性37.9%）は男性が12.5ポイント高くなっている。

図表 26-1 県が推進すべき男女共同参画施策



図表 26-2 県が推進すべき男女共同参画施策

		働きやすい職場環境の整備	学校教育における男女平等教育の推進	保育・介護に関する福祉の充実	男女共同参画社会づくりについての広報・啓発活動の充実	福祉、健康、労働などの相談業務	行政の審議会に女性委員を増やすなど、女性の行政への参画の推進	女性の社会的な自立を目指す講座等の推進	市町村の推進体制の充実	男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、教育などを行う施設の充実	地域活動やボランティア活動の支援	その他	
全体(n=1,133)		67.4	49.2	45.5	31.1	28.9	22.6	21.5	21.4	21.1	19.2	2.1	
性別	女性(n=614)	70.2	48.0	53.7	25.4	31.9	21.8	23.6	20.5	19.1	18.2	1.5	
	男性(n=517)	64.2	50.9	35.6	37.9	25.5	23.6	19.0	22.2	23.6	20.3	2.9	
性別・年齢別	女性												
	18・19歳(n=6)	100.0	66.7	50.0	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	
	20～29歳(n=41)	75.6	68.3	43.9	14.6	29.3	26.8	22.0	12.2	24.4	14.6	0.0	
	30～39歳(n=77)	80.5	45.5	58.4	27.3	33.8	22.1	31.2	19.5	19.5	15.6	1.3	
	40～49歳(n=105)	70.5	41.0	43.8	17.1	26.7	15.2	20.0	18.1	9.5	12.4	3.8	
	50～59歳(n=113)	71.7	55.8	56.6	32.7	40.7	24.8	29.2	20.4	27.4	15.9	0.9	
	60～69歳(n=119)	74.8	43.7	54.6	29.4	29.4	25.2	19.3	21.8	18.5	18.5	0.0	
	70歳以上(n=153)	57.5	45.8	58.2	24.8	31.4	19.6	21.6	24.8	17.6	26.1	2.0	
	男性												
	18・19歳(n=7)	71.4	71.4	28.6	28.6	42.9	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	0.0	
	20～29歳(n=39)	66.7	51.3	35.9	33.3	35.9	17.9	7.7	17.9	28.2	15.4	0.0	
	30～39歳(n=65)	80.0	44.6	32.3	26.2	21.5	16.9	16.9	13.8	20.0	15.4	4.6	
	40～49歳(n=69)	65.2	44.9	33.3	34.8	24.6	24.6	21.7	15.9	15.9	15.9	2.9	
50～59歳(n=84)	65.5	54.8	38.1	39.3	28.6	23.8	23.8	23.8	22.6	20.2	1.2		
60～69歳(n=118)	66.1	50.0	33.9	37.3	20.3	20.3	14.4	21.2	25.4	20.3	0.8		
70歳以上(n=135)	52.6	54.1	38.5	46.7	26.7	30.4	22.2	30.4	26.7	25.9	5.9		
性別・婚姻状況別	女性												
	結婚している(n=403)	72.5	47.4	54.6	27.0	29.3	21.6	23.3	20.6	18.6	16.9	1.0	
	離別・死別した(n=99)	61.6	44.4	48.5	25.3	30.3	21.2	25.3	23.2	20.2	20.2	2.0	
	結婚していない(n=112)	69.6	53.6	55.4	19.6	42.9	23.2	23.2	17.9	19.6	21.4	2.7	
	男性												
	結婚している(n=361)	65.4	51.0	36.3	39.9	24.1	25.8	19.4	22.4	23.8	21.6	3.0	
離別・死別した(n=41)	58.5	53.7	24.4	34.1	17.1	14.6	22.0	26.8	24.4	17.1	2.4		
結婚していない(n=115)	62.6	49.6	37.4	33.0	33.0	20.0	16.5	20.0	22.6	17.4	2.6		
性別・就業状況別	女性												
	就業している(n=368)	73.1	48.1	51.4	25.5	31.8	21.5	24.2	18.8	18.5	15.2	1.4	
	就業していない(n=243)	65.8	47.7	57.2	25.1	31.7	22.6	22.6	23.0	19.8	22.6	1.6	
	男性												
就業している(n=359)	67.1	48.2	33.4	35.9	23.7	23.4	20.9	20.9	23.1	18.4	2.5		
就業していない(n=157)	57.3	56.7	40.1	42.7	29.3	24.2	14.6	25.5	24.2	24.2	3.8		
前々回 前回 今回	平成12年(n=1,016)	58.0	33.5	35.4	27.6	26.1	23.3	26.1	17.7	-	12.1	20.9	
	平成17年(n=992)	55.7	41.7	40.1	33.3	21.8	17.5	15.6	18.1	25.2	13.0	0.7	
	平成22年(n=1,152)	57.6	41.7	46.2	27.4	24.4	13.8	17.2	17.4	17.1	9.8	1.1	
	平成27年(n=1,172)	57.6	43.6	43.3	25.9	19.3	12.5	13.3	19.5	17.6	7.2	2.0	
	令和2年(n=1,133)	67.4	49.2	45.5	31.1	28.9	22.6	21.5	21.4	21.1	19.2	2.1	

※平成27年以前の調査では、回答を3つまでとしている。

# 「資料」自由記入

本県の男女共同参画施策に対する意見の自由記入欄を設けた。

内容を見ると、男女平等についての意識、子育て支援、就労等多岐にわたっている。

回答の選択にあたっては、より様々な角度からの意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい現状・問題点・課題等を中心に、主な意見・要望を紹介するように努めた。

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1 男女平等について  | 6 社会参画について       |
| 2 家庭について    | 7 女性登用について       |
| 3 子育て支援について | 8 県の男女共同参画施策について |
| 4 教育について    | 9 アンケートについて      |
| 5 就労について    | 10 その他           |

## ① 男女平等について

私は男女差はあっても良いと思っています。お互いの持っていないものをそれぞれが補っていくことのできる社会だと良いと思います。最近の男女平等は少し女性視点での改善の方が増え、女性優性になりつつある気がします。

(女性・20代)

男女だけでなく、LBGTにも平等な国になればいいなと思います。

(女性・40代)

「男女共同参画社会づくり」と言っている時点で、差別があるんだなと感じる。私は差別はいらないけれど区別は必要だと思う。男性は男性なりに、女性は女性なりに、らしくいられればOKだと思います。すべてが平等である必要は感じません。個々がお互いに認め合い助け合えればいいことです。

(女性・40代)

急には進まないと思います。でも、皆が意識を少しずつ変えていくことで少しでも社会が変わっていくことと思います。

(女性・60代)

すべて男女平等ばかり強調しないで、男性でなければできない仕事(力仕事)、女性でなければできない仕事(やさしい(例)介護での排泄部分等特に思う)も大切にして、お互いを尊重し、生活していける社会であってほしい。

(女性・70歳以上)

私の世代(1942年生まれ)と違って、充分とは言えないまでも教育や広報活動により男女の意識が違ってきていると思います。これからも良い方向に行く事を願っています。

(女性・70歳以上)

男性の意識改革を進めなければ本件の進展は望めないと思います。

(女性・70歳以上)

まず男性がやることは男性がやる、女性がやることは女性がやるという固定観念をなくした方がいいと思うのでいろいろな状況でのセミナーなどを行ったりしたほうがいいと思う。特に年齢層が高くなるほどこの固定観念を持っている人が多いと思うので、そういった年齢が高い人向けのセミナーなども有効だと思う。

(男性・20代)

制度見直し。制度や条例によって、男性への圧力や風当たりが強くなったのも事実あると思います。何が本当の平等なのかわかりません。

(男性・30代)

行政、企業のトップ（経営陣）が、男女共同参画社会に対する意識を改めないと変わらない。県としても実施状況をしっかり確認する必要があると思う。

(男性・30代)

男女それぞれ生まれながらにして役割は違うと思うので、政治的に介入までして男女平等を進める必要性はないと思う。

(男性・40代)

どの分野で、女性が必要とされているのか、男性と女性がバランスよく仕事や家庭、地域で、気持ちよく活動できるようにサポートできたらいいと思う。

(男性・40代)

## ② 家庭について

---

男女平等をはき違えることなく、男性の役割、女性の役割は重んじていきたいと考える。すべてを同じにする必要はない。男性は力仕事、女性は出産など、できることをお互いで協力し合うことが大切。お互いに感謝しよう。

(女性・50代)

学校では私達が子どもの頃でも平等でした。でも家の中は別でした。男社会の中で女性の地位の低さは、とても悲しいものがありました。それを、祖父母、父母が子どもに男女の差を教え込んでいました。なかなかそれを変えていくのは時間がかかると思います。

(女性・60代)

男女の「らしさ」を取り除き、無理やり平等(同じ)にする必要は無い。それぞれの得意不得意を活かし社会で活躍すれば良い。「らしさ」を強調する事を悪とする風潮、女性も働くべきとの風潮が、現在の少子化を招いている。子育てをしてわかったことは、女性でなければ出来ないことが多い。授乳もそうだが、子供はやはり母親が好き。この事実を踏まえて、父親が子育てを手伝える環境作りが必要だし、働きたい母親には、子育て後の就職の支援も必要だとは思う。現在の男女平等の施策は何かズレていると感じる。

(男性・30代)

男女に限らず親子、親戚関係等、古い習慣や形式等を今一度見直すべき。

(男性・40代)

これから書くことが全てでないことをわかった上で、男性は一般的に力仕事に適し、女性は、妊娠出産ができ、それぞれ同じではない。平等とは、全く同じ仕事をするのではないと思う。何が平等なのか定義をみんなで共有しなくては、何もかも同じにしようとすると歪みがでると思う。

(男性・50代)

### ③ 子育て支援について

---

現在妊娠していますが、産休・育休が私の職場は短いです。国で決められてはいますが、それが必ず取得できるわけではありません。私は自分で育てたいので退職しますが、仕事を続けたい人にとっては厳しいです。妊娠しても女性が働きやすい環境が増えればいいなと思います。

(女性・20代)

現社会はシングルマザーが多数います。女性は母となる事で良くも悪くも負荷がかかります。理想としては夫婦での子育てが何よりですが、それが難しくなっているパターンが多いです。年老いた親の介護も女性の負担になっています。「幼児期の支援」「高齢者介護の支援」にご尽力いただけますと幸いです。

(女性・50代)

よく分かりませんが、女性が(子どもを育てながらでも)働きやすい環境がもっと出来れば、精神的にもゆとりをもてると思います。

(女性・60代)

男性は育児休暇が取れる職場環境がないので、積極的に取れるよう上司や同僚の理解が必要。女性は、出産、育児から職場復帰した際の勤務時間の短縮や子供が病気で仕事を休む事に対する職場の理解が必要となる。

(男性・30代)

### ④ 教育について

---

学校での「性」教育についてもっと学ぶ機会が必要だと思います。

(女性・30代)

学校でも市町村によって取り組みの差が出てきていると思う(せめて県で統一を図った方がよいのではと感じている)。幼少期から環境を整えていった方が良いのではと思う。

(女性・40代)

子どもが小さいうちから教育していく事が大切だと思います。

(女性・50代)

先日フィンランドが世界一幸せな国だと言う番組を観ました。産まれた時から大学を卒業するまで誰でもすべての人が教育費無料だと聞きました。国のしくみ色々ありデメリットもあるかもしれませんが、みんな同じ教育を受ければ男、女の差がなくなるのでは。それぞれ得意分野に進んでいく事ができます。

(女性・60代)

仕事、生活スタイルについて差別のない指導が必要だと思う。現実の問題として個々別々の生き方を尊重すべき。何もかも皆同じというわけにはいかない。

(男性・40代)

### ⑤ 就労について

---

賃金について、社長から「同じ年齢の女性と比べると」と説明され、県の同じ歳の女性平均の資料を見せられました。なぜ、同じ歳、女性なのか分かりません。県内には多くの職種があり、経験も違うのに…と理解できませんでした。男女差はないと表向きに表現していても、実際は違います。自分の会社は県より男女雇用のワーク・ライフ・バランスやくるみんの認定を受けているのに残念です。認定する際の項目に賃金差はなかったのかもしれませんが。男性は育休も取得していないし、社長夫人は「取られたら困る」と言っていました。

(女性・30代)

他県から来ましたが、宮崎の男性優位に驚きました。仕事をしない男性上司は威張り、時間になるとすぐ帰宅。無理矢理飲み会が始まり自慢話が続き、取引先も「女と仕事はしない」と相手にしてもらえず。しかもマタハラで辞めました。どちらも公な機関です。どんなに施策を考えてもそれに携わる人の意識を変えないと形だけのものになってしまうのではないのでしょうか。

(女性・40代)

企業や職場の意識が低ければ意味がない。上層部(管理職)が分かってない(知らない)ので、変わることはない。男女差は今もあります。上層部(管理職)への広報、啓発活動、教育をお願いします。

(女性・50代)

男女の賃金の差がまだまだ大きい。

(男性・30代)

最近男性が不利な職場も増えてきているような気がする。偏見をなくせる社会になってほしい。60才以上の男女の働く環境も同じように問題が増えているような気がします。

(男性・60代)

## 6 社会参画について

---

私が住んでいる地域の公民館自治会の中に婦人部というのがあります。2年ほど前に県外から引っ越してきた時、驚きました。たまに当番がまわってくる公民館の清掃はその婦人部が行います。今年はCOVID-19で中止になっていますが、例年の地域行事の際は、食事会などがあればそれも婦人部。「家事は女性」と言われているようで、えーって思いました。60代以上のご夫婦が多いので、「そういう世代」なのでしょうが、男女関係なくがむしゃらに働き生きてきた者として、何だかなあと思いました。仕事や役割において、「男性(もしくは女性)でなければできない仕事。男性(もしくは女性)の方が向いている仕事」はあると思います。そこが男女差別ではなく、個人の能力を尊重して適材適所で仕事ができればよいと思うのです。そこが「男女共同参画社会だから…」という理由では根本は何も変わりません。人口減で公民館活動も今後継続は難しいでしょうし、より簡素化、統合され婦人部なんてものも自然消滅するとは思いますが、何だかなあと思うことがたまにあるので書かせて頂きました。

(女性・30代)

1人1人が地域活動やボランティア活動に興味を持ち、地域活性につながれば良いと思う。人と人のコミュニケーションにも繋がると思う。

(女性・30代)

年齢に関係なく誰でも話せる場を設けてほしい。高齢者の話や指導を受ける場をたくさん作って、勉強の場を作って欲しい(近くにアパートがたくさんあり、若い人の行動が目にあまる点が多い)。

(女性・60代)

60才以上の男性女性に対する、男女共同参画についての意識調査や講演会を開催してほしいです。高齢者の意識が変わらないと、若い方が頑張っても何ら変わらないのではないのでしょうか。

(女性・60代)

男女参画の啓発活動の充実の為の各地域ごとの若い人の交流を考えて頂きたい。

(女性・70歳以上)

男女平等の考えを持っており、男らしさ、女らしさを強調する社会では差別等が生じる場合があるので、まずは色々な意見交流会等の機会を増やしてほしい。

(男性・50代)

## 7 女性登用について

---

ニュース等を見ても画面に映るトップの方々はほとんど男性です。県でも市でも女性のトップが増えて、女性の意見がより政治に反映されるよう願っています。

(女性・60代)

まだまだ男女平等な社会になっていませんが、行政の審議会等の女性委員を増やして県民の意識を変えてもらいたいと思います。

(女性・70歳以上)

私もそうですが、学生時代に男女共同参画社会について学ぶ程度で、県独自の施策や宮崎県男女共同参画センターの存在を知らない方も多いと思います。女性が議会で意見を述べる機会を増やすという事が大事になってくると思いますので、女性議員を増やすことは私もすすめていくべきだと思いました。

(男性・20代)

もっと幅広く行政他公的な職場に女性を登用すべき。

(男性・30代)

女性の県職員(看護師、教諭、事務職等)で活躍されている方があれば広報紙やテレビでの広報番組等でもっと取り上げていただきたい。

(男性・50代)

県が率先して幹部職員に対する女性登用の目標値を設定するなど、積極的な施策を実施すべき。県の本気度が見えない。国の動きの様子見か。差別はすぐに解消すべきで、10年で1歩進めば良いというものではないはず。アメリカの黒人差別と同じ臭い。

(男性・60代)

## 8 県の男女共同参画施策について

---

今回の意識調査で男女共同参画社会づくりの内容がよく分かりました。具体的に例に出すと「なるほど、知っている」ということも「男女共同参画～」という言葉で表現すると分かりにくいし、センター等の施設があっても利用するという機会もないと思います。まずは分かりやすく認知度を(CM、広告等で)上げていく事で相談しよう、利用しようということに繋がるのではないかと考えます。

(女性・30代)

男女参画課が具体的にどう動いているのか、何をされているのかが、目に見える形では一切情報が入ってこない。PR不足。男女雇用機会均等法に基づき事業をされてるのだと思うが、範囲が広すぎて具体的に「コレをやってます」という指針が見えず、ふんわりとボヤッとしたイメージ。福祉の部分では、「子ども」や「障害」「高齢者」と区分けがされているので、その分野には参入せずに特化した事業を展開し、PRに力を入れた方が良いのでは。

(女性・40代)

センターがある事は知りませんでした。実姉が10年前夫のDVで自殺しました。もっと早く相談できていればと悔やまれてなりません。まだなかったかもしれないですが、センターがある事、相談ができる事をもっと宣伝してほしいと思います。

(女性・50代)

性別が異なるという事は質が異なるという、そこを踏まえた上での男女平等のための施策をお願いします。

(男性・30代)

このようなアンケートは大変良いことだと思う。初めて知ったこともたくさんあった。県のこの問題にしっかり取り組んでいる姿勢は評価する。ただ広報、PR が足りない。正直私は今この問題で困っていないが、困っている人はいると思う。そういう人達にもっと知ってもらふ努力が必要だ。

(男性・40代)

この制度が本当に女性のために役立っているのか疑問である。

(男性・60代)

## 9 アンケートについて

---

今回のアンケートの回答項目が、設問によってはとても答えにくいと感じました。たとえば、2(6)など、「夫」と「妻」どちらがやるべきかなど、画一的に決めるべきものではなく(そもそも家庭内のことを当人たち以外が外から「こうあるべき」という意見を持つことが設問の前提となっていること自体とてもナンセンスだと思います。)、それぞれの家庭ごとに、本人たちの意思や状況に応じて自由に役割を決めることができるような社会が望ましいと考えている者にとっては、どれもあてはまらず、違和感を感じました。

(女性・30代)

調査対象者を無作為に選出するなら、すべてハガキで案内web対応が良いと思う(アンケート用紙など費用の無駄)。

(女性・40代)

調査を行うにあたって、私達家族も質問するのに大変でした。年齢(102才)を考えて意見、アンケート調査を行って下さい。

(女性・70歳以上)

質問に固定観念が強いと感じました。個人の尊重を第一に考えて取り組めば素晴らしい企画になると思いました。

(男性・20代)

アンケートの内容の量が多すぎる。アンケートの回答が反映されることに期待したい。

(男性・50代)

質問が多すぎる。これではアンケート回答をするのが面倒です。このアンケートがどのように分析利用されるのか知りたい。

(男性・50代)

今回の調査について…年齢18才以上3000名ピックアップされているようですが、本回答者は95才老人ホーム入所者です。当然回答もできないような状態です。年齢上限を決められたらどうでしょうか。

(男性・70歳以上)

## 10 その他

---

知らない文言が多く、無知さを改めて実感しています。とりあえず、知ることから始めてみようと思いました。

(女性・40代)

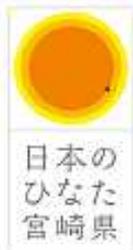
聞いたことはありましたが、あまり深く知りませんでした。このアンケートを行い、もっとみんなが知ることが出来れば幸いです。

(女性・70歳以上)

# 「資料」アンケート調査票と集計結果

## アンケート調査票と集計結果の見方

- 次ページからは、アンケート調査票と集計結果について、掲載している。
- 表示している単純集計結果は、n=の表示がある設問を除いた全ての設問において全回答者数（n=1,286）を母集団としている。
- 本編中において、経年比較のために母集団から無回答を除いた設問では、数値が異なっている。



## 男女共同参画社会づくりのための県民意識調査



一人ひとりの個性が輝く男女共同参画社会の実現をめざして  
あなたの声をお聞かせください

宮崎県では、男女共同参画社会の実現を重要課題の一つに位置づけ、取り組みを進めているところです。

この調査を通じて、広く県民の皆さんの意見をうかがい、その結果を今後の施策に反映させたいと考えています。

調査対象者の選定にあたりましては、県内にお住まいの18歳以上の方々の中から3,000名を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年8月

宮崎県知事 河野 俊嗣

### 回答にあたって

- 1 アンケートは、封筒の宛名ご本人がご回答ください。  
ご本人によるご回答が困難な方は、ご家族などのご協力によりご回答ください。
- 2 設問によってご回答いただく方が限られる場合がございますので、説明にしたがってご回答ください。
- 3 9月18日（金）までに、次のいずれかの方法でご回答をお願いします。  
○インターネットでの回答（パソコンやスマートフォンを利用した回答）  
○紙の調査票で回答  
※詳しい回答方法については、裏面をご覧ください。
- 4 アンケート調査への回答に要する時間は、概ね15分程度です。
- 5 ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ先】

宮崎県 生活・協働・男女参画課 男女共同参画推進担当  
〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号  
電話：0985-26-7040 FAX：0985-20-2221  
メールアドレス：seikatsu-kyodo-danjo@pref.miyazaki.lg.jp

男女とも輝(きら)めいてこそ明るい社会



宮崎県男女共同参画  
シンボルマーク

## <回答方法>

### ○インターネットで回答する場合

- ブラウザ上部のアドレスバーに以下のアドレスを入力するか、QRコード（二次元バーコード）を読み取って、宮崎県電子申請システムに接続してください。

・アドレス（※半角で入力してください）

<https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/MC3iedUD>  
（回答途中の一時保存もできます）

・QRコード



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

※ セキュリティ対策などの諸事情により宮崎県電子申請システムが表示されない場合があります。表示されない場合は、お手数ですがこの調査票でのご回答をお願いします。

- 画面上の質問に沿って9月18日（金）までに 入力し、回答を送信してください。
- 宮崎県電子申請システムで回答しても、あなたのお名前・住所は特定されません。
- 宮崎県電子申請システムで回答した場合は、調査票を返送する必要はありません。調査票や返信用封筒は、処分していただいて結構です。

### ○紙の調査票で回答する場合

- 該当する項目の番号等に“○”をつけてください。
- 「その他（ ）」を選択した場合は、（ ）内に具体的に記載してください。
- ご記入にあたっては、黒か青のボールペン、または鉛筆をご使用ください。
- 調査票および返信用封筒にあなたのお名前、住所を記入する必要はありません。
- ご記入いただいた調査票は、9月18日（金）までに同封の返信用封筒にて、ご投函いただくようお願いいたします（切手は不要です）。
- 紙の調査票で回答した場合は、インターネットで回答する必要はありません。

はじめに、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなたとあなたのご家族についておたずねします。

- (1) あなたの性別をお聞かせください。(〇は1つだけ)

54.0 女性 45.6 男性 0.1 その他 0.4 無回答

- (2) あなたの年齢は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1.0 18・19歳 6.3 20～29歳 11.2 30～39歳  
14.4 40～49歳 16.4 50～59歳 20.1 60～69歳  
30.5 70歳以上 0.1 無回答

- (3) あなたの雇用形態についてお尋ねします。(〇は1つだけ)

7.9 自営業主 3.3 家族従業者 3.3 会社などの役員  
25.1 正社員(職員) 5.3 契約社員(職員)・派遣社員(職員)  
16.0 パート、アルバイト、嘱託 2.6 学生 9.9 家事専業  
25.2 無職 0.6 その他( ) 0.8 無回答

- (4) あなたは結婚されていますか。(結婚には、入籍していない事実婚も含みます。)  
(〇は1つだけ)

67.6 結婚している 13.5 離別・死別した 18.8 結婚していない

<問(4)で1結婚しているとお答えの方におたずねします。> 0.2 無回答  
→それ以外の方は、問(6)へお進みください。

- (5) あなたの配偶者(パートナー)の雇用形態についてお尋ねします。(〇は1つだけ)

(n=869)  
8.4 自営業主 5.1 家族従業者 3.5 会社などの役員  
26.8 正社員(職員) 3.5 契約社員(職員)・派遣社員(職員)  
12.3 パート、アルバイト、嘱託 0.0 学生 7.9 家事専業  
28.5 無職 0.6 その他( ) 3.5 無回答

- (6) あなたのご家族の構成は次のどれにあてはまりますか。(〇は1つだけ)

14.0 単身(一人世帯) 30.3 夫婦のみ  
13.6 二世帯世帯(自分と親) 29.9 二世帯世帯(自分と子ども)  
4.0 三世帯世帯(自分と子どもと孫) 2.8 三世帯世帯(親と自分と子ども)  
0.7 三世帯世帯(祖父母と親と自分)  
1.2 その他(具体的に )

3.5 無回答

(7) あなたはどちらにお住まいですか。(〇は1つだけ)

39.5 宮崎市	12.9 都城市	11.0 延岡市	3.8 日南市
4.7 小林市	5.6 日向市	1.1 串間市	2.2 西都市
1.5 えびの市	2.8 三股町	0.7 高原町	1.6 国富町
0.5 綾町	1.5 高鍋町	1.6 新富町	0.2 西米良村
0.7 木城町	1.2 川南町	1.1 都農町	1.2 門川町
0.3 諸塚村	0.3 椎葉村	0.4 美郷町	1.6 高千穂町
0.4 日之影町	0.1 五ヶ瀬町		1.9 無回答

## 1 男女平等意識及び女性の社会参画について

(1) 男女の平等感

あなたは、次の①～⑧にあげるような分野で、男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

※各項目ごとに横に見てお答えください (〇はそれぞれ1つずつ)	男性優 の遇 方さ が 非 常 に 優 い る	ど ち 男 優 性 の 遇 か の さ と 方 れ い が て い る	平 等 で あ る	ど ち 女 優 性 の 遇 か の さ と 方 れ い が て い る	女 性 優 の 遇 方 さ が 非 常 に 優 い る	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
①家庭生活の場	9.5	34.5	35.5	4.3	0.6	10.7	4.8
②職場	9.3	35.0	29.1	5.0	0.8	11.7	9.2
③学校教育の場	1.6	14.1	53.0	2.4	0.4	18.4	10.2
④地域社会(町内会、自治会など)	7.2	32.3	32.9	3.7	0.2	16.8	6.9
⑤政治の場	27.3	39.7	14.9	0.5	0.1	10.4	7.0
⑥法律や制度の上	9.9	30.6	30.2	4.7	1.1	16.0	7.4
⑦社会通念・慣習・しきたりなど	17.9	48.5	14.7	1.9	0.1	10.2	6.8
⑧社会全体	10.6	51.9	15.2	2.8	0.4	13.2	6.0

(2) 男女平等になるために重要なこと

今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われることは何でしょうか。(〇は1つだけ)

12.9 法律や制度の面で男女差別につながるものを改める	46.7 男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める	10.3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得したりする	11.7 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	11.7 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させる	2.4 その他(具体的に )	4.3 無回答
------------------------------	---	----------------------------------	-----------------------------------	---	----------------	---------

(3) 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)

1.6 賛成	8.6 どちらかといえば賛成	28.0 どちらかといえば反対	34.6 反対	25.0 どちらともいえない	2.3 無回答
--------	----------------	-----------------	---------	----------------	---------

(4) 女性の社会参画

政策・方針決定にかかわる役職において、あなたはどのような分野に女性がもっと増える方がよいと思いますか。

(○はいくつでも)

40.7	都道府県知事・市町村長
47.1	国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員
31.7	県・市町村の審議会や委員会の委員
30.2	国家公務員・地方公務員の管理職
25.3	裁判官・検察官・弁護士
15.6	大学教授
28.8	小中学校・高校の教頭・副校長・校長
35.0	企業の管理職
25.3	企業の経営者
16.6	労働組合の幹部
13.9	農協・漁協の幹部
26.1	町内会長・自治会長
16.6	特にない
3.0	その他 ( )

2.9 無回答

2 家庭生活及び結婚・家庭観について

<現在結婚されている方（事実婚の方を含む）におたずねします。>

→それ以外の方は、問（6）へお進みください。

(5) 家庭生活での夫婦の役割分担状況

あなたのご家庭では、次の①～⑨にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。※育児や子どもの教育、親の介護等については、現在該当しなくても過去にご経験があればそれをもとにお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

(n=869) ※各項目ごとに横に見てお答えください (○はそれぞれ1つずつ)	主 に行 妻っ がて い る	主 に夫分 妻が坦 が一し 行部て いをい る	同 程分 度坦 し て い る	主 に妻分 夫が坦 が一し 行部て いをい る	主 に行 夫っ がて い る	主 にの行 夫人っ とがて 妻い る 外	現 在对 も象 過が 去い もな い	無 回 答
①家計を支える（生活費を稼ぐ）	4.3	6.0	23.0	34.4	27.3	0.2		4.8
②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする	49.7	31.0	12.4	1.4	0.8	0.2		4.5
③日々の家計の管理をする	58.6	14.2	11.2	5.5	5.9	0.1		4.6
④育児、子どものしつけをする	23.7	31.0	23.1	2.2	0.5	0.1	9.6	9.9
⑤学校の行事に参加する	34.9	23.0	16.6	2.9	1.5	0.1	10.6	10.5
⑥地域の行事に参加する	21.5	16.5	21.9	16.3	14.2	1.0		8.6
⑦親の世話・介護をする	17.5	19.0	25.7	3.0	2.1	1.4	22.2	9.2
⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める	2.3	4.1	39.7	18.5	27.4	0.1		7.8
⑨家庭の問題における最終的な決定をする	3.7	5.9	38.2	20.3	26.2	0.1		5.6

くすべての方におたずねします。>

(6) 理想とする家庭生活での夫婦の役割分担

家庭生活での夫婦の役割について、理想としてどのように分担するのがよいとお考えですか。

(○はそれぞれ1つずつ)

※各項目ごとに横に見てお答えください (○はそれぞれ1つずつ)	主に妻が行う	主に夫分妻が担が一ず行部るいを	同程度分担する	主に妻分夫が担が一ず行部るいを	主に夫が行う	無回答
①家計を支える(生活費を稼ぐ)	2.6	2.0	41.2	38.0	10.1	6.1
②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする	10.3	33.3	49.7	1.0	0.2	5.6
③日々の家計の管理をする	25.8	21.6	42.0	2.9	1.5	6.2
④育児、子どものしつけをする	5.1	13.3	70.9	1.5	0.5	8.7
⑤学校の行事に参加する	5.8	13.3	68.7	2.0	0.7	9.5
⑥地域の行事に参加する	3.0	6.0	68.7	10.3	4.3	7.8
⑦親の世話・介護をする	3.2	10.7	74.8	1.6	0.8	9.0
⑧高額の商品や土地・家屋の購入を決める	0.9	1.5	66.3	15.2	8.9	7.2
⑨家庭の問題における最終的な決定をする	1.1	1.6	65.2	13.4	11.9	6.8

(7) 子どものしつけや教育について

あなたは次の①～③にあげるような子どものしつけや教育について、どのようにお考えですか。

(○はそれぞれ1つずつ)

※各項目ごとに横に見てお答えください (○はそれぞれ1つずつ)	賛成	どちらいらかばと賛成	どちらいらかばと反対	反対	どちらいらかばとない	無回答
①女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	70.0	18.2	0.7	0.2	5.3	5.7
②男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい	73.0	18.0	0.5	0.1	2.7	5.6
③男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい	18.9	23.4	11.8	10.5	29.5	5.9

(8) 結婚・家庭観

結婚、家庭、離婚について、あなたの御意見をお伺いします。  
次の①～③にあげるような考え方について、どのようにお考えですか。

(○はそれぞれ1つずつ)

※各項目ごとに横に見てお答えください (○はそれぞれ1つずつ)	賛成	どちらかば賛成	どちらかば反対	反対	どちらともない	無回答
①結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい	45.9	18.7	11.7	6.0	14.3	3.3
②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	33.5	15.9	16.1	8.2	22.2	4.1
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	25.2	22.9	12.8	7.8	27.3	4.0

(9) 男性が家事、育児に参加するために必要なこと

あなたは、今後、男性が家事、子育てに積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

56.5 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	26.0 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	64.7 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	38.6 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方が普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	23.6 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	21.0 男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	3.2 その他( )	4.2 特に必要なことはない	3.5 無回答
--	--	--------------------------------	--	--	---	------------	----------------	---------

3 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

(10) 仕事と生活のバランスの希望

仕事と家庭生活、または町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

1.4 家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する	46.1 家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる	32.6 家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる	6.5 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる	0.8 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する	9.3 わからない	3.3 無回答
--------------------------	-----------------------------------	------------------------------	------------------------------	--------------------------	-----------	---------

(11) 仕事と生活のバランスの現状

現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。

(○は1つだけ)

12.0 家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念している	35.5 家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている	19.0 家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させている	7.6 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させている	5.6 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念している	15.3 わからない	5.1 無回答
-----------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----------------------------	------------	---------

- (12) 地域活動への参加  
あなたは次のような活動をしていますか。 (〇はいくつでも)

1.9 県・市町村の審議会・委員会委員	
32.0 町内会・自治会等の活動	
11.0 P T A 活動	
6.6 こども会などの青少年育成活動	
6.1 青年団体・女性団体・老人団体等の活動	
1.1 消費者団体・生活協同組合等の活動	
5.3 N P O やボランティアなどの市民活動	
1.2 その他の社会活動 (具体的に: )	
47.5 参加していない	6.4 無回答

<現在仕事に就いている方におたずねします。>

→それ以外の方は、問(14)へお進みください。

- (13) 職場での男女差  
あなたの職場では、次の①～⑦にあげるような分野で、性別によって差があると思いますか。 (〇はそれぞれ1つずつ)

(n=783) ※各項目ごとに横に見てお答えください (〇はそれぞれ1つずつ)	男性優 の遇 方さ が非 常に なる	ど ち男 優 ら性 遇 か のさ と方 れ い が て え ば	平 等 で あ る	ど ち女 優 ら性 遇 か のさ と方 れ い が て え ば	女 性優 の遇 方さ が非 常に なる	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
①募集・採用	5.5	19.0	47.9	3.6	2.4	10.3	11.2
②賃金	10.6	22.0	44.4	0.6	0.4	11.0	11.0
③仕事の内容	6.4	17.1	41.3	9.1	1.7	13.2	11.4
④昇進・昇格	11.2	25.7	36.4	0.4	0.4	14.2	11.7
⑤能力評価 (業績評価・人事考課など)	7.8	20.7	43.6	0.9	0.4	15.1	11.6
⑥研修の機会や内容	4.9	14.0	53.6	0.5	0.3	15.2	11.5
⑦育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ	0.8	2.0	34.4	23.8	9.8	17.6	11.6

<すべての方におたずねします。>

- (14) 女性の就業についての意識

女性が出産や育児によって職を離れ、30代を中心に働く女性が減少する「M字カーブ減少」は欧米にない日本の特徴です。近年、このカーブは浅くなってきていますが、女性の就業について、あなたはどのような考えをお持ちですか。

(〇は1つだけ)

53.0 ずっと職業を持っている方がよい	
2.3 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい	
3.5 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	
30.7 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	
0.4 女性は仕事をもたない方がよい	
3.9 その他 (具体的に: )	

6.2 無回答

(15) 女性の就業継続について

女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
(○は3つまで)

- 25.8 賃金の男女格差を改める
- 14.4 昇進・昇格の男女格差を改める
- 50.6 残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない
- 62.5 育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する
- 21.5 男性の家事・育児・介護等への参加を促すための啓発をする
- 58.4 結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する
- 1.5 その他（具体的に )

5.4 無回答

(16) 男性の育児休業取得について

宮崎県の令和元年度の労働条件等実態調査によると育児休業取得率は女性が91.8パーセントであるのに対し、男性は10.2パーセントと低い水準になっています。男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思えますか。  
(○はいくつでも)

- 46.3 周囲に前例となる男性がいないから
- 63.8 職場に取りやすい雰囲気がないから
- 32.4 仕事が忙しいから
- 58.9 取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから
- 25.9 人事評価や昇給に影響があるから
- 45.3 休業補償が十分でなく、経済的に困るから
- 7.2 育児・介護は女性の方が適しており、男性が取る必要はないから
- 3.0 その他（具体的に )

6.8 無回答

4 人権への配慮について

(17) 配偶者等からの暴力に対する意識

あなたは、あなたの夫や妻又は恋人が、次の①～⑪のようなことをした場合、それを暴力だと思えますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

※各項目ごとに横に見てお答えください (○はそれぞれ1つずつ)	ど ん暴 な力 場 に う 合 あ も た る	暴 力 そ 場 の う 場 で が 合 な あ と い る	暴 力 と は あ 思 た わ る な い	無 回 答
①大声でどなる	30.2	53.6	8.6	7.7
②「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性（かいしょう）なし」という	64.8	21.7	5.1	8.5
③交友関係や電話を細かく監視する	43.9	36.3	11.2	8.6
④十分な生活費を渡さない	66.4	20.5	5.0	8.2
⑤何でも勝手に決め、命令する	62.1	24.8	4.8	8.2
⑥何を言っても無視し続ける	66.4	19.3	5.6	8.7
⑦見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	71.8	13.8	5.8	8.7
⑧性的行為を強要する	73.2	15.1	3.1	8.6
⑨医師の治療が必要とならない程度の暴行をする	83.1	7.1	1.6	8.2
⑩医師の治療が必要となる程度の暴行をする	88.5	2.0	1.2	8.2
⑪命の危険を感じるくらいの暴行をする	89.7	1.1	1.1	8.1

(18) 配偶者等からの暴力を受けた経験

あなたは、あなたの夫や妻または恋人から、次のようなことをされたことがありますか。  
(○はいくつでも)

- 21.3 大声でどなられる
- 6.2 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性（かいしょう）なし」といわれる
- 5.4 交友関係や電話を細かく監視される
- 4.6 十分な生活費を渡されない
- 5.7 何でも勝手に決められ、命令される
- 3.2 何を言っても無視され続ける
- 0.6 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる
- 3.7 性的行為を強要される
- 4.0 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける
- 1.0 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける
- 1.0 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける
- 0.7 その他（具体的に )
- 60.6 1～12のような経験は全くない

11.4 無回答

<問 (18) で1～12を選択した方におたずねします。>

→13を選択した方は、問 (21) へお進みください。

(19) 配偶者等からの暴力を受けた時の相談先

あなたは、問(18)であげたような夫や妻または恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
(○はいくつでも)

- (n=360)
- 3.3 警察に連絡・相談した
- 0.8 人権擁護委員に相談した（法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む）
- 0.6 女性相談所、女性相談員に相談した
- 1.1 男女共同参画センター相談員に相談した
- 1.1 その他の公的な機関に相談した
- 0.8 民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）に相談した
- 1.7 医師に相談した
- 23.6 家族に相談した
- 26.1 友人・知人に相談した
- 53.1 どこ（だれ）にも相談しなかった
- 1.9 その他（具体的に )

5.3 無回答

<問 (19) で10とお答えの方におたずねします。>

→それ以外の方は、問 (21) へお進みください。

(20) 配偶者等から暴力を受けたときに相談しなかった理由

どこ (だれ) にも相談しなかったのは、なぜですか。

(○はいくつでも)

(n=191)
5.8 どこ (だれ) に相談してよいのかわからなかったから
20.9 だれにも言えなかったから
24.1 相談してもむだだと思ったから
4.7 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
0.5 担当者の言動により不快な思いをすと思ったから
20.9 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7.9 世間体が悪いから
7.3 他人を巻き込みたくなかったから
4.7 そのことについて思い出したくなかったから
26.7 自分にも悪いところがあると思ったから
42.4 相談するほどのことでもないと思ったから
2.6 その他 (具体的に )

7.3 無回答

(21) メディアにおける性・暴力表現についての意識

テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。

(○はいくつでも)

25.3 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
28.7 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
22.9 女性に対する犯罪を助長するおそれがある
39.8 そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
20.7 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている
2.9 その他 (具体的に )
17.2 特に問題はない

11.3 無回答

## 5 男女共同参画センターについて

(22) 宮崎県男女共同参画センターの認知度

県では、男女共同参画社会づくりの拠点として「宮崎県男女共同参画センター」を設置し、次のような事業を行っています。

所在地：宮崎市宮田町3番46号（県庁9号館1階）

- ① 情報提供事業～図書・DVD・啓発資料などの閲覧、貸出
- ② 啓発事業～広報啓発誌などの発行、男女共同参画講座の開催
- ③ 相談事業～電話相談・面接相談
- ④ 交流事業～交流・学習活動の支援・開催

あなたは、上記の事業についてどの程度ご存じですか。1つ選んで番号に○をつけてください。（○は1つだけ）

0.2 内容まで詳しく知っている	9.3 おおよそ知っている
37.4 名前は聞いたことがあるが内容は知らない	44.6 知らない

8.6 無回答

(23) 男女共同参画センターの利用の有無等

実際に宮崎県男女共同参画センターを利用したことがありますか。（○は1つだけ）

0.9 2度以上利用したことがある	2.7 1度だけ利用したことがある
83.5 利用しようとしたことがない（理由：_____）	

12.8 無回答

(24) 男女共同参画センターに期待すること

あなたが男女共同参画センターに必要だと思う、または期待する機能は何ですか。（○はいくつでも）

23.6 男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供	)
20.7 男女共同参画を推進するための広報啓発誌等の作成と配布	
22.1 男女共同参画に関する講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催	
11.4 男女共同参画に関する調査・研究の実施	
18.5 女性の能力向上（女性指導者に対する研修・養成等）	
14.8 男性向けの講座の実施	
17.9 就業講座や起業講座等による女性の就業支援	
17.0 個別相談の充実	
20.7 男女共同参画社会づくりに取り組む個人やグループの支援及び交流の場や機会の提供	
7.4 外国の女性たちとの交流及び国際協力活動の支援	
2.0 その他（_____）	
22.4 特にない	

12.8 無回答

## 6 男女共同参画施策について

- (25) 男女共同参画に関する言葉の認知度  
あなたは、次の①～⑧にあげる言葉をご存知ですか。（〇はそれぞれ1つずつ）

※各項目ごとに横に見てお答えください (〇はそれぞれ1つずつ)	よく知 っている	聞いた ことが ある	知ら ない	無 回 答
①男女共同参画社会	15.3	46.4	28.3	10.0
②女子差別撤廃条約	5.4	32.9	50.5	11.2
③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	3.2	21.6	62.6	12.6
④ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	19.1	35.6	33.7	11.5
⑤男女雇用機会均等法	31.4	41.5	15.9	11.2
⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	16.1	38.9	33.6	11.4
⑦女性活躍推進法	6.2	35.0	47.0	11.8
⑧宮崎県男女共同参画推進条例	4.0	32.3	52.0	11.6

- (26) 県が推進すべき男女共同参画施策について  
「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、県は特にどのようなことに  
力を入れたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

43.4 学校教育における男女平等教育の推進  
19.0 女性の社会的な自立を目指す講座等の推進  
27.4 男女共同参画社会づくりについての広報・啓発活動の充実  
25.5 福祉、健康、労働などの相談業務  
59.4 働きやすい職場環境の整備  
19.9 行政の審議会に女性委員を増やすなど、女性の行政への参画の推進  
18.6 男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、教育などを行う施設の充実  
40.1 保育・介護に関する福祉の充実  
16.9 地域活動やボランティア活動の支援  
18.8 市町村の推進体制の充実  
1.9 その他（具体的に

11.9 無回答

- ◎男女共同参画社会づくりに関する県の施策についてご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

記入もれ等がないかももう一度お確かめの上、同封の返信用封筒にて、9月18日（金）までにご投函ください。